

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目
講義名	[A_11s1] [01] 哲学				
区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	諏訪 是隆		スワ ゼリュウ	suwa zeryu [suwa(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
哲学とはどういう学問なのかを明確にすることを目的とする。その成り立ちと、哲学者達の考えに触れることで、学生諸君それぞれの在り方、生き方について考察する機械を創出する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
世界の哲学思想を概観することで、異文化を理解し、多様な学問の考え方を修得し、今後の学問探究の場や日常生活において課題を設定し、問題解決に取り組む姿勢を養うことができることを目標とする。また、「多様な学問の考え方」「批判的思考力」「論理的思考力」を修得することを旨とし、最終授業での発表において「口頭発表力」を養う機会を与えます。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義を中心とするが、学生との対話形式によって講義を進めていく。難解な専門用語などもあるので、講義前の学修が望ましいが、授業に理解できるよう解説する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、予め指示された資料や文献を読んでおくこと。事後学修（2時間以上）は、授業を振り返りながらノートに要点を整理する。最終授業での口頭発表を年頭におき講義の内容を復習しておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
最終授業での発表（50%）と、毎回の講義での取り組み姿勢（50%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	哲学ということば				
第2回	神話から哲学へ				
第3回	ソフィストとソクラテス				
第4回	プラトンとアリストテレス				
第5回	ストア派とエピクロス派				
第6回	キリスト教と中世				
第7回	ルネサンスの思想				
第8回	イギリス経験論				
第9回	デカルトの懐疑				
第10回	ホッブズのリヴァイアサン				
第11回	ロックのコモンウェルス				
第12回	カントの批判哲学				
第13回	ヘーゲルの体系				
第14回	ニーチェ				
第15回	まとめ発表				
【教科書・参考書】					
講義中に必要な図書、参考書を随時紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
哲学と聞くと難解なイメージがあるかもしれませんが、哲学は私たちの生活を意義あるものとし、幸せへと導いてくれる叡智です。共に学びましょう。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目
講義名	[B_11s1] [09] 政治学				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	堀 保彦		ホリ ヤスヒコ		hori yasuhiko [hori(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
政治とは集団内の利害や意見を調整する営みです。社会における利害を調整する政治の仕組みとその問題点を概観します。また、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」、SDGs8の目標「働きがいも経済成長も」に関する政治課題についても解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
政治や政策のプロセスを理解し、それを支える社会のさまざまな状況を把握・分析する能力を涵養することを授業の到達目標とします。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、文章表現力、批判的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書及び毎回配布するレジュメ（論点メモ）を中心に講義を行い、各回の講義ポイントに関連する課題について自由にディスカッションし、コメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。提出されたコメントシートについて次回講義で補足とフィードバックを行います。最終回に現代社会における政治の問題点について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、授業計画に示された次回の講義内容について教科書で予習し授業中に指示した事件等に関する調査を行うこと。事後学修（2時間以上）は、授業中に配布したレジュメやノートを使って自らの考えを文章にまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
毎回の課題（コメントシート）への取り組み姿勢（20%）、学力確認テスト（60%）、プレゼンテーション（20%）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	政治学のアイデンティティー（政治学とはどのような学問か）				
第2回	政治の世界：政治とは何か				
第3回	政治体制と変動				
第4回	主要国の政治制度：権力分立制度の相違				
第5回	政治と経済、政治と福祉、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」、SDGs8の目標「働きがいも経済成長も」				
第6回	福祉国家の危機と再編、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」				
第7回	政治過程と政治制度、国民代表の政治過程				
第8回	利益代表の政治過程				
第9回	政治と公共政策、政策過程				
第10回	行政：行政統制と行政責任				
第11回	政党と政党制				
第12回	政治意識と政治行動				
第13回	主権国家のゆくえ				
第14回	政治参加の意義				
第15回	プレゼンテーション（現代政治の問題点について）				
【教科書・参考書】					
教科書：『現代政治学（第4版）』加茂利男・大西 仁（有斐閣）2012年。参考書：『行政学（新版）』西尾勝（有斐閣）2001年、『政策学的思考とは何か：公共政策学原論の試み』足立幸男（勤草書房）2005年、『現代政治の思想と行動（新装版）』丸山眞男（未来社）2006年。					
【学生へのメッセージ】					
事前・事後学修の他に毎日欠かさず新聞（Webニュースでも可）を読んで政治に関する関心を高め、疑問や意見をノートにメモしておいてください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に講師控室（大学事務局隣）が教室にて対応します。					
【実務経験】					
株式会社中部銀行24年。銀行業界の要望を政策提言に集約する業務（利益代表活動）の経験から具体的な事例をあげて分かりやすい授業にします。					

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目	
講義名	[C_lla1] [11]【指定科目】社会学					
区分	後期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--		
担当教員	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira [tanuma(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
社会学とは人間学、人と人との関係の学です。社会関係・社会行為とその生成・変動を人間の社会的行為やそれを規制する文化と関連付けながら理論的・経験的に研究することが社会学の目的である。社会学というものの考え方を押さえた上で、その基本的概念、現代社会が直面する諸問題についてふれていきたい。講義を中心とし適宜資料を配布するが、学生間の対話も行いたい。また、随時参考書を紹介する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
社会学の歴史と基本的概念、主な社会学者の学説および現代社会が直面する諸課題を理解することを目標とする。様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら共生する社会への理解や、国際的視野も養う。コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、批判的思考力、論理的思考力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
講義を中心とする。適宜資料を配布し、参考書を紹介する。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学習（2時間以上）は、事前に指示された資料を読み、出された課題を行っておく。事後学修（2時間以上）は、講義終了後に、ノートを整理しながら復習を行い、次回の講義に備えること。						
【成績評価（方法・基準）】						
レポートを含む学力確認テスト（70%）、授業への積極性（30%）で評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	社会学とはどんな学問か					
第2回	社会学の成立、歴史と展開					
第3回	20世紀の社会学					
第4回	社会的存在としての人間					
第5回	家族 1					
第6回	家族 2					
第7回	地域社会 1					
第8回	地域社会 2					
第9回	社会構成					
第10回	ライフスタイル					
第11回	組織と官僚制					
第12回	ジェンダー					
第13回	社会変動					
第14回	現代の社会問題：貧困、環境、SDGs等					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：必要に応じて資料を配布する。指定図書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座3 社会学と社会システム』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。社会福祉士国家試験受験希望者には有益である。参考書：『現代社会の理論』見田宗介（岩波書店）1996年、『クロニクル社会学』那須壽編（有斐閣）1997年、『岩波小辞典社会学』宮島喬編（岩波書店）2003年、『社会学入門』見田宗介（岩波書店）2006年。そのほか適宜資料や文献等を紹介する。						
【学生へのメッセージ】						
日頃から身近な社会問題に関心を持ってほしい。						
【オフィスアワー】						
水曜日11:55-12:25、15:35-16:30						
【実務経験】						
なし						

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目	人文・社会科学系科目

講義名	[D_11s1] [13]【指定科目】心理学
-----	------------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	1年	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	手塚 知子	テヅカ トモコ	tezuka tomoko [tezuka(a)]
------	-------	---------	---------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

心理学とは、ひとの「意識」や「行動」の傾向を探る学問といえます。目に見えない「こころ」を科学する視点を持ち、「臨床心理学」「社会心理学」「発達心理学」など、さまざまな理論から考えていきます。本授業での学びはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」の視点に繋がります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解する。(2)人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。(3)日常生活と心の健康との関係について理解する。(4)心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、傾聴力、批判的思考力

【授業方法（フィードバックの内容）】

配布資料を基に、講義、演習、ディスカッションを行う。授業の中では、受講生が自分自身の身近な事柄にひきつけて理解できるよう例を示す。また講義後に、学生同士の意見交換やディスカッション、ロールプレイなどの演習も取り入れながら学修を深める。各授業終了時には、小レポートの作成を通して学んだ内容をまとめることにより、学修の定着を図る。授業計画の進め方は状況によって変更の可能性がある。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、シラバスに記載した参考書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学修（2時間以上）は、毎回課題を課すため、学んだことを整理し、課題を行ってくる。

【成績評価（方法・基準）】

授業内容確認テスト（40%）、小テスト（30%、3回×10%）、授業への取り組み（20%）、課題への取り組み（10%）により総合的に評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	心理学の歴史と対象
第2回	心を探究する方法の発展 人の心の基本的な仕組みと機能
第3回	心の生物学的基盤
第4回	感情・動機づけ・欲求
第5回	感覚・知覚
第6回	学修・行動 「学修への動機づけ」についてICT機器による調べ学修
第7回	認知
第8回	個人差
第9回	人と環境 人の心の発達過程
第10回	生涯発達 心の発達の基盤 日常生活と心の健康
第11回	心の不適応
第12回	健康生成論 心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本
第13回	心理アセスメント 心理的支援の基本的技法
第14回	心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要 1
第15回	心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要 2

【教科書・参考書】

教科書：必要に応じて資料を配布する。
 指定図書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。社会福祉士国家試験受験希望者には有益である。参考書：『心理学・入門：心理学はこんなに面白い』サトウタツヤ・渡邊芳之（有斐閣アルマ）2011年、『自分をみつめる心理学』串崎真志（北樹出版）2011年。
 そのほか適宜資料や文献等を紹介する。

【学生へのメッセージ】

履修登録しておけば単位が出るという授業ではありません。参考図書等を読む習慣をつけるようにしてください。予習・復習しないとわからなくなります。仏教においても福祉においても、自己ならびに他者の心のしくみと人間関係を見つめることは重要なことです。一緒に心理学の世界を楽しみましょう！

【オフィスアワー】

火曜日と木曜日（11:55-12:25）

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目
講義名	[E_11s1] [03]【高大連携】倫理学				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko [hkuwana(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
倫理学とはどのような学問であろうか。「日本倫理思想史」という視点から、現代を生きる私たちのよりよい生き方・あり方を考えるために、特に古代の「神をめぐる思想」から、中世の「仏法をめぐる思想」について概説します。本学のディプロマ・ポリシーが掲げる学士力の根底となる基礎学力を培う授業となります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日本の倫理思想史についての基礎知識を身につけ、現代日本人の行動の基礎にある価値観を理解することを目指します。また、日本倫理思想史を学ぶことを通して、現代における自分自身の生き方・あり方を考えるヒントとし、自ら主体的に考察していく力を修得することを、授業の目標とします。コンピテンシー：多様な学問の考え方、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
倫理学とは何かについて概観し、本講義における視点を明確にした上で、日本の倫理思想史をたどり、日本人の倫理意識の形成を学んでいきます。また受講生が自分自身の問題として主体的に授業に参加するよう促していきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）としては、参考書等に目を通し、疑問をもって授業にのぞむこと。事後学修（2時間以上）は、授業の内容を踏まえ、その問題について自分なりに考えてみることを。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業に取り組む姿勢（30%）、プレゼンテーション（70%）で総合的に評価します。毎回授業後に、講義内容、意見・感想等を記入し、提出してもらいます。授業に取り組む姿勢は、この毎週提出課題に基づいて評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	倫理学とは何か 1 倫理学と日本倫理思想史				
第3回	倫理学とは何か 2 なぜ日本倫理思想史を学ぶのか、倫理の重層性				
第4回	神をめぐる思想 1 風土と神				
第5回	神をめぐる思想 2 日本の神の特徴				
第6回	神をめぐる思想 3 神と景観、祭祀				
第7回	神をめぐる思想 4 日本神話の発生と展開				
第8回	神をめぐる思想 5 古事記神話 1 上巻神話の概要				
第9回	神をめぐる思想 6 古事記神話 2 上巻神話の世界観				
第10回	仏法をめぐる思想 1 インド・中国仏教				
第11回	仏法をめぐる思想 2 日本における仏教の受容、聖徳太子				
第12回	仏法をめぐる思想 3 国家仏教、本地垂迹説				
第13回	仏法をめぐる思想 4 修験道				
第14回	プレゼンテーション 1				
第15回	プレゼンテーション 2 全体のまとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：特に指定しない。参考書：『日本倫理思想史 増補改訂版』佐藤正英（東京大学出版会）2012年、『日本の思想とは何か：現存の倫理学』佐藤正英（筑摩書房）2014年、『古事記神話を読む 神の女 神の子 の物語』佐藤正英（青土社）2011年。					
【学生へのメッセージ】					
受講生一人一人が自らの問題として捉え、自分自身の考えを形成することを望みます。					
【オフィスアワー】					
火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目
講義名	[F_IIIs1] [05]【高大連携】歴史学				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	白 景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
歴史学とはどういう学問なのかについて講義する。調べ学修や巡見を通じて歴史を体感してもらおう。歴史学は、過去の史料を評価・検証する過程を通して歴史の事実、及びそれらの関連を追究する学問であるので、歴史学を学ぶ意義を学修してもらいたい。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
歴史学とはどういう学問が修得し、調べ学習を行った日本史の時代や出来事と照合しているアジア史等について理解できるようにする。また、口頭発表を通して「論理的思考力」「地域理解」「構想力」「文章表現力」「口頭発表力」が身につく。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式を基本とする。調べ学修を行うので図書館に行って文献検索を行う時もある。アクティブラーニングによる双方向授業を行うので、電子機器（ipad等）を毎回持参すること。また、受講者の興味のある歴史事項や人物等について調べ学修を行うが、これについてディスカッションやディベートを行い、最後に1人づつプレゼンテーション（口頭発表）してもらおう。受講生数によっては、発表を2回に分けて行うこともある。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、授業内容について予め調べ学修を行い、わからない語句等は辞書で調べておくこと。事後学修（2時間以上）は、授業でやった内容について復習し、わからない箇所は辞書等で調べておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業に取り組む姿勢（50%）、調べ学修と内容発表（50%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の概要、進め方、評価方法の説明				
第2回	歴史学とはどういう学問か：史実と伝承				
第3回	日本史とアジア史の時代区分				
第4回	史（資）料の探し方1				
第5回	史（資）料の探し方2				
第6回	暦の見方と元号				
第7回	日本史に関する講義1				
第8回	日本史に関する講義2				
第9回	日本史に関する講義3				
第10回	アジア史に関する講義1				
第11回	アジア史に関する講義2				
第12回	アジア史に関する講義3				
第13回	アジア史に関する講義4				
第14回	調べ学修についての発表				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『図説新版歴史散歩事典』佐藤信編（山川出版社）、『アジア史概説』宮崎市定著（中公文庫）2018年。参考書：『地方史研究の新方法』木村礎・林英夫編（八木書店）2000年、『歴史学ってなんだ？』小田中直樹（PHP新書）2004年。					
【学生へのメッセージ】					
授業では調べ学修を行うので、毎回ipadやノートパソコン等の電子機器を持参すること。					
【オフィスアワー】					
授業後または火、木曜日のオフィスアワーに対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 教養科目		人文・社会科学系科目		
講義名	[G_11s1] [07] 日本国憲法				
区分	後期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	堀 保彦		ホリ ヤスヒコ	hori yasuhiko [hori(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日本国憲法の国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の基本原則とそれを実現するための統治機構を概観し、私たちと憲法の関わりについて考えます。また、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」、SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」と日本国憲法の関係についても概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
憲法の理念を理解し、正しい人権意識を身につけることを到達目標とします。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、文章表現力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書及び毎回配布するレジュメを中心に講義を行い、各回のポイントに関連する課題について自由にディスカッションし、コメントシートを作成・提出するという方法で授業を行います。提出されたコメントシートについて次回講義で補足とフィードバックを行います。最終回に現代社会における憲法上の問題点について自らの考えをプレゼンテーションしていただきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、授業計画に示された次回の講義内容について教科書で予習し授業中に指示した判例・事件等に関する調査を行うこと。事後学修（2時間以上）は、授業中に配布したレジュメやノートを使って自らの考えを文章にまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
毎回の課題（コメントシート）への取り組み姿勢（20%）、学力確認テスト（60%）、プレゼンテーション（20%）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	憲法とは何か				
第2回	明治憲法と日本国憲法				
第3回	日本国憲法の成立				
第4回	憲法の法源と解釈				
第5回	国民主権と象徴天皇制				
第6回	平和国家、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」				
第7回	人権尊重の原理				
第8回	包括的人権と法の下での平等、SDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」、SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」				
第9回	精神的自由権（思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由）				
第10回	精神的自由権（表現の自由）				
第11回	身体的自由権、経済的自由権				
第12回	社会権、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」				
第13回	権力分立と統治機構の原理				
第14回	憲法の現代的課題				
第15回	プレゼンテーション（現代社会における憲法問題について）				
【教科書・参考書】					
教科書：『憲法入門（第4版補訂版）』伊藤正己著（有斐閣）2006年。参考書：『憲法とは何か』長谷部恭男著（岩波新書）2006年、『憲法入門（五訂版）』樋口陽一著（勁草書房）2013年、『憲法（第6版）』芦部信喜著（岩波書店）2015年。					
【学生へのメッセージ】					
日本国憲法施行から76年が経過しましたが、日本国憲法の理念が完全に実現しているとは言い難く、また、社会の変化とともに新たな憲法問題が生じています。各回の課題について事前に情報収集し、講義中のディスカッションを経て自らの考えをコメントシートにまとめることで情報収集力、論理的思考力、文章表現力の向上を図ることを望みます。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に講師控室（大学事務局隣）か教室にて対応します。					
【実務経験】					
株式会社中部銀行24年。銀行におけるコンプライアンス担当の経験から得た実例を基に憲法の今日的意義について考える授業をします。					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				人文・社会科学系科目
講義名	[H_11s1] [15] 文学《遠隔授業》				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro [ookada(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「文学」と一口に言っても、小説・詩・戯曲など形式も多様で、また同様に内容も多様です。そして「文学」つまり「コトバ」を用いての人々の営みを概観することは、そのまま人類の「文化」の「歴史」を俯瞰する試みでもあります。本講義では「文学」とは何かを問い直しながら、その「歴史」や「理論」を学んでゆきます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
世界の文学史を学ぶ事で「地域理解」「異文化理解」を深める。また多岐にわたる文学作品へのアプローチの仕方を学ぶ事で「多様な学問の考え方」「読解力」「批判的思考力」「構想力」を修得する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
この授業は同時双方向型（ライブ配信）のオンライン授業です。ファイル・キャビネットにアップした資料を中心に講義を進めます。また毎回、質問・意見等を記入してもらい（Googleフォーム使用）、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行います。ディベートの機会も適宜設けます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。事前学修は、事前配布資料を読んでおくこと。事後学修は、学修した内容を自分なりに整理しておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組みの姿勢（50%、毎回の質問・意見等の記入）およびレポート（50%）により、総合的に評価を行います。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス（シラバス確認） 対面				
第2回	文学とは何か 同時双方向型のオンライン授業				
第3回	世界文学史1：古代 同時双方向型のオンライン授業				
第4回	世界文学史2：中世 同時双方向型のオンライン授業				
第5回	世界文学史3：近世 同時双方向型のオンライン授業				
第6回	世界文学史4：現代（20世紀前半） 同時双方向型のオンライン授業				
第7回	世界文学史5：現代（20世紀後半） 同時双方向型のオンライン授業				
第8回	文学理論1：文学理論のはじまり 同時双方向型のオンライン授業				
第9回	文学理論2：構造主義前後 同時双方向型のオンライン授業				
第10回	文学理論3：テキストにどう向き合うか 同時双方向型のオンライン授業				
第11回	仏教と文学1：仏教における「コトバ」 同時双方向型のオンライン授業				
第12回	仏教と文学2：大乘仏典の文学性 同時双方向型のオンライン授業				
第13回	仏教と文学3：仏教と古典文学 同時双方向型のオンライン授業				
第14回	仏教と文学4：仏教と近現代文学 同時双方向型のオンライン授業				
第15回	まとめ 同時双方向型のオンライン授業				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：『新文学入門：T・イーグルトン』大橋洋一（岩波書店）1995年、『寝ながら学べる構造主義』内田樹（文春文庫）2002年、『文学理論』ジョナサン・カラー著 富山太佳夫訳（岩波書店）2003年、『文学とは何か：現代批評理論への招待 上・下』テリー・イーグルトン著・大橋洋一訳（岩波文庫）2014年。					
【学生へのメッセージ】					
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、質問・意見等の記入に注力すること。					
【オフィスアワー】					
随時、メール（ookada(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目	自然科学系・総合領域科目

講義名	[A_ism1] [01] 自然科学入門
-----	----------------------

区分	前期（15回）	単位	必修（2）R3以降	形式	講義
----	---------	----	-----------	----	----

授業年次	1年	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	神宮寺 守	ジングウジ マモル	jinguji mamoru [jinguji(a)]
------	-------	-----------	-----------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

自然科学は再現可能な観測や実験に基づいて、自然界の法則性を研究する学問です。自然科学の様々な学問分野と研究対象をとりあげ、自然科学の知識や方法論そして考え方について講義する。自然科学的視点から気候変動や生物多様性など地球環境問題を考察する。地球環境問題の理解は持続可能な開発目標（SDGs）に繋がります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

自然科学とはどういう学問かを学び、自然科学の知識とともに科学的なものの見方や考え方について理解を深め、自然の事象に関する論理的思考力を身につけることができる。科学的根拠に基づいて環境問題を評価できるようになり、関連するSDGsへの理解も深まる。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、論理的思考力、評価力

【授業方法（フィードバックの内容）】

毎回の授業で、自然科学の様々な学問分野や研究対象、地球環境問題などに関するプリント資料を配布する。配布プリントに基づいて、板書とともにPowerPointを活用し、難しい数式をなるべく使わないで、授業内容が理解できるように分かりやすい授業を行う。受講生が自分の意見や質問などを積極的に述べる機会を作る。

【授業外学修の方法（時間数）】

この授業では、授業内容をまとめたプリントをあらかじめ配布するので、2時間以上の事前学修を行い、授業当日に使用したスライドをまとめたプリントを配布するので、参考にして2時間以上の事後学修を行うこと。

【成績評価（方法・基準）】

中間レポート（30%、第8回）、学力確認テスト（50%、第15回、テスト60分、解説30分）、授業参画度（20%、毎回のリアクションペーパー、授業内容に関する質問や意見など）により総合的に評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス（シラバスの確認、自然科学とは、自然科学の学問分野）
第2回	宇宙の起源と進化（ビッグバン宇宙、星、銀河、太陽、地球の形成）
第3回	生物（生命の誕生、生物の進化と多様性、細菌・植物・動物・人類）
第4回	自然界の4つの力（重力・電磁気力・弱い力・強い力、自然の階層構造）
第5回	光（電磁波、光の基本的性質、波動と粒子の二重性、太陽光と光合成）
第6回	エネルギー（化石燃料、再生可能エネルギー、原子力）、SDGs7の目標「エネルギーを皆に、そしてクリーンに」
第7回	地球システム（大気・水・地・生物の4つの圏と人間圏、物質の循環）
第8回	地球温暖化（地球のエネルギー収支、温室効果、地球温暖化のメカニズム）
第9回	気候変動（IPCC評価報告書、1.5 特別報告者、二酸化炭素問題）、SDGs13の目標「気候変動に具体的な対策を」
第10回	成層圏オゾン（オゾン層の形成と破壊、フロン、紫外線、南極オゾンホール）
第11回	海洋（海洋汚染物質の種類と経路、富栄養化、プラスチック汚染）、SDGs14の目標「海の豊かさを守ろう」
第12回	森林（森林の現状、多機能性と役割、森林、特に熱帯雨林の減少）、SDGs15の目標「陸の豊かさを守ろう」
第13回	生物多様性（生態系・種・遺伝子の多様性、生物多様性の恵み、野生生物種の減少）
第14回	地球の限界（人間活動の拡大、共有地の悲劇、持続可能な開発）、SDGs12の目標「つくる責任、つかう責任」
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：プリントを配布する。参考書：『新版 科学とは何か』八杉龍一著（東京教学社）1991年、『自然科学入門 新物理学』J.T.シップマン著、勝守寛訳（学術図書出版社）2007年、『地球と環境の科学』木下紀正・八田明夫著（東京教学社）2020年、『令和5年版 環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』環境省（<https://www.env.go.jp>）

【学生へのメッセージ】

授業を通じて自然科学の知識と科学的なものの見方や考え方を身につけてください。日常においても、自然や環境問題そしてSDGsに関心を持ち、Webサイトやテレビ、新聞などで情報をチェックするように心がけること。

【オフィスアワー】

水曜日 2 時限目、授業の前後に教室にて受け付けます。

【実務経験】

山梨県環境科学研究所課題評価委員。山梨県森林審議会委員。危険物取扱者（甲種）資格。

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目
講義名	[B_ism2] [03] 人間関係とコミュニケーションの基礎				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	中野 宏子		ナカノ ヒロコ		nakano hiroko [hnakano(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
コミュニケーション能力という言葉をよく耳にしますが、「コミュニケーション」とはどのようなものを指すのか。「人間関係とコミュニケーション」を中心に、基礎的な理論、具体的なコミュニケーション技術、現代のコミュニケーションをめぐる問題として新たなコミュニケーションツールなどについて概説します。コミュニケーション能力について理解を深め、具体的なコミュニケーション技術を身につけることによりSDGs17の目標「パートナーシップで目標を達成しよう」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
コミュニケーションの知識を体系的に修得するとともに、相手の言ったことを的確に理解し、自分の言葉で具体的に述べる力を身につけることを、本事業の目標とします。 コンピテンシー：傾聴力、会話力、口頭表現力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
コミュニケーション理論について正確に理解できるよう講義すると同時に、それらを現実の自分の問題として、思考、かつ実践できるように具体的で積極的に参加する授業を行います。また、発表力を充実させるために、グループワーク、ディスカッション、ディベートを授業で行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、各回の講義内容についてシラバスに記載した参考書による事前学修を行うこと、事後学修（2時間以上）は、配布プリントの内容に基づき授業の復習をし、課題を次回提出することを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート（30%、第8回）、学力確認レポート（60%）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	人間関係と心理（自己覚知）				
第2回	人間関係と心理（他者理解）				
第3回	人間関係と心理（ラポール）				
第4回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの意義）				
第5回	対人関係とコミュニケーション（対人関係・コミュニケーションの概要）				
第6回	コミュニケーションを促す環境				
第7回	コミュニケーションの技法（物理的対人距離・心理的距離）				
第8回	コミュニケーション（言語的コミュニケーション・非言語コミュニケーション）				
第9回	コミュニケーションの技法（傾聴）				
第10回	コミュニケーションの技法（受容・共感）				
第11回	機器を用いたコミュニケーション				
第12回	記述によるコミュニケーション				
第13回	チームマネジメントとコミュニケーションの基本				
第14回	チームマネジメントを行う際のコミュニケーション技術				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：プリントを配布する。参考書：『入門コミュニケーション論』宮原哲（松柏社）2006年、『グローバル社会のコミュニケーション学入門』藤巻光浩（ひつじ書房）2019年、『メディア・リテラシー』菅谷明子（岩波書店）2000年。その他の参考書は講義中に適宜紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
現代社会に求められる「コミュニケーション能力」を受講生一人一人が自らの問題として捉え、落ち着いて他者の意見を聴く、自信をもって自分の意見を述べられるようになることを望みます。毎回受講生に積極的に問いかけ、発言してもらいます。					
【オフィスアワー】					
水曜日・金曜日10:30-12:00（大学事務室を通じて予約してください）					
【実務経験】					
山梨県教育委員会スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーク4年での実務勤務を活かして、コミュニケーションの重要性を感じられる授業にしたいです。					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目
講義名	[C_ism1] [13] 基礎ゼミ 統合版				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）		形式 演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	金 炳坤	キム ビョンコン		kim byungkon [kim(a)]	
	桑名 法晃	クワナ ホウコウ		kuwana hoko [hkuwana(a)]	
	白 景皓	ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]	
	叶 寧	ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
<p>本学の定める三つの方針「アドミッションポリシー（本学がもつめる学生像）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）、ディプロマポリシー（学位授与に関する方針）」を軸とし、大学生として最低限必要な学力（読み、理解し、考え、表現する）を身につけるとともに、自主的学修姿勢を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生を送る上での人間関係を充実するようなアクティブ・ラーニング型の授業を展開する。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>大学は学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学修しかつ研究をしていく場所である。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければならない。基礎ゼミの目的は、このような大学教育に必要な基礎能力をマスターすることにある。基礎ゼミでは、基礎的なスキルを身につけることを目標とする。コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、情報収集・分析・構成力、読解力、文章表現力、口頭発表力、批判的・論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
4人の担当教員が交代で授業を行う。それぞれが指定する教科書や参考書に沿って進めていく。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>事前学修（2時間以上）は、教科書をよく読み、課題をきちんとこなし、授業に備えること。事後学修（2時間以上）は、授業の内容をよく復習し、語彙力、文章力を高める努力をすること。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>授業への取り組み姿勢（30%）、レポート等の提出物（30%、P.N.の作成状況を含む）、個人発表・プレゼンテーション（40%、ルーブリック評価シートに基づくディプロマサプリメントを提示します）により総合評価します。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	[4月5日] 新入生オリエンテーション 2日目【担当：全員】				
	1、日本語能力試験（207教室）				
	8:50～9:00 集合・注意事項				
	9:00～10:00 聴解（60分）				
	10:05～11:55 言語知識（文字・語彙・文法）・読解（110分）				
	2、個別学修指導（207教室）				
	13:00～14:25 前期履修指導：時間割の作成及び提出				
14:30～15:00 ポートフォリオ手帳（P.N.）の作成（P.N. p.28）					
15:00～15:30 自己紹介：高校・大学・社会人時代の活動及び卒業時における目標について					
15:30～16:00 アカデミックアドバイザー（A/A）との面接（P.N. p.58）					
第2回	[4月9日] 第1章 大学での学び方1【担当：桑名・SA】 大学とは・学問とは：身延山大学の歴史と建学の精神				
第3回	[4月16日] 第1章 大学での学び方2【担当：桑名・SA】 ノートの取り方				
第4回	[4月23日] 第1章 大学での学び方3【担当：桑名・SA】 レポートの書き方・レポート作成上の倫理				
第5回	[5月14日] 第1章 大学での学び方4【担当：桑名・SA】 レポート作成・口頭発表のための日本語力 発表テーマの選定				
第6回	[5月21日] 第1章 大学での学び方5【担当：桑名・SA】 図書館利用法とデータベース活用法1				
第7回	[5月28日] 第1章 大学での学び方6【担当：桑名・SA】 図書館利用法とデータベース活用法2 発表テーマに応じた文献探索・資料収集				

第8回	[6月4日] 第2章 社会の中の大学1【担当：金・SA】 グループ・ディスカッション：本学の個性・特色等について考えてみよう 令和6年度スローガン「魅力ある大学～魅力あるカリキュラムと学生確保～」
第9回	[6月11日]第2章 社会の中の大学2【担当：金・SA】 グループ・ワーク：学生満足度アンケートを作ろう
第10回	[6月25日] 第3章 コンピュータ/ネットワーク・リテラシー1【担当：金・SA】 Google 活用術：ドライブ・フォーム
第11回	[7月2日] 第3章 コンピュータ/ネットワーク・リテラシー2【担当：金・SA】 Microsoft Word：レポートの提出方法
第12回	[7月9日] 第3章 コンピュータ/ネットワーク・リテラシー3【担当：金・SA】 Microsoft PowerPoint：プレゼンテーションスキル1
第13回	[7月16日] 第3章 コンピュータ/ネットワーク・リテラシー4【担当：金・SA】 プレゼンテーションスキル2：PREP法（Point Reason Example Point）
第14回	[7月23日] P.N.に基づく個別学修指導（A/A研究室）【担当：全員】 210教室に集合し、教員（総括：金）の指示に従ってください
第15回	[7月30日] 日本語運用能力テスト（応用レベル）/成績判定【担当：全員】
【教科書・参考書】	
教科書は『大学1年生からの社会を見る眼のつくり方（シリーズ大学生の学びをつくる）』大学初年次教育研究会（大月書店）2020年を使います。参考書：『令和6年度 履修の手引き』身延山大学仏教学部仏教学科編（身延山大学）2024年を使います。その他、適宜に資料を配布・配信します。	
【学生へのメッセージ】	
好奇心を持ち、さらなる探求心を培おうと思うこと。見識を深め、自己を向上させようとする。一人一人の個性を尊重し、相手の視点に立つことができること。主体的、かつ柔軟に思考することができること。ポートフォリオ手帳を活用し計画的な学修に取り組むこと。月1回は、P.N.の作成状況をA/Aに報告するようにしてください。	
【オフィスアワー】	
金炳坤：授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。 桑名法晃：授業の前後、火曜日第1時限目と木曜日第1時限目 白景皓：授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。 叶寧：授業担当時の前後、火・水・金曜日の授業・会議以外の時間帯	
【実務経験】	
金炳坤：なし 桑名法晃：なし 白景皓：なし 叶寧：なし	

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 教養科目		自然科学系・総合領域科目		
講義名	[F_ism3] [05] 人間の尊厳と自立《遠隔授業》				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	村瀬 正光		ムラセ マサミツ		murase masamitsu [murase(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学修とする。人間の尊厳と自立を理解するため、基本的人権の理念、人権侵害等の社会問題を通して学ぶ。介護における尊厳の保持・自立支援を理解するために、具体的な生活場面の事例を取り上げて学ぶ。人権思想・福祉理念の歴史の変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う内容とする。人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する内容とする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、課題設定力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。 この授業はハイフレックス形式の遠隔授業となります。対面授業に切り替わる際は、予め担当教員より受講生へメールにて連絡します					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（50％）と、講義毎の予習と復習のレポート提出（50％）とにより評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	人間の多面的理解 対面授業				
第2回	人間の尊厳と人権・福祉理念 対面授業				
第3回	人間の尊厳 普遍的尊厳 同時双方向形式				
第4回	人間の尊厳 個別的尊厳・多様性 同時双方向形式				
第5回	自立の概念 同時双方向形式				
第6回	事例を通して「自立・自律」を考察1 同時双方向形式				
第7回	事例を通して「自立・自律」を考察2 同時双方向形式				
第8回	人権と尊厳 基本的人権 同時双方向形式				
第9回	権利擁護 同時双方向形式				
第10回	アドボカシー 同時双方向形式				
第11回	人権尊重 対面授業				
第12回	スティグマ 対面授業				
第13回	身体的な自立支援 対面授業				
第14回	精神的な自立支援 同時双方向形式				
第15回	社会的な自立支援 同時双方向形式				
【教科書・参考書】					
『介護概論 三訂 介護福祉士養成講座12』福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）。					
【学生へのメッセージ】					
積極的に授業に参加するのを望む。					
【オフィスアワー】					
随時、メール（murase(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目	自然科学系・総合領域科目

講義名	[G_ism2] [21] 基礎ゼミ 統合版
-----	------------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	1年	--	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]
	桑名 法晃	クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]
	白 景皓	ハク ケイコウ	bai jinghao [bai(a)]
	叶 寧	ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]

【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】

大学の定める三つの方針「アドミッションポリシー（本学がもつめる学生像）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）、ディプロマポリシー（学位授与に関する方針）」を軸とし、大学生として最低限必要な学力（読み、理解し、考え、表現する）を身につけるとともに、自主的学修姿勢を培い、個性と主体性を育み、そして教員と学生、及び学生相互の人格的交流・錬磨の場とし、大学生活を送る上での人間関係を充実するようなアクティブ・ラーニング型の授業を展開する。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

大学は学生自身が確かな向学心を持って、能動的に学修しかつ研究をしていく場所である。そのためには、必要最低限の理解力・思考力・表現力といった能力を身につけていなければならない。基礎ゼミの目的は、このような大学教育に必要な基礎能力をマスターすることにある。基礎ゼミでは、応用的なスキルを身につけることを目標とする。コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、情報収集・分析・構成力、読解力、文章表現力、口頭発表力、批判的・論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力

【授業方法（フィードバックの内容）】

4人の担当教員が交代で授業を行う。それぞれが指定する教科書や参考書に沿って進めていく。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、教科書をよく読み、課題をきちんとこなし、授業に備えること。事後学修（2時間以上）は、授業の内容をよく復習し、語彙力、文章力を高める努力をすること。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（30%）、レポート等の提出物（30%、P.N.の作成状況を含む）、発表・プレゼンテーション（40%、ルーブリック評価シートに基づくディプロマサプリメントを提示します）により総合評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	[第16回_9月24日] 前期成績に基づく後期履修指導（A/A研究室）【担当：全員】 210教室に集合し、教員（総括：金）の指示に従ってください
第2回	[第17回_10月1日] 第4章 ジェンダーから読む社会1【担当：叶】
第3回	[第18回_10月8日] 令和6年度避難訓練及び初期消火訓練【担当：全員】 210教室に集合し、教員（担当：叶）の指示に従ってください
第4回	[第19回_10月15日] 第4章 ジェンダーから読む社会2【担当：叶】
第5回	[第20回_10月22日] 第5章 政治と社会の担い手になる1【担当：叶】
第6回	[第21回_10月29日] 第5章 政治と社会の担い手になる2【担当：叶】
第7回	[第22回_11月5日] 第5章 政治と社会の担い手になる3【担当：叶】
第8回	[第23回_11月12日] 第6章 働くことと労働法1【担当：白】
第9回	[第24回_11月19日] 公開講演会【担当：全員】 210教室に集合し、教員（担当：白）の指示に従ってください
第10回	[第25回_11月26日] 第6章 働くことと労働法2【担当：白】
第11回	[第26回_12月3日] 第7章 現代史と今日の社会1【担当：白】
第12回	[第27回_12月10日] 第7章 現代史と今日の社会2【担当：白】
第13回	[第28回_12月17日] 第7章 現代史と今日の社会3【担当：白】
第14回	[第29回_1月7日] 個人発表・プレゼンテーション【担当：全員（白・叶）】 授業内容の中から発表テーマを選んで5分程度のプレゼンテーションを行うこと
第15回	[第30回_1月21日] P.N.に基づく個別学修指導（A/A研究室）/成績判定【担当：全員】 210教室に集合し、教員（総括：金）の指示に従ってください

【教科書・参考書】

教科書は『大学1年生からの社会を見る眼のつくり方（シリーズ大学生の学びをつくる）』大学初年次教育研究会（大月書店）2020年を使います。その他、適宜に資料を配布・配信します。

【学生へのメッセージ】

好奇心を持ち、さらなる探求心を培おうと思うこと。見識を深め、自己を向上させようとする。一人一人の個性を尊重し、相手の視点に立つことができること。主体的、かつ柔軟に思考することができること。ポートフォリオ手帳を活用し計画的な学修に取り組むこと。月1回は、P.N.の作成状況をA/Aに報告するようにしてください。

【オフィスアワー】

金炳坤（統括・教養教育専門会議長）：授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。

桑名法晃：授業の前後、火曜日第1時限目・木曜日第1時限目

白景皓：授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。

叶寧：授業担当時の前後、火・水・金曜日の授業・会議以外の時間帯

【実務経験】

金炳坤：なし

桑名法晃：なし

白景皓：なし

叶寧：なし

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目
講義名	[H_ism0] [11] ボランティア活動の単位認定				
区分	通年（1回）		単位	選択（1）	形式 認定
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ボランティア活動をつうじて、社会的な個人の価値を知り、奉仕と勤労による社会参画の意義を学びます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
コミュニケーション力の向上により人間力の育成を図り、SDGsの目指す解決目標にどのように合致させていくかを意識出来る活動が構築できるスキルを身につける。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
認定科目なので、直接的授業は行わないが、活動を行った事業体の判断と、事前学修と事後検証により、成果が得られたかどうかを判定する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
認定科目のため、活動事業体との打ち合わせにより、内容を決定する。					
【成績評価（方法・基準）】					
ボランティア活動の主事業体の評価が優先され、事後検証による自己評価と教員の判定を加味して認定する。最低活動時間数は45時間である。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	事前学修				
【教科書・参考書】					
認定科目なので特にない					
【学生へのメッセージ】					
認定科目					
【オフィスアワー】					
認定科目					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				自然科学系・総合領域科目
講義名	[I_ism0] [13] 社会活動の単位認定				
区分	通年（1回）		単位	選択（1）	形式 認定
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本学の建学の精神である「社会に身をもって尽くす」ための実践的活動に対して単位認定を行います。授業カリキュラムの中だけでは得られない社会活動を直に行い、社会に対する貢献とはどういうことなのかということを感じてもらうための科目です。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>どのような活動を行うかによって具体的到達目標は異なってきますが、概念的には、社会貢献の具体的なあり方に気づき、現場における実践を通して課題解決に取り組む姿勢が培われることが目標となります。</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>第1回目のガイダンスでこの科目の意味とねらい、単位認定の方法、申請の具体的な手順などについて説明します。第2回目以降は、それぞれの活動内容によって時間数が計算されます。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>それぞれの活動内容によって異なります。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>必要最低時間を満たすこと。例：施設ボランティアの場合は45時間。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス				
【教科書・参考書】					
<p>認定科目なので特にない。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>認定科目</p>					
【オフィスアワー】					
<p>認定科目</p>					
【実務経験】					
<p>なし</p>					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				地域教養科目
講義名	[A_1c1] [01] 山梨県と峡南地域				
区分	集中	単位	選択 (2)		形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
山梨県峡南地域の歴史と文化について学ぶために3回の巡見（フィールドワーク）を行う。各回の1限に巡見場所に関する調べ学修を行い、予備知識を得た上で2限以降に巡見を行う。自ら歩いて見学することにより、峡南地域の歴史と文化を体感する。巡見先の施設等の関係者から話を聞き、各自調べた内容を現地で発表してもらう。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
峡南地域が山梨県の中でどういう地域か、理解することを到達目標とする。そして、3回の巡見（フィールドワーク）を通じて「健康力」「情報収集力」「地域理解」「傾聴力」「口頭発表力」が身につく。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
山梨県峡南地域の身延町、南部町、早川町、富士川町、市川三郷町にスポットをあて3回に分けて神社仏閣、史跡、文化・歴史施設等を巡見（フィールドワーク）する。各回の巡見後にレポートを提出してもらう。毎回、1限は大学や久遠寺内で調べ学修を行い、それから巡見を行う。タブレット端末等のICT機器を使用して巡見先の調べ学修を行う。授業は集中講義で、6月8日、7月6日、10月5日の3回を予定している。諸般の事情によりこれらの日に授業ができない場合の予備日として7月20日、11月16日、12月14日を設定する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
3回それぞれの巡見（フィールドワーク）のための各回ごとに事前学修10時間、事後学修10時間を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
巡見した際の授業への取り組み姿勢（70%）、レポート（30%）にて評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の概要説明、1回目巡見場所の調べ学修と巡見（南部町方面）1回～5回				
第2回	2回目巡見場所の調べ学修と巡見（身延町・早川町方面）6回～10回				
第3回	3回目巡見場所の調べ学修と巡見（富士川町・市川三郷町方面）11回～15回				
【教科書・参考書】					
適宜資料を配付します。					
【学生へのメッセージ】					
3回の巡見には必ず出席すること。巡見場所、巡見日は、天候や訪問先の事情により変更することもあります。巡見は基本的に学校のバスを利用するので交通費はかかりません。拝観料他が必要となる場合は予め受講者に連絡します。昼食は各自持参。受講生数にもよりますが、基本的に学バスで巡見するので受講人数に制限があります。開講日土曜日の1限～5限となります。3回の開講日に行いますが、都合により予備日になる場合もあります。					
【オフィスアワー】					
授業内容等に関する質問があれば、3回の授業前後の時間に担当教員が対応する。毎回、1限に調べ学修を行うが、具体的な巡見場所を知りたい受講生は事前に担当教員にメール（smochi(a)min.ac.jp）で聞いてください。					
【実務経験】					
博物館学芸員として勤務経験（40年）あり。現場に即した授業を行います。					

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目	地域教養科目

講義名	[B_lcl1] [03] 山梨県の福祉文化
-----	------------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義と演習、実践
----	---------	----	-------	----	----------

授業年次	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	伊東 久実	イトウ クミ	ito kumi [ito(a)]
------	-------	--------	-------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

講義と演習、そして学外において福祉活動に参加して、地域文化と福祉の関わり、地域課題と福祉のあり方への理解を深め、地域課題を解決するための基礎スキルの修得を行う。 キーワード：福祉文化、地域課題、課題解決

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

豊かな暮らしを障がいのあるなしに関わらずすべての人々が享受できる社会形成に向けて、現在の地域にある福祉文化を概観し、私たちが暮らす地域の福祉の多様性を理解できるようになる。次に、インターネット上から得られる情報を用いてプレゼンテーションができるようになることや、実際の現場から得られた情報を、先の情報と照らし合わせて適切に加工し、他者に伝えられるようになる。そして、それらの情報から導かれる課題を解決する具体案を作成できるようになる。 コンピテンシー：地域理解、情報収集・分析・構成力、読解力、文章表現力、口頭発表力、批判的・論理的思考力、課題設定力、構想力

【授業方法（フィードバックの内容）】

大学図書館、地域図書館などの資料を活用して、地域の歴史の中にある福祉文化を探索する。校外学修では地域に出かけて実際の現場を見て、感じて、その意味を知り、地域の課題解決に向けた具体的な提言案を作成する。講義形式と自己学修型の演習と、実践の観察によるPBL型の授業となる。特に11回～15回の授業では、それまでの授業を踏まえて「支え合い」を基本コンセプトとしてPBL型の授業を行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

講義形式：事前に指定された事項の理解に2時間以上、事後には全体の復習と与えられた課題をまとめることに2時間以上が必要となる。演習形式：得られた情報を加工するために事前に2時間以上、事後にも2時間以上は必要となる。実践形式：実際の現場に出るための情報を収集することに2時間以上、事後学修は得られた情報を整理加工することに2時間以上が必要となる。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（60%）、プレゼンテーションの準備と発表（40%）により評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション、福祉と文化の関係とその範囲
第2回	「支え合い」の源流
第3回	様々な福祉実践と民間の活動1：情報の収集
第4回	同上2：発表とディスカッション
第5回	福祉活動への参加（身延町内子育て支援施設での校外学修の事前指導）
第6回	福祉活動への参加（身延町内子育て支援施設での校外学修）
第7回	校外学修の振り返り：地域の福祉文化の重要性
第8回	資料から考察する山梨県の福祉文化1：情報の収集
第9回	同上2：発表とディスカッション
第10回	山梨県の地域課題を知る 福祉に関する地域課題の検出（PBL型）
第11回	地域課題解決に向けての方策検討（PBL型）
第12回	地域課題解決具体案の作成（PBL型）
第13回	課題解決策のプレゼンテーションとディスカッション1
第14回	同上2
第15回	山梨県の福祉文化の多様性理解

【教科書・参考書】

教科書：プリントを配布する。参考書：『福祉文化論』一番ヶ瀬康子ほか編（有斐閣ブックス）1997年、『福祉文化とは何か』河東田博編（明石書店）2010年、『福祉文化の協奏』増子勝義（北樹出版）2017年、その他の参考書は講義中に適宜紹介する。

【学生へのメッセージ】

「福祉文化」という聞き慣れない言葉ですが、個が大切にされ、人と人との間に温かさを通わせることの出来る支え合いの暮らしについて、課題意識をもって共に考えましょう。

【オフィスアワー】

火曜日15:30-17:00と金曜日15:30-17:00

【実務経験】

なし

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目	地域教養科目

講義名	[C_lcl2] [05] サービスラーニング
-----	-------------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（1）	形式	演習
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	伊東 久実	イトウ クミ	ito kumi [ito(a)]
------	-------	--------	-------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

社会貢献活動となる活動を主題として、地域の課題について、それを体験し、まとめて整理して、内容を明かに認識して、解決に向けての方策を考え事前に試用し、改善を加えて、再実行できるプロセスが踏めるような授業構成とする。 キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル、SDGs

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題にたいする情報を収集し、分析し、まとめて、課題解決に向けて組織的に社会的活動を行うためのコミュニケーション力を発揮し、社会的役割や市民としての責任に立脚して貢献できる姿勢を得ることを目標とする。学生はPDCAサイクルを理解して、その活用方法を学び、論理的に組み立て、実際に運用し、課題解決の方法として実践できる力を成果とする コンピテンシー：健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、傾聴力、会話力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力

【授業方法（フィードバックの内容）】

峡南圏域で行われている地域活動を、学内学修と合わせて行うことを通して地域課題の解決方法を探求する。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。

【授業外学修の方法（時間数）】

地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学修を実施し活動目的や活動内容等の計画書を作成する。地域活動の実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学修を実施し活動報告を文章化・言語化して行う。

【成績評価（方法・基準）】

事前学修での活動計画書の内容（10%）、計画と活動報告が一致しているか（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション40%）で評価を行う。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション：サービスラーニングとは？
第2回	活動計画の素案作り
第3回	活動計画の構成と計画書の作成
第4回	活動前の事前準備（事業者との面談と打ち合わせ）
第5回	地域活動1（活動の準備）
第6回	地域活動2（活動の準備）
第7回	地域活動3（実践）
第8回	地域活動4（実践）
第9回	地域活動5（実践）
第10回	活動の振り返り（フィードバック討議）
第11回	活動報告書の作成と地域課題の掘り起こし1
第12回	活動報告書の作成と地域課題の掘り起こし2
第13回	地域課題に対する解決案の作成と修正
第14回	解決案の事業者への提案
第15回	事後報告会と全体の振り返り

【教科書・参考書】

教科書：プリントを配布する。参考書：『ボランティア論』川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。

【学生へのメッセージ】

受け身ではなく、自らが体験してそれを振り返り、文章や言葉として他者に伝えていくことを通して学びを深めて欲しい。「我がまち」という意識を持ち、活動を通して地域の課題を明確にする意識を持って欲しい。

【オフィスアワー】

火曜日15:30-17:00と金曜日15:30-17:00

【実務経験】

なし

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 教養科目				地域教養科目	
講義名	[D_lcl2] [07] サービスラーニング					
区分	後期（15回）		単位	選択（1）		形式 演習
授業年次	--	2年	3年	4年		
担当教員	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi [ito(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
社会貢献活動を主題とする。地域の課題について学内で調査、整理して、解決に向けての方策を考え事前に試用する。その後、改善を加えて実践の場において再実行するプロセスが踏めるような授業構成とする。 キーワード：社会貢献、地域貢献、課題解決、PDCAサイクル						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
大学内で学んだ知識や技術を活かして、地域社会に存在するさまざまな課題を解決するために組織的に社会的活動を行うことを通して、社会的役割や市民としての責任を自覚できることを目標とする。学生はPDCAサイクルを理解してその活用方法を学び、実際に運用し、課題解決の方法を身につけることを成果とする。 コンピテンシー：健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、傾聴力、会話力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
峡南圏域で行われている地域活動を、学内学修と合わせて30時間以上行うことを通して地域課題の解決方法を探求する。地域活動とは、認知症カフェ、高齢者いきいきサロン活動、小中学校出張授業、子育て支援イベントの企画・運営、地域行事への参加、イベント参加や協働、ボランティア活動等のことをいう。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
地域活動を実施する前に、4時間以上の事前学修を実施し活動目的や活動内容等の計画書を作成する。地域活動の実施後は活動の振り返りを行い、6時間以上の事後学修を実施し活動報告を文章化・言語化する。						
【成績評価（方法・基準）】						
事前学修の内容のレポート（20%）、活動計画書（20%）、活動報告の内容（報告書30%とプレゼンテーション30%）で評価を行う。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	サービスラーニング の成果を踏まえた活動計画					
第2回	地域課題の調査					
第3回	地域課題への対応策 1 現状の把握					
第4回	地域課題への対応策 2 先進的な活動事例					
第5回	活動目的と活動内容等の明確化					
第6回	活動計画の立案					
第7回	地域活動 1					
第8回	地域活動 2					
第9回	活動の振り返りと改善計画（TAによる指導）					
第10回	地域活動 3					
第11回	地域活動 4					
第12回	活動の振り返りと改善計画（フィードバック討議）					
第13回	活動報告書作成					
第14回	事後報告会					
第15回	事後報告会と全体の振り返り					
【教科書・参考書】						
教科書：プリントを配布する。参考書：『ボランティア論』川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年。						
【学生へのメッセージ】						
受け身ではなく、自らが体験してそれを振り返り、文章や言葉として他者に伝えていくことを通して学びを深めて欲しい。「我がまち」という意識を持ち、活動を通して地域の課題を明確にする意識を持って欲しい。						
【オフィスアワー】						
火曜日15:30-17:00と金曜日15:30-17:00						
【実務経験】						
なし						

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				情報科目
講義名	[A_Isi2] [01] 情報処理技能				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	笠井 健次		カサイ ケンジ		kasai kenji [kasai(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
コンピュータは情報の伝達、蓄積、検索、そして加工を行う便利なツールであります。PCにおける基本ソフト（Windows）や応用ソフト（Word・Excel・PowerPoint）の操作を学び、さらに演習問題に取り組むことで、それらを活用するための基礎力を身に付けていきます					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
授業を受講し適切な反復学修を行うことで、受講生は大学生に相応しいコンピュータ活用スキルを身に付けます。コンピュータ活用スキルとは、単に操作方法の知識ではなく、「論理的思考力」「情報収集力」「情報分析力」「情報構成力」も含まれます。情報活用の基礎力を獲得することが授業の目標です。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
短めの講義も行いますが、多くは演習問題によって進めていきます。第1回、第2回は配布プリントを使用し、以降は市販のテキストを使用します。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）：テキストにて各演習のシチュエーションを把握しておくこと。対応動画の視聴で操作を確認しておくこと。事後学修（2時間以上）：考える事、操作する事、両面を自身で反復すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（50%）、学力確認テスト（50%）にて評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	情報処理室についての説明 Windows入門1				
第2回	Windows入門2 PCの内部国「ファイル管理				
第3回	Word、Excel、PowerPoint 各ソフトの基本操作				
第4回	Word 伝わる文書 文字のレイアウト、画像の配置				
第5回	Word 伝わる文書 ビジュアルの工夫				
第6回	Word レポート作成 文書の体裁 図部々号 相互参照				
第7回	Word レポート作成 脚注 目次の自動作成 ページ番号設定				
第8回	Excel 成績データ整理 関数による計算毎7 オートフィル				
第9回	Excel 成績データ整理 関数による合否判定 順位表示				
第10回	Excel 成績データの資料化 クラスごと集計 グラフ作成				
第11回	Excel 成績データの資料化 伝えるための整理				
第12回	PowerPoint スライド作成 テーマ レイアウトの工夫				
第13回	PowerPoint 表 ワードアート スマートアート 画像				
第14回	PowerPoint 発表準備 見せ方の工夫 配布資料 原稿				
第15回	まとめ及び振り返り				
【教科書・参考書】					
noa出版「学生のためのOfficeスキル活用&情報モラル」、またWindowsの基本操作に関する参考資料、PC内部国「に関する参考資料などを配布する。					
【学生へのメッセージ】					
これまでに修得したコンピュータスキルを十分に復習してから本講義に臨んでください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
メーカー系SEとして職歴スタート。現在も企業向けシステム開発に従事。情報活用の指導機会も多くその基礎を学生に伝授したい。					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				情報科目
講義名	[B_Isi1] [03] データサイエンス				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2) R3以降	形式	講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	笠井 健次		カサイ ケンジ	kasai kenji [kasai(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
情報処理技能で修得済みのコンピュータ活用スキルを使い、実戦に近い演習問題に取り組むことで、その力を伸ばして行きます。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
授業を受講し適切な反復学修を行うことで、実戦的なコンピュータ活用スキルを身に付けます。実戦的なコンピュータ活用には、操作方法の熟知だけではなく、「論理的思考力」「情報収集力」「情報分析力」「情報構成力」が不可欠です。それらの力を社会人として即応できるレベルに引き上げることが授業の目標です。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
講義中心のテーマもありますが、ほとんどのテーマは演習問題によって進めていきます。第1回、第2回は配布プリントを使用し、以降は市販のテキストを使用します。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) : テキストにて各演習のシチュエーションを把握しておくこと。対応動画の視聴で操作を確認しておくこと。事後学修 (2時間以上) : 考える事、操作する事、両面を自身で反復すること。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業への取り組み姿勢 (50%)、学力確認テスト (50%) にて評価します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	Word、Excel、PowerPoint 各ソフトの復習 1				
第2回	Word、Excel、PowerPoint 各ソフトの復習 2				
第3回	レポートの基礎知識 テーマ 作成の流れ				
第4回	アンケートのデータ化 各値集計				
第5回	データによる仮説 1 の検証 分類ごとの集計 グラフ化				
第6回	データによる仮説 2 の検証 分類ごとの集計 考察				
第7回	レポート作成 アウトライン 見出し				
第8回	レポート作成 情報の整理 図表配置				
第9回	レポート作成 読みやすさ 提出準備				
第10回	スライドの作成 調査の経緯と方法				
第11回	スライドの作成 調査の結果と考察				
第12回	スライドの作成 結論・参考文献 発表準備				
第13回	情報セキュリティ				
第14回	情報モラル				
第15回	まとめ及び振り返り				
【教科書・参考書】					
noa出版「学生のためのOfficeスキル活用&情報モラル」(前期「情報処理技能」と同じテキストの後半部分を使用)、またセキュリティ関連の参考資料、インターネット関連の参考資料などを配布する。					
【学生へのメッセージ】					
Word、Excel、PowerPoint、各ソフトの操作を修得済みであることを受講の前提とします。(十分に復習してから本講義に臨むこと) それらを使って情報を活用することを学びます。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
メーカー系SEとして職歴スタート。現在も企業向けシステム開発に従事。情報活用の指導機会も多くその基礎を学生に伝授したい。					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				保健体育科目
講義名	[A_Ima1] [01] 健康とスポーツの科学				
区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	藤本 俊		フジモト シュン		fujimoto syun [fujimoto(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
現代社会が抱える運動不足について、生活習慣病の発症の予防等や生涯健康で生活することのできる運動処方等について講義する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
人々が健康な生活を真に実行するためには、何が「健康」であり、何が「不健康」であるかをまず知らなければならない。健康とスポーツについて、理解と認識を深め、健康の保持増進について講義する。 コンピテンシー：健康力、地域理解、会話力、計画力、実行力、改善力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
パソコン接続プロジェクター（パワーポイント）を使用して講義をする。現代社会を生きるために様々な問題を追究します。具体的には、お互い自分自身の生活様式を振り返り、ディスカッションを行い現実の問題の改善方法を検討する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、配布資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学修（2時間以上）は、配布資料を読み直し、授業の復習しノートにまとめることを望む。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（70%）、授業への取り組み姿勢（20%）、レポート（10%）を総合して評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	体力・運動不足による身体の影響				
第2回	身体活動・運動の実施と健康				
第3回	生活習慣病と健康				
第4回	全国と山梨県の平均寿命と健康寿命				
第5回	食事・休息・睡眠と健康				
第6回	飲酒・喫煙・薬物による身体への影響				
第7回	メタボリックシンドロームの改善方法				
第8回	運動とヘモグロビン・ドーピング				
第9回	健康のための正しいトレーニング方法				
第10回	手軽にできる日常運動のウォーキング・ジョギング方法				
第11回	ストレッチングの目的と方法				
第12回	スポーツマッサージの目的と方法（演習）				
第13回	テーピングの目的と方法（演習）				
第14回	応急手当の方法				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
特に指定しない。その都度資料を配布する。					
【学生へのメッセージ】					
現代社会が抱える運動不足の問題を受講生一人一人が自らの問題として考えてください。身体は生涯にわたり、つき合わなければなりません。快適に今日を生きるための知識をしっかりと身に付けてください。自分のため家族のための健康法です。					
【オフィスアワー】					
金曜日5限目の授業終了後に講師控室（大学事務室隣）にて受けます。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				保健体育科目
講義名	[B_Ima1] [03] トレーニングと身体				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	実技
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	藤本 俊		フジモト シュン		fujimoto syun [fujimoto(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
テニスの基礎技術の理論と発展技術の理論についてスキル指導をする。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
テニスの実践を通してその技術レベルを高めるとともに、身体運動の大切さ、チームゲームを通しての仲間との関わり方の重要性を体験し、併せて将来、社会のために貢献できる人間としての身体的、精神的、情緒的を高める。 コンピテンシー：健康力、地域理解、会話力、計画力、実行力、改善力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
テニスコートを使用して実技を中心に講義・指導でホローアップする。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
(2時間以上)は、配布資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学修(2時間以上)は、反復練習すること。					
【成績評価 (方法・基準)】					
スキル確認テスト(70%)、授業への取り組み姿勢(30%)を総合して評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	テニスの基礎技術の理論と実践 1				
第2回	テニスの基礎技術の理論と実践 2				
第3回	テニスの基礎技術の理論と実践 3				
第4回	テニスの発展技術の理論と実践 1				
第5回	テニスの発展技術の理論と実践 2				
第6回	テニスの発展技術の理論と実践 3				
第7回	テニスのゲームについて 1				
第8回	テニスのゲームについて 2				
第9回	テニスのゲームについて 3				
第10回	テニスのゲームについて 4				
第11回	テニスのゲームについて 5				
第12回	テニスのゲームについて 6				
第13回	テニスのゲームについて 7				
第14回	テニスのゲームについて 8				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。週1回の授業時間内の実技では、技術・健康・体力の向上は得られません。受講後は、必ず内容の修得が得られるように反復練習をすること。					
【学生へのメッセージ】					
トレーニングウェア・テニスシューズを用意し、徒歩でテニスコートに集合、バイク・自動車の移動は禁止。単位取得のための目的でなく、生涯スポーツとしての実践を身に付けてください。					
【オフィスアワー】					
授業終了後					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				保健体育科目
講義名	[C_lma1] [05] トレーニングと身体				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	実技
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	藤本 俊		フジモト シュン		fujimoto syun [fujimoto(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
バドミントン・卓球・ソフトバレーボールの基礎技術と発展技術の理論と実践について、スキル指導する。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
各種のスポーツ種目の実践を通してその技術レベルを高めるとともに、身体運動の大切さ、チームゲームを通しての仲間との関わり方の重要性を体験し、併せて将来、社会のために貢献できる人間としての身体的、精神的、情緒的を高める。 コンピテンシー：健康力、地域理解、会話力、計画力、実行力、改善力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
体育館で実技を中心に講義・指導でホローアップする。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、配布資料をあらかじめ読んでおくこと。事後学修 (2時間以上) は、反復練習すること。					
【成績評価 (方法・基準)】					
スキル確認テスト (70%)、授業への取り組み姿勢 (30%) を総合して評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	バドミンントンの基礎技術の理論と実践 1				
第2回	バドミンントンの基礎技術の理論と実践 2				
第3回	バドミンントンの発展技術の理論と実践 1				
第4回	バドミンントンの発展技術の理論と実践 2				
第5回	バドミンントンのゲームについて 1				
第6回	バドミンントンのゲームについて 2				
第7回	バドミンントンのゲームについて 3				
第8回	卓球の基礎技術の理論と実践				
第9回	卓球の発展技術の理論と実践				
第10回	卓球のゲームについて 1				
第11回	卓球のゲームについて 2				
第12回	ソフトバレーボールの基礎技術の理論と実践				
第13回	ソフトバレーボールのゲームについて 1				
第14回	ソフトバレーボールのゲームについて 2				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。週1回の授業時間内の実技では、技術・健康・体力の向上は得られません。受講後は、必ず内容の修得が得られるように反復練習をすること。					
【学生へのメッセージ】					
トレーニングウェア・体育館シューズを用意し、グラウンド用と区別すること。単位取得のための目的でなく、生涯スポーツとしての実践を身に付けてください。					
【オフィスアワー】					
授業終了後					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				語学科目
講義名	[A_IIc1] [01] 英語 A				
区分	前期 (30回)	単位	選択 (2)	形式	演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	Jill Emma Strothman	ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman [jill(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
着実に英単語や文法を学び、実力を付けることが狙いです。SDGs8の目標「働きがいも経済成長も」に繋がります。英語の資格を持てばよりグローバルな仕事が職場の選択肢に加わります。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
英語 A はバランスよく reading, speaking, listening and grammar の学修を行います。本講義を受講することにより、学生は自信を持って英語を使えるようになります。 コンピテンシー：外国語リテラシー、文章表現力、口頭発表力、会話力、読解力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
2週目から11週目まで、授業開始直後に前回内容を復習するためのミニテストをします。その後、新しい学修をします。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明します。					
【成績評価 (方法・基準)】					
評価は授業に対する取り組みと学力確認テストとミニテストを基準に行います。目安として、授業に対する取り組みは (30%)、ミニテストは (50%)、学力確認テストは (20%) です。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	自己紹介、course orientation				
第2回	Unit 1				
第3回	Unit 1				
第4回	Unit 1				
第5回	Unit 1				
第6回	Unit 2				
第7回	Unit 2				
第8回	Unit 2				
第9回	Unit 2				
第10回	Review test				
第11回	Unit 3				
第12回	Unit 3				
第13回	Unit 3				
第14回	Unit 3				
第15回	Unit 4				
第16回	Unit 4				
第17回	Unit 4				
第18回	Unit 4				
第19回	Review test				
第20回	Unit 5				
第21回	Unit 5				
第22回	Unit 5				
第23回	Unit 5				
第24回	Unit 6				
第25回	Unit 6				
第26回	Unit 6				
第27回	Unit 6				
第28回	Review test				
第29回	Grammar and vocabulary review				
第30回	まとめ及び振り返り				

【教科書・参考書】
Speaking of People (Intro), Peter Vincent 他著、南雲堂、2023。参考書：『英和和英辞典』（授業中に紹介する）
【学生へのメッセージ】
15分以上の遅刻は欠席とみなされますので、そのつもりでください。本講義は2時限連続の授業ですので、1回の講義は2時限をもって行います。
【オフィスアワー】
月曜日 5時限
【実務経験】
なし

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				語学科目
講義名	[B_IIc1] [05] 韓国語 A				
区分	前期 (30回)	単位	選択 (2)	形式	演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	金 炳坤		キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
韓国語と日本語は文法的類似性が高い言語であるため、ハングルと発音に慣れさえすれば、他の外国語よりも修得しやすい言語です。週2回の連続授業を通して、韓国語能力試験 (TOPIK : 1級) の合格を目指します。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
(1)自己紹介、買い物、飲食店での注文など生活に必要な基礎的な言語 (ハングル) を駆使でき、身近な話題の内容を理解、表現できる。(2)約800語程度の基礎的な語彙と基本文法を理解でき、簡単な文章を作れる。(3)簡単な生活文や実用文を理解し、構成できる。 コンピテンシー: 多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、外国語リテラシー、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
教科書に沿って進めていきます。ネイティブの教員と時間を共にすることで、リアル 코리아 (歴史や文化) が体験できるようにします。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、単語帳を作って教科書の語彙を憶えるようにしてください。事後学修 (2時間以上) は、ノートに教科書の文法を整理し活用できるようにしてください。また、中間テスト (成績評価の対象) に備えて、予習・復習に徹するようにしてください。なお、OER講義教材のseemileページ [https://www.youtube.com/user/seemile] の視聴も役に立つと思います。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業への取り組み姿勢 (30%)、中間テスト (40%)、学力確認テスト (30%) により総合評価します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス、あいさつのことば、教室のことば				
第2回	第1課: 韓国語と文字				
第3回	第2課: 基本母音字				
第4回	第3課: 基本子音字 1				
第5回	第4課: 基本子音字 2				
第6回	第5課: 基本子音字 3				
第7回	第6課: 合成子音字				
第8回	第7課: 合成母音字				
第9回	第8課: パッチム				
第10回	第9課: 連音化				
第11回	中間テスト 1				
第12回	第10課: 私は日本人です。				
第13回	第11課: これは何ですか。				
第14回	第12課: 誰の本ですか。				
第15回	中間テスト 2				
第16回	第13課: 学校はどこにありますか。				
第17回	第14課: 何をしますか。				
第18回	第15課: どこに行きますか。				
第19回	中間テスト 3				
第20回	第16課: 天気はどうですか。				
第21回	第17課: 今日は何日ですか。				
第22回	第18課: ひとついくらですか。				
第23回	第19課: 何時に起きますか。				
第24回	第20課: どちらにお住まいですか。				
第25回	中間テスト 4				
第26回	第21課: 週末に何をしますか。				
第27回	第22課: 昨日、何をしましたか。				

第28回	第23課：いま、何をされますか。
第29回	第24課：何を食べましょうか。
第30回	まとめ
【教科書・参考書】	
教科書：『韓国語をはじめよう 書いて身につくテキスト 初級』李昌圭著（朝日出版社）2009年。参考書：『新・合格できる韓国語能力試験 TOPIK 』李志暎監修（アスク出版）2015年、『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』内山政春著（白水社）2022年。	
【学生へのメッセージ】	
韓国語能力試験に受験していただきますので、そのつもりで履修するようにしてください。また、大韓民国金剛大学校への交換留学を希望する学生は、必ず受講するようにしてください。	
【オフィスアワー】	
今はできなくともやり方を変えればできるようになるかも知れません。変わりたいという気持ちがあれば、授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに相談に乗りますので、殻に閉じこもらないで、話を聴かせてください。	
【実務経験】	
なし	

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				語学科目
講義名	[C_IIc1] [09] 現代中国語 A				
区分	前期 (30回)	単位	選択 (2)	形式	演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	椿 正美		ツバキ マサミ	tsubaki masami [tubaki(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
中国語の発音の指導や文法の講義を進めながら、中国の文化や中国人の価値観等についても紹介する。最終的には中国語検定試験やHSK (中国政府公認の中国語検定試験) の受験に対応できる基礎学力を養い、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋げていく。 キーワード：中国語、文法、会話					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
中国語の「読解力」「傾聴力」「会話力」を修得し、簡単な挨拶や日常会話を可能にする。更に「文章表現力」や「口頭発表力」を完璧にし、中国についての基本的な知識も身に付けて「異文化理解」と「外国語リテラシー」を深める。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
テキストの内容は、発音表記について説明された発音編、挨拶等の簡単な表現が収録された基本編、本文と文法の解説で構成された構文編に分かれている。構文編の授業方法では、まず文法規則について説明し、次に本文の発音と日本語訳について指導し、最後に練習問題について受講生に答えさせる。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、当日の授業で扱う予定の範囲に含まれる新出単語や例文の発音と意味を調べ、授業の内容を受け入れられる態勢を整えておくこと。事後学修 (2時間以上) は、授業で修得した事柄について再チェックし、問題点を解決しておくこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業への熱意や授業への取り組み姿勢 (30%)、テストの成績 (70%) により総合評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	発音編：声調、母音				
第3回	発音編：子音				
第4回	基本編：挨拶言葉、数字				
第5回	基本編：地名、漢詩				
第6回	第1課：人称代名詞、名前の尋ね方				
第7回	第1課の本文と練習				
第8回	第2課：指示代名詞、動詞述語文				
第9回	第2課の本文と練習				
第10回	第3課：形容詞述語文、反復疑問文				
第11回	第3課の本文と練習				
第12回	第4課：願望の助動詞、疑問詞疑問文				
第13回	第4課の本文と練習				
第14回	おさらい				
第15回	第5課：方位詞、助数詞				
第16回	第5課の本文と練習				
第17回	第6課：可能の助動詞、連動文				
第18回	第6課の本文と練習				
第19回	第7課：選択疑問文、使役文				
第20回	第7課の本文と練習				
第21回	おさらい				
第22回	第1課の復習				
第23回	第2課の復習				
第24回	第3課の復習				
第25回	第4課の復習				
第26回	第5課の復習				
第27回	第6課の復習				
第28回	第7課の復習				

第29回	総復習
第30回	まとめ
【教科書・参考書】	
教科書：『はじめまして中国語』椿正美・戚長纓著（駿河台出版社）2014年、参考書：『中国語わかる文法』興水優他著（大修館書店）2009年、『why? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他著（同学社）2016年。	
【学生へのメッセージ】	
語学力を上達させるためには、授業で修得した内容の積み重ねが大事なので、受講した後の復習は怠らないこと。多くの受講生にとっては、初めて学ぶ教科なので、基本的な部分は繰り返し勉強しておくように。	
【オフィスアワー】	
授業の前後に教室にて対応します。	
【実務経験】	
なし	

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目	語学科目

講義名	[D_11c1] [03] 英語 B
-----	--------------------

区分	後期 (30回)	単位	選択 (2)	形式	演習
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	1年	--	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	Jill Emma Strothman	ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman [jill(a)]
------	---------------------	---------------	-------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

着実に英単語や文法を学び、実力を付けることが狙いです。SDGs8の目標「働きがいも経済成長も」に繋がります。英語の資格を持てばよりグローバルな仕事が職場の選択肢に加わります。

【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】

本講義を受講することにより、学生は自信を持って英語を使えるようになります。英語 B で取り上げるのは、教科書のUnit7からUnit12まで。コンピテンシー：外国語リテラシー、文章表現力、口頭発表力、会話力、読解力

【授業方法 (フィードバックの内容)】

2週目から11週目まで、授業開始直後に前回内容を復習するためのミニテストをします。その後、新しい学修をします。

【授業外学修の方法 (時間数)】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明します。

【成績評価 (方法・基準)】

評価は授業に対する取り組みと学力確認テストとミニテストを基準に行います。目安として、授業に対する取り組みは(30%)、ミニテストは(50%)、学力確認テストは(20%)です。

【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	夏休みの話
第2回	Unit 7
第3回	Unit 7
第4回	Unit 7
第5回	Unit 7
第6回	Unit 8
第7回	Unit 8
第8回	Unit 8
第9回	Unit 8
第10回	Review test
第11回	Unit 9
第12回	Unit 9
第13回	Unit 9
第14回	Unit 9
第15回	Unit 10
第16回	Unit 10
第17回	Unit 10
第18回	Unit 10
第19回	Review test
第20回	Unit 11
第21回	Unit 11
第22回	Unit 11
第23回	Unit 11
第24回	Unit 12
第25回	Unit 12
第26回	Unit 12
第27回	Unit 12
第28回	Review test
第29回	Grammar and vocabulary review
第30回	まとめ及び振り返り

【教科書・参考書】
Speaking of People (Intro), Peter Vincent 他著、南雲堂、2023。参考書：『英和和英辞典』（授業中に紹介する）
【学生へのメッセージ】
15分以上の遅刻は欠席とみなされますので、そのつもりでください。本講義は2時限連続の授業ですので、1回の講義は2時限をもって行います。
【オフィスアワー】
月曜日 5時限
【実務経験】
なし

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				語学科目
講義名	[E_IIc1] [07] 韓国語 B				
区分	後期 (30回)	単位	選択 (2)	形式	演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	金 炳坤		キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
韓国語と日本語は文法的類似性が高い言語であるため、ハングルと発音に慣れさえすれば、他の外国語よりも修得しやすい言語です。週2回の連続授業を通して、韓国語能力試験 (TOPIK : 2級) の合格を目指します。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
(1)電話やお願い程度の日常生活に必要な言語 (ハングル) や、郵便局、銀行などの公共機関での会話ができる。(2)約1,500~2,000語程度の語彙を用いた文章を理解でき、使用できる。(3)公式的な状況か非公式的な状況かの言語 (ハングル) を区分し、使用できる。 コンピテンシー : 多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、外国語リテラシー、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
教科書に沿って進めていきます。ネイティブの教員と時間を共にすることで、リアル 코리아 (歴史や文化) が体験できるようにします。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、単語帳を作って教科書の語彙を憶えるようにしてください。事後学修 (2時間以上) は、ノートに教科書の文法を整理し活用できるようにしてください。また、中間テスト (成績評価の対象) に備えて、予習・復習に徹するようにしてください。なお、OER講義教材のseemileページ [https://www.youtube.com/user/seemile] の視聴も役に立つと思います。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業への取り組み姿勢 (30%)、中間テスト (40%)、学力確認テスト (30%) により総合評価します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	第1課 : 数字の復習				
第3回	第2課 : 語尾の復習				
第4回	第3課 : 助詞の復習				
第5回	第4課 : 遅くなって申し訳ありません。				
第6回	第5課 : ビビンバが食べたいです。				
第7回	第6課 : 最近、忙しいですか。				
第8回	第7課 : 復習 1				
第9回	中間テスト 1				
第10回	第8課 : どこで撮った写真ですか。				
第11回	第9課 : 詳しく説明させていただきます。				
第12回	第10課 : 韓国に来てどのくらい経っていますか。				
第13回	第11課 : 復習 2				
第14回	中間テスト 2				
第15回	第12課 : 美術館はここから近いですか。				
第16回	第13課 : 運転しながら電話しないでください。				
第17回	第14課 : 復習 3				
第18回	中間テスト 3				
第19回	第15課 : 雨がたくさん降るようです。				
第20回	第16課 : 風邪はもう治りましたか。				
第21回	第17課 : ここで写真を撮ってもいいですか。				
第22回	第18課 : 景福宮にはどのように行けばいいですか。				
第23回	第19課 : 週末にも学校にいかねばなりません。				
第24回	第20課 : お腹がいっぱいでもう食べられません。				
第25回	第21課 : 復習 4				
第26回	中間テスト 4				
第27回	第22課 : 十時まで来られますか。				

第28回	第23課：慶州に行ってみたことはありますか。
第29回	第24課：雪がたくさん降ったそうです。
第30回	まとめ
【教科書・参考書】	
教科書：『韓国語をはじめよう 書いて身につくテキスト 中級』李昌圭著（朝日出版社）2009年。参考書：『新・合格できる韓国語能力試験 TOPIK 』李志暎監修（アスク出版）2015年、『しくみで学ぶ中級朝鮮語 改訂版』内山政春著（白水社）2022年。	
【学生へのメッセージ】	
韓国語能力試験に受験していただきますので、そのつもりで履修するようにしてください。また、大韓民国金剛大学校への交換留学を希望する学生は、必ず受講するようにしてください。	
【オフィスアワー】	
今はできなくともやり方を変えればできるようになるかも知れません。変わりたいという気持ちがあれば、授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに相談に乗りますので、殻に閉じこもらないで、話を聴かせてください。	
【実務経験】	
なし	

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 教養科目				語学科目
講義名	[F_lla1] [11] 現代中国語 B				
区分	後期 (30回)	単位	選択 (2)	形式	演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	椿 正美		ツバキ マサミ	tsubaki masami [tubaki(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
中国語の発音や文法の基礎分については既に講義したので、現代中国語 B では、書く・話す・聞くの総合的な能力を実践面で応用できるよう授業を進めていく。現代中国語 A に続き、中国語検定試験や HSK (中国政府公認の中国語検定試験) 受験に対応できる知識を増やし、SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋げていく。キーワード：中国語、文法、会話					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
既に修得した基本的な能力について更に学修を進め、完璧な「文章表現力」や「口頭発表力」を身に付けさせて「外国語リテラシー」を上達させ、最終的には「地域理解」や「異文化理解」を深める。また、中国語検定試験や TECC (中国語コミュニケーション能力検定) 等の受験が可能となるレベルの指導も進める。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
まず各課の新出単語を発音練習し、続いて文法の規則について説明した後、本文を日本語訳し、練習問題にも取り組んでいく。基本的には、現代中国語 A と同じ方法で授業を進めていく。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、当日の授業で扱う予定の範囲に含まれる新出単語や例文の発音と意味を調べ、授業の内容を受け入れられる態勢を整えておくこと。事後学修 (2時間以上) は、授業で修得した事柄について再チェックし、問題点を解決しておくこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業への熱意や授業への取り組み姿勢 (30%)、テストの成績 (70%) により総合評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	現代中国語 A の復習				
第3回	第 8 課：主述述語文、時間帯の表現				
第4回	第 8 課の本文				
第5回	第 8 課の練習				
第6回	第 9 課：動量補語、時刻の表現				
第7回	第 9 課の本文				
第8回	第 9 課の練習				
第9回	第10課：様態補語、名詞述語文				
第10回	第10課の本文				
第11回	第10課の練習				
第12回	おさらい				
第13回	第11課：結果補語、二重目的語文				
第14回	第11課の本文				
第15回	第11課の練習				
第16回	第12課：方向補語、当然を示す助動詞				
第17回	第12課の本文				
第18回	第12課の練習				
第19回	第13課：程度の強調、比較の表現				
第20回	第13課の本文				
第21回	第13課の練習				
第22回	おさらい				
第23回	第 8 課の復習				
第24回	第 9 課の復習				
第25回	第10課の復習				
第26回	第11課の復習				
第27回	第12課の復習				
第28回	第13課の復習				

第29回	総復習
第30回	まとめ
【教科書・参考書】	
教科書：『はじめまして中国語』椿正美・戚長纓著（駿河台出版社）2014年。参考書：『中国語わかる文法』興水優他著（大修館書店）2009年、『why? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂他著（同学社）2016年。	
【学生へのメッセージ】	
授業は現代中国語Aより少し難しくなるが、真剣な気持ちで出席し、修得した事柄を必ず再確認し、難解な部分は積極的に質問するよう心掛けていれば、内容を完璧に把握することができる。安心した気持ちで取り組んで欲しい。	
【オフィスアワー】	
授業の前後に教室にて対応します。	
【実務経験】	
なし	

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[A_mmb1] [19] 総合仏教				
区分	通年（1回）		単位	必修（2）	
形式	演習・実践				
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「建学の精神」を具体的に理解し、体感するために設けられた授業である。そのために、毎年度行われる公開の学園講座の聴講や身延山久遠寺で執り行われる各種法要に参列しその意義をレポートし、それぞれを深く理解して、多様性の理解や地域に根差した文化活動の価値を理解して、個々の資質向上に供する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
身延山大学の建学の精神を学修し、その理解と受容を促すことを目的としている。そのため、学生諸君には、下記に示す法要参列や、学園講座を聴講して、その内容を把握していただき、身延山大学生として資質の向上と、社会に貢献する人材として何が必要なのかを知り、本学に入学した目的を再認識して、自己実現に向かう姿勢を養うことを目標とする。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、情報構成力、文章表現力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
単年度に行われる三大会と法難会への参列、学園講座と公開講演会の内容を聴講し、レポートを作成、建学の精神の意味するところが具体的にどのように活かされているのかを明記して、提出することが課せられる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
三大会などは、その意義を事前によく学修すること。学園講座や公開講演会は事後の振り返り学修に2時間以上、その後のレポート作成に2時間以上が必要である。					
【成績評価（方法・基準）】					
単年度に行われる計5回の学園講座と公開講演会、本山法要への出席を、4年間で12回以上の聴講を義務とする。その都度、レポートを提出する。その評価がレポート1回につき10%、12回提出のレポート点数の合計を12で除した数値、いわゆる平均点（80%）に理解度の深化点（20%）を加えて評価する。レポートは最低800字、学年が上がれば記す内容も高度化しなければならない。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	上記の評価の方法及び基準に従うこと。				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
生きた授業である。演者は必ずしも教員ではないので、細分もらさずに聴講すること。年度末に、その年度に何度（何回）出席したか各自で確認すること。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はメール（kimura(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[B_mmb1] [01] 日蓮学入門				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2)		形式 講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko [hkuwana(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人の教えを学んでいくにあたって、その目的・姿勢・方法について解説し、日蓮聖人の生涯に即しながら、教義の根幹となる五義や三大秘法などの基本的事項について概説します。日蓮聖人の立正安国の精神に則り、健全なる社会人として、広い視野に立った専門教育を施し、学術の理論及び応用を教授して、社会のために身を以て尽くすことの出来る人間の養成を目的とする本学の「建学の精神」を学び、各専攻の専門科目へと進展していくための基幹授業となります。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
日蓮聖人の教学を修得するために、学修にあたっての基礎を身につけ、根幹となる事項を体系的に理解し、自分の言葉で説明できるようにすることを授業の目標とします。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、読解力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
日蓮聖人の生涯と教えについてICTを積極的に活用し受講生の理解に資するよう授業を進めます。また、小テストを行い、受講生の理解度を確認しながら進めていきます。授業中に口頭でたくさん質問し、ディスカッションを行って各自の考えを積極的に発言してもらいます。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、シラバスに則して日蓮聖人の生涯、法華経、日蓮聖人の教学の内容などに目を通しておくこと。事後学修 (2時間以上) は、ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。					
【成績評価 (方法・基準)】					
小テスト (20%)、学力確認テスト (80%) で総合的に評価します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	講義ガイダンス：日蓮学とは何か、宗学とは何か				
第2回	日蓮聖人の教えを学ぶにあたって1：宗学の目的				
第3回	日蓮聖人の教えを学ぶにあたって2：学修の姿勢				
第4回	日蓮聖人の教えを学ぶにあたって3：学修の方法				
第5回	日蓮聖人の生涯 1				
第6回	日蓮聖人の生涯 2				
第7回	日蓮聖人の生涯 3				
第8回	法華経の思想 1				
第9回	法華経の思想 2				
第10回	五義 1				
第11回	五義 2				
第12回	信行 如説修行				
第13回	三大秘法				
第14回	願業 立正安国・常寂光土の実現				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：プリント等を配布します。参考書：『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編 (平楽寺書店) 1924年、『日蓮辞典』宮崎英修編 (東京堂出版) 1978年、『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部編 (日蓮宗新聞社) 1989年、『増補改訂 日蓮その行動と思想』高木豊 (太田出版) 2002年など。授業中に適宜参考書を紹介していきます。					
【学生へのメッセージ】					
授業内容を自分なりにまとめて、わかりやすいノートを作成すること。漢字の難しい言葉・専門用語が沢山出てきます。授業内で理解できない場合は、必ず図書館などで調べなおすことが必要です。自分の「腑に落ちる」まで調べましょう。					
【オフィスアワー】					
火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール (hkuwana(a)min.ac.jp) でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[C_mmb1] [03] 仏教通史				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2)		形式 講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	木村 中一	キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]	
	金 炳坤	キム ビョンコン		kim byungkon [kim(a)]	
	塩田 宝樹	シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>仏教通史 (General History of Buddhism) では、仏教の歴史や文化に対する興味や関心を深めるために、3人の担当教員がそれぞれの専門分野に立脚した地域ごとの仏教史についての講義を行います。その中において、仏教に関する教養的な知識にとどまらず、その歴史や文化に対する一般的な見方を考え直すきっかけとなるようにします。</p>					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
<p>受講者は仏教を軸としてアジア諸国の歴史や文化に対する基礎知識を身につけられるとともに、諸問題についての理解を深め、アジアの仏教伝播に関する「情報を収集・分析・告げ」することができる。具体的には「多様な学問の考え方を踏まえ、「異文化理解」を深め、仏教全般にわたる諸問題について「批判的」「論理的」思考をもって考察し、その課題について「実行」「改善」するもの見方を養うようにします。</p>					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
<p>3人の担当教員が地域ごとにそれぞれ5回の授業を行います。インド仏教 (第2～6回) は塩田宝樹先生、中国仏教 (第1、7～10回) は金炳坤先生、日本仏教 (第11～15回) は木村中一先生が担当します。</p>					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
<p>毎回各教員の指示により、2時間以上の事前・事後学修を行うこと。具体的な学修の方法については各地域仏教の初回に担当教員より説明があります。</p>					
【成績評価 (方法・基準)】					
<p>授業への取り組み姿勢 (40%、事前・事後学修の内容が可視化されていること。例えばノートテイク、授業中やオフィスアワーを利用した質問などを含む。どのように評価するかは各教員によって異なりますので、地域ごとの最初の授業の説明を聞き逃さないようにしてください)、リアクションペーパー (60%、毎回の授業後にGoogleフォームで提出する授業のまとめなど) により総合評価する。</p>					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	Introduction / 中国仏教 1 : 格義時代 (漢・三国・晋)				
第2回	インド仏教 1 : 釈尊～原始仏教				
第3回	インド仏教 2 : 教団の発展と分裂				
第4回	インド仏教 3 : 部派仏教の教理				
第5回	インド仏教 4 : 大乘仏教の成立				
第6回	インド仏教 5 : 大乘仏教の発展				
第7回	中国仏教 2 : 学派時代 (南北朝)				
第8回	中国仏教 3 : 折衷時代 (隋)				
第9回	中国仏教 4 : 宗派時代 (唐)				
第10回	中国仏教 5 : 祖述時代 (唐末已后)				
第11回	日本仏教 1 : 仏教伝来と崇仏論争				
第12回	日本仏教 2 : 貴族仏教と民衆信仰				
第13回	日本仏教 3 : 遣唐使と平安仏教				
第14回	日本仏教 4 : 末法思想と鎌倉仏教 1				
第15回	日本仏教 5 : 末法思想と鎌倉仏教 2				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：教育リソースを提供する。指定図書：『インド・中国・日本 仏教通史 [新版]』平川彰 (春秋社) 2006年。参考書：『インド仏教史 [新版]』平川彰 (春秋社) 2011年、『新中国仏教史』鎌田茂雄 (大東出版社) 2001年、『日本佛教史』田村圓澄 (法蔵館) 1982-1983年。辞書・事典類：『岩波仏教辞典 [第3版]』中村元ほか編 (岩波書店) 2023年、『仏教文化事典』金岡秀友・柳川啓一監修 (佼成出版社) 1989年、『仏教美術事典』中村元・久野健監修 (東京書籍) 2002年、『仏教・インド思想辞典 [新装版]』高崎直道編集代普 (春秋社) 2013年、『仏典解題事典 [第3版]』斎藤明ほか編 (春秋社) 2020年。</p>					

【学生へのメッセージ】

日蓮聖人の立正安国の精神に則り、健全なる社会人として、広い視野に立った専門教育を施し、学術の理論及び応用を教授して、社会のために身を以て尽くすことのできる人間の養成を目的とする。

【オフィスアワー】

木村中一：水曜日 2 時限目、質問はメール（kimura(a)min.ac.jp）でも可。

金 炳坤：授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。

塩田宝樹：授業の前後、出講曜日の休み時間に対応します。質問はメール（shiota(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

木村中一：なし

金炳坤：なし

塩田宝樹：なし

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[D_mmb2] [07]【高大連携】手話入門
-----	-------------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（1）	形式	演習
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	1年	--	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	望月 香代	モチヅキ カヨ	mochizuki kayo [kayomochi(a)]
------	-------	---------	-------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

手話とはどのような言葉なのかをまず知っていただきます。音を聞く（聴く）ことが当たり前の私達です。今まで学ぶ機会のない言語の手話を身に付けられるように進めていきます。まず単語を覚えられるよう繰り返します。次にそれを使い自己紹介ができるように実際に表現しながら進めていきます。それらにより「異文化理解」と「表現力」が身に付いていきます。覚えた手話を使い聴覚障害者に自己紹介をする演習の時間もあります。ここでは「会話力」が必要になります。そのための学びを積み重ねます。これらによりSDGs11「住み続けられるまちづくり」を考える時間となります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

聴覚障害者の言語である手話を覚え、手話で自己紹介ができるようになることは、今まで学ぶ機会がほとんどなかった言語を身に付け会話力の幅が広がり、コミュニケーション力の基礎が学べることになります。また聴覚障害者を理解することは異文化理解にもつながります。手話をおぼえることで人間力も備わります。

【授業方法（フィードバックの内容）】

初級のテキストを使い手話の語彙を覚えていきます。繰り返し手話単語を練習し、自己紹介ができるように学修します。また、聴覚障害者のことを知るために教材を使用したり、聴覚障害者からの話を見る（聴く）時間も含めていきます。授業中に前回の授業で覚えた単語が身についているか、実技確認を行います。また、授業内容に沿ったテーマから関連の言葉について確認をしていきます。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、第2回目以降の講義の最後に次回の講義の内容をテキストページで指定する。テキスト内容を確認すること。事後学修（2時間以上）は、授業中に覚えた単語を復習しておくこと。また出された内容について調べ整理すること。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（30%、講義中に手話での発表をしてもらう。最低2回×10%＝20%＋発表者に対し意見や感想など、積極的な授業参加を評価＝10%）、小テスト（20%、単語・文章の確認テスト）、レポート（20%、聴覚障害に関する内容について授業内で指示をする）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション（授業の進め方とテキストの紹介）聴覚障害者について・手話の必要性を学ぶつたえあってみましょう
第2回	あいさつの手話を覚えましょう（テキストp7）
第3回	自己紹介しましょう1 名前を表してみましょう（テキストpp.8-9）
第4回	自己紹介しましょう2 名前を表す手話と指文字を覚えましょう（テキストpp.10-15）
第5回	自己紹介しましょう3 家族について話しましょう（テキストp.18）
第6回	自己紹介しましょう4 家族を表す手話を覚えましょう（テキストpp.19-21）
第7回	実践（聴覚障害者と交流することでSDGs11の目標「住み続けられるまちづくり」について考えよう）
第8回	自己紹介しましょう5 趣味について話しましょう（テキストpp.26-27）
第9回	自己紹介しましょう6 趣味を表す手話を覚えましょう（テキストpp.28-29）
第10回	自己紹介しましょう7 仕事について話しましょう（テキストp.32）
第11回	自己紹介しましょう8 仕事を表す手話を覚えましょう（テキストpp.33-35）
第12回	実践（聴覚障害者と交流することでSDGs11の目標「住み続けられるまちづくり」について考えよう）
第13回	自己紹介しましょう9 住所の手話を表してみましょう（テキストpp.38-39）
第14回	自己紹介しましょう10 住所の手話を使って話しましょう（テキストpp.40-41）
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

テキスト：『手にことばを』（公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟）2020年。参考書：『手話を学ぼう 手話で話そう』（社会福祉法人全国手話研修センター）2014年、『今すぐはじめる手話テキスト：聴さんと学ぼう！』（一般社団法人全日本ろうあ連盟）2014年。

【学生へのメッセージ】

初めて出会う言語である手話に興味を持って授業に臨んでください。授業中に指示した内容を確認し復習しつつ受講することが授業の理解につながります。初歩的な学びです。

【オフィスアワー】

水曜日11:00-14:00と授業終了後。質問はメール（kayomochi(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

手話通訳士、山梨県登録手話通訳者、手話通訳養成講座運営委員、手話奉仕員・手話通訳者養成講師の経験を生かした授業を展開します。

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[E_mmb1] [11]【指定科目】社会福祉概論					
区分	前期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--		
担当教員	中野 宏子		ナカノ ヒロコ		nakano hiroko [hnakano(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
(1)社会福祉をめぐる思想・哲学・理論を理解する。(2)社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較により日本の社会福祉の特性を理解する。(3)社会問題と社会国「の関係の視点から、現代の社会に問題について理解する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
相談援助活動の背景について理解する。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学修する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前課題（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後課題（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。						
【成績評価（方法・基準）】						
学力確認テスト（50%）、レポート・リアクションペーパー（30%）、授業への取り組み姿勢（20%）などを総合的に評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	社会福祉の原理（社会福祉の歴史、思想・哲学、理論、社会福祉の原理と実践）					
第2回	社会福祉の原理（社会福祉学の国「と特徴）					
第3回	社会福祉の歴史（歴史観、政策史、実践史、発達史、時代区分）					
第4回	日本の社会福祉の歴史的展開（慈善事業、博愛事業、社会事業）					
第5回	日本の社会福祉の歴史的展開（社会福祉事業、社会福祉）					
第6回	欧米の社会福祉の歴史的展開（救貧法、慈善事業、博愛事業）					
第7回	欧米の社会福祉の歴史的展開（社会事業、社会保険、福祉国家、福祉社会国際的潮流）					
第8回	社会福祉の思想・哲学（社会福祉の思想・哲学の考え方、人間の尊厳）					
第9回	社会福祉の思想・哲学（社会正義、平和主義）					
第10回	社会福祉の理論（社会福祉の理論の基本的考え方、戦後社会福祉の展開と社会福祉理論）					
第11回	社会福祉の理論（社会福祉の理論、欧米の社会福祉の理論）					
第12回	社会福祉の論点（公私関係、効率性と公平性、普遍主義と選別主義、自立と依存）					
第13回	社会福祉の論点（自己選択、自己決定とパターナリズム）					
第14回	社会福祉の論点（参加とエンパワメント、ジェンダー、社会的承認）					
第15回	社会福祉の対象とニーズ（ニーズと需要の概念、ニーズの種類と次元、理論と課題）					
【教科書・参考書】						
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。そのほか、授業中に適宜プリントを配布する。						
【学生へのメッセージ】						
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。						
【オフィスアワー】						
水曜日、金曜日の10:30-12:00（大学事務室を通じて予約してください）						
【実務経験】						
山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉全般の業務、相談業務等に携わっていた経験を活かした授業にしたいと考えます。						

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[G_mmb1] [05] 日蓮聖人伝				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）		形式 講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人に関わる研究は「日蓮教学史」「日蓮教団史」の分野はもとより、昨今では「仏教学」や「日本史学」または「仏教思想史」や「日本仏教史」など、様々な分野から深められている。これらを踏まえ、聖人の生涯を正確に理解できる基礎的知識の獲得をねらいとする。また時にはICT機器を使用し、より理解が深まる授業を行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
「日蓮聖人の生涯」について、(1)聖人の書かれた遺文を読み解き、(2)最新の研究成果を基として聖人の「行動」と「思想」の両面を論理的に思考・探究し、(3)他者に聖人の生涯の「史実」と「伝承」を踏まえて伝えることができる知識を獲得することを目的とする。 コンピテンシー：読解力、会話力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
日蓮聖人伝の基礎資料は、聖人が書き遺された「遺文」になる。担当教員の長きにわたる研究成果を基とした新知見により、日蓮聖人の生涯に関する内容を再構築し、項目ごとに並べた当該「遺文」を紹介しながら、基本的には講義形式で受講者の理解度を深めていく。加えて種々の日蓮聖人伝関連書籍を適宜提示しながら、宗学に対する基本的素養を高めていく。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、授業ごとに該当する御遺文の予習を行うこと。事後学修（2時間以上）は、授業中に提示した遺文及び関連書籍を基として、またYouTube上で身延山大学が提供している「身延山史講座」を視聴して「まとめノート」の作成を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート（30%）、学力確認テスト（70%）により総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	誕生・清澄登山と出家				
第3回	諸宗遊学・立教開宗				
第4回	清澄退出・鎌倉弘通				
第5回	『立正安国論』上呈・松葉谷法難				
第6回	伊豆流罪				
第7回	小松原法難				
第8回	鎌倉での布教・蒙古の国書				
第9回	良観房忍性との対決・龍口法難				
第10回	佐渡流罪～『開目抄』執筆				
第11回	『観心本尊抄』執筆～佐渡赦免				
第12回	平頼綱との対談～身延入山				
第13回	身延での生活・檀越の苦悩				
第14回	身延離山～入滅				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：適宜、配布する。参考書：『日蓮とその弟子』宮崎英修著（毎日新聞社）1971年、『日蓮とその門弟；再版』高木豊著（弘文堂新社）1968年、『日蓮：その行動と思想；増補改訂』高木豊著（太田出版）2002年、『日蓮』中尾堯著（吉川弘文館）2001年、『日蓮と鎌倉文化』川添昭二著（平樂寺書店）2002年、『法華の行者日蓮』佐々木馨編（吉川弘文館）2004年、『ことのは 日蓮の手紙』木村中一著（平凡社）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
授業中に指示した関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。そのため受講にあたり、予め指示した参考書は、必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。					
【オフィスアワー】					
火曜日 4 時限目、水曜日 2 時限目、質問はメール（kimura(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[H_mmb2] [09]【高大連携】手話基礎				
区分	後期（15回）	単位	選択（1）	形式	演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	望月 香代		モチヅキ カヨ		mochizuki kayo [kayomochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
前期に学んだ言語としての手話とはどのようなものだったのか。改めて確認をし、手話言語の修得、活用を通して聴覚障害者を深く知ることを学ぶ授業とします。それにより「異文化理解」「表現力」をさらに深めます。聴覚障害当事者と会話をする時間を通し「会話力」のアップにつなげます。受講することで「SDGs11「住み続けられるまちづくり」を更に考える時間となります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
手話の語彙を覚えたことで、聴覚障害者に自己紹介ができたことを元に、さらにコミュニケーションを取るにはどのようにしたらよいか異文化理解を通してさらに人間力を身に付けられるようになります。同じ社会に暮らしている聴覚障害者はどのような人達なのかを、自ら考えるようになります。また会話力が深まるよう手話で話せる内容はより実践的なものになります。コミュニケーション力が広がることに繋がります。それによりSDGs11の「住み続けられるまちづくり」を考える学びができます。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストをもとに、手話の語彙と手話の基礎を身につけ、学生同士が確認しながら覚えられるように学修します。また聴覚障害者に自分のことを手話で語れるように繰り返し演習をしていきます。聴覚障害者から生活面の話をしてもらおう時間を作ります。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、第2回目以降の講義の最後に次回の講義の内容をテキストページで指定する。テキスト内容を確認すること。事後学修（2時間以上）は、授業中に覚えた単語を復習しておくこと。また出された内容について調べ整理すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（30%、講義中に手話での発表をしてもらう。最低2回×10%=20%+発表者に対し意見や感想など、積極的な授業参加を評価=10%）、小テスト（20%、単語の確認テスト）、レポート（20%、聴覚障害に関する内容について授業内で指示をする）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション（授業の進め方とテキストの紹介）自己紹介のまとめ				
第2回	手話の形・基礎1（テキストpp.46-47）				
第3回	「たずねることば」を覚えましょう（テキストpp.48-49）				
第4回	手話の形・基礎2（テキストp.50）				
第5回	時間にかかわることばを覚えましょう（テキストpp.52-53）				
第6回	小テストとまとめ				
第7回	実践（聴覚障害者と交流することでSDGs11の目標「住み続けられるまちづくり」について考えよう）				
第8回	手話の形・基礎3（テキストpp.54-55）				
第9回	一週間のことばを覚えましょう（テキストpp.56-57）				
第10回	手話の形・基礎4（テキストpp.59-60）				
第11回	食べ物を表す手話を覚えましょう（テキストpp.66-67）				
第12回	手話の形・基礎5（テキストp.69）				
第13回	いろいろな企画を考えよう				
第14回	SDGs11の目標「住み続けられるまちづくり」に沿って手話で考え表現しよう				
第15回	実技テストとまとめ				
【教科書・参考書】					
テキスト：『手にことばを』（公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟）2020年。参考書：『手話を学ぼう 手話で話そう』（社会福祉法人全国手話研修センター）2014年、『今すぐはじめる手話テキスト：聴さんと学ぼう!』（一般社団法人全日本ろうあ連盟）2014年。					
【学生へのメッセージ】					
言語としての手話を学び、今後の自分にどう結び付けるかを考えながら、受講してください。授業中に指示されたこと、覚えた単語を復習する積み重ねが大切です。最終的には、聴覚障害者を知り、テーマに沿った内容を聴覚障害者に伝えるように手話でコミュニケーションすることを目指して学んで下さい。					
【オフィスアワー】					
水曜日11:00-14:00と授業終了後。質問はメール（kayomochi(a)min.ac.jp）でも可。					

【実務経験】

手話通訳士、山梨県登録手話通訳者、手話通訳養成講座運営委員、手話奉仕員・手話通訳者養成講師の経験を生かした授業を展開します。

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[l_mmb1] [13]【指定科目】社会福祉概論					
区分	後期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--		
担当教員	中野 宏子			ナカノ ヒロコ		nakano hiroko [hnakano(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
福祉政策の構成要素について理解する。福祉政策と関連政策の関係について理解する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
相談援助活動と福祉政策の関係について理解する。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
社会福祉と歴史的展開をふまえて理解できるように制度論にもふれながら、基礎的知識を学修する。個人ワーク、アクティブラーニングを取り入れた授業を行う。授業終了後、リアクションペーパーを提出し、授業内容について自らの考察を深める。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前課題（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後課題（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。						
【成績評価（方法・基準）】						
学力確認テスト（50%）、レポート・リアクションペーパー（30%）、授業への取り組み姿勢（20%）を総合的に評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	社会問題と社会国「（貧困、孤立、失業、要援護性、偏見と差別、社会的排除）					
第2回	社会問題と社会国「（ヴァルネラビリティ、ニューリスク、依存症、自殺）					
第3回	社会問題の国「的背景（低成長経済、グローバル化、少子高齢化、人口減少社会、格差、社会意識、価値観の変化）					
第4回	現代の社会福祉政策の概念・理念（現代の社会問題と福祉政策）					
第5回	現代の社会福祉政策の概念・理念（社会保障、社会政策、福祉レジーム）					
第6回	福祉政策におけるニーズと資源（種類と内容、把握方法、開発方法）					
第7回	福祉政策の構成要素（福祉政策の構成要素とその役割・機能・政府・市場）					
第8回	福祉政策の構成要素（措置制度・多元化する福祉サービス提供方式）					
第9回	福祉政策の過程（政策決定、実施、評価・福祉政策の方法・手段・政策評価・行政評価）					
第10回	福祉政策の過程（福祉政策と福祉計画）					
第11回	福祉政策の動向と包括的支援（社会福祉法・地域包括システム）					
第12回	福祉政策の動向と包括的支援（地域共生社会・多文化共生・持続可能性）					
第13回	福祉政策と関連施策（保健医療、教育、住宅、労働、経済政策）					
第14回	福祉サービスの供給と利用課程（福祉供給部門・福祉供給過程・福祉利用課程）					
第15回	福祉政策の国際比較					
【教科書・参考書】						
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。そのほか、授業中に適宜プリントを配布する。						
【学生へのメッセージ】						
社会福祉の中でもっとも基本となる科目。制度体系から臨床にいたる内容をしっかり学ぶことが大切になる。人々の生活や地域・社会について興味関心・問題意識を持っている学生の積極的参加を期待する。						
【オフィスアワー】						
水曜日、金曜日の10:30-12:00（大学事務室を通じて予約してください）						
【実務経験】						
山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉全般の業務、相談業務等に携わっていた経験を活かした授業にしたいと考えます。						

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[J_mmb3] [17] デス・エデュケーション《遠隔授業》				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	村瀬 正光		ムラセ マサミツ		murase masamitsu [murase(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
現代における生老病死の諸問題を解説し、様々な視点から「いのち」について考える力を養うことを目的とする。生殖医療・再生医療、終末期医療など生老病死の諸問題に関して概要を解説し、具体的な事例を一緒に議論する。医療現場における宗教・宗教家の意義を、実際の活動などを通して解説する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
生老病死の諸問題を、自分の言葉で説明できるようになること。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、情報分析力、傾聴力、文章表現力、論理的思考力、課題設定力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業前半は、スライド等を使用し授業を進める。授業後半は、受講生と一緒に議論し、理解を深める。 この授業はハイフレックス形式の遠隔授業となります。対面授業に切り替わる際は、予め担当教員より受講生へメールにて連絡します					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（50%）と、講義毎の予習と復習のレポート提出（50%）とにより評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション（授業の進め方、自己紹介など） 対面授業				
第2回	宗教とは（岸本英夫著『宗教学』を中心に） 対面授業				
第3回	倫理学（自由主義の原則） 同時双方向形式				
第4回	生殖医療の現状1 同時双方向形式				
第5回	生殖医療の現状2 同時双方向形式				
第6回	終末期医療の現状1 同時双方向形式				
第7回	終末期医療の現状2 同時双方向形式				
第8回	臨死体験のワーク 同時双方向形式				
第9回	日蓮聖人の終末期 同時双方向形式				
第10回	精神疾患について（自死、自殺） 同時双方向形式				
第11回	グリーフワーク 対面授業				
第12回	傾聴 対面授業				
第13回	終活、事前指示 対面授業				
第14回	医療現場における宗教者 同時双方向形式				
第15回	ピハラーについて（長岡西病院ピハラー病棟） 同時双方向形式				
【教科書・参考書】					
授業中に適宜、資料を配布する。参考書：『宗教学』岸本英夫著（原書房）、『生物と無生物のあいだ』福岡伸一著（講談社現代新書）、『死ぬ瞬間』キューブラー・ロス著（中公文庫）、『死とどう向き合うか』アルフォンス・デーケン著（NHK出版）、『定本 ホスピス・緩和ケア』柏木哲夫著（青海社）、『病院で死ぬということ』山崎章郎著（文春文庫）。					
【学生へのメッセージ】					
積極的に授業に参加することを望む。					
【オフィスアワー】					
随時、メール（murase(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[K_mmb2] [25] 発達心理学					
区分	後期 (15回)		単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--		
担当教員	一瀬 英史		イチノセ ヒデシ		ichinose hideshow [hichinose(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
対人援助では、他者を理解する枠組みや理論などの根拠が求められます。その一つの視点として、人の受精から老年期までの発達の過程について考え、発達の基礎理解から対人援助につなげることを目指します。						
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】						
生涯発達を受胎から死に至るまでと位置づけ、生涯にわたって発達し続ける人間について考え、理解を深めていきます。人は生涯どのように発達し、そのプロセスにおいて心理学的構造や機能の獲得、保持、変容、そして衰退がどのように起こるのか理解し、対人援助の方法を検討できることを目指します。特に「健康力」「情報収集力」「改善力」の修得を重視します。						
【授業方法 (フィードバックの内容)】						
基本的には指定した教科書に載っている重要な事項について解説し、その内容について受講生が理解し、考えることができる授業を行います。講義後、必要に応じてグループワーク、ディスカッションを取り入れる予定です。また、教科書に載っていないような日常の出来事や事例、映像資料等を紹介し、用語を身近なものとして理解できるように授業を進めます。						
【授業外学修の方法 (時間数)】						
事前学修 (2時間以上) は、教科書を読み、基本的な用語の理解に努めること。事後学修 (2時間以上) は、学んだ内容についてプリントやノートにまとめ、課された課題を行ってこること。						
【成績評価 (方法・基準)】						
授業内容確認テスト (50%)、授業への取り組み (30%)、課題への取り組み (20%) により総合的に評価する。						
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】						
第1回	オリエンテーション：発達するとはどういうことか・生涯発達の考え方					
第2回	生命の芽生えから誕生まで					
第3回	赤ちゃんがとらえる世界					
第4回	乳児のコミュニケーションと人間関係の発達					
第5回	愛着					
第6回	ことばの発達					
第7回	あそびと発達					
第8回	まとめと確認					
第9回	自己の発達					
第10回	心の理論と仲間					
第11回	思考の発達					
第12回	青年期の発達					
第13回	人生後半の課題					
第14回	発達上の諸問題					
第15回	プレゼンテーション：生涯発達のなかで自己を捉える					
【教科書・参考書】						
教科書：『問いからはじめる発達心理学：生涯にわたる育ちの科学』坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著 (有斐閣ストゥディア) 2014年、参考書：黒川伊保子の著書 (講義内で案内する)						
【学生へのメッセージ】						
発達心理学は生まれてから死に至るまでの人間の生涯発達を学ぶ学問です。他者理解のみならず、自己理解にも役立つ実践的な科目です。将来、大学時代に学んでおいてよかったと思えるように学修して欲しいと思っています。						
【オフィスアワー】						
講義前後の時間帯						
【実務経験】						
公認心理師、臨床心理士、臨床動作士、山梨県総合教育センター等臨床経験17年、現Eustress (ユーストレス) 株式会社代表						

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[L_mmb2] [21] 法華経概論					
区分	前期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--		
担当教員	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ		otani gyoko [ohtani(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
法華経の概要について学修します。成立、原典、漢訳本、構成、思想内容、仏教における位置づけなど、法華経の基本的事項について概説します。 キーワード：法華経、迹門、本門、開会、菩薩。法華経の学修を通して仏教者としての総合的・多角的知識を身につけます。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
法華経の概要を総合的に理解することにより、法華経の教えを通して大乘仏教の基本的思想や日本仏教の特色および日蓮聖人の法華仏教の内容を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発する力を養うことを目標とします。 コンピテンシー：情報分析力、読解力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
講義を通して、法華経の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発言（プレゼンテーション）し、全員で意見交換（ディスカッション）をおこないます。オープンな教育リソースを活用して理解を深め学修の成果を発信します。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。						
【成績評価（方法・基準）】						
学力確認テスト（80％）、課題発表（授業中に課題に関する学修成果を発表）・意見交換（発表者に対する質問や意見）などの授業への取り組み姿勢（20％）を基準として総合的に評価します。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	法華経の成立 オープンな教育リソースを活用して法華経成立の状況を理解しその内容を発信する					
第2回	法華経の原典・漢訳本					
第3回	法華経の構成					
第4回	法華経説法の場所					
第5回	法華経説法の開始					
第6回	日本仏教における法華経の位置づけ1					
第7回	日本仏教における法華経の位置づけ2					
第8回	法華経迹門の思想					
第9回	法華経本門の思想					
第10回	法華経の開会思想					
第11回	法華経の題号喩					
第12回	法華経中の譬喩					
第13回	法華経の菩薩思想					
第14回	法華経の娑婆即寂光思想					
第15回	法華経学修のまとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：『誰でもわかる法華経』庵谷行亨（大法輪閣）2000年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『日蓮聖人教学の基礎』二 庵谷行亨（山喜房佛書林）1989年、『法華経・仏典講座 7』田村芳朗・藤井教公（大蔵出版）1992年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。						
【学生へのメッセージ】						
講義内容の関係から後期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。						
【オフィスアワー】						
授業の前後に教室にて対応します。						
【実務経験】						
宗教法人宗長寺代表役員26年。社会における宗教の役割を視点に授業します。						

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[M_mmb2] [27] 仏教文化史
-----	---------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	白景皓	ハク ケイコウ	bai jinghao [bai(a)]
------	-----	---------	----------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

インドの仏教文化を時代ごとに学修する。その後、スリランカや東南アジアで発展した仏教美術を概観する。また、シルクロードと中国の仏教芸術と訳経、日本の寺院建築と美術などにも焦点を当て詳述する。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

仏教発祥の地であるインドから伝播した各地域で、それぞれの地域文化と融合しながら、独特の発展を遂げた仏教文化を歴史変遷を辿りながら概観し、仏教文化の史的知識を形成することを目的とする。本講義による到達目標は、各国に伝播した仏教の影響を受けた文化の変遷を理解し、その特徴を把握できることである。コンピテンシー：多様な学問の考え方、異文化理解、外国語リテラシー、情報の収集・分析・構合力、文章と口頭による自分の考えの表現力

【授業方法（フィードバックの内容）】

プロジェクターや、テキストを用い、授業を行う。受講生は、積極的に情報を収集して、資料作成に励んでもらいたい。講義に臨む時には、あらかじめ指定された歴史や地域の特徴を調べておくこと。講義後には、地域、年代の特徴とそこに形成された仏教文化の特徴を理解するように努めること。受講生による調べ学習の発表も2回予定している。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、第2回目以降の講義の最後に次回講義の内容を資料ページで指定する。また、必要に応じて資料や事例をファイルキャビネット（初回に説明）から各自ダウンロードして参照すること。事後学修（2時間以上）は、講義中のノート整理や、難語理解のための調べ学修などを必要とする。発表形式の事前学修は、6時間程度を必要とする。

【成績評価（方法・基準）】

小テスト（50%）、授業への取り組みの姿勢（20%、毎回のリアクション・ペーパーへの記入等）および期末レポート（30%）により、総合的に評価を行います。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	授業の概要、進め方、評価方法の説明
第2回	仏教文化史の研究方法
第3回	仏教文化の地域区分と年代区分総論
第4回	インド：仏教文学の発祥
第5回	インド仏教美術の発生：無仏時代からガンダーラ様式とマトゥラー様式へ
第6回	インド仏教美術の発展：グプタ様式とポストグプタ期からサールナート派へ
第7回	シルクロードと仏教文化の伝播
第8回	中国の仏教芸術：六朝時代と石窟寺院
第9回	中国の仏教芸術：隋・唐代
第10回	中国の仏教芸術：宋代以降
第11回	朝鮮半島の仏教美術、日本：黎明期の仏教美術・飛鳥から奈良へ
第12回	日本：平安から鎌倉以降へ（身延山久遠寺の現地研修を含む）
第13回	南アジア：スリランカの仏教美術
第14回	東南アジア：ジャワ・スマトラ・クメールの仏教美術
第15回	東南アジア：ミャンマー・タイ・ベトナム・ラオスの仏教美術

【教科書・参考書】

テキスト：特に指定しない。辞典：金岡秀友・柳川啓一共編『仏教文化事典』（佼成出版社）他、その国や時代により、適宜授業中に紹介する。必要資料はファイルキャビネットにアップしておくので、各自でダウンロードして、事前に学修に用いること。

【学生へのメッセージ】

文学・芸術専攻（旧仏教芸術専攻）の学生は、必修科目（令和2年度以前入学者）、専門基礎科目（令和3年度以降入学者）であるため、2年次で受講することが望ましい。

【オフィスアワー】

授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。

【実務経験】

なし

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[N_mmb2] [23] 法華経概論					
区分	後期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--		
担当教員	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ		otani gyoko [ohtani(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
法華経各品の概要について学修します。とくに方便品第二・如来寿量品第十六・如来神力品第二十一などの主要品をはじめ虚空会の思想や起顕竟の法門など法華経各品の基本的事項について概説します。 キーワード：方便品、如来寿量品、如来神力品。法華経の学修を通して仏教者としての総合的・多角的知識を身につけます。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
法華経各品の概要を総合的に理解することにより、法華経全体の思想内容を印度・中国・日本の三国仏教を踏まえて把握し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。 コンピテンシー：情報分析力、読解力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
講義を通して、法華経各品の思想をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表（プレゼンテーション）し、全員で意見交換（ディスカッション）をおこないます。オープンな教育リソースを活用して理解を深め学修の成果を発信します。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。						
【成績評価（方法・基準）】						
学力確認テスト（80％）、課題発表・授業中に課題に関する学修成果を評価し、意見交換（発表者に対する質問や意見）などの授業への取り組み姿勢（20％）を基準として総合的に評価します。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	序品第一・方便品第二 オープンな教育リソースを活用して法華経説法の状況を理解しその内容を発信する					
第2回	譬喩品第三・信解品第四					
第3回	薬草喩品第五・授記品第六					
第4回	化城喩品第七・五百弟子受記品第八					
第5回	授学無学人記品第九・法師品第十					
第6回	見宝塔品第十一・提婆達多品第十二					
第7回	勧持品第十三・安樂行品第十四					
第8回	従地涌出品第十五・如来寿量品第十六					
第9回	分別功德品第十七・随喜功德品第十八					
第10回	法師功德品第十九・常不軽菩薩品第二十					
第11回	如来神力品第二十一・囑累品第二十二					
第12回	薬王菩薩本事品第二十三・妙音菩薩品第二十四					
第13回	観世音菩薩普門品第二十五・陀羅尼品第二十六					
第14回	妙莊嚴王本事品第二十七・普賢菩薩勸発品第二十八					
第15回	法華経全体のまとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：『日蓮聖人教学の基礎 二』庵谷行亨（山喜房佛書林）1989年。参考書：『真訓両読妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『法華経・仏典講座 7』田村芳朗・藤井教公（大蔵出版）1992年、『誰でもわかる法華経』庵谷行亨（大法輪閣）2000年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。						
【学生へのメッセージ】						
講義内容の関係から前期の「法華経概論」と併せて受講することを望みます。						
【オフィスアワー】						
授業の前後に教室にて対応します。						
【実務経験】						
宗教法人宗長寺代表役員26年。社会における宗教の役割を視点に授業します。						

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[O_mmb2] [29] 日本文化史				
区分	前期 (15回)		単位	選択 (2)	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	白景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「日本文化」は「仏教」を始め様々な「外来文化」を受容する一方、それを独自に改変・展開することで多彩な広がりを見せています。本講義では文学・美術などの「芸術」や「年中行事」などの風習・慣習などを糸口とし、古代から近現代に至るまでの日本文化について、おもに仏教の関わりから概観してゆきます。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
日本文化について学ぶことで「地域理解」を深める。多岐にわたる種類の文献を読み込むことで「読解力」を養い「多様な学問の考え方」「批判的思考力」を修得する。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
教員作成のレジュメを始めとした配布資料を中心に講義を進めます。また毎回リアクション・ペーパーを配布し、授業の最後に時間を設けて質問・意見等を記入してもらい、翌週の授業の冒頭でフィードバック (回答や補足説明など) を行います。テーマについてのディベートの機会も適宜設けます。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、事前配布資料を読んでおくこと。事後学修 (2時間以上) は、学修した内容を自分なりに整理しておくこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業への取り組みの姿勢 (50%、毎回のリアクション・ペーパーへの記入等) およびレポート (50%) により、総合的に評価を行います。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス (シラバス確認)				
第2回	聖徳太子と日本				
第3回	仏教文学 1 : 古典				
第4回	仏教美術				
第5回	神仏習合の文化 1				
第6回	神仏習合の文化 2				
第7回	唱える仏教 1				
第8回	唱える仏教 2				
第9回	「神仏習合」と「唱える仏教」				
第10回	日本人の死生観 1				
第11回	日本人の死生観 2				
第12回	食文化と仏教				
第13回	仏教文学 2 : 近代				
第14回	日本文化創出の試み				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：『日本宗教史』末木文美士 (岩波新書) 2006年、『事典 日本の仏教』蓑輪顕量編 (吉川弘文館) 2014年、『日本仏教史』蓑輪顕量 (春秋社) 2015年。					
【学生へのメッセージ】					
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、リアクション・ペーパーの記入に注力すること。					
【オフィスアワー】					
授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[P_mmb1] [31] 介護福祉学					
区分	後期 (15回)		単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--		
担当教員	佐々木 さち子		ササキ サチコ		sasaki sachiko [sasaki(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
介護福祉学は介護福祉・社会福祉士分野に共通する生活支援をするために必要な教養と知識を身につける。						
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】						
介護福祉学は高齢者や障害を持った人たちの命を守り、生きる力を強め、生活の質を高めるための「健康力」をみだし、その人らしく生活をする「地域理解」を深め、その方の生き方を知るためのコミュニケーション技術を学ぶことで「会話力」が身につく。						
【授業方法 (フィードバックの内容)】						
介護や福祉の社会問題を取り上げ (課題にだす) ディスカッションやグループワークを行っていく。						
【授業外学修の方法 (時間数)】						
事前学修 (2時間以上) は、課題を提示して調べてくる。事後学修 (2時間以上) は、課題の発表とグループワークをまとめる。						
【成績評価 (方法・基準)】						
課題提出 (20%、2回×10%)、課題発表 (20%、2回×10%)、授業への取り組み姿勢 (10%)、学力確認テスト (50%) により総合的に評価する。						
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】						
第1回	介護福祉学とは					
第2回	介護の現状					
第3回	介護福祉士の倫理					
第4回	介護する背景					
第5回	介護におけるコミュニケーションの基本					
第6回	在宅における介護福祉サービス					
第7回	施設における介護福祉サービス					
第8回	介護福祉に関わる多職種連携 1					
第9回	介護福祉に関わる多職種連携 2					
第10回	自立支援とリハビリテーション 1					
第11回	自立支援とリハビリテーション 2					
第12回	高齢者に見られる主な疾患					
第13回	介護福祉における安全確保とリスクマネジメント					
第14回	介護福祉従事者の心身の健康管理					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：最新『介護の基本 』介護福祉士養成講座編集委員会編集 (中央法規)。参考書：「介護の基本」最新介護福祉士全書 (メジカルフレンド社)、最新『発達と老化の理解』介護福祉士養成講座編集委員会編 (中央法規)。						
【学生へのメッセージ】						
介護福祉学の概論を理解し全体像を把握すること。介護・福祉の社会問題として何が起きているか注視してほしい。						
【オフィスアワー】						
出校日は火曜日。授業以外は406研究室 (4階) にいる。						
【実務経験】						
JR東京総合病院他約20年以上の看護師経験を活かし、医療的ケアや介護福祉士に必要な医療的知識を伝える授業を行う。						

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目	専門基礎科目

講義名	[Q_mmb1] [21] 生涯学習概論
-----	----------------------

区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	望月 厚志	モチヅキ アツシ	mochizuki atsushi [amochi(a)]
------	-------	----------	-------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

「生涯学習及び社会教育の本質について理解を図る」ことを目的とした授業です。授業目標として、生涯学習全般について理解を深め、生涯学習・社会教育の専門的な支援職員の社会教育主事（社会教育士）や博物館学芸員等として活躍するのに必要な考え方や知識、能力の基礎を培うものです。この科目の内容は、生涯学習の理念と施策、社会教育の意義と展開、社会教育に関する法令、社会教育主事・社会教育指導者の役割、生涯学習社会と学校・家庭・地域を基本としていますが、「生涯学習概論」は、「生涯学習」についての基本・理論を学びます。「生涯学習」に関する諸理論、生涯学習の歴史、日本の生涯学習政策、生涯学習と高齢者の問題、生涯学習とボランティアなどについて解説します。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)「生涯学習」の意味や意義を考え、理解できたか。(2)「生涯学習の理論、生涯学習政策と教育実践、成人学習（教育）の理論、具体的な展開事例等」について理解できたか。(3)「学習社会」についての理解を深め、それをもとに今後の自分自身の「生涯学習」について意識化が図れたか。(4)生涯学習社会における博物館と学芸員の役割など専門職について理解できたか。

【授業方法（フィードバックの内容）】

各回の学修テーマについて、パソコン・ビデオ・DVD・書写カメラを使用して授業を行います。基本的には「パワー・ポイント」によって資料の提示を行います。また、必要に応じてプリント資料を配布し、それを参考・参照にして授業を進めます。さらに、必要に応じて関連する映像資料（DVD）も提示して学修内容の理解を深めます。講義中に見る映像資料に関する学修課題及び小課題レポートが課せられるので注意してください。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うことを望みます。テキストの該当箇所や配布プリント資料をよく読んで内容の理解を深めてください。

【成績評価（方法・基準）】

成績評価の方法：各講義中での学修課題及び各講義後で出される課題小レポート（40%）、最終課題レポート（60%）に基づき総合的に成績評価・判断をする。成績評価の基準：「到達目標」を基準とする。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	生涯学習の理念1：世界の学び（印刷資料・VTR資料使用）1．生涯学習とは何か、本講義のガイダンスと授業計画（シラバス使用）、世界の学び（印刷資料・VTR資料使用）
第2回	同上2：生涯学習論の登場とその社会的背景（印刷資料使用） 生涯学習論の登場、ポール・ラングランの「ワーキング・ペーパー」、ポール・ラングランの『生涯教育入門』
第3回	同上3：生涯学習論の源流と国際的展開 1）ヨーロッパでの動向（印刷資料・VTR資料使用） 生涯学習論の源流：ヨーロッパでの動向
第4回	同上4：生涯学習論の源流と国際的展開 2）日本での動向（印刷資料使用） 生涯学習論の源流：日本での動向
第5回	同上5：生涯学習論の国際的展開：ユネスコでの動向（印刷資料・VTR資料使用） エットレ・ジェルビの生涯教育論
第6回	生涯学習論の展開と日本の現実問題・実践：生涯学習と高齢者（印刷資料・VTR資料使用） エリクソンの理論、コンヴォイの構造、高齢者の「発達課題」
第7回	日本の生涯学習政策1：1970年代の展開（印刷資料・VTR資料使用） 1971年社会教育審議会答申、大学紛争
第8回	同上2：1980年代の展開（印刷資料・VTR資料使用） 1981年中央教育審議会答吹A社会人入学制度、臨時教育審議会
第9回	同上3：1990年代から現代までの展開（印刷資料使用） 生涯学習振興法、生涯学習審議会答申
第10回	学習社会論 R.ハッチンスの「学習社会論」からユネスコの「未来の学習」（印刷資料使用） ロバート・ハッチンス『学習社会論』、フォール報告書、フロム『生きるということ』
第11回	生涯学習の現状と課題：生涯学習とボランティア（施設ボランティア）（印刷資料・VTR資料使用） ボランティア論、生涯学習とボランティアとの関係
第12回	生涯学習の現代的な課題1：生涯学習と成人教育の理論（印刷資料・VTR資料使用） マルカム・ノールズの「成人学習理論」、クラントンの「意識変容の学習理論」
第13回	同上2：生涯学習社会における博物館、学芸員の役割再考（印刷資料・VTR資料使用） 博物館と学芸員と生涯学習
第14回	同上3：生涯学習社会とキャリア教育（印刷資料・VTR資料使用） キャリア教育、生涯学習とキャリア教育
第15回	今後の「生涯学習」を考える：講義全体のまとめと今後の学習課題の提示 講義全体のまとめと今後の学習課題の提示、最終レポート作成

【教科書・参考書】

テキスト：『生涯学習支援の基礎理論と実践の展開』望月厚志ほか（青簡舎）2020年、参考書：『生涯教育入門』ポール・ラングラン著／波多野完治訳（全日本社会教育連合会）1973年、『パンパイデア』J.A.コメニウス著／太田光一訳（東信堂）2015年、『生涯教育政策』OECD編・森 隆夫訳（ぎょうせい）1974年、『成人教育の現代的実践』マルカム・ノールズ著／堀 薫夫・三輪健二監訳（鳳書房）2002年、『成人教育・生涯学習ハンドブック』ピーター・ジャービス著／渡邊洋子・犬塚典子監訳（明石書店）2020年、『フランス革命期の公教育論』コンドルセ他著／坂上 孝編訳（岩波文庫）2002年、『老年期』E.H.エリクソン著／朝長正徳・朝長梨枝子訳（みすず書房）2002年、『現代生涯学習全集全12巻』岡本包治編著（ぎょうせい）1993年、『生涯学習事典』日本生涯教育学会編（東京書籍）1992年、『生涯学習e事典』日本生涯教育学会編、2005年～。その他、授業時に適宜紹介します。

【学生へのメッセージ】

旧仏教芸術専攻（令和4年度以前入学者）の学生は必修科目です。積極的な授業参加を希望いたします。

【オフィスアワー】

ご質問や補充説明など、毎週の授業の前後に授業実施教室にて受け付けます。

【実務経験】

社会教育委員10年、公民館運営審議会委員4年、文部科学省学芸員資格認定委員会委員（生涯学習概論担当）4年の経験を活かして理論と実践について指導します。

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[R_mmb2] [31] 生涯学習概論				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	望月 厚志		モチヅキ アツシ		mochizuki atsushi [amochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>「生涯学習及び社会教育の本質について理解を図る」ことを目的とした授業の続きです。「生涯学習概論」と同様に、授業目標としては、生涯学習全般について理解を深め、生涯学習・社会教育の専門的な支援職員の社会教育主事（社会教育士）や博物館学芸員等として活躍するのに必要な考え方や知識、能力の基礎を培うものです。この科目の内容は、生涯学習の理念と施策、社会教育の意義と展開、社会教育に関する法令、社会教育指導者の役割、生涯学習社会と学校・家庭・地域を基本としていますが、「生涯学習概論」では、「社会教育」に関する総論的な内容で構成され、「社会教育の意義と展開」「社会教育に関する基本的な法令」「社会教育主事（社会教育士）と社会教育指導者の役割」「生涯学習社会と家庭・学校・地域などの連携や関係」についてなど「社会教育」の基本を学びます。様々な社会教育活動・実践についても具体的に考察します。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>(1)「社会教育」の定義・意味や意義を考え、生涯学習との関係を理解できたか。(2)「社会教育に関する法令や社会教育行政組織について理解できたか。(3)「社会教育諸施設」並びに専門職員について、歴史・現状・課題という観点から理解を深めることができたか。(4)生涯学習社会における家庭・学校・地域と社会教育の役割・具体的な実践などについて理解できたか。</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>各回の学修テーマについて、パソコン・ビデオ・DVD・書写カメラを使用して授業を行います。基本的には「パワー・ポイント」によって資料の提示を行います。また、必要に応じてプリント資料を配布し、それを参考・参照にして授業を進めます。さらに、必要に応じて関連する映像資料（DVD）も提示して学修内容の理解を深めます。講義中に見る映像資料に関する学修課題及び小課題レポートが課せられるので注意してください。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うことを望みます。教科書の該当箇所や配布プリント資料をよく読んで内容の理解を深めてください。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>「到達目標」を基準とし、各講義中での学修課題及び各講義後で出される課題小レポート（40%）、最終課題レポート（60%）に基づき総合的に成績評価・判断をする。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	生涯学習・社会教育の概念と定義：生涯学習と家庭教育・学校教育・社会教育との関係（文書資料使用）				
第2回	生涯学習と社会教育のあゆみ：各種答申を中心に（VTR・DVD使用）				
第3回	生涯学習と社会教育の法律：教育基本法・社会教育三法・生涯学習振興法・スポーツ基本法（文書資料使用）				
第4回	社会教育行政組織：国及び地方社会教育組織（文書資料使用）				
第5回	社会教育関係職員：社会教育主事（社会教育士）・社会教育委員（文書資料使用）				
第6回	社会教育施設1：公民館の歴史・現状・課題（文書資料・VTR・DVD用）				
第7回	同上2：博物館・図書館の歴史・現状・課題（VTR・DVD使用）				
第8回	同上3：生涯学習センター他の歴史・現状・課題（VTR・DVD使用）				
第9回	社会教育と学習者理解・人材育成1：ボランティア活動の意義とその実践（VTR・DVD使用）				
第10回	同上2：「おとなの生きる力」「成人力」「キー・コンピテンシー」理論（文書資料・VTR・DVD使用）				
第11回	同上3：「生涯学習とノーマライゼーション」				
第12回	同上4：「生涯学習とリカレント教育・リスキリング」				
第13回	社会教育と学校：「学社連携・学社融合」理論とその実践（VTR・DVD使用）				
第14回	社会教育と地域社会：コミュニティ・スクール他（文書資料使用）				
第15回	社会教育の今後の課題：本講義のまとめと将来のための学習課題（文書資料・VTR・DVD使用）				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：『生涯学習支援の基礎理論と実践の展開』望月厚志ほか（青簡舎）2020年、『社会教育行政読本：「協働」時代の道しるべ』社会教育行政研究会編（第一法規）2013年、必要に応じて印刷文献資料と映像資料を使用して授業をすすめる。参考書：『生涯学習・社会教育行政必携』生涯学習・社会教育行政研究会編（第一法規）令和4年版、『リスキリング』後藤宗明（日本迫り協会マネージメントセンター）2022年、『生涯学習と学習社会の創造』佐藤晴雄・望月厚志・柴田彩千子著（学文社）2013年、『平成23年度 社会教育調査報告書』文部科学省生涯学習政策局調査企画課編（文部科学省）2013年、『地域教育論：生涯学習から社会教育へ』遠藤克弥編（川島書店）2011年、『生涯学習の理論：新たなパースペクティブ』立田慶裕ほか（福村出版）2011年、『社会教育と学校』鈴木眞理・佐々木英和編（学文社）2003年、『生涯学習研究』日本生涯教育学会編（日本生涯教育学会）2005年、その他、講義の中で適宜紹介します。</p>					

【学生へのメッセージ】
旧仏教芸術専攻（令和4年度以前入学者）の学生は必修科目です。積極的な授業参加を希望いたします。
【オフィスアワー】
ご質問や補充説明など、毎週の授業の前後に授業実施教室にて受け付けます。
【実務経験】
社会教育委員10年、公民館運営審議会委員4年、文部科学省学芸員資格認定委員会委員（生涯学習概論担当）4年の経験を活かして理論と実践について指導します。

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目	
講義名	[S_mmb2] [33] カウンセリング入門					
区分	後期 (15回)		単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	4年		
担当教員	一瀬 英史		イチノセ ヒデシ		ichinose hideshow [hichinose(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
カウンセリングマインドを持ち、カウンセリングの原理を理解した人材を育成する。						
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】						
人が精神的健康を阻害されたときカウンセリングを受けて心の健康を回復する。従って、カウンセラーは健康力とは何かを理解した上で、相手の話を傾聴し、対話をもってカウンセリングを行われなければならない。すなわち、「健康力」知り、「傾聴力」「会話力」「口頭発表力」を培うことが目的の一つである。また各種心理療法の理論を学び、対人援助の方法を理解することを旨とする。						
【授業方法 (フィードバックの内容)】						
講義と演習。演習は、ペアや集団で行うことが多い。						
【授業外学修の方法 (時間数)】						
事前学修 (2時間以上) は、教科書を読み、基本的な用語の理解に努めること。事後学修 (2時間以上) は、授業を振り返りながら要点をノートに整理し、わからなかったところを次の授業の冒頭で質問して明らかにすること。						
【成績評価 (方法・基準)】						
学力確認テスト (60%)、授業への取組の姿勢 (40%) で評価する。						
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】						
第1回	自身のカウンセリング経験、カウンセリングのイメージ、推しなどについて語り合い					
第2回	心理療法概観					
第3回	深層心理学					
第4回	精神分析					
第5回	催眠					
第6回	ユング心理学					
第7回	確認とまとめ					
第8回	行動療法					
第9回	認知療法・認知行動療法					
第10回	ストレスマネジメント					
第11回	来談者中心療法					
第12回	家族療法					
第13回	日本の心理療法					
第14回	動作療法					
第15回	確認とまとめ					
【教科書・参考書】						
参考書：『心理療法ハンドブック』乾吉佑ほか編 (創元社) 2005年。						
【学生へのメッセージ】						
出席率が2 / 3に満たない場合は、受験することができない。真剣にカウンセリングを学びたい学生を望む。						
【オフィスアワー】						
講義前後の時間帯						
【実務経験】						
公認心理師、臨床心理士、臨床動作士、山梨県総合教育センター等臨床経験17年、現Eustress (ユーストレス) 株式会社代表						

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門基礎科目				専門基礎科目
講義名	[T_mmb1] [23] 教育原理				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira [tanuma(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
教育の思想や理念と制度の変遷、現代の教育が直面する課題について概説します。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
近代から現代に至る日本の教育の思想と歴史をたどり、現在の子どもと学校が直面する課題について理解する。それらを踏まえて子どもの権利を保障する教育改革の原理およびその内容を探りたい。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、批判的、論理的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
基本的に講義形式。教科書は特に使用しない。授業ごとに資料を配布し参考文献を紹介する。学生諸君との対話も考えたい。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、あらかじめ指示されたテキストや資料を読み、自分の意見をまとめておく。事後学修 (2時間以上) は、授業を振り返り、要点をノートに整理する。					
【成績評価 (方法・基準)】					
レポートを含む学力確認テスト (70%)、授業への取組の姿勢 (30%) によって評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション コロナ禍の中で明らかになった日本の学校の役割				
第2回	近代公教育制度の発足 1 近代学校成立の意味				
第3回	近代公教育制度の発足 2 教育目的をめぐる論争				
第4回	教育勅語の成立とその意味				
第5回	大正新教育運動と教育改革				
第6回	戦時体制と教育				
第7回	戦後教育改革 1 敗戦と教育				
第8回	戦後教育改革 2 日本国憲法、教育基本法の成立とその思想				
第9回	教育の逆コース				
第10回	高度成長期の教育思想				
第11回	現代教育問題 1 おちこぼれ・体のおかしさ・非行・家庭内暴力				
第12回	現代教育問題 2 校内暴力・管理教育 (体罰、校則)				
第13回	現代教育問題 3 いじめ・不登校				
第14回	新自由主義改革の展開とその矛盾 (格差と貧困)				
第15回	子どもの権利条約の精神の意義、まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書は指定しないが教職課程共通に使用する資料として、『ハンディ教育六法』浪本勝年他編 (北樹出版) を用意してほしい。適宜資料を配布し、参考書を紹介する。とりあえず『少年期不在』竹内常一 (青木書店)、『子どもの自分くずしと自分づくり』竹内常一 (東京大学出版会)、『いま、なぜ教育基本法の改正なのか』田沼朗他編 (国土社)、『日本教育小史』山住正己 (岩波書店)、『子ども白書 2020 子どもコロナクライシス』日本子どもを守る会編 (かもがわ出版) に目を通してほしい。					
【学生へのメッセージ】					
日頃から新聞、雑誌の教育記事に関心を持ってほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日11:55-12:25、15:35-16:30					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 資格取得科目				学芸員資格取得に関する科目
講義名	[A_cmc5] [01] 博物館実習				
区分	通年（14回）		単位	必修（3）	
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
全国各地の登録博物館・博物館相当施設で、博物館学芸員としての業務を実際に体験してもらう。館務実習の内容及び期間は、実習館に任せる。随時、学外における実習も行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
学芸員として勤務できるようになることを到達目標とする。学外において、博物館の館務実習、資料調査実習、博物館見学実習等を行うことにより、「地域理解」「情報構成力」「会話力」「文章表現力」「実行力」が身につく。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
博物館実習は、館務実習・学外実習を併せて合計14日間行うこと。本学が主催する学外実習は随時行うが、その際は掲示板にて案内する。館務実習は、学外の博物館施設において実習を行うことであり、学外実習は担当教員が主催する学内・学外での実習のことである。館務実習の日数は、その館の事情に任せているのでそれに従うこと。館務実習の期間は実習館によって異なるが、7日間を基準とするので、それ以上行う場合は担当教員の許可を得ること。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
実習の際には、必ず事前学修2時間、事後学修2時間を行うこと。その方法については授業中に説明する。					
【成績評価（方法・基準）】					
本学で作成した実習評価に基づき、実習館で評価してもらう。そして本課程が行う学外実習による評価を併せて総合評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	学外実習 1				
第2回	学外実習 2				
第3回	学外実習 3				
第4回	学外実習 4				
第5回	学外実習 5				
第6回	学外実習 6				
第7回	学外実習 7				
第8回	館務実習 1				
第9回	館務実習 2				
第10回	館務実習 3				
第11回	館務実習 4				
第12回	館務実習 5				
第13回	館務実習 6				
第14回	館務実習 7				
【教科書・参考書】					
教科書：適宜資料を配付します。参考書：『博物館実習マニュアル』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）。					
【学生へのメッセージ】					
館務実習や学外実習は時間厳守。出席重視なので遅刻・欠席をしないこと。学外実習が終わってから2週間以内に大学学務に実習録を提出し、指導教員の認印を受けること。春季・夏季中の実習は、休暇後に学校が始まってから2週間以内に実習録を提出すること。提出が遅いと実習録を受け付けません。よって実習録の提出期限を守ること。授業計画の覧に14回の回数を記してあるが、合計14日間ということで解釈すること。					
【オフィスアワー】					
実習内容等に関して質問等があれば研究室か、随時メール（smochi(a)min.ac.jp）で対応する。					
【実務経験】					
博物館学芸員として勤務経験（40年）あり。現場に即した授業を行います。					

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 資格取得科目	学芸員資格取得に関する科目

講義名	[cfs235] 【教職】倫理学概論 R6まで
-----	-------------------------

区分	後期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	桑名 法晃	クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]
------	-------	----------	--------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

倫理学とはどのような学問であろうか。「日本倫理思想史」という視点から、現代を生きる私たちのよりよい生き方・あり方を考えるために、特に中世の「天をめぐる思想」から、近代の「文明をめぐる思想」について概説します。本学のディプロマ・ポリシーが掲げる学士力の根底となる基礎学力を培う授業となります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

日本の倫理思想史についての基礎知識を身につけ、現代日本人の行動の基礎にある価値観を理解することを目指します。また、日本倫理思想史を学ぶことを通して、現代における自分自身の生き方・あり方を考えるヒントとし、自ら主体的に考察していく力を修得することを、授業の目標とします。コンピテンシー：多様な学問の考え方、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力、実行力

【授業方法（フィードバックの内容）】

倫理学とは何かについて概観し、本講義における視点を明確にした上で、日本の倫理思想史をたどり、日本人の倫理意識の形成を学んでいきます。「異文化受容」をキーワードとして、よりよい生き方・あり方とは何かという普遍的な問題について、近世、近代の日本人は如何に考え、如何なる答えを出してきたのか、順を追って概説していきます。授業中にはディスカッションを行い積極的に自分の意見を発言してもらいます。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、参考書等に目を通し、疑問をもって授業にのぞむこと。事後学修（2時間以上）は、授業の内容を踏まえ、その問題について自分なりに考えてみることを。

【成績評価（方法・基準）】

授業に取り組む姿勢（30%）、プレゼンテーション（70%）で総合的に評価します。毎回授業後にリアクションペーパーを配付し、講義内容、意見・感想等を書いてもらいます。授業に取り組む姿勢は、このリアクションペーパーに基づいて評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス
第2回	倫理学とは何か 1 倫理学と日本倫理思想史
第3回	倫理学とは何か 2 なぜ日本倫理思想史を学ぶのか、異文化受容をめぐる諸問題
第4回	武士の思想（中世武士道）1 主従関係の倫理
第5回	武士の思想（中世武士道）2 名と恥
第6回	儒学の思想 1 中国の儒学 孔子、孟子、荀子
第7回	儒学の思想 2 中国の儒学 朱子
第8回	近世の儒学受容 1 林羅山 朱子学の移入
第9回	近世の儒学受容 2 将軍・大名による儒学の受容
第10回	近世の儒学受容 3 山鹿素行「土道」
第11回	近世の儒学受容 4 『葉隠』
第12回	近代における文明受容 1 文明開化
第13回	近代における文明受容 2 国家神道
第14回	丸山真男の文化受容論 日本における文化受容の問題、自己内対話
第15回	全体のまとめ プレゼンテーション

【教科書・参考書】

教科書：特に指定しない。参考書：『日本倫理思想史 増補改訂版』佐藤正英著（東京大学出版会）2012年、『日本の思想とは何か：現存の倫理学』佐藤正英著（筑摩書房）2014年、『武士の思想』相良亨著（ベリかん社）2004年ほか。授業中に適宜参考書を紹介していきます。

【学生へのメッセージ】

受講生一人一人が自らの問題として捉え、自分自身の考えを形成することを望みます。授業では、毎回受講生に積極的に問いかけ、自分の考えを発言してもらいます。

【オフィスアワー】

火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

なし

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 資格取得科目				学芸員資格取得に関する科目
講義名	[cfs527] 【教職】高等学校教育実習 R6まで				
区分	通年（1回）	単位	選択（2）		形式 実習
授業年次	--	--	--	4年	
担当教員	田沼 朗		タヌマ アキラ		tanuma akira [tanuma(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
高等学校において、教員免許状を取得するために必修となっている教育実習を行います。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
教育実習校において、3年次までに履修してきた教職科目を踏まえて、教育現場における実習を通して教師としての実践的な力量の基礎を身につけることが主な目標となる。実習期間は各実習校の規則に従い学校長および指導教員の指導監督のもとに実習を行う。コンピテンシー：傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、課題設定力、構想力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教育実習校における教育実習を主たる内容とする実習科目である。実習内容に関しては、実習校に任せる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習（2時間以上）は、指導教諭から指示された課題を必ず行うこと。事後学習（2時間以上）は、一日を振り返りながら実習田誌をまとめ、指導教諭に提出すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
成績は実習校からの評価、および実習記録をもとにした総合評価。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	実習				
【教科書・参考書】					
実習なのでテキストや参考書はありません。					
【学生へのメッセージ】					
教育実習生としての心得を遵守すること。					
【オフィスアワー】					
実習校の指導教諭と事前に打ち合わせること。月曜日11:55-12:25分、15:35-16:30。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 資格取得科目		学芸員資格取得に関する科目		
講義名	[cfs529] 【教職】教職実践演習（高） R6まで				
区分	後期（15回）	単位	選択（2）	形式	演習
授業年次	--	--	--	4年	
担当教員	田沼 朗		タヌマ アキラ	tanuma akira [tanuma(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
教職課程全体を通して、学生諸君が教師として求められる実践的力量を身につけたかを確認し、さらなる力量向上をめざすための実践的授業を行うことを目的としている。本演習では教職課程科目の履修、教育実習、そのほか様々な活動を通じて、学生諸君が身につけた資質や能力が、教員として最小限度修得したかを、意見交換、グループ討議、フィールドワークなどをとおして確認する。加えて、教師になるうえでの課題を自覚して、必要に応じて不足している知識や技能を補い、その定着を図る。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)教師としての使命感や責任感、教育愛を醸成する。(2)社会性や対人関係能力を醸成する。(3)教科内容等の指導に関する能力の形成。(4)生徒理解や学級経営等に関する能力の形成。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科に関する科目、教職に関する科目の履修状況、教育実習の成果と課題をふまえて、実践的な課題について講義だけでなく演習形式を併用して行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学習（2時間以上）は、あらかじめ指示された資料やテキストを読み、自分の意見をまとめておく。事後学習（2時間以上）は、授業を振り返りながら要点をノートに整理する。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（30%）、毎回の授業中の発表（70%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーションー教育実践演習とは何か				
第2回	教職の意義、学校教育の現状と課題				
第3回	現代の教師に求められる資質、能力とは何か				
第4回	教育実習の振り返りと教育課題の確認1：教科指導（学生報告）				
第5回	教育実習の振り返りと教育課題の確認2：学級経営等（学生報告）				
第6回	教師の使命、教師の役割、社会性や対人関係能力の形成についてグループ討議				
第7回	教科指導、生徒理解、学級経営等についての事例研究、グループ討議				
第8回	現職教師、教育関係機関からの課題提起及び意見交換				
第9回	学校見学、教科指導、学級経営等についてのフィールドワーク				
第10回	不登校について、その保護者との意見交換				
第11回	いじめについての事例研究、ロールプレイング				
第12回	特別支援教育についての事例研究、討論				
第13回	模擬授業の実施1（担当教科）				
第14回	模擬授業の実施2（担当教科）				
第15回	教師として求められる資質、能力の確認、まとめ				
【教科書・参考書】					
授業の中で、適宜参考文献や資料を配布し、紹介する。					
【学生へのメッセージ】					
教職課程の総まとめであるから、教育実習を踏まえ自らの資質、能力の課題について自覚して授業に臨むこと。授業の性格上、無断欠席、遅刻、早退は慎んでください。					
【オフィスアワー】					
月曜日11:55-12:25、15:35-16:30。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 資格取得科目				社会教育主事資格取得に関する科目
講義名	[A_cse4] [13] 社会教育演習				
区分	後期（15回）		単位	選択（1）	形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	望月 厚志		モチヅキ アツシ		mochizuki atsushi [amochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育主事（社会教育士）としての職務を遂行するために必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることを目的として、社会教育に関する実践について主体的に係ることができるようになることをねらいとします。これまで実際に行われてきた社会教育実践・学習プログラムの理解と批判的な検討から始まり、次に、学習プログラムの企画・立案方法の理論について学びます。そして、それらの理論や生涯学習概論等で学んだことを基礎として、地域の生活課題に対応した学習プログラムの立案や社会教育諸施設で実行できる「具体的な学習プログラム作成」を行います。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
到達目標は次の四点です。(1)実際に行われてきた社会教育実践・学習プログラムの批判的な検討や内容理解ができたか。(2)学習プログラムの企画・立案方法を理解できたか。(3)地域の生活課題に対応した学習プログラムや社会教育諸施設で実行できる具体的な学習プログラム作成できたか。(4)学習プログラムの遂行上で必要となるファシリテーション能力・プレゼンテーション能力の基礎を培うことができたか。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストの読解と内容紹介を中心として、受講者によるプレゼンテーション・演習形式で授業を進めます。（指定テキストは、教授者が用意し、授業期間中、受講者に貸与いたします）					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間の事前・事後学修を行うことを望みます。各自指示されたテキストの内容を読み、その内容について様々な方法で発表できるようにまとめておいてください。					
【成績評価（方法・基準）】					
「到達目標」を基準とし、授業への参加・取り組み姿勢、発表時のレポート（50%）、作成した「学習プログラム」及びそれに関するレポート（50%）に基づき総合的に成績評価・判断する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション（シラバス使用） 「生涯学習プログラム」の理解と批判的検討：市民ホールを支える市民劇の育成（テキスト 使用） （プレゼンテーション能力の基礎の育成を含む）				
第2回	同上：住民ガイドの養成と活動支援の研究（テキスト 使用）				
第3回	同上：住民の自主企画「地域づくり事業」（テキスト 使用）				
第4回	同上：公民館分館における地域学習事業（テキスト 使用）				
第5回	学習プログラムの基本（テキスト 使用） 生涯学習の推進と学習プログラム、学習プログラムとは何か				
第6回	生涯学習の視点に立った学習プログラムの体系化（テキスト 使用） 生涯学習という視点、プログラム編成の原理、学習目標の構成要素				
第7回	学習プログラム立案の視点と手順：要求課題と必要課題（テキスト 使用）				
第8回	同上：学習目標・学習内容・学習方法（テキスト 使用）				
第9回	参加型学習プログラムのデザインと手法：学習プログラムの「運営力」の理解を含む（テキスト 使用）				
第10回	学習プログラムの作成演習：地域生活・社会教育施設等における学習課題の把握と立案企画				
第11回	同上：中・長期計画の検討と立案				
第12回	同上：年間事業計画の検討と立案				
第13回	同上：個別事業計画の検討と立案				
第14回	同上：展開計画の検討と立案及び評価計画				
第15回	演習で作成した「学習プログラム」の発表・検討会（まとめと今後の課題）				
【教科書・参考書】					
テキスト：『生涯学習活動のプログラム』岡本包治（全日本社会教育連合会）1998年、『生涯学習プログラムの開発』岡本包治編著（ぎょうせい）1992年、『参加型学習の進め方』廣瀬隆人ほか（ぎょうせい）2005年。参考書：『学習プログラムの革新』白石克己・金藤ふゆ子・廣瀬隆人編（ぎょうせい）2001年、『社会教育計画ハンドブック』今西幸蔵（八千代出版）2004年、『社会教育計画の基礎』鈴木真理・清國祐二編著（学文社）2004年、『社会教育計画策定ハンドブック』（計画と評価の実際）国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編（国立教育政策研究所社会教育実践研究センター）2012年、『現任教育計画』岡本包治（実務教育出版）1992年、『現任教育計画の進め方』岡本包治（平成出版）1997年。					

【学生へのメッセージ】
積極的な授業参加を希望いたします。
【オフィスアワー】
ご質問や補充説明など、毎週の授業の前後に授業実施教室にて受け付けます。
【実務経験】
社会教育委員10年、公民館運営審議会委員4年、「みと好文カレッジ」運営審議会委員6年の経験を活かして実践的「学習プログラム立案」の指導をします。

年度	区分			分野
令和6年度	全専攻共通 資格取得科目			社会教育主事資格取得に関する科目
講義名	[B_cse5] [15] 社会教育実習			
区分	通年（15回）	単位	選択（1）	形式 実習
授業年次	--	--	3年	4年
担当教員	望月 厚志		モチヅキ アツシ	mochizuki atsushi [amochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
社会教育主事（社会教育士）としての職務を遂行する上で必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることを目的とした実習です。社会教育行政機関や社会教育施設、社会福祉施設など生涯学習・社会教育と関連のある機関・施設において、それら機関・施設の専門職員の直接的な指導のもとで、機関・施設の管理、運営、事業の実施などについて参加体験を行い、それらの経験を通して社会教育主事に求められる資質と能力の基礎並びにボランティア精神をも培うことをねらいとしています。現場実習が授業の中心となりますが、全体ガイダンス、事前指導と事後指導、実習報告も授業内容に含まれます。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
(1)社会教育行政や施設の運営等の実態を理解でき、説明できるようになったか。(2)社会教育主事他の専門的職員の役割を理解できたか。(3)ボランティア活動の一貫として積極的・誠実に実習に参加できたかどうか。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
実習場所並びに内容に関しては、身延町役場や関係する社会教育施設を考えておりますが、希望施設を優先いたします。また、山梨県の生涯学習関係施設での実習も認めます。実施期間・内容については個別の協議・相談となります。詳細については「社会教育主事資格取得課程」規定を参照すること。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修（2時間以上）は、大学指導担当者から指示された課題を必ず行い、事後学修（2時間以上）は、実習について実習日誌にまとめ、指導担当者に提出して指導を受けてください。				
【成績評価（方法・基準）】				
事前指導と事後指導での報告・発表状況（30%）及び実習体験と実習レポート（70%）にもとづき総合的に評価をいたします。また、実習先の評価と実習記録の記入内容を含めて総合的に成績評価・判断します。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	社会教育施設運営・職員論を中心とした講義と全体ガイダンス			
第2回	事前指導 1（公民館の運営・職員論を中心とした講義と演習）			
第3回	事前指導 2（図書館の運営・職員論を中心とした講義と演習）			
第4回	事前指導 3（博物館の運営・職員論を中心とした講義と演習）			
第5回	事前指導 4（生涯学習施設・その他の社会教育施設の運営・職員論を中心とした講義と演習）			
第6回	現場実習 1（各社会教育施設での実習・ボランティア活動：1～2週間）			
第7回	現場実習 2（各社会教育機関・施設での実習・ボランティア活動）			
第8回	現場実習 3（各社会教育機関・施設での実習・ボランティア活動）			
第9回	現場実習 4（各社会教育機関・施設での実習・ボランティア活動）			
第10回	現場実習 5（各社会教育機関・施設での実習・ボランティア活動）			
第11回	現場実習 6（各社会教育機関・施設での実習・ボランティア活動）			
第12回	現場実習 7（各社会教育機関・施設での実習・ボランティア活動）			
第13回	事後指導 1（各社会教育機関・施設での運営・職員論を中心とした実習報告会 1）			
第14回	事後指導 2（各社会教育機関・施設での運営・職員論を中心とした実習報告会 2）			
第15回	社会教育関係機関及び施設運営・職員論を中心とした実習・ボランティア活動全体のまとめと今後の課題			
【教科書・参考書】				
『身延山大学 社会実習記録』（令和5年度）				
【学生へのメッセージ】				
実習中は社会教育主事（社会教育士）としての職務・業務を担当・実施しますので、社会人としての自覚をもって、実習に臨んでください。また、指導担当者の指導及び留意事項は必ず守ってください。なお、実習中の遅刻・早退及び欠席は認められません。大学事務局が主催する諸資格ガイダンス及び掲示板等で指示されるガイダンスには必ず参加してください。				
【オフィスアワー】				
ご質問や補充説明など、毎週の授業の前後に授業実施教室にて受け付けます。				
【実務経験】				
社会教育委員10年、公民館運営審議会委員4年、「みと好文カレッジ」運営審議会委員6年の経験を活かして「社会教育実践」への対応の指導・支援をします。				

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目
講義名	[A_jji1] [01] 漢字 (Chinese Character)				
区分	前期 (15回)		単位	選択 (1)	形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
<p>幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。また、さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。コンピテンシー：外国語リテラシー、読解力、文章表現力</p>					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
<p>テキストに即しながら、講義を行う。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていく。</p>					
【授業外学修の方法(時間数)】					
<p>事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各2時間以上の学修が必要である。</p>					
【成績評価(方法・基準)】					
<p>学力確認テスト(50%)、小テスト(20%)、受講態度(30%)で総合的に評価する。</p>					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第1～第2回				
第3回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第3～第4回				
第4回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第5～第6回				
第5回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第7～第8回				
第6回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第9～第11回				
第7回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第12～第13回				
第8回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第14～第17回				
第9回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第18～第21回				
第10回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第22～第24回				
第11回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第25～第28回				
第12回	『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』第29～第31回				
第13回	言葉の構成について				
第14回	音の変化について				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：『新完全マスター漢字日本語能力試験N1』石井怜子ほか著(スリーエーネットワーク)2010年。参考書：『漢字引きナース24の原則でわかる』武部良明(アルク社)2014年、『漢字のなりたち(日英対訳)』白川静(平凡社)2016年。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>語学学修には事前・事後学修に時間をかけることが必要である。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して反復練習をするように。</p>					
【オフィスアワー】					
<p>火曜日 4 時限目、水曜日 2 時限目、質問はメールでも可 (kimura(a)min.ac.jp)</p>					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目
講義名	[B_jji1] [03] 漢字 (Chinese Character)				
区分	後期 (15回)		単位	選択 (1)	形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
<p>幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。また、さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。コンピテンシー：外国語リテラシー、読解力、文章表現力</p>					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
テキストに即しながら、講義を行う。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていく。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
事前学修は、シラバスに則してテキストにしっかり目を通しておくこと。事後学修は、授業内容の復習を行い、練習問題を解き理解を深めること。各2時間以上の学修が必要となる。					
【成績評価(方法・基準)】					
学力確認テスト(50%)、小テスト(20%)、受講態度(30%)で総合的に評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	同じ部分・同じ音読みをもつ漢字を覚えよう その1				
第3回	同じ部分・同じ音読みをもつ漢字を覚えよう その2				
第4回	訓読みを覚えよう その1				
第5回	訓読みを覚えよう その2				
第6回	難しい読みを覚えよう その1				
第7回	難しい読みを覚えよう その2				
第8回	語彙で覚えよう その1				
第9回	語彙で覚えよう その2				
第10回	語彙で覚えよう その3				
第11回	いろいろな覚え方をしよう その1				
第12回	いろいろな覚え方をしよう その2				
第13回	新聞を読もう その1				
第14回	新聞を読もう その2				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『日本語総まとめN1漢字』佐々木仁子他著(アスク出版)2019年。参考書：『漢字マスターN1』アークアカデミー編著(三修社)2011年ほか。その他、随時講義時に指示する。					
【学生へのメッセージ】					
語学学修には事前・事後学修に時間をかけることが必要である。繰り返し繰り返し身につくまで徹底して反復するように。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はメールでも可(kimura(a)min.ac.jp)					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目
講義名	[C_jji2] [05] 語彙 (Vocabulary)				
区分	前期 (15回)		単位	選択 (1)	形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	白 景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
<p>語彙の習得は語学の基本であり、これによって「読解力」「傾聴力」「会話力」などのコミュニケーション力、あわせて「文章表現力」「口頭発表力」などの表現力を身につける。日本語能力試験(N1)合格レベルの日本語能力を取得する。</p>					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
<p>教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていく。</p>					
【授業外学修の方法(時間数)】					
<p>この授業では、指定テキストにしたがって、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。</p>					
【成績評価(方法・基準)】					
<p>学力確認テスト(50%)、小テスト(20%)、受講態度(30%)で総合的に評価する。</p>					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第1、2回				
第3回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第3、4回				
第4回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第5、6回				
第5回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第7、8回				
第6回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第9、10、11回				
第7回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第12、13、14回				
第8回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第15、16、17回				
第9回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第18、19、20回				
第10回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第21、22、23回				
第11回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第24、25、26回				
第12回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第27、28、29回				
第13回	『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』第30、31回				
第14回	まとめ1: 日本語能力試験N1の語彙と語源について				
第15回	まとめ2: 日本語能力試験N1の語彙の専門分類について				
【教科書・参考書】					
<p>教科書: 『新完全マスター語彙、日本語能力試験N1』本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治(スリーエーネットワーク)2011年。参考書: 『日本語能力試験問題集N1語彙スピードマスター』中島智子・高橋尚子・松本知恵(ジェイ・リサーチ出版)2011年、『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>事前・事後学習をきちんと行って、日本語習得につとめてください。</p>					
【オフィスアワー】					
<p>授業後または火、水、木曜日のオフィスアワーに対応します。</p>					
【実務経験】					
<p>進学塾教員3年の経験を活かした授業を展開します。</p>					

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目	
講義名	[D_jji2] [07] 語彙 (Vocabulary)					
区分	後期 (15回)		単位	選択 (1)		形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年		
担当教員	白 景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>						
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】						
<p>語彙の習得は語学の基本であり、これによって「読解力」「傾聴力」「会話力」などのコミュニケーション力、あわせて「文章表現力」「口頭発表力」などの表現力を身につける。日本語能力試験(N1)合格レベルの日本語能力を取得する。</p>						
【授業方法(フィードバックの内容)】						
<p>教科書に沿って練習問題をこなし、確認しつつ進める。小テストを毎回実施し、理解度を確認しながら進めていく。</p>						
【授業外学修の方法(時間数)】						
<p>この授業では、指定テキストにしたがって、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。</p>						
【成績評価(方法・基準)】						
<p>学力確認テスト(50%)、受講態度(50%)で総合的に評価する。</p>						
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】						
第1回	ガイダンス					
第2回	名詞の類義語 その1					
第3回	名詞の類義語 その2					
第4回	名詞の類義語 その3					
第5回	動詞の類義語 その1					
第6回	動詞の類義語 その2					
第7回	形容詞の類義語 その1					
第8回	形容詞の類義語 その2					
第9回	副詞の類義語					
第10回	オノマトペの類義語					
第11回	日本語能力試験N1の表現・熟語・ことわざ					
第12回	日本語能力試験N1の文章を読もう その1					
第13回	日本語能力試験N1の文章を読もう その2					
第14回	日本語能力試験N1の文章を読もう その2					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
<p>教科書：『日本語総まとめN1語彙』佐々木仁子他著(アスク出版)2019年。その他、随時講義時に指示する。参考書：『新完全マスター語彙、日本語読解試験N1』本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治(スリーエーネットワーク)2011年、『日本語読解試験問題集N1語彙スピードマスター』中島智子・高橋尚子・松本知恵(ジェイ・リサーチ出版)2011年、『日本人の心がわかる日本語』森田六郎著(アスク出版)2011年。</p>						
【学生へのメッセージ】						
<p>事前・事後学習をきちんと行って、日本語習得につとめてください。</p>						
【オフィスアワー】						
<p>授業後または火、木曜日のオフィスアワーに対応します。</p>						
【実務経験】						
<p>進学塾教員3年の経験を活かした授業を展開します。</p>						

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目
講義名	[E_jji3] [09] 文法 (Grammar)				
区分	前期 (15回)		単位	選択 (1)	形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byungkon [kim(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
<p>(1)幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。(2)一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、外国語リテラシー、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力</p>					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
教科書に沿って進めていきます。4回ごとに小テスト(成績評価の対象)を行いますので、予習・復習に励んでください。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。					
【成績評価(方法・基準)】					
授業への取り組み姿勢(40%)、小テスト(30%)、学力確認テスト(30%)により総合評価します。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス / レベルテスト / 1課 時間関係				
第2回	2課 範囲の始まり・限度				
第3回	3課 限定・非限定・付加				
第4回	4課 例示				
第5回	小テスト				
第6回	5課 関連・無関係				
第7回	6課 様子				
第8回	7課 付随行動				
第9回	8課 逆接				
第10回	小テスト2				
第11回	9課 条件				
第12回	10課 逆接条件				
第13回	11課 目的・手段				
第14回	12課 原因・理由				
第15回	小テスト3 / まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『新完全マスター文法日本語読解試験N1』友松悦子他著(スリーエーネットワーク)2011年。参考書：『日本語読解試験問題集JLPT公式問題集 第二集 N1』国際交流基金他編集(凡人社)2018年。					
【学生へのメッセージ】					
日本語読解試験の実施日は公式ウェブサイト〔 https://www.jlpt.jp/index.html 〕よりご確認ください。					
【オフィスアワー】					
今はできなくともやり方を変えればできるようになるかも知れません。変わりたいという気持ちがあれば、授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに相談に乗りますので、殻に閉じこもらないで、話を聴かせてください。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目	日本語に関する科目

講義名	[F_jji3] [11] 文法 (Grammar)
-----	-----------------------------

区分	後期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	演習
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]
------	------	----------	-----------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。

【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】

(1)幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。(2)さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。コンピテンシー:多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、外国語リテラシー、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力

【授業方法(フィードバックの内容)】

教科書に沿って進めていきます。4回ごとに小テスト(成績評価の対象)を行いますので、予習・復習に励んでください。

【授業外学修の方法(時間数)】

毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。教科書の語彙は単語帳を作って憶えるようにしてください。教科書の文法はノートに整理し活用できるようにしておいてください。

【成績評価(方法・基準)】

授業への取り組み姿勢(40%)、小テスト(30%)、学力確認テスト(30%)により総合評価します。

【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	ガイダンス / 13課 可能・不可能・禁止
第2回	14課 話題・評価の基準
第3回	15課 比較対照
第4回	16課 結末・最終の状態
第5回	小テスト 4
第6回	17課 強調
第7回	18課 主張・断定
第8回	19課 評価・感想
第9回	20課 心情・強制的思い
第10回	小テスト 5
第11回	品詞
第12回	助詞
第13回	副詞
第14回	接続詞
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書:『新完全マスター文法日本語能力試験N1』友松悦子他著(スリーエーネットワーク)2011年、『文法必携バイブルN1 完全制覇文型集』郭冰雁他著(ブイツーソリューション)2016年。参考書:『日本語能力試験公式問題集JLPT公式問題集 第二集N1』国際交流基金他編集(凡人社)2018年。

【学生へのメッセージ】

日本語能力試験の実施日は公式ウェブサイト〔<https://www.jlpt.jp/index.html>〕よりご確認ください。

【オフィスアワー】

今はできなくともやり方を変えればできるようになるかも知れません。変わりたいという気持ちがあれば、授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに相談に乗りますので、殻に閉じこもらないで、話を聴かせてください。

【実務経験】

なし

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目	日本語に関する科目

講義名	[G_jji4] [13] 文法 (Grammar)
-----	-----------------------------

区分	前期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	演習
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]
------	------	----------	-----------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。

【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】

(1)幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論など、論旨が明快な文章を読んで文章の内容を理解することができる。(2)一般的な話題に関する読み物を読んで、話の流れや表現意図を理解することができる。コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、外国語リテラシー、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力

【授業方法(フィードバックの内容)】

教科書(中国語解説対訳付き)に沿って進めていきます。(1)毎回20個程度の基礎文法を覚えて、(2)その例文を作成し、(3)その場で正しく活用できているかどうかの確認を行い、(4)それを繰り返すことで、(5)自らの言葉として駆使できるようになる、というプロセスを踏んでいきます。

【授業外学修の方法(時間数)】

毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。次回の授業前は、基礎文法を確認して文章を作ってみること。授業後は、基礎文法を使用して作文を書いてみることを。

【成績評価(方法・基準)】

授業への取り組み姿勢(40%)、小テスト(30%)、学力確認テスト(30%)により総合評価します。

【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	ガイダンス
第2回	基礎文法(268)を用いた文章作成(1-20)
第3回	基礎文法(268)を用いた文章作成(21-40)
第4回	基礎文法(268)を用いた文章作成(41-60)
第5回	基礎文法(268)を用いた文章作成(61-80)
第6回	基礎文法(268)を用いた文章作成(81-100)
第7回	基礎文法(268)を用いた文章作成(101-120)
第8回	基礎文法(268)を用いた文章作成(121-140)
第9回	基礎文法(268)を用いた文章作成(141-160)
第10回	基礎文法(268)を用いた文章作成(161-180)
第11回	基礎文法(268)を用いた文章作成(181-200)
第12回	基礎文法(268)を用いた文章作成(201-220)
第13回	基礎文法(268)を用いた文章作成(221-240)
第14回	基礎文法(268)を用いた文章作成(241-268)
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：『文法必携バイブルN1完全制覇文型集』郭冰雁他著(ブイツーソリューション)2016年。その他、必要に応じて「教材リソース」を提供します。

【学生へのメッセージ】

授業中に文章作成を行いますので、ノートパソコンを持参するようにしてください。

【オフィスアワー】

聞き上手が話し上手になる近見です。授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに相談に乗りますので、臆することなく、第一歩を踏み出してください。

【実務経験】

なし

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目	日本語に関する科目

講義名	[H_jji4] [15] 文法 (Grammar)
-----	-----------------------------

区分	後期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	演習
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]
------	------	----------	-----------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。

【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】

(1)幅広い話題について書かれた新聞の論説、評論など、論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、文章の構成や内容を理解することができる。(2)さまざまな話題の内容に深みのある読み物を読んで、話の流れや詳細な表現意図を理解することができる。コンピテンシー:多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、外国語リテラシー、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力

【授業方法(フィードバックの内容)】

教科書(中国語解説対訳付き)に沿って進めていきます。(1)毎回10個程度の超級阜ヲを覚えて、(2)その例文を作成し、(3)その場で正しく活用できているかどうかの確認を行い、(4)それを繰り返すことで、(5)自らの言葉として駆使できるようになる、というプロセスを踏んでいきます。

【授業外学修の方法(時間数)】

毎回4時間程度の授業外学修が望まれます。次回の授業前は、超越表現を確認して文章を作ってみること。授業後は、超越表現を使用して作文を書いてみることを。

【成績評価(方法・基準)】

授業への取り組み姿勢(40%)、小テスト(30%)、学力確認テスト(30%)により総合評価します。

【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	ガイダンス
第2回	超級表現(115)に基づく文書作成(1-10)
第3回	超級表現(115)に基づく文書作成(11-20)
第4回	超級表現(115)に基づく文書作成(21-30)
第5回	超級表現(115)に基づく文書作成(31-40)
第6回	超級表現(115)に基づく文書作成(41-50)
第7回	超級表現(115)に基づく文書作成(51-63)
第8回	超級表現(115)に基づく文書作成(64-76)
第9回	超級表現(115)に基づく文書作成(77-89)
第10回	超級表現(115)に基づく文書作成(90-102)
第11回	超級表現(115)に基づく文書作成(103-115)
第12回	翻訳(母国語から日本語へ)1
第13回	同上2(短文翻訳)
第14回	同上3(長文翻訳)
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書:『文法必携バイブルN1完全制覇文型集』郭冰雁他著(ブイツーソリューション)2016年。その他、必要に応じて「教材リソース」を提供します。

【学生へのメッセージ】

授業中に文書作成を行いますので、ノートパソコンを持参するようにしてください。

【オフィスアワー】

聞き上手が話し上手になる近見です。授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに相談に乗りますので、臆することなく、第一歩を踏み出してください。

【実務経験】

なし

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目
講義名	[Ljji1] [17] 読解 (Reading Comprehension)				
区分	前期 (15回)		単位	選択 (1)	形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	田淵 和子		タブチ カズコ	tabuchi kazuko [tabuchi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
<p>交換留学生及び一般留学生は日本語能力試験(N1)合格レベルの日本語運用能力を身につける。コンピテンシー：読解力、情報分析力、文章表現力</p>					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
指定テキストにしたがって、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。					
【成績評価(方法・基準)】					
毎回の演習の到達度(50%)、課題への取り組み(50%)で評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス：自己紹介、シラバス確認、事前試験の振り返り				
第2回	事前試験の振り返り、演習1 内容理解(短文)				
第3回	演習2 内容理解(短文)				
第4回	演習3 内容理解(中文)				
第5回	演習4 内容理解(中文)				
第6回	演習5 内容理解(長文)				
第7回	演習6 内容理解(長文)				
第8回	演習7 総合理解				
第9回	演習8 総合理解				
第10回	演習9 主張理解(長文)				
第11回	演習10 主張理解(長文)				
第12回	演習11 情報検索				
第13回	模擬試験1				
第14回	模擬試験2				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿れ・中村則子・田代ひとみ(スリーエーネットワーク)2011年、『日本語能力試験問題集N1読解スピードマスター』菊池富美子・黒岩しづ可・竹田慎吾・日置陽子(ジェイ・リサーチ出版)2011年。					
【学生へのメッセージ】					
事前・事後学修をきちんと行って、日本語修得につとめてください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。質問はメール(tabuchi(a)min.ac.jp)でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目
講義名	[J.jji2] [19] 読解 (Reading Comprehension)				
区分	後期 (15回)		単位	選択 (1)	形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	田淵 和子		タブチ カズコ	tabuchi kazuko [tabuchi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
<p>交換留学生及び一般留学生は日本語能力試験(N1)合格レベルの日本語運用能力を身につける。コンピテンシー：外国語リテラシー、異文化理解、読解力</p>					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
指定されたテキストに沿って、授業を進めていく。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
指定テキストにしたがって、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。					
【成績評価(方法・基準)】					
授業での取り組み(70%)、模擬試験(30%)で評価する。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス 自己紹介、事前試験の振り返り、				
第2回	事前試験の振り返り				
第3回	第1部 評論・解説・エッセイなど1/1.文章のしくみを理解する 1) [対比] ほかのものと比べる / 2) [言い換え] ほかの言葉で言い換える				
第4回	3) [比喩] ほかのものにたとえる / 4) [疑問提示文] 疑問を使って論点を提示する				
第5回	2. 問いを解く技術を身につける / 1) 指示語を問う / 2) 「だれが」「何を」などを問う				
第6回	3) 下線部の意味を問う / 4) 理由を問う / 5) 例を問う				
第7回	第2部 広告・お知らせ・説明書きなど1/1. 全体をつかむ				
第8回	2. 情報を探し出す / 1) 広告 / 2) お知らせ				
第9回	3) 説明書き / 4) 浮りリスト				
第10回	第3部 実戦問題 1/1. 内容理解(中文)				
第11回	2. 内容理解(長文)				
第12回	3. 主張理解(長文)				
第13回	4. 総合理解 / 5. 情報検索				
第14回	模擬試験				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：『新完全マスター読解日本語能力試験N1』福岡・清水・初鹿野・中村・田代著(スリーエーネットワーク)2011年。					
【学生へのメッセージ】					
間違えることを恐れず、数多くの問題に取り組んでいきましょう。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。質問はメール(tabuchi(a)min.ac.jp)でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目	
講義名	[K_jji3] [21] 作文 (Composition)					
区分	前期 (15回)		単位	選択 (1)		形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年		
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko [hkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>						
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】						
<p>本講義受講によって、(1)問題に対して課題設定を行い、(2)それらを文章表現をもって他者に伝える力を身につけ、(3)同時に情報分析力を得ることができる、以上の学力の修得が本授業の目標である。コンピテンシー：課題設定力、文章表現力、情報分析力</p>						
【授業方法(フィードバックの内容)】						
<p>積極的な予習復習を基として演習形式で授業を展開する。また受講生同士でディスカッションを行い、主体的に授業に参加するよう促していく。</p>						
【授業外学修の方法(時間数)】						
<p>日本語科目にて修得した力を作文として表現するため、積極的な予習復習が望まれる。事前を毎回2時間以上行い、事後においては各回の内容に基づいた復習を2時間以上行うこと。</p>						
【成績評価(方法・基準)】						
<p>授業への取り組み姿勢(20%)、質疑応答(10%)、課題作文(70%)で評価する。</p>						
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】						
第1回	オリエンテーション					
第2回	代名詞の使い方 基礎編					
第3回	代名詞の使い方 応用編					
第4回	代名詞の使い方 まとめ					
第5回	接続詞の使い方 基礎編					
第6回	接続詞の使い方 応用編					
第7回	接続詞の使い方 まとめ					
第8回	モノの基礎的表現法					
第9回	モノの表現法 文語と口語					
第10回	モノの表現法 相違点と相似点					
第11回	意見を述べる 感想文					
第12回	意見を述べる 意見文					
第13回	意見を述べる まとめ					
第14回	課題作文 テーマと内容					
第15回	課題作文(発表)					
【教科書・参考書】						
<p>教科書：適宜指示する。参考書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法(改訂版)』佐藤政光他著(第三書房)2002年、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』福岡理恵子他著(スリーエーネットワーク)2011年、『悪文・乱文から卒業する 正しい日本語の書き方』スクール東京(ディスカヴァー・トゥエンティワン)2018年。</p>						
【学生へのメッセージ】						
<p>弛まない積み重ねにより修得するのが語学である。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組むように。</p>						
【オフィスアワー】						
<p>火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール(hkuwana(a)min.ac.jp)でも可。</p>						
【実務経験】						
なし						

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目	
講義名	[L_jji4] [23] 作文 (Composition)					
区分	後期 (15回)		単位	選択 (1)		形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年		
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ		kuwana hoko [hkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>						
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】						
<p>本講義受講によって、(1)問題に対して課題設定を行い、(2)それらを文章表現をもって他者に伝える力を身につけ、(3)同時に情報分析力を得ることができる、以上の学力の修得を目標とする。コンピテンシー：課題設定力、文章表現力、情報分析力</p>						
【授業方法(フィードバックの内容)】						
<p>積極的な予習復習を基として演習形式で授業を展開する。また受講生同士でディスカッションを行い、主体的に授業に参加するよう促していく。</p>						
【授業外学修の方法(時間数)】						
<p>毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。</p>						
【成績評価(方法・基準)】						
<p>授業への取り組み姿勢(20%)、質疑応答(10%)、課題作文(70%)で評価する。</p>						
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】						
第1回	オリエンテーション					
第2回	まぎらわしい表現 基礎編					
第3回	まぎらわしい表現 応用編					
第4回	まぎらわしい表現 まとめ					
第5回	使用されている間違った日本語表現 接続詞					
第6回	使用されている間違った日本語表現 否定					
第7回	使用されている間違った日本語表現 敬語					
第8回	使用されている間違った日本語表現 代名詞					
第9回	使用されている間違った日本語表現 口語表現					
第10回	中間報告 レポート作成					
第11回	討論 テーマ設定					
第12回	討論 問題についてのアプローチ					
第13回	討論 資料概説と作成方法					
第14回	課題・報告書作成について					
第15回	報告書の発表					
【教科書・参考書】						
<p>教科書：適宜指示する。参考書：『表現テーマ別 にほんご作文の方法(改訂版)』佐藤政光他著(第三書房)2002年、『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』福岡理恵子他著(スリーエーネットワーク)2011年、『悪文・乱文から卒業する 正しい日本語の書き方』スクール東京(ディスカヴァー・トゥエンティワン)2018年。</p>						
【学生へのメッセージ】						
<p>弛まない積み重ねによって取得するのが語学である。宿題・課題を毎回課すので地道に取り組むように。</p>						
【オフィスアワー】						
<p>火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール(hkuwana(a)min.ac.jp)でも可。</p>						
【実務経験】						
なし						

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目
講義名	[M_jji1] [25] 聴解 (Listening Comprehension)				
区分	前期 (15回)		単位	選択 (1)	形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	塩田 宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
<p>受講生が日本語の聴き取りに慣れ、日本語能力試験合格レベルまで日本語の聴解レベルを上げていくことを目指します。コンピテンシー：異文化理解、外国語リテラシー、読解力、傾聴力、会話力</p>					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
<p>日本語能力試験の問題をヒアリングしながら解き進め、試験問題に慣れていくようにします。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をすることで、実践的な日本語の理解・修得を図ります。</p>					
【授業外学修の方法(時間数)】					
<p>普段からテレビやラジオを聴き、事前学修(2時間以上)として、自分が興味を持ったニュースや時事問題についてまとめること。事後学修(2時間以上)は、授業の内容をさらに深め、苦手なところについて繰り返し練習することを求めます。</p>					
【成績評価(方法・基準)】					
<p>練習問題の成績(50%)、授業への取り組み(40%)、課題への取り組み(10%)により総合的に評価する。</p>					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション：簡単な聞き取り				
第2回	問題集 問題紹介				
第3回	似ている音の聞き分け				
第4回	音の変化や縮約形				
第5回	「だれがするか」を聞き取る				
第6回	「話し手はどう思っているか」を聞き取る 1				
第7回	「話し手はどう思っているか」を聞き取る 2				
第8回	確認問題				
第9回	「起こったか、起こっていないか」に注意して聞く				
第10回	イントネーションに注意して聞く				
第11回	会話でよく使われる表現に注意して聞く				
第12回	「すべきこと」を理解する 1				
第13回	「すべきこと」を理解する 2				
第14回	確認問題				
第15回	まとめ：聴解 への布石				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：『新完全マスター聴解 日本語能力試験N1』中村かおり・福島佐知・友松悦子著(スリーエーネットワーク)2011年。参考書：『毎日の聞きとり50日 初級編 下 新装版』宮城幸枝・三井昭子著(凡人社)2010年。他、授業内で随時紹介します。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>授業内だけでは日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。</p>					
【オフィスアワー】					
授業担当時の前後、火・水・木曜日の授業・会議以外の時間帯					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目
講義名	[N_jji2] [27] 聴解 (Listening Comprehension)				
区分	後期 (15回)		単位	選択 (1)	形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	塩田 宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
<p>聴解 に引き続き、日本語能力試験N1合格レベルまで受講生の日本語の聴解レベルを上げていくことを目標とします。コンピテンシー：異文化理解、外国語リテラシー、読解力、傾聴力、会話力</p>					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
<p>日本語能力試験の問題をヒアリングしながら解いていき、試験問題に慣れていくようにします。また、日常生活やニュース、時事問題に関する内容について会話をすることで、さらなる実践的な日本語の理解・修得を図ります。</p>					
【授業外学修の方法(時間数)】					
<p>普段からテレビやラジオを聴き、事前学修(2時間以上)として、自分が興味を持ったニュースや時事問題についてまとめること。事後学修(2時間以上)は、授業の内容をさらに深め、苦手なところについて繰り返し練習することを求めます。</p>					
【成績評価(方法・基準)】					
<p>練習問題の成績(50%)、授業への取り組み(40%)、課題への取り組み(10%)により総合的に評価する。</p>					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション：日本語能力試験までの学修計画				
第2回	優先される課題を判断する 1				
第3回	優先される課題を判断する 2				
第4回	条件を整理しながら聞く				
第5回	話し手の意図を考えて必要な情報がどうかを判断する				
第6回	言い換えに注意する				
第7回	確認問題				
第8回	多くの情報の中から必要な情報を拾う				
第9回	例と例をまとめる言葉を聞き分けて話題をつかむ				
第10回	文を関連づけて話の主題をまとめる				
第11回	表現を手がかりに意見や主張を聞き取る				
第12回	二人以上の人のお話を整理する				
第13回	模擬試験 不得意分野の掌握と克服				
第14回	模擬試験 不得意分野の掌握と克服				
第15回	模擬試験 不得意分野の掌握と克服				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：『新完全マスター聴解 日本語能力試験』中村かおり・福島佐知・友松悦子著(スリーエーネットワーク)2011年。参考書：『毎日の聞きとり50日 初級編 下 新装版』宮城幸枝・三井昭子著(凡人社)2010年。他、授業内で随時紹介します。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>授業内だけでは日本語に耳が慣れることはできません。普段の生活の中で積極的に日本語での会話を行ったり、日本のテレビやラジオ等を聴くようにしましょう。また、テレビやラジオで聴いたフレーズや文章を、同じように発声してみましょう。授業では映画なども見ていくことを予定しています。</p>					
【オフィスアワー】					
授業担当時の前後、火・水・木曜日の授業・会議以外の時間帯					
【実務経験】					
なし					

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目	日本語に関する科目

講義名	[O_jji3] [29] 会話 (Conversation)
-----	---------------------------------

区分	前期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	演習
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	伊東 久実	イトウ クミ	ito kumi [ito(a)]
------	-------	--------	-------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。

【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】

個人的、一般的な興味に関する話題についての詳細な説明、描写、叙述する力を身につける。この授業を受けることにより、日常生活で円滑なコミュニケーションができるようになる。また、日本語で分かりやすく発表できるようになる。コンピテンシー：外国語リテラシー、異文化理解、会話力、口頭発表力

【授業方法(フィードバックの内容)】

「話す」技能に焦点を当てた授業である。会話やプレゼンテーションについて、分かりやすく伝えるためにどのような話し方が適切かをテキストやディスカッション、ロールプレイを通して学ぶ。

【授業外学修の方法(時間数)】

普段からテレビやラジオを聴き、事前学修(2時間以上)として、自分が関心を持ったニュースや時事問題についてまとめること。事後学修(2時間以上)は、授業の内容をさらに深め、苦手なところについて繰り返し練習することを求めます。

【成績評価(方法・基準)】

授業への取り組み姿勢(50%)、課題への取り組みおよび発表(50%)により総合的に判断します。

【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	オリエンテーション
第2回	自己紹介で好印象を与えよう
第3回	きっかけを話そう
第4回	町の様子を話そう
第5回	健康について話そう
第6回	自分の特技について伝えよう
第7回	言い換えて説明しよう
第8回	印象に残った出来事を話そう
第9回	比べて良さを伝えよう
第10回	動きの順序を説明しよう
第11回	ストーリーを話そう
第12回	最近の出来事を話そう
第13回	学外での交流活動に向けて：内容の検討 1
第14回	学外での交流活動に向けて：内容の検討 2
第15回	まとめ・発表

【教科書・参考書】

教科書：『日本語上級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著(スリーエーネットワーク)、2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね 第2版』西口光一監修(スリーエーネットワーク)2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編(スリーエーネットワーク)2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著(凡人社)2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。

【学生へのメッセージ】

学外での交流活動を行います。自身の意見や考えを積極的に述べましょう。

【オフィスアワー】

火曜日と金曜日(15:30-17:00)

【実務経験】

なし

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 日本語科目				日本語に関する科目
講義名	[P_jji4] [31] 会話 (Conversation)				
区分	後期 (15回)		単位	選択 (1)	形式 演習
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi [ito(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本学独自の教育支援プログラムである「日本語に関する科目」(卒業基準単位外)は、Category 0 交換留学生(全16科目)、Cat. 1 JLPT N1未取得の留学生(語彙・、文法・、読解・、聴解・の8科目)、Cat. 2 N1取得の留学生(作文・、会話・の4科目)、Cat. 3 新入生(読解・、作文・、会話・の6科目)を対象とする各カテゴリを通して、Cat. 0・1 ではN1取得を目指し、Cat. 2 では「やまなし留学生スピーチコンテスト」の入選をねらい、Cat. 3 では日本語運用能力の向上をはかると共に国際交流を深めます。</p>					
【授業修了時の達成課題(到達目標・competency)】					
<p>話すべき内容とその構成を意識しながら話す力を身につける。自分の考えや気持ちを根拠を示して伝えることができるようになる。抽象的なことが話せ、聞き手の理解や反応に応じた話し方ができるようになる。コンピテンシー：外国語リテラシー、異文化理解、会話力、口頭発表力</p>					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
<p>会話 で習得した技能をもとに、学生自身が話題提供を行ったり、提案されたテーマについてディスカッションを行う。学外において発表の機会を持つ。</p>					
【授業外学修の方法(時間数)】					
<p>普段からテレビやラジオを聴き、事前学修(2時間以上)として、自分が関心を持ったニュースや時事問題についてまとめること。事後学修(2時間以上)は、授業の内容をさらに深め、苦手なところについて繰り返し練習することを求めます。</p>					
【成績評価(方法・基準)】					
<p>授業への取り組み姿勢(50%)、課題への取り組みおよび発表(50%)により総合的に判断します。</p>					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	町の様子を話そう(話の構成を考える)				
第2回	スポーツのおもしろさを伝えよう(複雑なことをわかりやすく説明する)				
第3回	言いかえて説明しよう(ことばの言い換え)				
第4回	比べて良さを伝えよう(比較しながら説明する)				
第5回	最近の出来事を話そう(感情を生き生きと伝える)				
第6回	健康について話そう(因果関係)				
第7回	将来の夢を語ろう(抽象的な表現)				
第8回	スピーチコンテストに向けて：内容の検討				
第9回	スピーチコンテストに向けて：発表の練習				
第10回	スピーチコンテストのリハーサル				
第11回	スピーチコンテスト				
第12回	心に残る言葉				
第13回	年次を振り返って				
第14回	将来の計画について語ろう				
第15回	まとめ・発表				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：『日本語超級話者への道 きちんと伝える技術と表現』荻原 稚佳子、斉藤 真理子著(スリーエーネットワーク)2010年。参考書：『日本語おしゃべりのたね 第2版』西口光一監修(スリーエーネットワーク)2011年、『中上級学習者のためのブラッシュアップ日本語会話』清水崇文編(スリーエーネットワーク)2013年、『ロールプレイで学ぶ中級上級への日本語会話』山内博之著(凡人社)2014年。その他、日本語能力試験問題集や文献、視聴覚教材を適宜に紹介する。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>留学生スピーチコンテストの参加を計画しています。自身の意見や考えを積極的に述べましょう。</p>					
【オフィスアワー】					
火曜日と金曜日(15:30-17:00)					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門科目				キャリア系科目	
講義名	[A_sca2] [05] キャリア教育					
区分	前期 (15回)		単位	選択 (1)		形式 演習
授業年次	--	2年	3年	4年		
担当教員	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu [mawaji(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
「自己の希望就職先で内定をもらうこと」を目的とし、自己分析や企業分析をして、マッチングする企業にアプローチしていく上で、志望動機や自己アピールおよび履歴書の書き方のコツを学び、模擬面接で実践を体験してもらいます。						
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】						
企業へアプローチしていく上で、自分と向き合い自分を知ることや、企業研究を自主的に行い、自分の考えを具体的に述べる力や文章で伝える力を身に付けることを授業の目標とします。 コンピテンシー：地域理解、情報収集力、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力、実行力、評価力、改善力						
【授業方法 (フィードバックの内容)】						
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションを行います。実際に自己分析・企業研究をして、これに基づいた志望動機・自己アピールを考えて履歴書を作成します。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームを通して「考える」「感じる」時間を作っています。						
【授業外学修の方法 (時間数)】						
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日20分間 (1週間で140分) 自分自身について、将来について考え、実際の就職活動に活かせるよう努めてください。						
【成績評価 (方法・基準)】						
学力確認テスト (40%)、自己表現 (30%)、ロールプレイ (20%)、授業参画 (10%) によって評価します。						
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】						
第1回	就職活動のプロセス					
第2回	自己分析 1					
第3回	自己分析 2					
第4回	企業研究とマッチング					
第5回	志望動機					
第6回	自己アピール					
第7回	履歴書の作成					
第8回	お礼状の書き方					
第9回	面接の種類と対策					
第10回	第一印象の重要性と身だしなみ					
第11回	美しい姿勢とお辞儀 / 面接の流れを確認する (ロールプレイ)					
第12回	正しく聴いて分かりやすく答える (理解する力・伝える力) 質疑応答例					
第13回	ディスカッション 1					
第14回	ディスカッション 2					
第15回	総括 (学力確認テスト)					
【教科書・参考書】						
毎講義時にプリントを配布します。						
【学生へのメッセージ】						
就職活動に必要な知識を得るために、欠席はしないよう心掛けてください。講義中は積極的に考え行動してください。						
【オフィスアワー】						
授業の前後に教室にて対応します。						
【実務経験】						
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。						

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門科目				キャリア系科目
講義名	[B_sca3] [07] キャリア教育				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (1)		形式 演習
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	淡路 実春		アワジ ミハル		awaji miharu [mawaji(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会で活躍するための基礎力を養い、就職活動やその後の生活に活かせる知識を修得します。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
社会人としての心高や知っておきたい様々なマナー・敬語などの一般常識、人と関わる中で必要不可欠なコミュニケーションについて学ぶことで、(1)傾聴力・会話力・口頭表达能力が向上し、(2)一般的な論理的思考ができるようになります。他にも、働くことに関する法律を学ぶことで、雇用契約を締結する際の条件確認に活かすことができる他、社会保障や税金の支払いなどについての知識が身につきます。コンピテンシー：読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力、実行力、評価力、改善力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
配布資料に基づいて、講義、演習、ディスカッションなどを行います。講義の内容によっては、知識を得るだけでなく、簡単なゲームなどを通して「感じる」「考える」時間を作っています。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
予習および復習は、講義時に配布するプリントにより進めてください。講義内容を振り返り、毎日20分間 (1週間で140分) 自分自身について、将来について考え、実際の就職活動に活かせるよう努めてください。					
【成績評価 (方法・基準)】					
学力確認テスト (40%)、ロールプレイ (30%)、小論文 (20%)、授業参画 (10%) によって評価します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	夢を叶えるために				
第2回	敬語と接遇用語				
第3回	ビジネス電話に関する知識 1				
第4回	ビジネス電話に関する知識 2				
第5回	ビジネス電話に関するロールプレイ (ビジネスシーン・インフォームシーン)				
第6回	マナーの基本 1 (マナーの本質・挨拶・お辞儀・身だしなみ・訪問のマナー・席次)				
第7回	マナーの基本 2 (名刺交換・紹介の順番・案内のしかた・お茶やお菓子の出し方といただき方・見送りのしかた)				
第8回	マナーの基本 3 (季節のご挨拶・葬儀・結婚披露宴)				
第9回	マナーの基本 4 (ロールプレイ)				
第10回	コミュニケーションの基本 1				
第11回	コミュニケーションの基本 2				
第12回	社会人としての心構え 1				
第13回	社会人としての心構え 2				
第14回	知っておきたい法律・規則				
第15回	総括 (学力確認テスト)				
【教科書・参考書】					
講義ではプリントを配布します。					
【学生へのメッセージ】					
講義中は積極的に考え行動してください。また欠席・遅刻をしないよう心掛けてください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
高等学校・専門学校・大学・企業研修を担当いたしました。					

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門科目				キャリア系科目
講義名	[C_sca4] [09] キャリア教育				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (1)		形式 演習
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	Jill Emma Strothman		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman [jill(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>一歩進んだ英語を使えるようになるための授業です。1年次が学ぶ教養英語に加え、より高度な英語を学ぶことによって、SDGs8の目標「働きがいも経済成長も」に繋がります。英語の資格を持てばよりグローバルな仕事が職場の選択肢に加わります。</p>					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
<p>主に英語の上級コース、特に学生に必要な英語知識の応用コースを提供します。本講義をすることにより学生はその希望に則した、それぞれのキャリアに役立つ英語の修得できます。コンピテンシー：外国語リテラシー、文章表現力、口頭発表力、会話力、読解力</p>					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
<p>ここ数年、少人数のため時間を決めて研究室で一对一の学修をしていますが、人数が多いと教室での講義となります。TOEIC狙いの学生にはTOEICの教材を使って、英語で会話をする希望のある学生には会話の教材で対応していきます。</p>					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
<p>毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。受講前に用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。</p>					
【成績評価 (方法・基準)】					
<p>授業への取り組み姿勢 (40%) と、学力確認テスト (40%) と、課題などその他は (20%) です。</p>					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	Pronunciation				
第2回	Greetings				
第3回	You and Your Family				
第4回	Everyday Life in Minobu				
第5回	Future Dreams				
第6回	High School Days				
第7回	中間テスト				
第8回	Reading Comprehension				
第9回	Telephoning				
第10回	Fixing an Appointment				
第11回	Complaints				
第12回	Requests and Offers				
第13回	Specific Career Terminology 1				
第14回	Specific Career Terminology 2				
第15回	学力確認テストと前期のまとめ				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：最初の授業の際、一緒に選びます。参考書：英和・和英辞典など</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>高度な勉強です。発音などに関しては厳しく指導しますので、しっかり話せるようになりたい方に受講していただきたいです。</p>					
【オフィスアワー】					
月曜日 5 時限					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[D_sca2] [11] インターンシップ				
区分	通年（1回）	単位	必修（1）	形式	実習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
	伊東 久実		イトウ クミ	ito kumi [ito(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間、将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直すこと、これを本授業のねらいとする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
将来の就職において、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。インターンシップを行うことにより地域理解、会話力、実践力がつく。具体的には主に(1)課題設定を自ら行い、(2)問題意識をもって、その解決法を構想・計画する。そして(3)その構想・計画に基づいて実行した結果を振り返り改善策を構築すること、以上の力の修得を目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺・一般寺院及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計45時間のインターンシップを行うことにより、1単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学修として、インターンシップで得たことについて纏めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ先の評価及び勤務実績等記載の報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	1 受講資格				
	(1)一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理技能』『データサイエンス』を修得した学生。 ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。 (2)身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、自分自身の進路において非常に価値のある体験です。インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員とよく話し合って決めてください。					
【オフィスアワー】					
桑名法晃（僧道系担当）：火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。 伊東久実（一般系担当）：火曜日15:30-17:00と金曜日15:30-17:00					
【実務経験】					
桑名法晃：日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職。現場に即した授業を行います。 伊東久実：なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[E_sca3] [13] インターンシップ				
区分	通年（1回）	単位	選択（1）	形式	実習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
	伊東 久実		イトウ クミ	ito kumi [ito(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間、将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直すこと、これを本授業のねらいとする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
将来の就職において、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。インターンシップを行うことにより地域理解、会話力、実践力がつく。具体的には主に(1)課題設定を自ら行い、(2)問題意識をもって、その解決法を構想・計画する。そして(3)その構想・計画に基づいて実行した結果を振り返り改善策を構築すること、以上の力の修得を目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺・一般寺院及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計45時間のインターンシップを行うことにより、1単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学修として、インターンシップで得たことについて纏めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ先の評価及び勤務実績等記載の報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	1 受講資格				
	(1)一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理技能』『データサイエンス』を修得した学生。 ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。 (2)身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、自分自身の進路において非常に価値のある体験です。インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員とよく話し合って決めてください。					
【オフィスアワー】					
桑名法晃（僧道系担当）：火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。 伊東久実（一般系担当）：火曜日15:30-17:00と金曜日15:30-17:00					
【実務経験】					
桑名法晃：日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職。現場に即した授業を行います。 伊東久実：なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[F_sca3] [15] インターンシップ				
区分	通年（1回）	単位	選択（1）	形式	実習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
	伊東 久実		イトウ クミ	ito kumi [ito(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間、将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直すこと、これを本授業のねらいとする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
将来の就職において、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。インターンシップを行うことにより地域理解、会話力、実践力がつく。具体的には主に(1)課題設定を自ら行い、(2)問題意識をもって、その解決法を構想・計画する。そして(3)その構想・計画に基づいて実行した結果を振り返り改善策を構築すること、以上の力の修得を目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺・一般寺院及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計45時間のインターンシップを行うことにより、1単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学修として、インターンシップで得たことについて纏めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ先の評価及び勤務実績等記載の報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	1 受講資格				
	(1)一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理技能』『データサイエンス』を修得した学生。 ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。 (2)身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、自分自身の進路において非常に価値のある体験です。インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員とよく話し合って決めてください。					
【オフィスアワー】					
桑名法晃（僧道系担当）：火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。 伊東久実（一般系担当）：火曜日15:30-17:00と金曜日15:30-17:00					
【実務経験】					
桑名法晃：日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職。現場に即した授業を行います。 伊東久実：なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[G_sca4] [17] インターンシップ				
区分	通年（1回）	単位	選択（1）	形式	実習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
	伊東 久実		イトウ クミ	ito kumi [ito(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
学生が一定期間、将来に関連のある企業等の中で研修生として就業体験を行い、自分の進路先及び適正等を見つめ直すこと、これを本授業のねらいとする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
将来の就職において、この体験が役立つようにすることを到達目標とする。インターンシップを行うことにより地域理解、会話力、実践力がつく。具体的には主に(1)課題設定を自ら行い、(2)問題意識をもって、その解決法を構想・計画する。そして(3)その構想・計画に基づいて実行した結果を振り返り改善策を構築すること、以上の力の修得を目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
本学が委託した「委託インターンシップ」と、各個人が縁故による「縁故インターンシップ」がある。一般企業等への就職希望者は、一定期間一般企業へ、僧道への就職希望者は身延山久遠寺・一般寺院及び本学周辺の仏具販売店等への就業体験を行う。合計45時間のインターンシップを行うことにより、1単位を修得できる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修として、インターンシップする企業等の概要について調べておくこと。事後学修として、インターンシップで得たことについて纏めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
受け入れ先の評価及び勤務実績等記載の報告書及び各自のレポートにより評価する。その他詳細については、『身延山大学インターンシップ細則』に準じる。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	1 受講資格				
	(1)一般企業等へのインターンシップ 本学開講科目『情報処理技能』『データサイエンス』を修得した学生。 ワープロソフト及び表計算ソフトが使用できる学生。 (2)身延山久遠寺及び寺院等へのインターンシップ 信行道場に入行できる程度の読経・所作及び声明のできる学生。				
【教科書・参考書】					
特になし。					
【学生へのメッセージ】					
文部科学省、経済産業省、厚生労働省や各経済団体は、インターンシップを積極的に推進しており、インターンシップを取り入れている企業は年々増加しています。特に中小企業やベンチャー企業にとっては、優秀な人材と出会う機会としても意義が大きいものといわれています。また、自分自身の進路において非常に価値のある体験です。インターンシップ内容やインターンシップ先については、担当教員とよく話し合って決めてください。					
【オフィスアワー】					
桑名法晃（僧道系担当）：火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。 伊東久実（一般系担当）：火曜日15:30-17:00と金曜日15:30-17:00					
【実務経験】					
桑名法晃：日蓮宗教師・宗教法人妙法寺副住職。現場に即した授業を行います。 伊東久実：なし					

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 専門科目	キャリア系科目

講義名	[H_sca3] [01] 手話実践（日常会話）
-----	--------------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（1）	形式	演習
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	望月 香代	モチヅキ カヨ	mochizuki kayo [kayomochi(a)]
------	-------	---------	-------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

手話を学ぶこと、実践を通してで知った聴覚障害者の存在「異文化理解」を基に、言語としての手話の力「会話力」を深めていきます。実践の会話を広げ日常会話の基本を演習することでさらに手話を身に付け、手話を読み取れるように進めてさらに「表現力」を育てます。また手話言語を身に付けることでSDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」の学びに繋がります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

前年までに、聴覚障害者とのコミュニケーションとはどのようなものか、体験を通して学んで来ています。そのことを基礎とし、手話の特徴を学びながら語彙を増やすことでさらにコミュニケーション力が身につくようになります。また聴覚障害者の理解をさらに深めるため、聴覚障害者から話をしてもらい時間を作り、実践的な学びから異文化理解を具体的にできるようにします。

【授業方法（フィードバックの内容）】

テキストに添いながら、生活で使う手話の語彙を繰り返し覚えていきます。また、自分のことが手話で話せるように、毎回一人一人が発表を行います。実践を主にした授業を進めていきます。聴覚障害者とのコミュニケーションにより、聞こえないことを具体的に学べるようにします。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、第2回目以降の講義の最後に次回の講義の内容を指定する。テキスト内容を確認すること。事後学修（2時間以上）は、授業中に覚えた単語を復習しておくこと。また出された内容について調べ、授業中に気付いたこと、疑問点等を整理することを要する。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（40%、講義中に手話での発表をしてもらう。最低3回×10%=30%+発表者に対し意見や感想など、積極的な授業参加を評価=10%）、小テスト（20%、単語・文章の読み取り・表現のテスト）、学力確認テスト（40%）により総合評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション（授業の進め方、テキストの紹介） 自己紹介（名前・住所・家族・趣味・数字）表現と読み取り1
第2回	自己紹介（仕事・あなたの家・指文字）表現と読み取り2
第3回	話しかけてみましょう（一日・ヶ月・一年）表現と読み取り1
第4回	話しかけてみましょう 表現と読み取り2
第5回	話しあってみましょう 表現と読み取り3
第6回	まとめ
第7回	実践（聴覚障害者と交流することでSDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」について考えよう）
第8回	具体的表現1（形・動作・状況を工夫して表現しましょう）
第9回	具体的表現2（意味をつかんで表現しましょう）
第10回	置き換えの表現（意味に合った手話を表現しましょう）
第11回	実践（聴覚障害者と交流することでSDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」について考えよう）
第12回	表情（表情の強弱・速度を工夫して表現しましょう）
第13回	主語の明確化1（位置・方向を工夫して表現しましょう）
第14回	主語の明確化2（位置・方向を工夫して表現しましょう）
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：『手話を学ぼう 手話で話そう』（社会福祉法人全国手話研修センター）2014年、『手にことばを』（公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟）2020年。参考書：『今すぐはじめる手話テキスト 聴さんと学ぼう!』（一般社団法人全日本ろうあ連盟）2014年。

【学生へのメッセージ】

前年度学んだことを土台にし自分が伝えたいことをまとめる準備をして授業に出席してください。コミュニケーションを通して伝えること・伝わることを感じられるように進めていきます。

【オフィスアワー】

水曜日11:00-14:00と授業終了後。質問はメール（kayomochi(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

手話通訳士、山梨県登録手話通訳者、手話通訳養成講座運営委員、手話奉仕員・手話通訳者養成講師の経験を生かした授業を展開します。

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		キャリア系科目		
講義名	[l_sca3] [03] 手話実践 (通常会話)				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (1)	形式	演習
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	望月 香代		モチヅキ カヨ	mochizuki kayo [kayomochi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>今まで学んできた視覚言語である手話とはどのようなものなのかを自分の言葉で話せるようにしてもらいます。社会の中に共に暮らす聴覚障害者の存在を理解したうえで、自己紹介、実践会話を通して身に付けた手話をさらに使用言語となるように授業を進めます。理解と実践によって「異文化理解」「人間力」「コミュニケーション力」の向上につながります。授業を通して考えることでSDGs10「人や国の不平等をなくそう」の学びをさらに考える時間となります。</p>					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
<p>聴覚障害者は私たちと同じ社会で暮らしています。今後、出会うこともあるはず。その時、当たり前前にコミュニケーションができるのは大切なことです。また、聴覚障害者について他の人に話せること、それは人間力に繋がります。会話、実践を通して学びます。それによりコミュニケーション力が身につきます。また、仲間とのコミュニケーションも必要だと再確認ができるように、グループで学びます。</p>					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
<p>前半はテキストを使用しながら、語彙の確認を中心に実践練習を行います。後半は、聴覚障害者を考えて自分ができるコミュニケーションを考え、手話で発表できるように確認していきます。</p>					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
<p>事前学修 (2時間以上) は、第2回目以降の講義の最後に次回の講義の内容を指定する。テキスト内容を確認すること。事後学修 (2時間以上) は、授業中に覚えた単語・文章を復習しておくこと。また出された内容について調べ、授業で気付いたこと疑問点を整理することを要する。</p>					
【成績評価 (方法・基準)】					
<p>授業への取り組み姿勢 (40%、講義中に手話での発表をしてもらう。最低3回×10%=30% + 発表者に対し意見や感想など、積極的な授業参加を評価=10%)、小テスト (20%、単語・文章の読み取り・表現のテスト)、学力確認テスト (40%) により総合評価します。</p>					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション (授業の進め方、テキストの紹介、基本文法の確認)				
第2回	手話の形・方向・位置のまとめ1				
第3回	手話の形・方向・位置のまとめ2				
第4回	手話の形・方向・位置のまとめ3				
第5回	手話の形・方向・位置のまとめ4				
第6回	手話の形・方向・位置のまとめ5				
第7回	実践 (聴覚障害者と交流することでSDGs10の目標「人や国の不平等をなくそう」について考えよう)				
第8回	主語の明確化 指さしを使って表現しましょう1				
第9回	主語の明確化 指さしを使って表現しましょう2				
第10回	主語の明確化 体の向きをかえて表現しましょう1				
第11回	主語の明確化 体の向きをかえて表現しましょう2				
第12回	空間の活用1				
第13回	空間の活用2				
第14回	空間の活用3				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：『手話を学ぼう 手話で話そう』（社会福祉法人全国手話研修センター）2014年、『手にことばを』（公益社団法人東京都聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟）2020年。参考書：『今すぐはじめる手話テキスト：聴さんと学ぼう！』（一般社団法人全日本ろうあ連盟）2014年。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>授業中に仲間通してやり取りしたことを考え、復習し次の受講をすることが望ましい。今後自分が人として成長していく上で、何が大切なのか、何をしなければならないかを、一人一人が考え、みんなで話せるようにしてほしい。</p>					
【オフィスアワー】					
水曜日11:00-14:00と授業終了後。質問はメール (kayomochi(a)min.ac.jp) でも可。					

【実務経験】

手話通訳士、山梨県登録手話通訳者、手話通訳養成講座運営委員、手話奉仕員・手話通訳者養成講師の経験を生かした授業を展開します。

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文	
講義名	[A_sse3] [09]【日蓮学専攻2】ゼミナール 金 炳坤					
区分	前期（15回）		単位	必修（1）		形式 演習
授業年次	--	2年	--	--		
担当教員	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byungkon [kim(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
インド、中国、韓国、日本の仏教史や仏教思想について学び、仏教者として総合的・多角的な知識を身につけ、社会的課題の解決方法を探究し、布教現場における指導者を目指していきます。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
仏教学に対する研究を行っていくうえで必要な基礎学力を身につけることを到達目標とします。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報分析力、読解力、論理的思考力、構想力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
日蓮学専攻（2, 3年次編入生を含む）の学生を対象に、より専門性の高いゼミナール、卒業論文指導へと、体系的につながる教育課程が円滑に続くように、文献講読を通じたアクティブ・ラーニング型授業を展開し、各自の研究分野の設定を促していきます。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。事前学修（2時間以上）では、授業計画を確認し、教科書に対する調べ学修を行うこと。事後学修（2時間以上）では、教科書及び参考書等を駆使して、前回の授業内容に対する理解を深めておくこと。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業への取り組み姿勢（30%）、学修課題の提出及び発普（50%）、研究分野希望調査票案の作成（20%）により総合評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	[4月10日] ガイダンス：履修相談（履修の手引き）シラバス / 自己紹介					
第2回	[4月17日] 文献講読：仏教伝来（第1から3回）					
第3回	[4月24日] 文献講読：仏教伝来（第4から6回）					
第4回	[5月15日] 文献講読：仏教伝来（第7から9回） 令和6年度主専攻副専攻資格希望調査（前期）確認					
第5回	[5月22日] 文献講読：仏教伝来（第10から12回）					
第6回	[5月29日] 文献講読：仏教伝来（第13から15回）					
第7回	[6月5日] 文献講読：仏教伝来（第16から18回）					
第8回	[6月12日] 文献講読：仏教伝来（第19から21回）					
第9回	[6月19日] 文献講読：仏教伝来（第22から24回）					
第10回	[6月26日] まとめと発表1					
第11回	[7月3日] 宗教年鑑（日本の宗教の概要、仏教と仏教系の諸教団 [p.7-]）					
第12回	[7月10日] 宗教年鑑（宗教統計、第6普@包括宗教団体別被包括宗教段階・教師・信徒数、仏教系 [p.66-]）					
第13回	[7月17日] 宗教年鑑（平成7年度から令和5年度までの推移作成）					
第14回	[7月24日] まとめと発表2					
第15回	[7月31日] 「研究分野希望調査票」の作成					
【教科書・参考書】						
教科書：教育リソースを提供する。参考書：『仏教史研究ハンドブック』佛教史学会編（法蔵館）2017年。参考書：『インド哲学 仏教学への誘い』菅沼晃博士古稀記念論文集刊行会編（大東出版社）2005年。その他：『履修の手引き 令和6年度』身延山大学仏教学部仏教学科編（身延山大学仏教学部仏教学科）2024年。『宗教年鑑 令和5年度版』文化庁編（文化庁）2023年、『仏教伝来』福土慈稔（法蔵館）刊行予定。						
【学生へのメッセージ】						
自他ともに利するような、ライフワークとして今後も継続的に取り組んでいきたくなるような研究テーマを、今年度中に選ぶことです。そのため必要なこと、それは時間をかけることです。それから担当教員（A/A）とよく話し合うことでしょう。						
【オフィスアワー】						
授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。						
【実務経験】						
なし						

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[B_sse4] [29]【日蓮学専攻2】ゼミナール 金 炳坤				
区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮教学、日蓮教団史の基礎知識を学び、宗教者として総合的・多角的な知識を身につけ、社会的課題の解決方法を探究し、布教現場における指導者を目指していきます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮学に対する研究を行っていくうえで必要な基礎学力を身につけることが到達目標となります。 コンピテンシー：文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
日蓮学専攻（2, 3年次編入生を含む）の学生を対象に、より専門性の高いゼミナール、卒業論文指導へと、体系的につながる教育課程が円滑に続くように、文献講読を通じたアクティブ・ラーニング型授業を展開し、各自の研究分野の設定を確かなものにしていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。事前学修（2時間以上）では、授業計画を確認し、教科書に対する調べ学修を行うこと。事後学修（2時間以上）では、教科書及び参考書等を駆使して、前回の授業内容に対する理解を深めておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（30%）、学修課題の提出及び発普i50%）、研究分野希望調査票案の提出（20%）により総合評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	[9月25日] ガイダンス / 履修相談 / 文献講読 1：日蓮と法華経				
第2回	[10月2日] 同上 2：第1章 救世主の出現				
第3回	[10月9日] 同上 3：第2章 法難の時代				
第4回	[10月16日] 同上 4：第3章 闘争の終焉				
第5回	[10月23日] 同上 5：第4章 日蓮宗の発展				
第6回	[10月30日] 同上 6：第5章 法華経とは何か				
第7回	[11月6日] 同上 7：第6章 日蓮の法華経観				
第8回	[11月13日] まとめと発表 1				
第9回	[11月20日] 卒業論文 / 研究分野希望調査票案の作成及び提出				
第10回	[11月27日] アカデミック・スキルズ：本を読む				
第11回	[12月4日] 同上 2：情報整理				
第12回	[12月11日] 同上 3：研究成果の発表				
第13回	[12月18日] 同上 4：プレゼンテーション（口頭発表）のやり方				
第14回	[1月8日] 同上 5：論文・レポートをまとめる				
第15回	[1月22日] まとめと発表 2				
【教科書・参考書】					
教科書：『図説あらすじでわかる！ 日蓮と法華経』永田美穂監修（青春出版社）2010年、『大学生のための知的技法入門：アカデミック・スキルズ（第3版）』佐藤望編著（慶應義塾大学出版会）2020年。参考書：『日蓮辞典（新装版）』宮崎英修編（東京堂出版）2013年。					
【学生へのメッセージ】					
自他ともに利するような、ライフワークとして今後も継続的に取り組んでいきたいような研究テーマを、今年度中に選ぶことです。そのため必要なこと、それは時間をかけることです。それから担当教員（A/A）とよく話し合うことでしょう。					
【オフィスアワー】					
授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[C_sse4] [47]【日蓮学専攻3】ゼミナール 木村中一				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi [kimura(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本ゼミナールは日本仏教史を中心に、研究文献及び史料の講読を主として文献学的ゼミナールを行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
本ゼミナールは日本における仏教の歴史を中心に、演習を主として、(1)研究文献及び史料の講読を行うことにより「読解力」を養い、(2)また本ゼミ受講によって、主としては日蓮聖人、また日蓮教団史を主なテーマとするが他教団側の日蓮教団に対する「情報収集力」「分析力」を養う。(3)また先行研究に対し「論理的構成力」を培い「批判的思考力」も修得する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
史料などに対する疑問などを受講生全員で「共有し考える」ことを目的とする。タブレット端末やICT機器を使用し、双方向授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前に課題させる課題についての学修（2時間以上）と、受講後の理解の深めと応用方法学修（2時間以上）を行うこと。随時指示された史料などを使用しノートの整理を行い、講義内容の理解を深めてもらいたい。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポート（30%）、発普i30%）、授業への積極的参加姿勢（40%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	研究方法				
第3回	参考文献の使用法と検索法				
第4回	研究文献及び史料の講読				
第5回	研究文献及び史料について1				
第6回	研究文献及び史料について2				
第7回	研究文献及び史料について3（受講生発表用意：図書館予定）				
第8回	研究文献及び史料について4（受講生発表用意：図書館予定）				
第9回	研究文献及び史料について5（受講生発表用意：図書館予定）				
第10回	研究文献及び史料について6（受講生発表）				
第11回	研究文献及び史料について7（受講生発表に対するリアクション：受講生討議）				
第12回	研究文献及び史料について8（受講生発表に対するリアクション：受講生討議）				
第13回	研究文献及び史料について9（受講生発表用意：図書館予定）				
第14回	研究文献及び史料について（受講生発表）				
第15回	まとめ 卒業論文執筆に向けて ~テーマ・論題について~				
【教科書・参考書】					
随時指示する。					
【学生へのメッセージ】					
研究文献及び史料について、受講生が自ら選択したテーマ・史料について発表を行うので問題意識をもって受講してもらいたい。ゼミナールとの連続授業である。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はメール（kimura(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[C_sse4] [55]【日蓮学専攻3】ゼミナール 桑名法晃				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮教学の研究方法を身につけ、日蓮聖人遺文を中心とする教学書の講読・発表を通して、深く読み込む力を養い、卒業論文作成に必要な基礎学力・応用力の修得を目的とします。2年次ゼミナールで修得した基礎学力をさらに向上させ、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、自らの資質を向上させ、社会的自立を図るために必要な能力を育成します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮教学の研究を行い卒業論文を作成するために必要となる学力を修得することが到達目標となります。コンピテンシー：文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
日蓮教学研究を行う上で必要となる文献の探し方・調べ方・扱い方を教授し、文献講読と発表を通して文献資料を深く読み込む力を徹底して修得させていきます。具体的には、テキストとして用いる文献を講読し、毎回各自発表を行い、学生同士議論しながら授業を進めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。毎回担当者を決めて発表を行うため、事前学修では、テキストとして用いる文献を読み込み、発表準備を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
発普(30%)、レポート(30%)、授業への参加姿勢(40%)で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	研究方法 1				
第3回	研究方法 2				
第4回	資料収集方法				
第5回	資料収集と整理法				
第6回	テキスト講読 1				
第7回	テキスト講読 2				
第8回	テキスト講読 3				
第9回	テキスト講読 4				
第10回	テキスト講読 5				
第11回	テキスト講読 6				
第12回	テキスト講読 7				
第13回	テキスト講読 8				
第14回	テキスト講読 9				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
受講生のテーマに応じてテキストを選択する。参考書についても授業の中において随時紹介していく。					
【学生へのメッセージ】					
難解な文章も繰り返し繰り返し読み込み、力を養っていきましょう。					
【オフィスアワー】					
火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[D_sse5] [67]【日蓮学専攻3】ゼミナール 木村中一				
区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi [kimura(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本ゼミナールは日本における仏教の歴史を中心に、研究文献及び史料の講読を主として文献学的ゼミナールを行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
本ゼミナールは日本における仏教の歴史を中心に、演習を主として、(1)研究文献及び史料の講読を行うことにより「読解力」を養い、(2)また本ゼミ受講によって、主としては日蓮聖人、また日蓮教団史を主なテーマとするが他教団側の日蓮教団に対する情報収集力、「分析力」を養う。(3)また先行研究に対し「論理的構成力」を培い「批判的思考力」も修得する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
史料などに対する疑問などを受講生全員で「共有し考える」ことを目的とする。タブレット端末やICT機器を使用し、双方向授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前に出題させる課題についての学修（2時間以上）と、受講後の理解の深めと応用方法学修（2時間以上）を行うこと。随時指示された史料などを使用しノートの整理を行い、講義内容の理解を深めてもらいたい。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポート（30%）、発普（30%）、授業への積極的参加姿勢（40%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	研究方法				
第3回	参考文献の使用法と検索法				
第4回	研究文献及び史料の講読				
第5回	研究文献及び史料について1				
第6回	研究文献及び史料について2				
第7回	研究文献及び史料について3				
第8回	研究文献及び史料について4（受講生発表用意：図書館予定）				
第9回	研究文献及び史料について5（受講生発表用意：図書館予定）				
第10回	研究文献及び史料について6（受講生発表用意：図書館予定）				
第11回	研究文献及び史料について7（受講生発表）				
第12回	研究文献及び史料について8（受講生発表に対するリアクション：受講生討議）				
第13回	研究文献及び史料について9（受講生発表に対するリアクション：受講生討議）				
第14回	研究文献及び史料について10（受講生発表）				
第15回	まとめ 卒業論文執筆に向けて ～目次・問題設定～				
【教科書・参考書】					
随時指示する。					
【学生へのメッセージ】					
研究文献及び史料について、受講生が自ら選択したテーマ・史料について発表を行うので問題意識をもって受講してもらいたい。ゼミナールとの連続授業である。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はメール（kimura(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[D_sse5] [75]【日蓮学専攻3】ゼミナール 桑名法晃				
区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮教学の研究方法を身につけ、日蓮聖人遺文を中心とする教学書の講読・発表を通して、深く読み込む力を養い、卒業論文作成に必要な基礎学力・応用力の修得を目的とします。2年次ゼミナール・ゼミナールで修得した基礎学力をさらに向上させ、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養し、自らの資質を向上させ、社会的自立を図るために必要な能力を育成します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮教学の研究を行い卒業論文を作成するために必要となる学力を修得することが到達目標となります。コンピテンシー：文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
日蓮教学研究に関する文献講読と発表を通して文献資料を深く読み込む力を徹底して修得させていきます。具体的には、テキストとして用いる文献を講読し、毎回各自発表を行い、学生同士議論しながら授業を進めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。毎回担当者を決めて発表を行うため、事前学修では、テキストとして用いる文献を読み込み、発表準備を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
発普(30%)、レポート(30%)、授業への参加姿勢(40%)で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	文献講読 1				
第3回	文献講読 2				
第4回	文献講読 3				
第5回	文献講読 4				
第6回	文献講読 5				
第7回	文献講読 6				
第8回	文献講読 7				
第9回	文献講読 8				
第10回	文献講読 9				
第11回	文献講読10				
第12回	文献講読11				
第13回	文献講読12				
第14回	文献講読13				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
受講生のテーマに応じてテキストを選択する。参考書についても授業の中において随時紹介していく。					
【学生へのメッセージ】					
難解な文章も繰り返し繰り返し読み込み、力を養っていきましょう。後期中で、卒業論文の具体的なテーマを決めていただきます。常に問題意識と明確な目標をもって学を深めていきましょう。					
【オフィスアワー】					
火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール(hkuwana(a)min.ac.jp)でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分			分野
令和6年度	全専攻共通 専門科目			ゼミナール・卒業論文
講義名	[E_sst6] [19]【日蓮学専攻4】卒業論文 桑名法晃			
区分	通年（30回）	単位	必修（8）	形式 演習
授業年次	--	--	--	4年
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
日蓮聖人教学・日蓮教学史をテーマとした卒業論文を執筆するための指導を行います。本学の定めるディプロマ・ポリシーの内特に日蓮学専攻に求められる、仏教学・仏教史・日蓮教学・日蓮教団史の専門知識を学修し仏教者として総合的・多角的な知識を身につけ、日蓮宗僧侶として布教現場に即応学できる力を身につけた人材の育成を目的とします。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
卒業論文を執筆するために必要な能力、先行研究の収集・整理、読解力、批判的思考力、論理的思考力、文章表現力、課題設定力、構想力、計画力、課題解決力等を修得し、卒業論文を完成することを目標とします。				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
個々のテーマに即して、年間計画に沿った徹底した指導を行います。毎回課題を出し、授業までにメールで提出してもらい、問題点を中心に授業を進めていきます。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修は、毎回の課題に取り組み（2時間以上）、事後学修は授業中に指摘された点を中心に、さらに理解を深めるための努力を行い、卒業論文に反映させていく（2時間以上）。				
【成績評価（方法・基準）】				
卒業論文（60%）、口頭試問（10%）、授業への取り組み姿勢（30%）により総合的に評価します。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	ガイダンス			
第2回	研究テーマの設定			
第3回	先行研究の収集と整理 その1			
第4回	先行研究の収集と整理 その2			
第5回	研究方法の検討			
第6回	目次の作成 その1			
第7回	目次の作成 その2			
第8回	資料収集と読み込み その1			
第9回	資料収集と読み込み その2			
第10回	資料収集と読み込み その3			
第11回	参考文献の作成 その1			
第12回	参考文献の作成 その2			
第13回	論文作成 その1			
第14回	論文作成 その2			
第15回	進捗状況の発表と夏期休暇中の課題について			
第16回	進捗状況の報告と目次訂正			
第17回	論文作成 その3			
第18回	論文作成 その4			
第19回	論文作成 その5			
第20回	論文作成 その6			
第21回	論文作成 その7			
第22回	論文作成 その8			
第23回	論文作成 その9			
第24回	論文作成 その10			
第25回	論文作成 その11			
第26回	論文作成 その12			
第27回	卒業論文提出			
第28回	口頭試問に向けた指導 1			
第29回	口頭試問に向けた指導 2			
第30回	まとめ			

【教科書・参考書】
それぞれのテーマに応じて随時指示します。
【学生へのメッセージ】
日蓮聖人の教えを信解体得するためには多くの犠牲と困難が伴うものである。覚悟をもって努めた者にしか分からない境地があろう。退転することなく継続して取り組み、前進されたい。
【オフィスアワー】
火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール（ hkuwana(a)min.ac.jp ）でも可。
【実務経験】
なし

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文
講義名	[E_sst6] [07]【日蓮学専攻4】卒業論文 木村中一				
区分	通年（30回）	単位	必修（8）		形式 演習
授業年次	--	--	--	4年	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本論文指導は日本仏教史関連論文について、研究文献及び史料の資料精査より卒業論文執筆における指導を行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
本論文指導は日本仏教史関連論文について、研究文献及び史料の資料精査より卒業論文執筆における指導を中心に、(1)研究文献及び史料の講読を行うことにより「読解力」を養い、(2)また本ゼミ受講によって、主としては日蓮聖人、また日蓮教団史を主なテーマとするが他教団側の日蓮教団に対する「情報収集力」「分析力」を養う。(3)また先行研究に対し「論理的構合力」を培い「批判的思考力」も修得する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
史料などに対する疑問などを指導教員と共に考察し、それをまとめることを目的とする。時にはタブレット端末やICT機器を使用し、双方向授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前に課題させる課題についての学修（2時間以上）と、受講後の理解の深めと応用方法学修（2時間以上）を行うこと。随時指示された史料などを使用しノートの整理を行い、講義内容の理解を深めてもらいたい。					
【成績評価（方法・基準）】					
論文内容（70%）、口頭試問（10%）、積極的な取り組み姿勢（20%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	卒論指導オリエンテーション				
第2回	研究方法 問題提起				
第3回	参考文献の使用法と検索法 1				
第4回	参考文献の使用法と検索法 2				
第5回	研究文献及び史料の講読				
第6回	参考文献の使用法と検索法 1				
第7回	参考文献の使用法と検索法 2				
第8回	研究文献及び史料について 1				
第9回	研究文献及び史料について 2				
第10回	卒業論文執筆 1				
第11回	卒業論文執筆 2				
第12回	卒業論文執筆 3				
第13回	卒業論文執筆 4				
第14回	卒業論文執筆 5				
第15回	卒業論文執筆 6				
第16回	卒業論文執筆 7				
第17回	卒業論文執筆 8				
第18回	卒業論文執筆 9				
第19回	卒業論文執筆10				
第20回	卒業論文執筆11				
第21回	卒業論文執筆12				
第22回	卒業論文執筆13				
第23回	卒業論文執筆14				
第24回	卒業論文執筆15				
第25回	卒業論文執筆16				
第26回	卒業論文執筆17				
第27回	卒業論文執筆18				
第28回	卒業論文執筆19				
第29回	卒業論文執筆20				
第30回	まとめ				

【教科書・参考書】
随時指示する。
【学生へのメッセージ】
研究文献及び史料について、受講生が自ら選択したテーマ・史料について発表してもらうので、問題意識をもって受講してもらいたい。
【オフィスアワー】
火曜日 4 時限目、水曜日 2 時限目、質問はメール (kimura(a)min.ac.jp) でも可。
【実務経験】
なし

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文	
講義名	[F_sse3] [65]【文学・芸術専攻2（論文）】ゼミナール 白景皓					
区分	前期（15回）		単位	必修（1）		形式 演習
授業年次	--	2年	--	--		
担当教員	白景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
仏教学・仏教史の専門知識を学修し、文献の基本的な扱い方・調べ方を解説した上で、日本の仏教文献を講読することで、仏教諸宗の要点と基礎を概観していきます。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
日本の仏教文献を読むことを通し、「情報収集力」「分析力」「読解力」「課題設定力」などを身につけることを目標とします。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
ゼミナールでは、文学・芸術専攻の3年次編入学生を対象に、より専門性の高いゼミナールへの円滑かつ体系的な教育課程の移行ができるように、アクティブ・ラーニング型の授業を展開し、各自の研究分野の設定に徹する。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学修（2時間以上）は、指定図書を読んで、次回の授業に備えること。事後学修（2時間以上）は、教育リソース及び参考書を読んで、前回の授業内容をまとめること。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業への取り組み姿勢（50%）、学修課題の提出と発表（50%）により総合評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	ガイダンス / 卒業論文とは / 各人の興味関心の報告					
第2回	論文の書き方					
第3回	文献の探し方と参考文献の書き方					
第4回	講読文献の決定と紹介					
第5回	講読文献の解説1 成実宗、俱舎宗、律宗					
第6回	講読文献の解説2 三論宗、法相宗					
第7回	講読文献の解説3 華嚴宗					
第8回	講読文献の解説4 天台宗					
第9回	課題発表1					
第10回	講読文献の解説5 真言宗					
第11回	講読文献の解説6 浄土宗、浄土真宗					
第12回	講読文献の解説7 日蓮宗					
第13回	講読文献の解説8 禅宗					
第14回	課題発表2 / コメント					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：資料を配布する。『仏教十二宗綱要』小栗栖香頂著（仏教書英訳出版舎）1886年。参考書：『仏典講座 八宗綱要』平川彰（大蔵出版）2004年、『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』末木文美士（新潮文庫）1996年、『日本仏教史』袁輪顕量（春秋社）2015年。						
【学生へのメッセージ】						
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。						
【オフィスアワー】						
授業後または火、水、木曜日のオフィスアワーに対応します。						
【実務経験】						
なし						

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文	
講義名	[G_sse4] [65]【文学・芸術専攻2（論文）】ゼミナール 白景皓					
区分	後期（15回）		単位	必修（1）		形式 演習
授業年次	--	2年	--	--		
担当教員	白景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
仏教学・仏教史の専門知識を学修し、文献の基本的な扱い方・調べ方を解説した上で、東アジアの仏教文献を講読することで、ブツダの伝記と仏教の史伝文学を解説していきます。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
仏教文化と関連する研究を行っていくために必要となる基礎学力を身につけることが到達目標となります。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
必要となる文献の探し方・調べ方・扱い方を教授し、文献講読を通して文献資料を読み込む力を修得させていきます。自ら研究テーマを決めて取り組む、より専門性の高い3年次の「ゼミナール」、4年次の「卒業論文指導」への導入として、専門課程の基礎を徹底させていきます。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。毎回担当を決めて発表を行うため、事前学修では、テキストとして用いる文献を読み込み、発表準備を行うこと。						
【成績評価（方法・基準）】						
毎回のレポート（50%）、授業への参加姿勢（50%）により総合評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	ガイダンス / 講読文献の決定と紹介					
第2回	仏教文献『造立形像福報経』の講読1					
第3回	仏教文献『造立形像福報経』の講読2					
第4回	仏教文献『造立形像福報経』の講読3					
第5回	仏教文献『造立形像福報経』の講読4					
第6回	仏教文献『造立形像福報経』の講読5					
第7回	仏教文献『造立形像福報経』の講読6					
第8回	飛鳥天平時代の仏像芸術史の講読					
第9回	平安時代前期の仏像芸術史の講読					
第10回	平安時代後期の仏像芸術史の講読					
第11回	鎌倉時代の仏像芸術史の講読					
第12回	室町戦国時代の仏像芸術史の講読					
第13回	江戸時代の仏像芸術史の講読					
第14回	近現代の仏像芸術史の講読					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：資料を配布する。						
参考書：村松哲文（2022）『駒澤大学仏教学部教授が語る仏像鑑賞入門』集英社新書。						
【学生へのメッセージ】						
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。						
【オフィスアワー】						
授業後または火、木曜日のオフィスアワーに対応します。						
【実務経験】						
なし						

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[K_sse3] [17]【文学・芸術専攻2（制作）】ゼミナール 柳本 伊左雄				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	柳本 伊左雄	ヤナギモト イサオ	yanagimoto isao [yanagi(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
仏像制作を前提として、基本的技術の修得を行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
立体（三次元）を制作する上での俯瞰的感覚を育てる。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
工房所有の仏像原型、あるいは卒業制作を念頭に置き、写真その他立体原型のデッサンを行う（選択肢として卒業制作が工房所有の原型模刻でも可）。デッサンを中心に授業を進めるが個人差があるため、早めに粘土原型制作に進む場合もある。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
時間数の上限は決めないが、各自の必要に応じてできるだけ多く行う。授業以外に工作室において不足分を補う必要がある。					
【成績評価（方法・基準）】					
完成作品（デッサン・粘土原型）の修得程度による採点（50%）、授業への取り組み姿勢（25%）、事前・事後学修を含む受講時間外制作（25%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方、用具の説明、対象仏像の決定				
第2回	資料の収集				
第3回	デッサン1				
第4回	デッサン2				
第5回	デッサン3				
第6回	デッサン4				
第7回	デッサン5				
第8回	デッサン6				
第9回	デッサン7				
第10回	デッサン8				
第11回	デッサン9				
第12回	デッサン10				
第13回	デッサン11				
第14回	デッサン12				
第15回	評価・採点				
【教科書・参考書】					
日本彫刻史基礎資料集成（中央公論美術出版）・日本の美術（至文堂）・原色日本の美術（小学館）					
【学生へのメッセージ】					
仏像制作における基礎（今年度講義においてはデッサン）には完成はなく、続ける限り並行して行っていく必要がある。					
【オフィスアワー】					
工作室活動時間（9:00-17:00）、工房活動時間（9:00-22:00）内。（日曜日を除く）					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[L_sse4] [37]【文学・芸術専攻2（制作）】ゼミナール 柳本 伊左雄				
区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ	yanagimoto isao [yanagi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
仏教美術を通して仏像の制作技術を習修する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
塑造による仏像原型制作を行い、仏像制作の基礎を修得する。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
卒業制作を視野に入れ、木彫のための粘土原型を完成させる。時間に余裕があれば3Dプリンターによる型取りを行う場合がある。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
時間的に不足することが予想されるので、実習棟工作室において原型制作を行い不足分を補う。					
【成績評価（方法・基準）】					
作品・仏像原型（50%）、授業への取り組み姿勢（25%）、事前・事後学修を含む受講時間外制作（25%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	原型作成準備、用具の調整・確保等				
第2回	芯棒作成				
第3回	仏像（塑造）の制作 1				
第4回	仏像（塑造）の制作 2				
第5回	仏像（塑造）の制作 3				
第6回	仏像（塑造）の制作 4				
第7回	仏像（塑造）の制作 5				
第8回	仏像（塑造）の制作 6				
第9回	仏像（塑造）の制作 7				
第10回	仏像（塑造）の制作 8				
第11回	仏像（塑造）の制作 9				
第12回	仏像（塑造）の制作10				
第13回	仏像（塑造）の制作11				
第14回	仏像（塑造）の制作12				
第15回	批評・評価採点				
【教科書・参考書】					
工房作成の動画・工房所有仏像原型・資料等日本彫刻史基礎資料集成（中央公論美術出版）。					
【学生へのメッセージ】					
作業が遅れた学生は、受講時間外（事前・事後学習）に原型制作を行ってもらおう。粘土ペラ・油粘土等については各自用意する。					
【オフィスアワー】					
工作室活動時間（9:00-17:00）、工房活動時間（9:00-22:00）内。（日曜日を除く）					
【実務経験】					
なし					

年度	区分			分野	
令和6年度	全専攻共通 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[M_sse4] [57]【文学・芸術専攻3（制作）】ゼミナール 柳本 伊左雄				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
仏像制作を前提として、基本的技術の修得を行う。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
立体（三次元）を制作する上での俯瞰的感覚を育てる。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
工房所有の仏像原型、あるいは卒業制作を念頭に置き、写真その他立体原型のデッサンを行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
時間数の上限は決めないが、各自の必要に応じてできるだけ多く行う。授業終了後に工房にて22時前後まで不足分を補う。					
【成績評価（方法・基準）】					
完成作品（デッサン）の修得程度による採点（50％）、授業への取り組み姿勢（25％）、事前・事後学修を含む受講時間外制作（25％）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方、用具の説明、対象仏像の決定				
第2回	資料の収集				
第3回	デッサン1				
第4回	デッサン2				
第5回	デッサン3				
第6回	デッサン4				
第7回	デッサン5				
第8回	デッサン6				
第9回	デッサン7				
第10回	デッサン8				
第11回	デッサン9				
第12回	デッサン10				
第13回	デッサン11				
第14回	デッサン12				
第15回	評価・採点				
【教科書・参考書】					
日本彫刻史基礎資料集成（中央公論美術出版）・日本の美術（至文堂）・原色日本の美術（小学館）					
【学生へのメッセージ】					
仏像制作における基礎（今年度講義においてはデッサン）には完成はなく、続ける限り並行して行っていく必要がある。					
【オフィスアワー】					
工作室活動時間（9:00-17:00）、工房活動時間（9:00-22:00）内。（日曜日を除く）					
【実務経験】					
なし					

年度	区分			分野	
令和6年度	全専攻共通 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[N_sse5] [77]【文学・芸術専攻3（制作）】ゼミナール 柳本 伊左雄				
区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
仏教美術を通して仏像の制作技術を習修する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
塑造による仏像制作（模刻）を行い、仏像制作の基礎を修得する。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
卒業制作を視野に入れ、木彫のための粘土原型を完成させる。時間に余裕があれば3Dプリンターによる型取りを行う場合がある。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
時間的に不足することが予想されるので、実習棟工作室において原型制作を行い不足分を補う。					
【成績評価（方法・基準）】					
作品・仏像原型（50%）、授業への取り組み姿勢（25%）、事前・事後学修を含む受講時間外制作（25%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	原型作成準備、用具の調整・確保等				
第2回	芯棒作成				
第3回	仏像（塑造）の制作 1				
第4回	仏像（塑造）の制作 2				
第5回	仏像（塑造）の制作 3				
第6回	仏像（塑造）の制作 4				
第7回	仏像（塑造）の制作 5				
第8回	仏像（塑造）の制作 6				
第9回	仏像（塑造）の制作 7				
第10回	仏像（塑造）の制作 8				
第11回	仏像（塑造）の制作 9				
第12回	仏像（塑造）の制作10				
第13回	仏像（塑造）の制作11				
第14回	仏像（塑造）の制作12				
第15回	批評・評価採点				
【教科書・参考書】					
工房作成の動画・工房所有仏像原型・資料等日本彫刻史基礎資料集成（中央公論美術出版）					
【学生へのメッセージ】					
作業が遅れた学生は、受講時間外（事前・事後学習）に原型制作を行ってもらおう。粘土ペラ・油粘土等については各自用意する。					
【オフィスアワー】					
工作室活動時間（9:00-17:00）、工房活動時間（9:00-22:00）内。（日曜日を除く）					
【実務経験】					
なし					

年度	区分			分野
令和6年度	全専攻共通 専門科目			ゼミナール・卒業論文
講義名	[O_sst6] [17]【文学・芸術専攻4（制作）】卒業論文 柳本 伊左雄			
区分	通年（30回）	単位	必修（8）	形式 演習
授業年次	--	--	4年	
担当教員	柳本 伊左雄	ヤナギモト イサオ	yanagimoto isao [yanagi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
卒業制作を通して、仏像の制作技術を修得する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
社会の変化にとまかない、徒弟制度がほとんど崩壊してしまった現在、継承されてきた仏像の技術を修得する機会は少なくなってきた。授業内で修得するには限界があるが、本講義を受講することにより新しい試みも模索しながら、身延山大学独自の仏像修復技術を確立することができる。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
制作する仏像の決定を行い、実際に仏像等を制作する、技術的に個人差があるので、授業方法の内容については、ある程度流動的に行うつもりでいる。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前・事後学修として、講義中の指示に基づいた内容を2時間以上要する。				
【成績評価（方法・基準）】				
作品（50%）、講義への取り組み姿勢（25%）、事前・事後学修（25%）で評価する。受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておくこと、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えること。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	仏像制作 1			
第2回	仏像制作 2			
第3回	仏像制作 3			
第4回	仏像制作 4			
第5回	仏像制作 5			
第6回	仏像制作 6			
第7回	仏像制作 7			
第8回	仏像制作 8			
第9回	仏像制作 9			
第10回	仏像制作10			
第11回	仏像制作11			
第12回	仏像制作12			
第13回	仏像制作13			
第14回	仏像制作14			
第15回	仏像制作15			
第16回	仏像制作16			
第17回	仏像制作17			
第18回	仏像制作18			
第19回	仏像制作19			
第20回	仏像制作20			
第21回	仏像制作21			
第22回	仏像制作22			
第23回	仏像制作23			
第24回	仏像制作24			
第25回	仏像制作25			
第26回	仏像制作26			
第27回	仏像制作27			
第28回	仏像制作28			
第29回	動画の作成			
第30回	まとめ・批評採点			

【教科書・参考書】
工房作成の動画・工房所有仏像原型・資料等日本彫刻史基礎資料集成（中央公論美術出版）
【学生へのメッセージ】
制作する仏像選択においては、資料の収集を行うこと。時間的に不足することが予想されるので、随時工房において制作を行い、不足分を補う。
【オフィスアワー】
工作室活動時間（9:00-17:00）、工房活動時間（9:00-22:00）内。（日曜日を除く）
【実務経験】
なし

年度	区分		分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目		ゼミナール・卒業論文		
講義名	[P_sse3] [20]【福祉学専攻2】ゼミナール 手塚知子				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	手塚 知子		テヅカ トモコ	tezuka tomoko [tezuka(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
各自が興味関心をもつ福祉の分野を学修します。講義と演習を取り入れ、学生各自が興味関心をもった内容に関して、課題を設定し、調べてまとめ、発浮する機会を設定します。課題研究の方法や問題意識をゼミ生が共有し、意見交換を行いながら進めます。適宜、学外学習を取り入れることがあります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
各自が興味関心をもつ福祉の分野を学修します。社会福祉を学び制度や支援内容を考えながら、読解する力や資料の収集力と分析力を身につけることを目的とします。コンピテンシー：批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義と演習により授業を進めます。文献収集の方法、文献講読、観察、レポート作成等について概説し、各自が関心を持つ内容について担当を決めて定期的に発浮ます。また各自の課題に応じて、地域の施設を利用し実地での学修を行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、授業終了時に指示された内容を次回までに行うこと。事後の学習では、専門用語の復習を行うと共に、関連の資料を利用して授業で扱った内容理解を深めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み（70%）、レポート（30%）により総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方に関する導入 各自の興味関心の報告				
第2回	論文の書き方 その1				
第3回	論文の書き方 その2				
第4回	論文の書き方 その3				
第5回	文献の探し方と参考文献の書き方				
第6回	福祉分野に関する文献の解説1（児童福祉）				
第7回	福祉分野に関する文献の解説2（高齢者福祉）				
第8回	福祉分野に関する文献の解説3（障害者福祉）				
第9回	レポート発表 コメント その1				
第10回	福祉分野に関する文献の解説4（地域福祉）				
第11回	福祉分野に関する文献の解説5（更正保護）				
第12回	福祉分野に関する文献の解説6（社会保障）				
第13回	福祉分野に関する文献の解説7（現代社会と福祉課題）				
第14回	レポート発表 コメント その2				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
授業時に随時指示します。					
【学生へのメッセージ】					
ゼミ員各自の関心を共有し、相互に触発し合いながら多くのことを学びましょう。					
【オフィスアワー】					
火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25					
【実務経験】					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。					

年度	区分				分野	
令和6年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文	
講義名	[Q_sse4] [40]【福祉学専攻2】ゼミナール 手塚知子					
区分	後期（15回）		単位	必修（1）		形式 演習
授業年次	--	2年	--	--		
担当教員	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
各自が興味関心をもつ福祉の分野を学修します。学生各自が興味関心をもった内容に関して、課題を設定し、調べてまとめ、発 浮ける機会を設定します。課題研究の方法や問題意識をゼミ生が共有し、意見交換を行いながら進めます。適宜、学外学習を取り 入れることがあります。福祉専門職に求められる役割や視点から学生同士の協働的な学びの場として授業を展開します。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
社会福祉分野について広く学び課題設定や卒業論文作成に結びつく力を身につけることを目的とします。 コンピテンシー：批 判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
各学生の課題設定に基づいた授業を進めます。文献収集の方法、文献講読、観察、レポート作成等について概説し、各自が興味関 心を持つ内容について、担当を決めて定期的に発表します。卒業論文につながる課題設定やプレゼンテーション等を行います 。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修が望まれます。特に事前学修では、教材等を十分に読解し分からない専門用語がないよ うに調べておくこと、また予習を十分に行うこと。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業への取り組み（70%）、レポート（30%）により総合的に評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	授業の進め方に関する導入					
第2回	論文の作成方法					
第3回	研究方法 その1					
第4回	研究方法 その2					
第5回	参考文献、資料の収集方法 その1					
第6回	参考文献、資料の収集方法 その2					
第7回	参考文献や資料の読み合わせ その1					
第8回	参考文献や資料の読み合わせ その2					
第9回	参考文献や資料の読み合わせ その3					
第10回	レポート発表 その1					
第11回	参考文献や資料の読み合わせ その4					
第12回	参考文献や資料の読み合わせ その5					
第13回	参考文献や資料の読み合わせ その6					
第14回	参考文献や資料の読み合わせ その7					
第15回	レポート発表 その2 まとめ					
【教科書・参考書】						
教科書・参考書等：適宜各自の研究テーマに即した資料を提示します。						
【学生へのメッセージ】						
ゼミ生員各自の関心を共有し、相互に触発し合いながら多くのことを学びましょう。						
【オフィスアワー】						
火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25						
【実務経験】						
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授 業します。						

年度	区分			分野	
令和6年度	全専攻共通 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[R_sse4] [60]【福祉学専攻3】ゼミナール 手塚知子				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）		形式 演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
卒業論文を視野に入れながら、学生各自が興味・関心を持つ福祉分野について学修します。課題テーマを設定し、文献調査や観察等の調査法を取り入れ、学んだ内容を記述し蓄積を図ります。ゼミ生同士が問題意識を共有し、意見交換を行いながら進めます。適宜、学外授業を取り入れます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
各自が興味・関心を持つ福祉分野を学修します。ゼミナールを通して、現代社会における子どもや障害者、高齢者を取り巻く環境について探究する方法を身につけることができます。コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、読解力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
課題設定、文献収集の方法、文献講読、観察、レポート作成等に取り組み、自らの学びや気づきを具体的に文章化します。また各自の課題についてゼミ生同士で意見交換を行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、授業終了時に指示された内容を次回までに行うこと。事後学修（2時間以上）は、専門用語の復習を行うと共に、関連の資料を利用して授業で扱った内容理解を深めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（60%）、レポート（20%）、発普i20%）により総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方に関する導入				
第2回	課題テーマ設定及び研究方法、計画の検討1				
第3回	課題テーマ設定及び研究方法、計画の検討2				
第4回	研究方法・資料・参考文献収集法の実際1				
第5回	研究方法・資料・参考文献収集法の実際2				
第6回	参考文献の読み合わせ1				
第7回	参考文献の読み合わせ2				
第8回	参考文献の読み合わせ3				
第9回	参考文献の読み合わせ4				
第10回	参考文献の読み合わせ5				
第11回	参考文献の読み合わせ及びレポート発表1				
第12回	参考文献の読み合わせ及びレポート発表2				
第13回	参考文献の読み合わせ及びレポート発表3				
第14回	フィードバック				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
授業時に随時指示します。					
【学生へのメッセージ】					
ゼミ員各自の関心を共有し、相互に触発し合いながら多くのことを学びましょう。					
【オフィスアワー】					
火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25					
【実務経験】					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。					

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 専門科目	ゼミナール・卒業論文

講義名	[R_sse4] [62]【福祉学専攻3】ゼミナール 叶寧
-----	-------------------------------

区分	前期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	--	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	叶寧	ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]
------	----	-------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本授業は、以下を目的としている。(1)論文講読を通じた専門的知識、論理的思考、文章理解力を修得する。(2)ディスカッションやゼミ発表を通して、プレゼンテーション能力を養うことを目指す。(3)卒業研究に向けて基本的ルールを学んだ上で、研究テーマや研究手法を明確化する。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)関連領域に関する文献講読等を通して専門的な文献を読み解く力を修得すると同時に、社会福祉における様々な問題を通して自身の興味関心を広げ/絞り込むことができる。(2)社会福祉研究とは何か、また文献検索の方法や引用文献の書き方など、論文執筆の基本的なルールに関する学びを通して、卒業研究に向け各自テーマや研究方法を明確化できる。(3)3年次学期末には、1年間の学びや福祉実践（実習、ボランティア、アルバイトなど）からテーマを明確化し、テーマに着目した背景やどのような研究方法で行うのか、着手発表を行うことができる。コンピテンシー：課題設定力、構想力、批判的思考力、論理的思考力、情報収集力、情報分析力、文章表現力

【授業方法（フィードバックの内容）】

法律制度政策等の検索方法、文献収集の方法、レポート作成等に取り組み、自らの気づきや学びを具体的に文章化する。また各自の問題関心についてゼミ生同士で意見交換を行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

各自の関心課題に関する文献について事前と事後学修（それぞれ2時間程度）を行う。事前学習：文献講読の場合は、必ず予習して概要を理解したうえで、キーワードを調べる等して授業に参加して下さい。次回授業内容に合わせて、具体的な準備や下調べを行ってください。事後学習：卒業研究に向けては、各自、授業での学びを深めて、文献を収集・講読したり、福祉実践にアクセスするなどして、主体的に進めて下さい。これらをとおし、不明な点を見つける。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取組み姿勢（60%）、レポート（20%）、発表（20%）により総合的に評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション、自己紹介、アイスブレイク
第2回	今後のゼミの進め方など、学生一人ひとりの関心領域の確認
第3回	社会福祉関連領域の法律制度政策の検索方法
第4回	厚生労働省等で公開されている一次データの質問項目および結果概要を検索
第5回	論文等の文献収集の方法の確認
第6回	文献講読とディスカッション（討議）
第7回	文献講読とディスカッション（討議）
第8回	文献講読とディスカッション（発表や討議）
第9回	文献講読とディスカッション（発表や討議）
第10回	レポートの作成にむけての準備
第11回	レポートの作成にむけての準備
第12回	レポート発表
第13回	レポート発表
第14回	フィードバック、残っている課題の確認
第15回	まとめ、後期ゼミの進め方の意見交換

【教科書・参考書】

授業のなかで適宜紹介する。

【学生へのメッセージ】

ゼミ員各自の関心を共有し、そのうえ、上記のコンピテンシーの向上のため、相互に励まし合い、共同成長を目指します。わからないということは怖くなく、わからないからこそ取り組む動機となります。知りたい、学びたい、探究したいという好奇心、態度、姿勢があれば一緒に協力しあって、学びましょう。

【オフィスアワー】

授業担当時の前後、火・水・金曜日の授業・会議以外の時間帯

【実務経験】

なし

年度	区分			分野	
令和6年度	全専攻共通 専門科目			ゼミナール・卒業論文	
講義名	[S_sse5] [80]【福祉学専攻3】ゼミナール 手塚知子				
区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
卒業論文を視野に入れ、学生各自が興味・関心を持つ福祉分野について学修します。課題テーマを設定し、文献調査や観察等の調査法を取り入れ、学んだ内容を記述して蓄積を図ります。ゼミ生同士が問題意識を共有し、意見交換を行いながら進めます。適宜、学外授業を取り入れます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
各自が興味・関心を持つ福祉分野を学修します。ゼミナールを通して、現代社会における子どもや障害者、高齢者を取り巻く環境について探究する方法を身につけることができます。コンピテンシー：多様な学問の考え方、文章力、情報収集力、読解力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
課題設定、文献収集の方法、文献講読、観察、レポート作成等に取り組み、自らの学びや気づきを具体的に文章化します。また各自の課題についてゼミ生同士で意見交換を行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、授業終了時に指示された内容を次回までに行うこと。事後学修（2時間以上）は、専門用語の復習を行うと共に、関連の資料を利用して授業で扱った内容理解を深めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み（60%）、レポート（20%）、発表（20%）により総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方に関する導入 前期授業内容の振り返りと今後の展望				
第2回	研究方法・資料・参考文献収集の実際1				
第3回	参考文献の読み合わせ1				
第4回	参考文献の読み合わせ2				
第5回	参考文献の読み合わせ3				
第6回	参考文献の読み合わせ4				
第7回	参考文献の読み合わせ5				
第8回	研究方法・資料・参考文献収集の実際2				
第9回	参考文献の読み合わせ及びレポート発表1				
第10回	参考文献の読み合わせ及びレポート発表2				
第11回	参考文献の読み合わせ及びレポート発表3				
第12回	参考文献の読み合わせ及びレポート発表4				
第13回	参考文献の読み合わせ及びレポート発表5				
第14回	フィードバック				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
授業時に随時指示します。					
【学生へのメッセージ】					
ゼミ員各自の関心を共有し、相互に触発し合いながら多くのことを学びましょう。					
【オフィスアワー】					
火曜日11:55-12:25、木曜日11:55-12:25					
【実務経験】					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。					

年度	区分	分野
令和6年度	全専攻共通 専門科目	ゼミナール・卒業論文

講義名	[S_sse5] [82]【福祉学専攻3】ゼミナール 叶寧
-----	-------------------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（1）	形式	演習
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	--	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	叶寧	ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]
------	----	-------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本授業は、以下を目的としている。(1)論文講読を通じた専門的知識、論理的思考、文章理解力を修得する。(2)ディスカッションやゼミ発表を通して、プレゼンテーション能力を養うことを目指す。(3)卒業研究に向けて基本的ルールを学んだ上で、研究テーマや研究手法を明確化する。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)関連領域に関する文献講読等を通して専門的な文献を読み解く力を修得すると同時に、社会福祉における様々な問題を通して自身の興味関心を広げ/絞り込むことができる。(2)社会福祉研究とは何か、また文献検索の方法や引用文献の書き方など、論文執筆の基本的なルールに関する学びを通して、卒業研究に向け各自テーマや研究方法を明確化できる。(3)3年次学期末には、1年間の学びや福祉実践（実習、ボランティア、アルバイトなど）からテーマを明確化し、テーマに着目した背景やどのような研究方法で行うのか、着手発表を行うことができる。コンピテンシー：課題設定力、構想力、批判的思考力、論理的思考力、情報収集力、情報分析力、文章表現力

【授業方法（フィードバックの内容）】

法律制度政策の検索方法、文献収集の方法、レポート作成等に取り組み、自らの気づきや学びを具体的に文章化する。また各自の問題関心についてゼミ生同士で意見交換を行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

各自の関心課題に関する文献について事前と事後学修（それぞれ2時間程度）を行う。事前学習：文献講読の場合は、必ず予習して概要を理解したうえで、キーワードを調べる等をして授業に参加して下さい。次回授業内容に合わせて、具体的な準備や下調べを行ってください。事後学習：卒業研究に向けては、各自、授業での学びを深めて、文献を収集・講読したり、福祉実践にアクセスするなどして、主体的に進めて下さい。これらをとおり、不明な点を見つける。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取組み姿勢（60%）、レポート（20%）、発表（20%）により総合的に評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション、前期ゼミの内容を振り返りながら、後期の進め方の確認
第2回	学生一人ひとりの関心領域の再確認
第3回	法律制度政策の検索方法、文献収集の方法、レポート作成の仕方についての再確認
第4回	各自の関心領域、観点と近い論文を見つけ、その論文構成を確認する
第5回	研究方法（社会調査法）について学び、調査にあたる倫理上の必要な事項の学び
第6回	文献講読とディスカッション（討議）、引用・参考文献の書き方
第7回	文献講読とディスカッション（討議）
第8回	文献講読とディスカッション（討議）
第9回	レポートの作成
第10回	レポートの作成
第11回	作成したレポートをパワーポイントにまとめること
第12回	作成したレポートをパワーポイントにまとめること
第13回	発表（プレゼンテーション）
第14回	発表（プレゼンテーション）、振り返り
第15回	今後の課題、まとめ

【教科書・参考書】

授業のなかで適宜紹介する。

【学生へのメッセージ】

ゼミ員各自の関心を共有し、そのうえ、上記のコンピテンシーの向上のため、相互に励まし合い、共同成長を目指します。わからないということは怖くなく、わからないからこそ取り組む動機となります。知りたい、学びたい、探究したいという好奇心、態度、姿勢があれば一緒に協力しあって、学びましょう。

【オフィスアワー】

授業担当時の前後、火・水・金曜日の授業・会議以外の時間帯

【実務経験】

なし

年度	区分				分野		
令和6年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文		
講義名	[T_sst6] [13]【福祉学専攻4】卒業論文 伊東久実						
区分	通年（30回）		単位	必修（8）		形式	演習
授業年次	--	--	--	4年			
担当教員	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi [ito(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
<p>先行研究・資料の収集と整理・研究計画を検討し、保育にかかわりの深い内容に関して卒業論文を仕上げる。研究内容は、学内学修や学外での地域支援活動、または実習の経験を通して強く関心を持った事柄を重視して、分析・研究する。</p>							
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】							
<p>研究課題を設定する力、研究を推進する力と論理的な文章表現力を養います。このことにより学生は、自らの考えを論じる力と社会貢献のための問題解決能力を身につけます。 コンピテンシー：課題設定力、構想力、批判的思考力、論理的思考力、情報収集力、情報分析力、文章表現力</p>							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
<p>各自の関心に基づき研究テーマを設定します。次に研究構想を練り、リサーチ・クエスチョンを設定し、調査を実施します。そして得られたデータを解釈し、考察します。卒論作成の指導は、全体指導と個別指導の両方によって行います。</p>							
【授業外学修の方法（時間数）】							
<p>各自の卒論にテーマに合わせて、定期的に論文の報告・作成の準備を行う。</p>							
【成績評価（方法・基準）】							
<p>論文（90%）、取り組み姿勢（10%）により総合評価します。</p>							
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】							
第1回	卒業論文のテーマ決定						
第2回	研究方法について						
第3回	文献、雑誌論文の検索など資料収集の復習						
第4回	参考文献目録の提出						
第5回	章立て						
第6回	序論の提出						
第7回	データ収集上の注意 1						
第8回	データ収集上の注意 2						
第9回	初稿の提出とフィードバック 1						
第10回	初稿の提出とフィードバック 2						
第11回	初稿の提出とフィードバック 3						
第12回	調査						
第13回	調査						
第14回	データ解釈と考察 1						
第15回	データ解釈と考察 2						
第16回	中間発表						
第17回	中間発表の振り返り						
第18回	初稿の提出とフィードバック 1						
第19回	初稿の提出とフィードバック 2						
第20回	初稿の提出とフィードバック 3						
第21回	初稿の提出とフィードバック 4						
第22回	初稿の提出とフィードバック 5						
第23回	初稿の提出とフィードバック 6						
第24回	初稿の提出とフィードバック 7						
第25回	初稿の提出とフィードバック 8						
第26回	初稿の提出とフィードバック 9						
第27回	注と参考文献						
第28回	完成稿の提出						
第29回	レジュメ作成						
第30回	まとめ						

【教科書・参考書】
授業時に随時指示します。
【学生へのメッセージ】
4年間の学びの集大成です。努力を惜しまずに、問いへの考察を行って欲しい。
【オフィスアワー】
火曜日15:30-17:00と金曜日15:30-17:00
【実務経験】
なし

年度	区分				分野
令和6年度	全専攻共通 専門科目				ゼミナール・卒業論文
講義名	[T_sst6] [21]【福祉学専攻4】卒業論文 中野宏子				
区分	通年（30回）	単位	必修（8）		形式 演習
授業年次	--	--	--	4年	
担当教員	中野 宏子		ナカノ ヒロコ		nakano hiroko [hnakano(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
各自の探究課題に基づき、研究・資料の収集及び整理を行い、研究計画を立てる。福祉に関わる内容に関して卒業論文を仕上げることを目的とする。研究内容はこれまでの学生の学びや経験等を踏まえ、強く関心を持った事柄を重視して探究する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
卒業論文の作成を通して「情報収集力」「情報分析力」「情報構成力」「文章表現力」「口頭表現力」を養います。このことにより、学生は課題解決に向かう力量やその方法論について身につけることを目指します。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
学生の関心に基づき研究テーマを設定します。テーマに基づき研究構想を考え、研究課題を明確にしていきます。自らの研究テーマに沿った調査を実施し、解析を通して考察を進めます。授業方法は全体指導と個別指導を行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学習を行うこと。事前の学習では、授業修了時に指示された内容を次回までに行うこと。事後の学習では、専門用語の復習を行うと共に、関連の資料を利用して授業で扱った内容理解を深めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
論文（90%）、取り組み姿勢（10%）により総合評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	卒業論文のテーマ決定				
第2回	卒業論文のキーワード、分野の選定				
第3回	研究方法について その1				
第4回	研究方法について その2				
第5回	研究方法について その3				
第6回	文献、参考資料、雑誌論文の検索方法について その1				
第7回	文献、参考資料、雑誌論文の検索方法について その2				
第8回	文献、参考資料、雑誌論文の検索方法について その3				
第9回	参考文献目録の提出				
第10回	論文の章立て				
第11回	序論の提出				
第12回	データ収集上の留意点 その1				
第13回	データ収集上の留意点 その2				
第14回	小論の提出とフィードバック その1				
第15回	小論の提出とフィードバック その2				
第16回	小論の提出とフィードバック その3				
第17回	調査 その1				
第18回	調査 その2				
第19回	調査 その3				
第20回	調査データの解釈と考察 その1				
第21回	調査データの解釈と考察 その2				
第22回	調査データの解釈と考察 その3				
第23回	論文の提出とフィードバック その1				
第24回	論文の提出とフィードバック その2				
第25回	論文の提出とフィードバック その3				
第26回	論文の提出とフィードバック その4				
第27回	論文の提出とフィードバック その5				
第28回	完成稿の提出				
第29回	レジュメ作成				
第30回	まとめ				

【教科書・参考書】
授業時に随時指示します。
【学生へのメッセージ】
論文作成には、根気や多くの授業外学習が必要になります。努力を惜しまず、取組んでほしいと思います。
【オフィスアワー】
水曜日・金曜日10:00-12:00（大学事務室を通じて予約してください）
【実務経験】
福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務の経験を活かした授業にしたいと考えます。

年度	区分			分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目
講義名	[A_mnb2] [01] 日蓮教団史			
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2) 日蓮学専攻	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	望月 真澄	モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho [smochi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
日蓮聖人のご入滅から近代までの日蓮教団の展開について、時代ごとに講義していく。DVD・ビデオ・画像データといった映像・画像資料も活用する。				
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】				
日蓮教団と他教団を比較することにより、日蓮教団の歴史と特徴を理解してもらうことを到達目標とする。教団の歴史を学び、資料を講読することにより、「論理的思考力」「構想力」「読解力」が身につく。				
【授業方法 (フィードバックの内容)】				
教科書とパワーポイントを併用し、具体的な教団史関係の史料を紹介しつつ授業を進める。				
【授業外学修の方法 (時間数)】				
事前学修 (2時間以上) は、該当するテキストの部分を読んでおくこと。事後学修 (2時間以上) は、授業で学んだ主な教団史用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。小テストを随時行うが、テスト範囲を復習しておくことが大事である。				
【成績評価 (方法・基準)】				
期末テスト (20%)、小テスト (50%)、授業に取り組む姿勢 (30%) で評価する。				
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】				
第1回	授業の概要 中世・近世・近代における日蓮教団の動向			
第2回	六老僧			
第3回	門流の成立			
第4回	日蓮宗の京都進出			
第5回	東国から上洛と寛正の盟約			
第6回	天文法難			
第7回	西国・東国への展開			
第8回	日親の諫暁と永祿の規約			
第9回	安土宗論			
第10回	受・不受の論争			
第11回	檀林教育と仏教書の出版			
第12回	祖師信仰と霊場参詣			
第13回	明治維新と廃仏毀釈			
第14回	在家仏教運動と大正・昭和期の日蓮宗			
第15回	全体のまとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：『仏教の教え』 改訂版 日蓮宗テキスト編集委員会編 (日蓮宗宗務院刊) 2005年。参考書：『禁制不受不施派の研究』 宮崎英修著 (平楽寺書店) 1959年、『日蓮宗布教の研究』 影山堯雄著 (平楽寺書店) 1975年、『近世日蓮宗の祖師信仰と守護神信仰』 望月真澄著 (平楽寺書店) 2002年、『日親・日興』 北村行遠・寺尾英智編 (吉川弘文館) 2004年。				
【学生へのメッセージ】				
小テストを随時実施するので授業に欠席しないこと。				
【オフィスアワー】				
授業内容に関する質問等があれば授業の開始前・終了後に研究室や教室で対応する。その他の時間帯の質問等はメール (smochi(a)min.ac.jp) で対応する。				
【実務経験】				
博物館学芸員として勤務経験 (40年) あり。現場に即した授業を行います。				

年度	区分			分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目
講義名	[B_mnb3] [03] 教化学			
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2) 日蓮学専攻	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	桑名 貴正		クワナ カンショウ	kuwana kansyo [kkuwana(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
<p>教化とは、衆生に教えを説き仏道に導き、利益を与えることである。その教化方法には、随自意・随他意・四悉檀等が見られる。また、釈尊の悟り内容は三時説の重視に従い、布教上の展開において異なりが見られる。これらの教化上の諸問題について概説する。</p>				
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】				
<p>教化学とは、教学を基として布教現場に活かす学問であり、布教現場に立脚した教学のあり方を論理的に探求し思考力を高める学問である。具体的には、釈尊・法華経・日蓮聖人の教法を修得して現代に活かし、人々を覚知へと導くための方策を探り、教化の実行力を高めることにある。コンピテンシー：多様な学問の考え方、異文化理解、情報収集力、情報分析力、読解力、聴解力、文章表現力、批判的思考力、論理的思考力、構想力、実行力</p>				
【授業方法 (フィードバックの内容)】				
<p>キーワードを挙げ、講義資料を読みながら、その言葉・項目について詳説し、ディスカッションをしながら、問題点について共に考えていく。</p>				
【授業外学修の方法 (時間数)】				
<p>毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。</p>				
【成績評価 (方法・基準)】				
<p>期末レポート (50%)、授業参加の状況と授業への取り組み姿勢 (50%) も重視する。</p>				
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】				
第1回	イントロダクション：教化学について			
第2回	釈尊の出自と釈尊の教化法 1			
第3回	釈尊の教化法 2			
第4回	釈尊の教化法 3			
第5回	一仏乗の思想について			
第6回	法華経の譬喩について 1			
第7回	法華経の譬喩について 2			
第8回	中国仏教における布教展開 1			
第9回	中国仏教における布教展開 2			
第10回	日本仏教における布教展開 1			
第11回	日本仏教における布教展開 2			
第12回	日蓮聖人における布教展開 1			
第13回	日蓮聖人における布教展開 2			
第14回	日蓮聖人における布教展開 3			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
<p>テキストは当方で用意して配布する。参考書：『教化学概論ノート』浜島典彦著 (ミック刊) 2004年。</p>				
【学生へのメッセージ】				
<p>教化学に関する総合的理解を得るために、講義資料に基づいて復習すること。また次回講義資料も毎回事前に配布するのでしっかり予習して授業に臨むこと。</p>				
【オフィスアワー】				
<p>授業の前後に教室にて対応します。</p>				
【実務経験】				
<p>宗教法人妙法寺代表役員</p>				

年度	区分				分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目				日蓮学系科目
講義名	[C_mnb3] [05] 立正安国論概説				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	都守 基一		ツモリ キイチ		tsumori kiichi [tumori(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人の主著であり、本学の「建学の精神」のよりどころでもある『立正安国論』について、その書誌と内容、成立の由来、遺文中の位置等を概説する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
正しい見識により社会に貢献する「立正安国」の精神を学ぶことにより、「構想力」「計画力」「実行力」が養われる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回配布するプリントをもとに講義を進めるとともに、指定した教科書の音読、ならびにプレゼンテーションやICT機器を用いた授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、シラバスに記載した参考書による予習を行い、事後学修（2時間以上）は、配布プリントの内容に基づき復習を行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
プレゼンテーション（50%）、学力確認テスト（40%）、授業参画度（10%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	立正安国論の概要				
第2回	立正安国論成立の背景（鎌倉の仏教界）				
第3回	立正安国論成立の背景（続出する災害）				
第4回	奏進後の経緯（立正安国論の新たな意味づけ）				
第5回	立正安国論の真蹟				
第6回	立正安国論の写本				
第7回	立正安国論の文体と用字				
第8回	立正安国論の「国」字について				
第9回	立正安国論に関する新出資料				
第10回	上奏本の「天台沙門」の意味				
第11回	広本の文献的問題				
第12回	立正安国論に関する伝承				
第13回	立正安国論全文の音読				
第14回	プレゼンテーション				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『立正安国論』日蓮宗宗務院伝道部編（日蓮宗新聞社）2005年、参考書：『日蓮聖人全集』第一巻（春秋社）1992年、『日蓮聖人御遺文講義 第一巻』鈴木一成著（日蓮聖人御遺文研究会）1931年。					
【学生へのメッセージ】					
後期の「立正安国論講読」と併せて履修し、『立正安国論』に基づく建学の精神を大いに発揮してもらいたい。					
【オフィスアワー】					
授業時間の前後に教室または講師室にて受け付ける。					
【実務経験】					
日蓮宗教師・常圓寺日蓮仏教研究所主任					

年度	区分				分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目				日蓮学系科目
講義名	[D_mnb3] [07] 立正安国論講読				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2) 日蓮学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	都守 基一		ツモリ キイチ		tsumori kiichi [tumori(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人の主著であり、本学の「建学の精神」のよりどころでもある『立正安国論』本文を講読し、聖人の仏法と国家と災害についての考え方を学ぶ。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
テキスト音読を繰り返すことにより、古文・漢文のリズムに慣れ、「読解力」「文章表現力」「論理的思考力」の基礎が養われる。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
指定した教科書の音読と、配布プリントによる解説、ならびにプレゼンテーションやICT機器を用いた授業を行う。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、指定の参考書による予習、事後学修 (2時間以上) は、配布プリントによる復習を行うこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
プレゼンテーション (50%)、学力確認テスト (40%)、授業参画度 (10%) で評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	題号と撰号の解説				
第2回	十番問答 (十問九答) の概要説明				
第3回	第一問答 (災難の由来) の講読				
第4回	第二問答 (災難の経証) の講読				
第5回	第三問答 (破法破国の悪比丘) の講読				
第6回	第四問答 (法然『選択集』の誤り) の講読				
第7回	第五問答 (悪法流布と亡国の先例) の講読				
第8回	第六問答 (上奏の先例と必然) の講読				
第9回	第七問 (仏法と国家の関係) の講読				
第10回	第七答 (謗法の人を禁断すべきこと) の講読				
第11回	第八問答 (斬罪か止施か) の講読				
第12回	第九問 (二難なお残せり) の講読				
第13回	第九答 (立正安国の理想郷) と第十問 (客の領解) の講読				
第14回	プレゼンテーション 立正安国論について自分の考えを発信しよう				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『立正安国論』日蓮宗宗務院伝道部編 (日蓮宗新聞社) 2005年、参考書：『日蓮聖人全集』第一巻 (春秋社) 1992年、『日蓮聖人御遺文講義 第一巻』鈴木一成著 (日蓮聖人御遺文研究会) 1931年。					
【学生へのメッセージ】					
前期の「立正安国論概説」と併せて履修し、『立正安国論』の主題であり、今日的課題でもある「災難」について考えてほしい。					
【オフィスアワー】					
授業時間の前後に教室または講師室にて受け付ける。					
【実務経験】					
日蓮宗教師・常圓寺日蓮仏教研究所主任					

年度	区分			分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目			日蓮学系科目	
講義名	[E_mnb3] [09] 宗学概論				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	桑名 法晃		クワナ ホウコウ	kuwana hoko [hkuwana(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
宗学の概要について学修します。宗学の意味、五義、三大秘法など、宗学の基本的事項について概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
宗学の内容を総合的に理解することにより、宗学の意味と意義を深く認識し、自発的に考察を進め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、情報構成力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ICTを積極的に活用し受講生の理解に資するよう授業を進めます。講義を通して、宗学をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表（プレゼンテーション）し、ディスカッションを行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上行い、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上行ってください。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80％）、授業への取り組み姿勢（20％）で総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	講義ガイダンス：宗学とは				
第2回	宗祖				
第3回	宗義の体系				
第4回	五義 1				
第5回	五義 2				
第6回	日蓮聖人の法華経受容				
第7回	三大秘法				
第8回	本門の本尊				
第9回	本門の題目				
第10回	本門の戒壇				
第11回	信行				
第12回	即身成仏・靈山往詣				
第13回	弘経の方軌 摂受・折伏				
第14回	祈祷・僧俗				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：プリント等を配布します。参考書：『真訓両読 妙法蓮華経並開結』法華経普及会編（平楽寺書店）1924年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『宗義大綱読本』日蓮宗宗務院教務部編（日蓮宗新聞社）1989年など。授業中に適宜参考書を紹介していきます。					
【学生へのメッセージ】					
講義内容の関係から「日蓮学入門」を受講し、しっかり理解した上で併せて受講することを望みます。					
【オフィスアワー】					
火曜日第5時限目と木曜日第1時限目。質問はメール（hkuwana(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目				日蓮学系科目	
講義名	[F_mnb3] [11] 寺院資料論					
区分	前期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	4年		
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
本講義は日本の寺院に所蔵されているさまざまな資料（史料）の種類や資料の性格等について学ぶ。特に日蓮宗寺院に所蔵される資料を検討素材とする。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
本講義を受講することにより寺院資料の種類について知識を深め、資料の性格等について学ぶ。よって、日蓮宗寺院の資料にはどのような種類のものがあるか理解できることを到達目標とする。 コンピテンシー：論理的思考力、構想力、読解力、評価力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
画像資料や実際の資料をみて授業を進めるが、寺院資料の見学も行う。視聴覚教材も用い、タブレット端末等のICT機器を使用して双方向授業を行う。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業に対する取り組み姿勢（25%）、中間レポート（25%）、学力確認レポート（50%）で評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	オリエンテーション					
第2回	寺院資料とは何か					
第3回	寺院に所蔵される資料の種類					
第4回	寺院資料の現状と課題 1					
第5回	寺院資料の現状と課題 2					
第6回	寺院資料之現状と課題 3					
第7回	寺院資料とその周辺（環境）					
第8回	寺院資料 古文書					
第9回	寺院資料 古記録					
第10回	寺院資料の形態 掛幅					
第11回	寺院資料の形態 卷子本・冊子本他					
第12回	寺院資料の保存 虫払・曝涼					
第13回	寺院資料を読む 文字資料の解読 1					
第14回	寺院資料を読む 文字資料の解読 2					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：授業で寺院資料のコピーを配布する。参考書：『寺宝護持の心得』日蓮宗宗宝霊跡審議会編（日蓮宗宗務院）1996年。						
【学生へのメッセージ】						
寺院見学も（ICT機器を使用して）実施予定。その際には授業に遅れないこと。						
【オフィスアワー】						
火曜日 4 時限目、水曜日 2 時限目、質問はメール（kimura(a)min.ac.jp）でも可。						
【実務経験】						
なし						

年度	区分		分野		
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[G_mnb3] [13] 日蓮教学史				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	庵谷 行遠		オオタニ ギョウオン	otani gyoon [gohtani(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人以降の先師たちの日蓮教学受容を概説します。日蓮聖人の教えが、これまでどのように伝えられてきたか（日蓮教学の歴史）について理解を深めます。このことはSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮聖人以降の先師たちが、日蓮聖人の教学をどのように受容し解釈したかを理解することを目標とします。そのために、多様な学問の考え方・異文化理解・資料の読解力、批判的・論理的思考力、表現力の修得を目指します。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
指定の参考書と配布プリント（適宜）によって講義をすすめます。授業中に各自の考えを発言してもらいます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、参考書を基に教学史上のキーワード、先師の教学について調べ問題意識をもって授業に取り組むこと。事後学修（2時間以上）は、配布資料を読み直し、講義内容の理解を深め次回に備えること。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	日蓮教学史を学ぶ意義				
第2回	日蓮教学史の概要 1				
第3回	日蓮教学史の概要 2				
第4回	日蓮聖人直弟の教学				
第5回	五一相対と本迹論 1				
第6回	五一相対と本迹論 2				
第7回	中山門流の教学・四条門流の教学				
第8回	日朝と身延門流の教学				
第9回	浜門流・六条門流の教学				
第10回	日什門流の教学				
第11回	日陣門流の教学				
第12回	日隆門流の教学				
第13回	日真門流の教学・室町期富士門流の教学				
第14回	江戸前期の教学				
第15回	江戸後期の教学				
【教科書・参考書】					
教科書：指定なし。参考書：『日蓮宗教学史』執行海秀著（平楽寺書店）1960年、『日蓮宗信仰の種々相』執行海秀著（教育新潮社）1966年、『日蓮宗学説史』望月歆厚著（平楽寺書店）1968年、日蓮宗新・電子聖典『事典』（日蓮宗wiki版）2021年他。					
【学生へのメッセージ】					
日蓮教学を理解した上で受講することを望みます。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
宗教法人妙谷寺代表役員					

年度	区分		分野		
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[H_mnb4] [15] 日蓮教学と近代社会《遠隔授業》				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	岡田 文弘		オカダ フミヒロ	okada fumihiro [ookada(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
「近代」における日蓮の仏教の展開を検討していくことを目的とします。日蓮思想の広がり多様性（「政治性」「在家仏教運動」「宗門運動」など）をたどり、そして「近代」という時代について概観できる授業にしてゆきます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
近代における日蓮思想の展開について基本的な知識を体系的に身につけることで、「多様な学問の考え方」を身につける。近代の先人たちの業績について検討することを通して「批判的思考力」を身につけ、日蓮宗の今後を考えていく上での「構想力」「改善力」を養う。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
この授業は同時双方向型（ライブ配信）のオンライン授業です。ファイル・キャビネットにアップした資料を中心に講義を進めます。また毎回、質問・意見等を記入してもらい（Googleフォーム使用）、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行います。ディベートの機会も適宜設けます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。事前学修は、事前配布資料を読んでおくこと。事後学修は、学修した内容を自分なりに整理しておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組みの姿勢（50%、毎回の質問・意見等の記入）およびレポート（50%）により、総合的に評価を行います。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス（シラバス確認） 対面				
第2回	「日蓮宗」の成立 同時双方向型のオンライン授業				
第3回	教学革新の試み：優陀那日輝 同時双方向型のオンライン授業				
第4回	文献学と民衆信仰：小川泰堂 同時双方向型のオンライン授業				
第5回	長松清風と本門仏立講 同時双方向型のオンライン授業				
第6回	国国会概論：田中智学の活動 同時双方向型のオンライン授業				
第7回	本多日生の活動 同時双方向型のオンライン授業				
第8回	内村鑑三『代表的日本人』の日蓮観 同時双方向型のオンライン授業				
第9回	日蓮主義と文学：高山樗牛（付：姉崎正治） 同時双方向型のオンライン授業				
第10回	日蓮主義と文学：宮沢賢治 同時双方向型のオンライン授業				
第11回	日蓮思想と革命思想：北一輝 同時双方向型のオンライン授業				
第12回	国家主義との関わり：石原莞爾 同時双方向型のオンライン授業				
第13回	日蓮系新宗教 1 同時双方向型のオンライン授業				
第14回	日蓮系新宗教 2 同時双方向型のオンライン授業				
第15回	まとめ 同時双方向型のオンライン授業				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：田村芳朗・宮崎英修編『講座日蓮4（日本近代と日蓮主義）』（春秋社）1972年、『近代日本の日蓮主義運動』大谷栄一（法蔵館）2001年、『シリーズ日蓮4 近現代の法華運動と在家教団』西山茂編（春秋社）2014年。					
【学生へのメッセージ】					
授業中に指示した参考書を始めとする関連書籍を読むことが望ましい。またなるべく双方向の授業とするため、質問・意見等の記入に注力すること。					
【オフィスアワー】					
随時、メール（ookada(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
日蓮宗布教研修所で講師担当。社会に還元や貢献のできる日蓮思想の学びを志向します。					

年度	区分		分野		
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[l_mnb4] [17] 日蓮教学と現代社会《遠隔授業》				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	岡田 文弘		オカダ フミヒロ	okada fumihiro [ookada(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人の思想は単に知識として学べば良いだけでなく、それを現実の「社会問題」の解決や改善に活かすという実践が求められます。本授業では日蓮聖人の思想を活かし、「現代」に生きる我々がどのように「社会貢献」を果たせるのかを、受講生の皆さんと一緒に考えていくものです。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮教学に立脚して現代社会を捉えることで、現代社会についての基本的な理解を深め、諸問題を自身の課題として受け止め、その解決にむけて主体的に取り組むことができる力を養います。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、異文化理解、情報収集力、情報分析力、読解力、会話力、口頭発表力、論理的思考力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
この授業は同時双方向型（ライブ配信）のオンライン授業です。ファイル・キャビネットにアップした資料を教材に用います。授業内でディスカッションを行った上で、Googleフォームを用いて質問・コメント等を提出してもらいます。（その質問等については、翌週の授業の冒頭でフィードバックを行います）。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。事前学修は、事前配布資料を読んでおくこと。事後学修は、学修した内容を自分なりに整理しておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業での取り組み（70%、ディスカッションでの発言、Googleフォームへの記入等）、およびレポート（30%）により、総合的に評価を行います。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス（シラバス確認） 対面				
第2回	現代における日蓮思想の親和性と異質性 同時双方向型のオンライン授業				
第3回	宗教間の衝突をめぐる問題1（諸事例の概観） 同時双方向型のオンライン授業				
第4回	宗教間の衝突をめぐる問題2（私たちはどう対処すべきか） 同時双方向型のオンライン授業				
第5回	「宗教離れ」の問題1（諸事例の概観） 同時双方向型のオンライン授業				
第6回	「宗教離れ」の問題2（私たちはどう対処すべきか） 同時双方向型のオンライン授業				
第7回	政治と宗教1（諸事例の概観） 同時双方向型のオンライン授業				
第8回	政治と宗教2（私たちはどう対処すべきか） 同時双方向型のオンライン授業				
第9回	環境問題 同時双方向型のオンライン授業				
第10回	生命倫理 同時双方向型のオンライン授業				
第11回	ジェンダー問題1（諸事例の概観） 同時双方向型のオンライン授業				
第12回	ジェンダー問題2（私たちはどう対処すべきか） 同時双方向型のオンライン授業				
第13回	高齢化社会の問題 同時双方向型のオンライン授業				
第14回	現代における日蓮思想の有効性 同時双方向型のオンライン授業				
第15回	まとめ 同時双方向型のオンライン授業				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメ等を使用。参考書：『日蓮聖人の教えと現代社会』庵谷行亨著（山喜房佛書林）1993年、『法華信仰の道』庵谷行亨著（日蓮宗新聞社）1998年、『日蓮聖人の教え』庵谷行亨著（山喜房佛書林）2012年。					
【学生へのメッセージ】					
ディスカッション主体の授業にしていきたいので、受講生の皆さんが主体的に問題意識を持つことが求められます。自由に発言がしやすい場となるよう、最大限に努めます。					
【オフィスアワー】					
随時、メール（ookada(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
日蓮宗布教研修所で講師担当。社会に還元や貢献のできる日蓮思想の学びを志向します。					

年度	区分				分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目				日蓮学系科目	
講義名	[J_mnb4] [19] 日蓮学特講					
区分	前期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	--	--	3年	4年		
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
本講義では仏教思想・法華思想に基づいて構築された日蓮思想の考察を、日蓮聖人遺文五大部の一つ『撰時抄』の講読をもって行う。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
本講義受講によって(1)研究文献及び史料の講読を行うことにより読解力を養い、(2)また日蓮聖人の思想的内面を史料より収集、分析する。(3)さらに先行研究に対し論理的思考力を培い、批判的思考力も修得する。そして本講義と「日蓮学特講」を受講することにより五大部すべての講読を行ったこととなり、聖人の思想の変遷を理解する。コンピテンシー：読解力、情報収集力、情報分析力、論理的思考力、批判的思考力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
様々な資料（遺文）を提示しながら、史料などに対する疑問などを受講生全員で「共有し考える」ことを目的とする。また時にはタブレット端末やICT機器を使用し、双方向授業を行う。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学修（2時間以上）として資料の語句調べ、並びに内容把握すること。事後学修（2時間以上）として内容についての読み直し、および理解の整理、ノート作りを行うこと。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業に取り組む姿勢（25%、事前・事後学修を含む）、中間レポート（25%）、課題レポート（50%）で評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	オリエンテーション					
第2回	『撰時抄』 解題					
第3回	『撰時抄』 講読 1					
第4回	『撰時抄』 講読 2					
第5回	『撰時抄』 講読 3					
第6回	『撰時抄』 講読 4					
第7回	『撰時抄』 講読 5					
第8回	『撰時抄』 講読 6					
第9回	『撰時抄』 講読 7					
第10回	『撰時抄』 講読 8					
第11回	『撰時抄』 講読 9					
第12回	『撰時抄』 講読10					
第13回	『撰時抄』 講読11					
第14回	『撰時抄』 講読12					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
テキストについては随時指示する。参考書：『妙法蓮華経開結』法華経普及会（平楽寺書店）1924年、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1954年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）1978年、『平成新脩日蓮聖人遺文集』米田淳雄（地人館）1995年ほか。授業の中で適宜紹介していく。						
【学生へのメッセージ】						
『撰時抄』は大部である。集中力を切らさず、意欲的な受講姿勢を望む。						
【オフィスアワー】						
火曜日 4 時限目、水曜日 2 時限目、質問はメール（kimura(a)min.ac.jp）でも可。						
【実務経験】						
なし						

年度	区分		分野		
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[K_mnb4] [21] 日蓮学特講				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi [kimura(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本講義では仏教思想・法華思想に基づいて構築された日蓮思想の考察を、日蓮聖人遺文五大部の一つ『報恩抄』の講読をもって行う。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
本講義受講によって(1)研究文献及び史料の講読を行うことにより読解力を養い、(2)また日蓮聖人の思想的内面を史料より収集、分析する。(3)さらに先行研究に対し論理的構成力を培い、批判的思考力も修得する。そして本講義と「日蓮学特講」を受講することにより五大部すべての講読を行ったこととなり、聖人の思想の変遷を理解する。コンピテンシー：読解力、情報収集力、情報分析力、論理的思考力、批判的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
様々な資料 (遺文) を提示しながら、史料などに対する疑問などを受講生全員で「共有し考える」ことを目的とする。また時にはタブレット端末やICT機器を使用し、双方向授業を行う。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) として資料の語句調べ、並びに内容把握すること。事後学修 (2時間以上) として内容についての読み直し、および理解の整理、ノート作りを行うこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業に取り組む姿勢 (25%、事前・事後学修を含む)、中間レポート (25%)、課題レポート (50%) で評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	『報恩抄』 解題				
第3回	『報恩抄』 講読 1				
第4回	『報恩抄』 講読 2				
第5回	『報恩抄』 講読 3				
第6回	『報恩抄』 講読 4				
第7回	『報恩抄』 講読 5				
第8回	『報恩抄』 講読 6				
第9回	『報恩抄』 講読 7				
第10回	『報恩抄』 講読 8				
第11回	『報恩抄』 講読 9				
第12回	『報恩抄』 講読 10				
第13回	『報恩抄』 講読 11				
第14回	『報恩抄』 講読 12				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
テキストについては随時指示する。参考書：『妙法蓮華経開結』法華経普及会 (平楽寺書店) 1924年、『昭和定本日蓮聖人遺文』立正大学日蓮教学研究所編 (身延山久遠寺) 1954年、『日蓮辞典』宮崎英修編 (東京堂出版) 1978年、『平成新脩日蓮聖人遺文集』米田淳雄 (地人館) 1995年ほか。授業の中で適宜紹介していく。					
【学生へのメッセージ】					
『報恩抄』は大部である。集中力を切らさず、意欲的な受講姿勢を望む。					
【オフィスアワー】					
火曜日 4 時限目、水曜日 2 時限目、質問はメール (kimura(a)min.ac.jp) でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[L_mnb3] [23] 日蓮宗の歴史資料				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2) 日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi [kimura(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮教団史の史料、特に宗教統制関係古文書に親しみ基礎的な史料読解力をつけることを目的とする。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
本講義を受講することにより、近世日蓮教団が為政者 (幕府) より課せられた宗教統制や当時の寺院と民衆との関係、さらに当時の社会情勢を理解する。これにより(1)研究文献及び史料の講読を行うことにより読解力を養い、(2)当時の寺院と権力者との関係を史料より収集、分析する。(3)現在の寺院が置かれている現状を歴史上から論理的に考察し、批判的思考力を養う。コンピテンシー：読解力、情報収集力、情報分析力、論理的思考力、批判的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
史料を読解して内容を理解するためには、さまざまな辞典や参考文献を駆使して「調べる」ことが必要となる。受講生諸君にテキストの各部分を割り当てて順次発表してもらう。割り当て部分の発表は必須である。視聴覚教材を用い、一部タブレット端末等のICT機器を使用して双方向授業を行う。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、あらかじめ配布したプリント並びに指示した参考書は必ず読んでおくこと。事後学修 (2時間以上) は、受講後に講読した古文書についてまとめノートを作成すること。					
【成績評価 (方法・基準)】					
期末レポート (60%)、中間レポート (30%)、授業及び課題に対する取り組み姿勢 (10%) で評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	日蓮教団史の参考文献				
第2回	「宗門改」関係書状 概説				
第3回	「宗門改」関係書状 講読 1				
第4回	「宗門改」関係書状 講読 2				
第5回	「宗門改」関係書状 講読 3				
第6回	「暦」について 陰陽五行説				
第7回	「暦」について 干支とは				
第8回	「宗門改」関係書状 講読 4				
第9回	「宗門改」関係書状 講読 5				
第10回	「宗門改」関係書状 講読 6				
第11回	「宗門改」関係書状 講読 7				
第12回	「宗門改」関係書状 講読 8				
第13回	「宗門改」関係書状 講読 9				
第14回	「寺送」などに対する日蓮宗寺院の対応				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
テキスト：事前にプリントを用意する。参考書：『日蓮教団全史上』立正大学日蓮教学研究所編 (平楽寺書店) 1964年、『日蓮宗の成立と展開』中尾堯 (吉川弘文館) 1973年、『法華宗と町衆』藤井学 (法蔵館) 2003年など。					
【学生へのメッセージ】					
割り当て部分の発表・講読が必須である。各講義終了前に要点を述べるので、その要点に基づいた積極的な予習・復習を希望する。					
【オフィスアワー】					
火曜日 4 時限目、水曜日 2 時限目、質問はメール (kimura(a)min.ac.jp) でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[M_mnb3] [25] 日蓮聖人真蹟研究				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi [kimura(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人の思想・行動などを究明する基本的な資料は、聖人が書き遺した遺文（著書・書状など）である。本講義は聖人の自筆遺文（真蹟）について多角的に考察を加え、日蓮聖人遺文の基礎的知識の修得と理解を行っていく。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
本講義を受講することによって(1)日蓮聖人遺文の読解を行うことにより読解力を養い、(2)遺文の中で真蹟の持つ意味を論理的に理解し、他者に伝えることができるようにする。(3)さらに先行研究に対し論理的構成力を培い、批判的思考力をもって史実と伝承について理解を深める。 コンピテンシー：読解力、論理的思考力、構想力、批判的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
日蓮聖人真蹟書状を写真版によって講読する。二紙程度の短文の書状や長文の書状を講読する。真蹟の書写などの課題を通し聖人の「書跡」についての見識を修得する。タブレット端末やICT機器を使用し、双方向授業を行うことにより視覚的にも理解を深める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）として配布される資料を熟読し、解らない文字についてチェックを行うこと。事後学修（2時間以上）として配布された活字資料を基に筆跡などを熟知すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（50%）、中間レポート（20%）、課題に対する評価（30%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション 日蓮聖人真蹟の種類と内容				
第2回	著作と消息（手紙）についての検討				
第3回	図録・要文・書写本についての検討				
第4回	祖書学とは				
第5回	料紙の使用法と書状の特徴				
第6回	日蓮聖人遺文の蒐集 その1				
第7回	日蓮聖人遺文の蒐集 その1				
第8回	日蓮聖人遺文の編集				
第9回	日蓮聖人遺文の継承と伝来 写本と刊本				
第10回	日蓮聖人遺文の継承と伝来 編纂について				
第11回	真蹟書状『富木殿御書』の解題と講読1				
第12回	真蹟書状『富木殿御書』の解題と講読2				
第13回	真蹟書状『兵衛志女房御返事』の解題と講読1				
第14回	真蹟書状『兵衛志女房御返事』の解題と講読2				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
講読する日蓮聖人真蹟書状講読については、写真版のプリントを用意する。参考書：『日蓮聖人真蹟集成』全10巻、立正安国會編（法蔵館）1976年、『仏教古文書字典』川澄勲編（山喜房仏書林）1982年、『日蓮聖人書体字典』松本慈恵編（国書刊行会）1991年など。					
【学生へのメッセージ】					
講読にあたっては受講生を順次指名するので、積極的な予習・復習が望まれる。講読の順序は変更する場合もある。					
【オフィスアワー】					
火曜日4時限目、水曜日2時限目、質問はメール（kimura(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野		
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目				日蓮学系科目		
講義名	[N_mnb4] [27] 開目抄概説						
区分	前期（15回）		単位	必修（2）日蓮学専攻		形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年			
担当教員	都守 基一		ツモリ キイチ		tsumori kiichi [tumori(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
日蓮聖人が門下への「かたみ」として書き残された『開目抄』について概説し、聖人の行動と思想、とくに法難の意義や宗教的自覚について勉強します。							
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】							
主師親三徳と儒外内三道から説き起こし、寿量文底の一念三千と法華經の行者の自覚を明かした『開目抄』を学ぶことにより、「多様な学問の考え方」と択一的価値観の矛盾的相即を理解し、「批判的思考力」と「論理的思考力」を養うことができる。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
指定の参考書と配布プリントによる講義、およびプレゼンテーションやICT機器を用いた授業を行う。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修（2時間以上）は、指定参考書による予習、事後学修（2時間以上）は、配布プリントによる復習を行うことを望みます。							
【成績評価（方法・基準）】							
学力確認テスト（80%）、課題発表などの授業への取り組み姿勢（20%）を基準として総合的に評価します。							
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】							
第1回	『開目抄』の概要						
第2回	述作の由来（日蓮聖人と佐渡）						
第3回	大意と構成						
第4回	遺文上の位置						
第5回	主師親三徳						
第6回	儒教と外道						
第7回	諸經と法華經						
第8回	寿量文底の一念三千						
第9回	二乗作仏						
第10回	久遠実成						
第11回	本因本果の法門						
第12回	法華經の難信						
第13回	罪業意識と発願						
第14回	法華經の行者と法難						
第15回	諸天不守護の疑問						
【教科書・参考書】							
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年。参考書：『日本の仏典9 日蓮』小松邦彰・渡辺宝陽著（筑摩書房）1988年。『開目抄講讀』上・下 茂田井教亨述（山喜房佛書林）1988年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。							
【学生へのメッセージ】							
後期の「開目抄講讀」と併せて受講し、日蓮聖人遺文中の最長編を読了した満足感を味わってほしい。							
【オフィスアワー】							
授業時間の前後に教室または講師室にて受け付ける。							
【実務経験】							
日蓮宗教師・常圓寺日蓮仏教研究所主任							

年度	区分		分野		
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[O_mnb4] [29] 開目抄講読				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	都守 基一		ツモリ キイチ	tsumori kiichi [tumori(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人遺文の中で『観心本尊抄』と共に重要とされている『開目抄』の講読を通して、主師親三徳・二乗作仏・久遠実成・一念三千・三大誓願・摂受と折伏など、重要教義についての理解を深める。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
テキスト音読を繰り返すことにより、日蓮聖人遺文のリズムに慣れ、「読解力」「文章表現力」「論理的思考力」の基礎が養われる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
指定の教科書の輪読、配布プリントによる解説とともに、プレゼンテーションやICT機器を用いた授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、指定参考書による予習、事後学修（2時間以上）は、配布プリントによる復習を行うことを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80%）、課題発表などの授業への取り組み姿勢（20%）を基準として総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	釈尊と諸菩薩諸天の師弟関係				
第2回	法華経と具足の法門				
第3回	分身諸仏と地涌の菩薩				
第4回	本仏本土の開顕				
第5回	本尊に迷う諸宗				
第6回	一念三千の仏種				
第7回	已今当と六難九易				
第8回	三箇の勅宣と二箇の諫暁				
第9回	三類の強敵				
第10回	念仏宗と禅宗				
第11回	三大誓願				
第12回	滅罪と成仏				
第13回	摂受と折伏				
第14回	三仏の慈悲とその継承				
第15回	プレゼンテーション（『開目抄』について自分の考えを発信しよう）				
【教科書・参考書】					
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年。参考書：『日本の仏典9 日蓮』小松邦彰・渡辺宝陽著（筑摩書房）1988年。『開目抄講讀 上・下』茂田井教亨述（山喜房佛書林）1988年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
前期の「開目抄概説」と併せて受講し、大事なものを見失っている人々の「目」を「開」かせようとして法難を耐え忍んだ日蓮聖人のお心を感じてほしい。					
【オフィスアワー】					
授業時間の前後に教室または講師室にて受け付ける。					
【実務経験】					
日蓮宗教師・常圓寺日蓮仏教研究所主任					

年度	区分		分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目	
講義名	[P_mnb5] [31] 観心本尊抄概説			
区分	前期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式 講義
授業年次	--	--	3年	4年
担当教員	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko [ohtani(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
日蓮聖人遺文の中で最も重要とされている『観心本尊抄』の概要について学修します。対告者・述作由来・遺文中の位置・要旨など、『観心本尊抄』の基本的事項について概説します。 キーワード：観心本尊抄、日蓮聖人、述作由来。『観心本尊抄』の学修を通して仏教者としての総合的・多角的知識を身につけます。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
法開頭の書とされている『観心本尊抄』の概要を総合的に理解することにより、日蓮教学における『観心本尊抄』の位置づけと重要性を把握し、自発的に考察を深め、自身の考えを発表する力を養うことを目標とします。 コンピテンシー：情報分析力、読解力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
講義を通して、『観心本尊抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表（プレゼンテーション）し、全員で意見交換（ディスカッション）をおこないます。オープンな教育リソースを活用して理解を深め学修の成果を発信します。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト（80％）、課題発表（授業中に課題に関する学修成果を発表）・意見交換（発表者に対する質問や意見）などの授業への取り組み姿勢（20％）を基準として総合的に評価します。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	『観心本尊抄』の真蹟・写本			
第2回	『観心本尊抄』の述作地 オープンな教育リソースを活用して述作の状況を理解しその内容を発信する			
第3回	『観心本尊抄』の述作年・聖寿			
第4回	『観心本尊抄』の対告者			
第5回	『観心本尊抄』の述作由来1 外的理由			
第6回	『観心本尊抄』の述作由来2 内的理由			
第7回	『観心本尊抄』の題号1			
第8回	『観心本尊抄』の題号2			
第9回	『観心本尊抄』の署名			
第10回	『観心本尊抄』の構成			
第11回	『観心本尊抄』の遺文中の位置1			
第12回	『観心本尊抄』の遺文中の位置2			
第13回	『観心本尊抄』の未註			
第14回	『観心本尊抄』の要旨			
第15回	観心本尊抄概説のまとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年。参考書：『観心本尊抄・仏典講座』38 浅井円道著（大蔵出版）1982年、『本尊抄講讀』上・中・下 茂田井教亨述（山喜房佛書林）1987年、『観心本尊抄の世界』上 庵谷行亨著（日蓮宗新聞社）2022年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。				
【学生へのメッセージ】				
授業内容の関係から後期の「観心本尊抄講読」と併せて受講することを望みます。				
【オフィスアワー】				
授業の前後に教室にて対応します。				
【実務経験】				
宗教法人宗長寺代表役員26年。社会における宗教の役割を視点に授業します。				

年度	区分		分野		
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目		日蓮学系科目		
講義名	[Q_mnb5] [33] 観心本尊抄講読				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	庵谷 行亨		オオタニ ギョウコウ	otani gyoko [ohtani(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮聖人遺文の中で最も重要とされている『観心本尊抄』の講読を通して、観心・十界互具・一念三千などの日蓮教学の基本的事項について学修します。 キーワード：観心本尊抄、日蓮聖人、観心、十界互具、一念三千。『観心本尊抄』の学修を通して仏教者としての総合的・多角的知識を身につけます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
『観心本尊抄』を講読することにより、『観心本尊抄』の内容を体系的に理解し、主体的に考察を深め、自身の意見を発表する力を養うことを目標とします。 コンピテンシー：情報分析力、読解力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講読を通して、『観心本尊抄』の内容をどのように受け止め、どのように生かしていくかについて考察を深めます。具体的には毎回課題を提示し、受講生が発表（プレゼンテーション）し、全員で意見交換（ディスカッション）をおこないます。オープンな教育リソースを活用して理解を深め学修の成果を発信します。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
各回の授業では、シラバスの記載内容に基づいて事前学修を2時間以上おこない、授業後はノートを整理して講義内容の理解に努めるなど事後学修を2時間以上おこなってください。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80％）、課題発表（授業中に課題に関する学修成果を発表）・意見交換（発表者に対する質問や意見）などの授業への取り組み姿勢（20％）を基準として総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	摩訶止観結成理境の文				
第2回	一念三千の名目出处 1				
第3回	一念三千の名目出处 2				
第4回	天台大師の功績と末学の無知				
第5回	教門と観門の難信難解				
第6回	草木国土と色心因果				
第7回	観心の心 1				
第8回	観心の心 2 オープンな教育リソースを活用して観心のイメージを理解しその内容を発信する				
第9回	十界互具の証文 1				
第10回	十界互具の証文 2				
第11回	十界互具の難信 1				
第12回	十界互具の難信 2				
第13回	十界互具の事実 1				
第14回	十界互具の事実 2				
第15回	観心本尊抄講読のまとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『日蓮聖人遺文要集』立正大学日蓮教学研究所編（身延山久遠寺）1988年。参考書：『観心本尊抄・仏典講座38』浅井円道著（大蔵出版）1982年、『本尊抄講讀 上・中・下』茂田井教亨述（山喜房佛書林）1987年、『観心本尊抄の世界 上』庵谷行亨著（日蓮宗新聞社）2022年。その他の参考書は講義中に適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
授業内容の関係から前期の「観心本尊抄概説」と併せて受講することを望みます。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
宗教法人宗長寺代表役員26年。社会における宗教の役割を視点に授業します。					

年度	区分	分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目	仏教学系科目

講義名	[A_mbs2] [01] サンスクリット語
-----	------------------------

区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義と演習
----	----------	----	--------	----	-------

授業年次	1年	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	塩田 宝樹	シオタ ホウジュ	shiota hoju [shiota(a)]
------	-------	----------	-------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

サンスクリット語のテキストを読むための基礎力を獲得するために必要な文法力と語彙力を養う。文法の説明は講義形式で行い、その後に演習形式で設問を解く。

【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】

中期インド・アリア語に属する標準的なパーニニ文法に基づく名詞、代名詞、形容詞、数詞の変化と音韻の変化などの基礎を修得して、サンスクリット語仏典講読のための基礎力を養うことを目的とする。この講義では、音韻・連声・名詞・形容詞・数詞・代名詞の文法理解ができることを目標とする。 コンピテンシー：外国語リテラシー、異文化理解、読解力

【授業方法 (フィードバックの内容)】

テキストの文法解説を行いながら、テキストに掲載されている練習問題を解く。最初は教員が解答の解説を行うが、途中からは受講生が板書をして、自らその解を示す。専門言語は簡単ではありません。そのため、毎日欠かさず文法事項を復習し、体に覚えこませましょう。

【授業外学修の方法 (時間数)】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。1日にまとめて学習するより、毎日短時間学習することを勧める。粘り強く、地道に頑張ろう。

【成績評価 (方法・基準)】

授業参加の様子 (授業への出席、授業内のリアクションペーパー)、課題への取り組み (予習・復習のための課題)、実力診断・判定試験 (筆記試験もしくは期末課題レポート) を総合的に評価する。

【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	ガイダンス、サンスクリット語とは何か
第2回	文字と発音
第3回	音の変化：母音の変化
第4回	音の変化：内・外連声
第5回	名詞・形容詞の変化：母音の活用
第6回	名詞・形容詞の変化：子音の活用 1
第7回	名詞・形容詞の変化：子音の活用 2
第8回	代名詞の変化、比較法と数詞の変化
第9回	動詞の変化：総論
第10回	動詞の変化：第一次活用
第11回	動詞の変化：第二次活用
第12回	動詞の変化：アオリスト
第13回	動詞の変化：完了と使役、条件法
第14回	六合釈の考え方
第15回	全体の総括

【教科書・参考書】

教科書：『サンスクリット語初等文法』j. ゴンダ著、辻直四郎校閲、鎧淳訳 (春秋社) 1974年。参考書：『サンスクリット文法』辻直四郎著 (岩波全書) 1974年。『新・サンスクリットの基礎』上・下、菅沼晃著 (平河出版社) 1994-1997年など。辞書：『漢訳対照梵和大辞典 (増補改訂版)』荻原雲来編纂 (講談社) 1979年など。

【学生へのメッセージ】

語学は一朝一夕では習得できません。日々地道に取り組んでいきましょう。授業はできる限り出席すること。サンスクリット語が少しでも読めるようになると、仏教学の面白さが格段に増すと思います。頑張ってください。

【オフィスアワー】

授業の前後や出講日の休み時間など、できる限り対応します。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメールでアポイントメントを取ってください。

【実務経験】

なし

年度	区分	分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目	仏教学系科目

講義名	[B_mbs2] [03] 漢文
-----	------------------

区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	桑名 貫正	クワナ カンショウ	kuwana kansyo [kkuwana(a)]
------	-------	-----------	----------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

漢文は中国語という外国語で、中国の純粋な記載言語としての文語文であるが、その形を模倣した日本人の文章も含む。仏教漢文の法華経要文を繰り返し訓読することにより、句読点・返り点・送りがな・読まない文字・二度読む文字・返読文字等の読解力を自然に修得させ、受講生がより漢文に慣れ親しむことができるよう、その要文の内容について解説を行う。

【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】

仏教を研究する上で、漢文体で書かれた仏教文献が多く、漢文読解力は仏書研究上、必要不可欠である。そこで、漢文学修の基礎として、私達が手にしている妙法蓮華経を中心に学修し、漢文に慣れ親しみ、漢文読解力・文章表現力を身につけることを授業の目標とする。コンピテンシー：異文化理解、外国語リテラシー、情報分析力、読解力、文章表現力、論理的思考力、構想力、実行力

【授業方法 (フィードバックの内容)】

妙法蓮華経の要文をテキストとし、漢文の訓読を反復することを中心として、その要文の内容理解を深め、漢文に慣れ親しむ。繰り返し訓読を重ねることにより、漢文読解の力が養えられる。また要文・語句の理解のためにディスカッションをしながら、漢文の訓読の訓練に重点を置き習練する。

【授業外学修の方法 (時間数)】

事前学修は、各回の講義内容・テキストの配布資料により、事前学修を2時間以上行うこと。事後学修は、配布資料に基づき授業の復習を2時間以上行うこと。

【成績評価 (方法・基準)】

授業内の漢文読解修得度テスト (50%)、授業への取り組み状況 (50%) も重視する。

【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	序品第一の要文・文殊師利菩薩と弥勒菩薩との修行の相違
第2回	方便品第二の要文・諸法実相の内容
第3回	方便品第二の要文・諸仏の世に出現する理由
第4回	譬喩の要文・成仏の理解
第5回	法師品第十の要文・成仏の方法 末法悪世に生まれた理由・衣座室の修行
第6回	提婆達多品第十二の要文・悪人成仏と女人成仏
第7回	勸持品第十三の要文・二十行の偈
第8回	如来寿量品第十六の要文・娑婆の本国土性の開頭
第9回	如来寿量品第十六の要文・良医良薬の譬え 毎自の悲願
第10回	分別功德品第十七の要文・仏の寿命の聞説の功德 一念信解の功德
第11回	常不軽菩薩品第二十の要文 但行礼拝
第12回	如来神力品第二十一の要文 別付嘱・四句の要法
第13回	観世音菩薩普門品第二十五の要文 供養の真意 観音の名前の因縁
第14回	普賢菩薩勸発品第二十八の要文 四法成就等
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：本山頂妙寺蔵版『妙法蓮華経 (改正訓点・句読・清濁)』(平楽寺書店)2004年。プリントを配布する。参考書：法華経普及会編『真訓両読 妙法蓮華経並開結』(平楽寺書店)2000年、岩波文庫『法華経 上・中・下』坂本幸男・岩本裕訳注(岩波書店)1997年。

【学生へのメッセージ】

これまで、漢文に接する機会はありませんでしたが、反復練習をすれば、容易にそのコツが得られ、日蓮学専攻専門科目のレポート・卒業論文等において大いに役立つであろう。

【オフィスアワー】

授業時間の前後に教室にて対応する。

【実務経験】

宗教法人妙法寺代表役員

年度	区分			分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[C_mbs2] [05] チベット語《遠隔授業》				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	槇殿 伴子		マキドノ トモコ		makidono tomoko [tomokomakidono(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
チベットの文字とチベット語の基礎的文法を講義する。それとともに、簡単なチベット文を解説することで、自分一人でチベット語仏典を講読する方法を解説する。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
チベット語の基礎文法を修得することにより、(1)チベットの「異文化を理解」し、(2)チベット語の「外国語リテラシー」を獲得し、(3)チベット語文章の「読解力」を獲得することができる。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
教科書に従って、チベット語文法の基礎を学ぶ。ただし、チベット語のできない学生には、教科書の和訳を用意する。なお、「チベット語」は同時双方向型の遠隔授業である。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、シラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。事後学修 (2時間以上) は、学修した文字・単語を覚え、講義内容の理解を含め次回に備えること。					
【成績評価 (方法・基準)】					
レポート (30%)、授業への取り組み (70%) で評価を行う。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション / チベット文字				
第2回	チベット語の綴り字				
第3回	名詞				
第4回	助詞				
第5回	動詞 1				
第6回	動詞 2				
第7回	代名詞				
第8回	動詞 3				
第9回	継続用法				
第10回	譲歩				
第11回	引用				
第12回	関係詞節				
第13回	命令法				
第14回	尊敬語				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書 : A Primer for Classical Literary Tibetan. Vol 1. Grammar. Second Edition. Rockwell, John Jr. 1991. 参考書 : Manual of Standard Tibetan: Language and Civilization. Nicolas Tournadre & Sangda Dorje. Ithaca, New York, Boulder, Colorado: Snow Lion. 『チベット語初等文法 (新訂版)』高橋尚夫・前田亮道・倉西憲一・吉澤秀和 (大正大学出版会) 2021年、H.A. イェシュケ編 『蔵英辞典』 (臨川書店) 1987年。					
【学生へのメッセージ】					
チベット語を身につけることは、チベット語文献を読むためや、チベット旅行を容易にするための手段である。チベット語に興味があるだけでは、学修が続かないので、明確な目的をもって学んでもらいたい。					
【オフィスアワー】					
随時、メール (tomokomakidono(a)min.ac.jp) でアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
7年間大学で英語・日本語を教授 ; 大学でアジア史を4年間、チベット仏教概論を1年間教授。					

年度	区分			分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[D_mbs3] [07] 大乘仏教概論				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2) 日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie [imochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
インドにおいて仏教の改革運動として誕生した大乘仏教についてその成立から展開までを講義する。具体的には、様々な大乘経典から論書への展開を経て金剛乗に至るインド仏教の思想的変遷を解説する。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
インドにおける大乘仏教の展開を理解することにより、仏教の改革運動から其滅亡までの歴史を理解し「情報収集力」、インドにおけるヒンドゥーとの融合と東アジアへの流布の背景を分析し「情報分析力」、インドにおける仏教思想の展開を総合的に理解する「論理的思考力」ことができる。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
講義であるから、教科書として用いるテキストに従って講義をしていく。それゆえにノートに要点を筆記することに終始することになるであろう。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、テキストをあらかじめ読んできて、問題点を明らかにして仏教辞典などを用いて予習をしておくこと。事後学修 (2時間以上) は、講義内容を整理して、次回との関連を明らかにしておくこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
学力確認テスト (70%)、授業への取り組み (30%) で評価を行う。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	大乘仏教とは何か				
第2回	大乘仏教起源論				
第3回	上座部仏教と大乘仏教				
第4回	戒律と教団				
第5回	菩薩思想				
第6回	般若経				
第7回	華嚴経				
第8回	法華経				
第9回	浄土経典				
第10回	中観思想				
第11回	瑜伽行唯識思想				
第12回	如来蔵思想				
第13回	仏教論理学				
第14回	密教				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎 1 インド編』大正大学仏教学部編 (大正大学出版会) 2016年。参考書：『シリーズ大乘仏教 全10巻』桂紹隆他編 (春秋社) 2011年、『講座・大乘仏教 全10巻』平川彰他編 (春秋社) 1981年。					
【学生へのメッセージ】					
日本に伝わった仏教が、本来はどのような姿だったのかを考えながら、インドの仏教を理解してもらいたい。					
【オフィスアワー】					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授した経験を活かして授業を行います。					

年度	区分			分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目
講義名	[E_mbs3] [09] 中国仏教概論			
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2) 日蓮学専攻	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
一世紀頃にシルクロードを通して中国に伝わった仏教は、儒教や道教と対立・融合しながら受容され、支謙・竺法護・鳩摩羅什といった訳経僧に加え、法顕・玄奘など求法僧の活躍により多くの仏典が漢訳され、その後、三論・天台・三階教・法相・律・華嚴・密教・浄土教・禅など各宗派・学派の成立をみながら、中国仏教という独自の宗教思想が展開されるようになる。中国仏教概論 (Introduction to Buddhism in China) では、中国における仏教の歴史的展開について講説します。				
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】				
(1)中国仏教の歴史的展開について理解し、日本仏教との関係性の中で、その独自性についての私見を深めていくことができるようになる。(2)中国仏教を中心とした東西の仏教事情について理解し、これまでの仏教思想の変遷や、これからの仏教文化の展開についての素養を身につけることができるようになる。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報構成力、読解力、口頭発表力、論理的思考力、計画力、実行力				
【授業方法 (フィードバックの内容)】				
教育リソースに沿って進めていきます。毎回、授業のまとめ (成績評価の対象) を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。				
【授業外学修の方法 (時間数)】				
事前学修 (2時間以上) は、授業計画を確認し、次のキーワードについて調べ学修を行うこと。事後学修 (2時間以上) は、教育リソースを読み直し、前回の「授業のまとめ」を提出すること。				
【成績評価 (方法・基準)】				
授業への取り組み姿勢 (20%)、授業のまとめ (30%)、課題提出 (20%)、発表 (30%) により総合評価します。				
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】				
第1回	ガイダンス / 東漸する仏教 1 キーワード：仏教伝来			
第2回	東漸する仏教 2 キーワード：仏教と老荘思想			
第3回	国家仏教の誕生 1 キーワード：廬山の慧遠			
第4回	東漸する仏教 3 キーワード：鳩摩羅什			
第5回	国家仏教の誕生 2 キーワード：仏教の弾圧			
第6回	国家仏教の誕生 3 キーワード：武帝と達磨			
第7回	国家仏教の誕生 4 キーワード：天台大師智顛			
第8回	国家仏教の誕生 5 キーワード：武帝と曇鸞			
第9回	仏教の中国化 1 キーワード：民衆の浄土教			
第10回	仏教の中国化 2 キーワード：玄奘三蔵			
第11回	仏教の中国化 3 キーワード：密教の歩み			
第12回	仏教の中国化 4 キーワード：禅仏教の展開			
第13回	漢文講読 1 キーワード：添品妙法蓮華経序、法華翻経後記 1			
第14回	漢文講読 2 キーワード：法華翻経後記 2			
第15回	発表 / まとめ			
【教科書・参考書】				
教科書：教育リソースを提供する。参考書：『定本中国仏教史』任継愈主編・丘山新ほか訳 (柏書房) 1992年、『お坊さんも学ぶ 仏教学の基礎 ; 2 中国・日本編 [改訂版]』大正大学仏教学科編 (大正大学出版会) 2016年。辞書・事典類：『中国仏教史辞典』鎌田茂雄編 (東京堂出版) 1981年、『世界宗教百科事典』世界宗教百科事典編集委員会編 (丸善出版) 2012年、『仏教の事典』末木文美士・下田正弘・堀内伸二編集 (朝倉書店) 2014年。その他：『東漸する仏教：シルクロードから中国へ』ひろさちや (春秋社) 2000年、『面白いほどよくわかる歴史と人物でわかる仏教』田中治郎 (日本文芸社) 2009年。				
【学生へのメッセージ】				
学術情報サービスを活用し最新の研究動向に触れてみることを。				
【オフィスアワー】				
授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。				
【実務経験】				
なし				

年度	区分				分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目	
講義名	[F_mbs3] [11] 日本仏教概論					
区分	前期（15回）		単位	必修（2）日蓮学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	4年		
担当教員	白景皓		ハク ケイコウ		bai jinghao [bai(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
紀元前5世紀、仏陀によって開かれた仏教は、その後東漸して、西域を伝わって中国から朝鮮半島を経て日本に伝えられた。これは6世紀のことで、日本における仏教伝来といわれるできごとである。以降、仏教は日本社会に定着していくが、本講義では、仏教伝来から明治仏教までを概説する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
日本に伝来した仏教がどのように社会に定着し、日本社会に展開していったのか理解することを到達目標とする。仏教史を学び、資料を講読することにより、「論理的思考力」「構想力」「読解力」が身につく。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
テキストやパワーポイントを併用し、随時プリントや参考資料を配布して授業を進めることにする。ビデオ・DVD・画像データといった映像・画像資料も活用する。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
毎回2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。						
【成績評価（方法・基準）】						
第四から第十五回の小テスト（70%）、授業に取り組む姿勢（リアクション・ペーパー）（30%）によって評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	授業の概要					
第2回	古代仏教：仏教伝来					
第3回	古代仏教：聖徳太子と飛鳥文化					
第4回	奈良仏教：国分寺と東大寺					
第5回	奈良仏教：律令制下の仏教					
第6回	平安仏教：天台真言宗の成立					
第7回	鎌倉仏教：浄土系の展開					
第8回	鎌倉仏教：禅系の展開					
第9回	鎌倉仏教：法華系の展開					
第10回	室町仏教：禅宗の展開と教団一揆					
第11回	安土桃山仏教：織豊政権と仏教					
第12回	江戸仏教：幕藩体制と仏教					
第13回	江戸仏教：庶民仏教の展開					
第14回	明治仏教：神仏分離と廃仏毀釈					
第15回	総括					
【教科書・参考書】						
教科書：『日本仏教史：思想史としてのアプローチ』末木文美士（新潮社）2017年。参考書：『日本仏教史』10巻 辻善之助（岩波書店）1969年、『日本仏教史年表』平岡定海他（雄山閣）1999年、『日本仏教史辞典』大野達之助編（東京堂出版）1979年、『図説日本仏教の歴史』飛鳥時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代・明治時代（佼成出版社）1996年。						
【学生へのメッセージ】						
授業の進度に応じて小テストを行い、その結果が全体の成績評価に加わるので授業に欠席しないこと。						
【オフィスアワー】						
授業後または火、水、木曜日のオフィスアワーに対応します。						
【実務経験】						
なし						

年度	区分			分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[G_mbs3] [13] 東南アジア仏教概論				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	塩田 宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
インドからスリランカを経由して、東南アジア全域に広がっていった上座仏教の歴史について概観し、その後、現在成立している国々の仏教事情を概観する。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
大乘仏教とは違った発展をしている東南アジア仏教国について、思想的な特徴を認識し、歴史の変遷を理解し、その上で各国の現代仏教事情を儀礼と習俗、政治と仏法との関係から論じられるようになることを目的とする。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、異文化理解、外国語リテラシー、情報収集力、情報分析力、読解力、文章表現力、論理的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
講義形式で行う。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。学修内容は、その都度配布される資料またはファイルキャビネットから当該の授業に必要な資料をダウンロードして活用すること。資料の指示は教員から予告される。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業参加の様子 (授業への出席、授業内のリアクションペーパー)、課題への取り組み (予習・復習の状況)、実力診断 (期末テストもしくは期末レポート) を総合的に評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス (授業の進め方、成績評価などの説明)				
第2回	上座仏教とは何か?				
第3回	仏教の伝播、インドからスリランカへ				
第4回	上座仏教の戒律				
第5回	上座仏教の教義				
第6回	スリランカ仏教史 1				
第7回	スリランカ仏教史 2				
第8回	スリランカ仏教史 3				
第9回	ミャンマー仏教史 1				
第10回	ミャンマー仏教史 2				
第11回	カンボジア仏教史				
第12回	タイとラオスの仏教史 1				
第13回	タイとラオスの仏教史 2				
第14回	ベトナム仏教史				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書は特に指定しない。各国仏教の情報についてはその都度紹介する。辞書は『上座仏教事典』パーリ学仏教文化学会上座仏教事典編集委員会編 (めこん) 2016年を利用すること。					
【学生へのメッセージ】					
仏教通史を履修済みであること。大乘仏教概論も履修済みであることが望ましい。					
【オフィスアワー】					
授業の前後や出講日の休み時間など、できる限り対応します。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメールでアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目
講義名	[H_mbs3] [15] チベット仏教概論《遠隔授業》				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	
形式	講義				
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	楨殿 伴子		マキドノ トモコ		makidono tomoko [tomokomakidono(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
チベットは、インドの大乗仏教が直接に伝わった地である。その仏教伝承から、チベット仏教の各宗派の歴史と思想、および内陸アジアにおける展開について解説する。本講義の教科書には、マシュー・カプスタイン著『Tibetan Buddhism』を採用し、その内容に基づいて、チベット仏教の思想史と教義史を中心に概説する。一般的に、日本におけるチベット仏教についての学問は論理学派に偏重して行われてきているが、本講義では、瞑想学派を中心に解説し、教科書も瞑想学派の視点を取り入れた教科書を裁定した。そのことは本講義の特徴であり、従来の学問の偏重にバランスを取った視点でチベット仏教を概観することを目的とする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
チベットの仏教を理解することで、ヒマラヤ北部地域における仏教文化の特色を理解し「地域理解」、他地域の仏教文化との相違を知ることができ「異文化理解」、今は滅びてしまったインドの大乗仏教の特色を理解する「情報収集力」ができる。チベット仏教の瞑想学派の理解を深めることで、日本仏教を含む東アジア仏教全体の仏教思想史を俯瞰し、より深く理解できるようになることを目的とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書に従って、チベット仏教を講義する。英文の教科書を読みこみ、毎週、学生さんが主体的に発表することで授業を進めていきます。割り当てられた箇所を丁寧に予習し、積極的な授業への参加を期待します。教科書が英文で書かれているため、その内容の理解には、英語力が必須ですが、語学力に関わらず、講義では、解説を十分に行います。興味があれば学習が可能なように配慮します。なお、「チベット仏教概論」は同時双方向型の遠隔授業です。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、テキストをあらかじめ読んできて、問題点を明らかにして仏教辞典などを用いて予習をしておくこと。事後学修（2時間以上）は、講義内容を整理して、次回との関連を明らかにしておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
レポート（30%）、授業への取り組み（70%）で評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：チベットの死者の書				
第2回	第1章前半：神々・鬼神・人間世界				
第3回	第1章後半：チベット佛教の二つの諸相				
第4回	第2章前半：前伝期チベット仏教				
第5回	第2章後半：チベットの宗教的伝統の源流				
第6回	第3章前半：サムイェの宗論とその影響				
第7回	第3章後半：後伝期チベット仏教				
第8回	第4章前半：アティシャとカダム宗				
第9回	第4章後半：チベット仏教の学派				
第10回	第5章前半：論理学派と瞑想学派				
第11回	第5章後半：僧院の教育				
第12回	第6章：即身成仏				
第13回	第7章：葬送儀礼				
第14回	第8章：今日のチベット仏教				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：Kapstein, Matthew T. 2014. 『Tibetan Buddhism: A Very Short Introduction』 New York : Oxford University Press . 参考書：『チベット仏教思想史』望月海慧（身延山大学）1998年。『新アジア仏教史09チベット 須弥山の仏教世界』（佼成出版社）2010年。van Schaik, Sam. 2011. Tibet: A History. New Haven and London: Yale University Press. 『原典訳チベットの死者の書』川崎信定（ちくま学芸文庫）1993. 『NHK スペシャルチベット死者の書』（DVD）、『Seven Years in Tibet』（DVD）、『Kundun』（DVD）；Ilan A. Baker.2019. 『Tibetan Yoga: Principles and Practices』 London: Thames & Hudson.					
【学生へのメッセージ】					
授業では映像を取り入れ、視覚的にチベット仏教文化の理解を深めます。チベット仏教は現在も存在する仏教なので、実際にチベットの僧院を訪問し、どのような仏教なのかを体験してもらいたい。					

【オフィスアワー】

随時、メール (tomokomakidono(a)min.ac.jp) にてアポイントメントを作ってください。

【実務経験】

大学で7年間の指導経験を有する

年度	区分	分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目	仏教学系科目

講義名	[l_mbs2] [17] 中国天台学
-----	---------------------

区分	前期 (15回)	単位	必修 (2) 日蓮学専攻	形式	講義
----	----------	----	--------------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	金 炳坤	キム ビョンコン	kim byungkon [kim(a)]
------	------	----------	-----------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

中国の智顛説・灌頂説「天台三大部」、高麗の諦観録『天台四教儀』、日本の凝然述『八宗綱要；天台宗』を基本テキストとし、中国仏教哲学の最高峰と位置づけられ、日蓮学にあってもその土台を支えている「天台の思想」について詳究することにより、各自のこころの中で「学問する」ことに対する明確な動機づけが定着できるようにします。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)日蓮学の根幹をなす天台学を修めることにより、日蓮学専攻科目の総理解を深めていくことができるようになる。(2)本学における教育の三本柱の一つである「行学二道」という「方法」に対しても、能動的な取り組みができるようになります。コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報構成力、読解力、口頭発表力、論理的思考力、計画力、実行力

【授業方法（フィードバックの内容）】

教育リソースに沿って進めていきます。毎回、授業のまとめ（成績評価の対象）を提出してもらいます。採点后、コメントを付して返しますので、授業外学修に活かしてください。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、授業計画を確認し、次回のキーワードについて調べ学修を行うこと。事後学修（2時間以上）は、教育リソースを読み直し、前回の「授業のまとめ」を提出すること。

【成績評価（方法・基準）】

授業への取り組み姿勢（20%）、授業のまとめ（30%）、課題の発表と提出（20%）、学力確認テスト（30%）により総合評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ガイダンス / 天台宗の研究法と参考書
第2回	天台三大部 キーワード：法華玄義、法華文句、摩訶止観
第3回	天台教学の根本構造 キーワード：三観、三惑、三諦、三智
第4回	天台宗の歴史と思想 キーワード：今師相承、慧文、慧思
第5回	隋天台智者大師別伝1 キーワード：十徳、靈山同聴
第6回	隋天台智者大師別伝2 キーワード：大蘇開悟、華頂降魔
第7回	法華文句の成立をめぐる諸問題 キーワード：吉蔵、灌頂
第8回	天台教学とはなにか キーワード：教観二門
第9回	教相門1 キーワード：三種教相
第10回	教相門2 キーワード：五時
第11回	教相門3 キーワード：化儀、化法、行位
第12回	観心門1 キーワード：三種止観、五略十広
第13回	観心門2 キーワード：方便、正修
第14回	観心門3 キーワード：一念三千
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：教育リソースを提供する。指定図書：『天台仏教の教え』塩入法道・池田宗讓編（大正大学出版会）2012年。参考書：『智顛』田村芳朗・新田雅章著（大蔵出版）1982年、『天台思想入門：天台宗の歴史と思想』鎌田茂雄著（講談社）1984年、『天台四教儀談義：法華経理解を深める天台学へのいざない』三友健容（大法輪閣）2016年。辞書・事典類：『天台学辞典』河村孝照著（国書刊行会）1990年、『日蓮辞典』宮崎英修編（東京堂出版）2013年。その他：『天台大師』田丸ようすけ著（第三文明社）1991年、『日蓮宗電子聖典』立教開宗750年慶讃会編（立教開宗七百五十年慶讃会事務局）2002年。

【学生へのメッセージ】

学術情報サービスを活用し最新の研究動向に触れてみることを。

【オフィスアワー】

授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。

【実務経験】

なし

年度	区分			分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[J_mbs2] [19] 日本天台学				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2) 日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	庵谷 行遠		オオタニ ギョウオン	otani gyoon [gohtani(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
日蓮教学を修学する上において、その根底を担う天台学を理解することは欠かせません。比叡山の歴史も含めて天台学の基礎的な事項を概説します。このことはSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
日蓮聖人が天台教学をどのように受容し解釈したかを理解することを目標とします。それ故に、基礎的な天台教学を理解します。コンピテンシー：多様な学問の考え方・異文化理解・読解力・批判的思考力・論理的思考力・文章表現力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
指定の参考書と配布プリント (適宜) によって講義をすすめます。授業中に、各自の考えを発言してもらいます。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、シラバスと参考書を基にキーワードについて調べ問題意識をもって授業に取り組むこと。事後学修 (2時間以上) は、配布資料を読み直し、講義内容の理解を深め次回に備えること。					
【成績評価 (方法・基準)】					
期末レポート (80%)、授業への取り組み姿勢 (20%) で評価します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	日本仏教における天台学				
第2回	最澄の生涯				
第3回	最澄と『法華経』1				
第4回	最澄と『法華経』2				
第5回	比叡山延暦寺				
第6回	比叡山と諸の祖師 1				
第7回	比叡山と諸の祖師 2				
第8回	比叡山における日蓮聖人 1				
第9回	比叡山における日蓮聖人 2				
第10回	三界				
第11回	四聖六道				
第12回	行位・六即				
第13回	密教の展開				
第14回	日蓮聖人の天台学				
第15回	日蓮教学史における天台学・まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：指定なし。参考書：『昭和校訂天台四教儀』関口真大校訂 (山喜房佛書林) 1935年、『伝教大師最澄』大久保良峻 (法蔵館) 2021年。辞典類：新・電子聖典『事典』 (日蓮宗wiki) 2021年、『日蓮聖人遺文辞典 (教学篇)』立正大学日蓮教学研究所編 (身延山久遠寺) 2003年。その他、授業中に適宜資料を配付する。					
【学生へのメッセージ】					
特になし					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
宗教法人妙谷寺代表役員					

年度	区分			分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[K_mbs3] [21] 仏教学概論				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	望月 海慧		モチヅキ カイエ	mochizuki kaie [imochi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
仏教学の基礎的知識を修得するために基本的な仏教用語の意味を学びます。仏教学の伝統において教科書として用いられてきた『阿毘達磨俱舍論』に基づいて仏教教義の基本を解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
本講義では、仏典に出てくる仏教用語の基礎知識を修得することを目的とする。これらの用語を理解することにより、経典の言葉の意味を知り「情報収集力」、それを現代日本語で解説できるようになり「情報分析力」、仏教の意味を考えて「論理的思考力」、人に伝えられるようになる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
古来より仏教学の教科書として用いられてきた『阿毘達磨俱舍論』を用いて講義を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（70%）、授業への取り組み（30%）で評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	小乗と大乘について				
第3回	アビダルマについて				
第4回	『阿毘達磨俱舍論』とヴァスバンドゥ				
第5回	存在の基盤について				
第6回	認識について				
第7回	存在について				
第8回	世界の形成について				
第9回	行為について				
第10回	煩惱について				
第11回	修行階梯について				
第12回	智について				
第13回	禅定について				
第14回	我について				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
テキスト：『阿毘達磨俱舍論』世親（ヴァスバンドゥ）（大正新脩大蔵経、No.1558）。参考書：『俱舍論』桜部建（大蔵出版）1981年、『存在の分析』桜部建（角川文庫）1996年、『俱舍：絶ゆることなき法の流れ』青原令知編（自照社出版）2015年。					
【学生へのメッセージ】					
『阿毘達磨俱舍論』は、奈良時代より仏教学の教科書として用いられているテキストであるので、僧侶としての基本的な学修内容を学んでもらいたい。					
【オフィスアワー】					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授した経験を活かして授業を行います。					

年度	区分				分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目
講義名	[L_mbs4] [23] 仏教学 (中観)				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie [imochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
我などの存在の基盤となるものを徹底的に批判することで、仏教の基本的教義である縁起・空性思想を論証しようとしたナーガールジュナのの中観思想について解説をする。テキストとしてアティシャの『菩提道灯論』を用いて講義する。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
本講義では、インドにおける大乘仏教の2大学派の1つであるナーガールジュナの空思想のインドにおける展開を理解し (情報分析力)、他学派との思想的相違を理解し (批判的思考力)、釈尊の縁起の思想がどのように解説されているのかを理解する (論理的思考力) ことができる。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
アティシャの『菩提道灯論』に基づいて講義を行う。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、テキストをあらかじめ読んできて、問題点を明らかにして仏教辞典などを用いて予習をしておくこと。事後学修 (2時間以上) は、講義内容を整理して、次回との関連を明らかにしておくこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
学力確認テスト (70%)、授業への取り組み (30%) で評価を行う。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	ナーガールジュナと『中論』				
第3回	パーヴィヴェーカとチャンドラキールティ				
第4回	カマラシーラとシャーンタラクシタ				
第5回	ハリバドラとアピサマヤ文献				
第6回	アティシャと三宝帰依				
第7回	三種のブドガラ				
第8回	三宝帰依				
第9回	発菩提心				
第10回	小乗戒				
第11回	菩薩戒				
第12回	神通と止観				
第13回	空性論証				
第14回	金剛乗				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『全訳アティシャ 菩提道灯論』望月海慧 (起心書房) 2015年。参考書：『シリーズ大乘仏教6 空と中観』桂紹隆他編 (春秋社) 2012年、『講座・大乘仏教7 中観思想』平川彰他編 (春秋社) 1982年。					
【学生へのメッセージ】					
仏教の歴史にはさまざまな時代・地域においてそれぞれの仏教思想が成立している。その源流であるインドの仏教に興味を持って学んでほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授した経験を活かして授業を行います。					

年度	区分			分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教学系科目	
講義名	[M_mbs4] [25] 仏教学 (唯識)				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	望月 海慧		モチヅキ カイエ		mochizuki kaie [imochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
仏教の基本的教義である縁起・空性思想を心のあり方により分析した唯識思想について、アサンガが著した『撰大乘論』に基づいて解説する。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
本講義では、インドにおける大乘仏教の2大学派の1つである瑜伽行唯識派の開祖であるアサンガの唯識思想を理解し(情報分析力)、小乗の教義との相違を理解し(批判的思考力)、仏教の修行階梯がどのようにまとめられているのかを理解する(論理的思考力)ことができる。					
【授業方法(フィードバックの内容)】					
アサンガの『撰大乘論』に基づいて唯識思想の各教義について講義を行う。					
【授業外学修の方法(時間数)】					
事前学修(2時間以上)は、テキストをあらかじめ読んできて、問題点を明らかにして仏教辞典などを用いて予習をしておくこと。事後学修(2時間以上)は、講義内容を整理して、次回との関連を明らかにしておくこと。					
【成績評価(方法・基準)】					
期末レポート(70%)、授業に取り組む姿勢(30%)で評価を行う。					
【授業計画(諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	マイトレーヤトアサンガ				
第3回	ヴァスバンドゥ				
第4回	唯識思想の展開				
第5回	アーラヤ識説				
第6回	三性説				
第7回	唯識性				
第8回	六波羅蜜				
第9回	薯n				
第10回	菩薩戒				
第11回	禅定				
第12回	無分別智				
第13回	涅槃				
第14回	三身説				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
参考書:長尾雅人『撰大乘論 上・下』講談社、上田義文『撰大乘論講読』春秋社、勝呂信静・下川辺季由『新国訳大蔵経 撰大乘論釈』大蔵出版。					
【学生へのメッセージ】					
仏教の歴史にはさまざまな時代・地域においてそれぞれの仏教思想が成立している。その源流であるインドの仏教に興味を持って学んでほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日第3時限並びに木曜日第3時限					
【実務経験】					
日蓮宗教師として35年間檀信徒に仏教を教授した経験を活かして授業を行います。					

年度	区分	分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目	仏教学系科目

講義名	[N_mbs4] [27] 仏教学特講
-----	---------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義と演習
----	---------	----	-------	----	-------

授業年次	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	塩田 宝樹	シオタ ホウジュ	shiota hoju [shiota(a)]
------	-------	----------	-------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

カリキュラムポリシーを踏まえて、英語で書かれた仏教書を輪読し、割り当てられた箇所の和訳をとおして翻訳能力を培い、ディプロマポリシーに見合った英語の読解力を養う。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

英語で書かれた仏教書を読むことで、(1)専門的な外国語リテラシーを向上させ、(2)外国語文章の読解力と翻訳を通じて、他者に伝える文章表現力と口頭発表力が向上することを目標とする。具体的には、欧米の仏教学研究の現況を知るだけでなく、仏教用語の翻訳を通して外国語による仏教思想の理解を深め、専門用語の表現方法を獲得する。

【授業方法（フィードバックの内容）】

指定したテキストの通読を中心に進めますが、英文テキストを講読するだけでなく、仏教用語の解説も行います。学生一人一人に翻訳箇所を翌々割り当てるので、その担当箇所を授業中に発表し、英文の文法事項や、内容を解説してもらいます。その後、担当教員が補足説明をしていく形で授業を進める予定です。授業終盤では、各回の授業の振り返りをするため、リアクションペーパーを書いてもらいます。

【授業外学修の方法（時間数）】

予習の段階で全て理解する必要はありませんが、少なくともテキストに目を通しましょう。自分が理解できている箇所、理解できていない箇所を明確にし、理解できている箇所については和訳を作成しておきましょう。予復習合計（2時間）が目安です。

【成績評価（方法・基準）】

授業参加の様子（授業への出席、授業内のリアクションペーパー）、課題への取り組み（予習・復習の状況）、実力診断（期末テストもしくは期末レポート）を総合的に評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	テキストの紹介と、授業の進め方と成績評価の説明
第2回	テキスト講読と発表、解説 1
第3回	テキスト講読と発表、解説 2
第4回	テキスト講読と発表、解説 3
第5回	テキスト講読と発表、解説 4
第6回	テキスト講読と発表、解説 5
第7回	テキスト講読と発表、解説 6
第8回	中間発表会（発表内容の要旨を述べる）
第9回	テキスト講読と発表、解説 7
第10回	テキスト講読と発表、解説 8
第11回	テキスト講読と発表、解説 9
第12回	テキスト講読と発表、解説 10
第13回	テキスト講読と発表、解説 11
第14回	テキスト講読と発表、解説 12
第15回	総括と問題提起発表会

【教科書・参考書】

Buddhism: A Very Short Introduction, Damien Keown, Oxford University Press, 2013.（こちらで当該箇所のプリントを準備します。）

【学生へのメッセージ】

残念ながら、語学は一朝一夕で習得できるものではありません。辞書を引いたり、文法書を参照したりと地道な作業を積み重ねていくしかありません。しかし近年、さまざまな便利なツールが登場しています。それらを上手く利用しながら、コツコツと学習していきましょう。

【オフィスアワー】

授業の前後や出講日の休み時間など、できる限り対応します。質問や相談が長くなりそうであれば、翌々メールでアポイントメントを取ってください。

【実務経験】

なし

年度	区分				分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教学系科目
講義名	[O_mbs4] [29] 仏教学特講				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	
形式	講義と演習				
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	塩田 宝樹		シオタ ホウジュ		shiota hoju [shiota(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
今まで学習してきた仏教学にかんする知識を総動員して、仏教文献の購読・輪読を行う。配布したテキストを予習し、授業中に成果を発表してもらい、受講生全員で討議する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
輪読をとおして、（1）今まで獲得してきた仏教学にかんする知識をより深める、（2）自分の意見を的確に伝えるための論理的思考を養う、（3）それらを的確に表現する表現力を養う、という3つの課題を達成してもらいたい。 コンピテンシー：外国語リテラシー、異文化理解、知識活用能力、会話力、表現力（文章力とプレゼンの口語力）、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ガイダンスで詳細は説明しますが、基本的に予復習をしっかりとってもらいたい。予習の段階で和訳を作成し、どこまで理解できていて、どこから理解できていないか、自分の立ち位置を明確にして授業に臨むこと。授業では和訳を発表してもらいながら、受講生と教員でどのような「読み」が妥当か検証していく。輪読のテキストは『法華論』の法華七喩に関する箇所を予定している。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
授業前：配布したテキストを基に、和訳を作成する。授業後：講義内容の振り返りと作成した和訳の修正。予復習合計（2時間）が目安となる。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業参加の様子（授業への出席、授業内のリアクションペーパー）、課題への取り組み（予習・復習の状況、期末レポート）を総合的に評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス				
第2回	テキスト輪読（火宅譬喩）				
第3回	テキスト輪読（火宅譬喩）				
第4回	テキスト輪読（窮子譬喩）				
第5回	テキスト輪読（窮子譬喩）				
第6回	テキスト輪読（雲雨譬喩）				
第7回	前半まとめ				
第8回	テキスト輪読（化城譬喩）				
第9回	テキスト輪読（化城譬喩）				
第10回	テキスト輪読（繫宝珠譬喩）				
第11回	テキスト輪読（繫宝珠譬喩）				
第12回	テキスト輪読（髻中明珠譬喩）				
第13回	テキスト輪読（医師譬喩）				
第14回	テキスト輪読（医師譬喩）				
第15回	全体まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『妙法蓮華経憂波提舍』大正新脩大蔵経第26巻、大蔵出版、1924年。					
【学生へのメッセージ】					
自分の考えやアイデアを他人に伝えるというスキルは、大学を卒業してからも求められます。その力も養っていきましょう。					
【オフィスアワー】					
授業の前後や出講日の休み時間など、できる限り対応します。質問や相談が長くなりそうであれば、予めメールでアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教実践系科目
講義名	[B_mbp3] [05]【高大連携】読経				
区分	通年（30回）		単位	選択（2）	
形式	演習（全期）				
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	振屋 裕匡		フルヤ ユウキョウ		furuya yukyo [yfuruya(a)]
	古谷 晃淳		フルヤ コウジュン		furuya koujyun [kfuruya(a)]
	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
現在までの檀林や門流の教育が受け継ぎ残された結果、法華経の読み方、読み癖について多種多様あり、教育法も師子相承に任され、曖昧な点が多い。また読経上において、本宗の依経である法華経三部経というものが軽視されつつあるので、三部経の転読・読経実践につとめたい。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
本講義受講により『妙法蓮華経』開結を含めた読誦が可能なることを目的とする。また、この講義を通じて「多様な学問の考え方」「健康力」「外国語リテラシー」「読解力」「傾聴力」「会話力」を修得することを目指します。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
一々文々で繰り返し（オウム返し）にて、読経練習を行う。できれば、前期で2～3巻は講読したい。講義の都合上、巻数等の前後があるので注意してほしい。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）では、次回講義部分をあらかじめ読み、わからない箇所を確認しておく。事後学修（2時間以上）では、読んだ部分を反復練習すること。特に事後学修は必ず行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
読経態度（50%）、授業への取り組み姿勢（20%）、修得度（30%、受講前に前回受講時の内容を必ず復習すること、受講後は内容が修得できるよう反復すること）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	五の巻 提婆達多品第十二の練習				
第2回	五の巻 勸持品第十三の練習				
第3回	五の巻 安樂行品第十四の練習				
第4回	五の巻 安樂行品第十四の練習				
第5回	五の巻 従地涌出品第十五の練習				
第6回	五の巻 従地涌出品第十五の練習				
第7回	六の巻 如来寿量品第十六の練習				
第8回	六の巻 分別功德品第十七の練習				
第9回	六の巻 分別功德品第十七の練習				
第10回	六の巻 随喜功德品第十八の練習				
第11回	六の巻 法師功德品第十九の練習				
第12回	六の巻 法師功德品第十九の練習				
第13回	七の巻 常不輕菩薩品第二十の練習				
第14回	七の巻 如来神力品第二一の練習				
第15回	七の巻 囑累品第二 薬王菩薩本事品第二三の練習				
第16回	七の巻 薬王菩薩本事品第二三の練習				
第17回	七の巻 薬王菩薩本事品第二三・妙音菩薩品第二四の練習				
第18回	七の巻 妙音菩薩品第二四の練習				
第19回	八の巻 観世音菩薩品第二五の練習				
第20回	八の巻 観世音菩薩品第二五の練習				
第21回	八の巻 陀羅尼品第二六の練習				
第22回	八の巻 妙莊嚴王品第二七の練習				
第23回	八の巻 妙莊嚴王品第二七の練習・普賢菩薩勸発品第二八の練習				
第24回	八の巻 普賢菩薩勸発品第二八の練習				
第25回	結経（一）				
第26回	結経（二）				
第27回	結経（三）				

第28回	結経（四）
第29回	読経試験
第30回	読経試験
【教科書・参考書】	
三部経本。お経本に直接仮名振りして頂くので、仮名付きではなく仮名無し本を準備してください。お経本の種類は問いません。お経品をお持ちでない方は、堀之内妙法寺版・振屋昌光監修『妙法蓮華経三部経』の購入を推奨します。	
【学生へのメッセージ】	
授業ではお経本以外に筆記用具（特に赤鉛筆又は修正可狼赤ペン）持参のこと。僧侶としての最低ラインと認識し、今後絶対に必要なことであるので授業以外にも練習を繰り返し行ってほしい。	
【オフィスアワー】	
振屋裕匡：授業の前後に教室にて対応します。 古谷晃淳：授業の前後に教室にて対応します。	
【実務経験】	
振屋裕匡：なし 古谷晃淳：なし 木村中一：なし	

年度	区分				分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目				仏教実践系科目
講義名	[C_mbp2] [23]【高大連携】法要実践				
区分	前期（15回）	単位	必修（1）日蓮学専攻		形式 実技
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	村上 通明		ムラカミ ツウミョウ		murakami tsumyou [murakami(a)]
	上田 尚教		ウエダ ショウキョウ		ueda shokyo*
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
『宗定日蓮宗法要式』を用いてその理念を解説し、その内容を実習する。宗定7曲の声明を実唱し、その所作を実習する。法要に必要な袈裟、衣の扱いや、柄香炉、中啓等の法具の扱い方、引金、鑊鉢、木鉦等の鳴らし物の扱いを実習する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日蓮宗の法要儀式の規範書である『宗定日蓮宗法要式』の講義によって「読解力」を養い、本宗の統一的法要式に対する「論理的思考力」や、「多様な学問の考え方」の理解を深め、その理念に基づいた法要実習を繰り返し実践することによって、「実行力」を身につけることを目標とします。また、法要式に関わる多くの書籍を学ぶことによって得られた知識を基として、現代社会に適応する計画力を養うことを目標とします。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
『宗定日蓮宗法要式』の内容に従って宗定の法式声明の理念を講義し、その理念に基づいて法要式の実習を行う。実習を重ねることによって、実技修得の迫りを高め、法式声明の実践がすなわち修行であることを理解できるようにする。課題解決や自主学習支援の為にいつでも質問を受け付け、学修状況を把握する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。事後学修（2時間以上）は、受講後は内容が修得できるように反復すること。授業中に指示した関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内で実施する小テスト（50%）、学力確認テスト（50%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	「宗定日蓮宗法要式」の歴史と理念について・二大得意・音調と発声法				
第2回	「宗定日蓮宗法要式」の内容について・七方便・音調と発声法・諸種要文1				
第3回	「宗定日蓮宗法要式」第三編の宗定声明七曲の誦唱法と所作の習礼（道場偈）・所作・発声法				
第4回	同上（三宝礼）・所作・発声法				
第5回	同上（切散華）・所作・発声法				
第6回	同上（呪讃）・所作・発声法				
第7回	同上（対揚）・所作・発声法				
第8回	同上（三帰）・所作・発声法				
第9回	同上（奉送）・所作・発声法				
第10回	同上「宗定法要式」第二編の行軌作法の実践（暑修）：開経偈（真読、訓読）				
第11回	「宗定日蓮宗法要式」第二編中の行軌作法の解説とその実践（君拾補遺）1：方便品読経（真読、訓読）				
第12回	同上（君拾補遺）2：読経・欲令衆訓読				
第13回	「宗定日蓮宗法要式」第一編中の基本的法要次第による習礼・勸請文・回向文・読経・宝塔偈（真読、訓読）				
第14回	「宗定日蓮宗法要式」第一編中の基本的法要次第による朝昏礼誦式・自我偈読経（真読、訓読）				
第15回	法要実習・まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『宗定日蓮宗法要式』（日蓮宗）2002年。参考書：『妙行日課』（平楽寺書店）1916年、『新編日蓮宗信行要典』宮崎英修編著（平楽寺書店）1967年、『日蓮宗事典』（日蓮宗）1981年、『原文対訳立正安国論』北川前肇編（大東出版社）1999年、CD日蓮宗声明（日蓮宗声明師会連合会）2005年、『充治園禮誦儀記』優陀那院日輝和上著（日蓮宗声明師会連合会）2011年。法華経要品（真読、訓読の読める経本）					
【学生へのメッセージ】					
日蓮宗教師資格取得に必要な信行道場入場に必要な内容である。受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。授業中に配布した資料は、クリアファイル等に保存し、毎回授業に持参すること。中啓を持っている学生は授業に持参してください。					
【オフィスアワー】					
村上通明：毎週金曜日4時限目の授業の前後に教室にて対応します。 上田尚教：授業の前後に教室にて対応します（コマ担当教員）。					

【実務経験】

村上通明：日蓮宗声明師会講師18年、信行道場の指導12年

上田尚教：日蓮宗声明導師、日蓮宗声明師養成講習所主任講師

年度	区分	分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目	仏教実践系科目

講義名	[D_mbp3] [17] 【高大連携】法要実践
-----	--------------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（1）日蓮学専攻	形式	実技
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	村上 通明	ムラカミ ツウミョウ	murakami tsumyou [murakami(a)]
	上田 尚教	ウエダ ショウキョウ	ueda shokyo*

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

『宗定日蓮宗法要式』『法華懺法』『礼法華式』の本を用いてその理念を解説し、その内容を学び実習する。また、本宗の理念に基づいた葬儀式や追善法要について学び、その所作を実習する。法要に必要な袈裟、衣の扱いや、花皿、柄香炉等の法具の扱い、引金、木鉦等の鳴らし物の扱いを実習する。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

日蓮宗の法要儀式の規範書である『宗定日蓮宗法要式』に示される「法要とは三宝帰依の純一無雑なる信仰が最高度に具現化されたものでなければならない」との精神を理解した上で、法要儀式の基本を反復修練することによって、将来の本宗教師として依って立つ根幹を伝えたい。各種教本を学ぶことによって「読解力」を養い、本宗の統一的法要式に対する「論理的思考力」を深め、それを実践する「実行力」を身につけることを目標とします。また、法要式に関わる多くの書籍を学ぶことによって得られた知識を基として、現代社会に適応する「計画力」を養うことを目標とする。

【授業方法（フィードバックの内容）】

『宗定日蓮宗法要式』の内容に従って宗定の法式声明の理念を講義し、その理念に基づいて法要式の実習を行う。実習を重ねることによって、実技修得能力を高め、法式声明の実践がすなわち修行であることを理解できるようにする。課題解決や自主学習支援にタブレットを用い、いつでも質問を受け付け、学修状況を把握する。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。事後学修（2時間以上）は、受講後は内容が修得できるように反復すること。授業中に指示した関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。

【成績評価（方法・基準）】

授業内で実施する小テスト（50%）、学力確認テスト（50%）で評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	勸請文、回向文の読みとその作り方について：開経偈（真読、訓読）
第2回	先師法恩法要、追善法要について：方便品（真読、訓読）
第3回	鳴らし物等、法具の扱い方について：欲令衆（訓読）
第4回	法衣の扱い方について：自我偈（真読）
第5回	礼法華式について：自我偈（訓読）
第6回	法華懺法について1：安樂行品
第7回	法華懺法について2：安樂行品
第8回	十種供養について：神力品別付属（真読）
第9回	四大法難会について：神力品別付属（訓読）
第10回	お会式と高祖讃について：以要言之（真読）
第11回	得度受戒式について：以要言之（訓読）
第12回	葬儀式1 在家の葬儀について：欲令衆、方便品、自我偈
第13回	葬儀式2 教師の葬儀について：木鉦の打ち方
第14回	法灯継承式、入寺式について：太鼓の打ち方
第15回	法要実習・まとめ

【教科書・参考書】

教科書：『宗定日蓮宗法要式』（日蓮宗）2002年、『法華懺法・禮法華儀式』（日蓮宗声明師会連合会）2020年、参考書：『妙行日課』（平楽寺書店）1916年、『新編日蓮宗信行要典』宮崎英修編著（平楽寺書店）1967年、『日蓮宗事典』（日蓮宗）1981年、『原文対訳立正安国論』北川前肇編（大東出版社）1999年、CD日蓮宗声明（日蓮宗声明師会連合会）2005年、『充治園禮誦儀記』優陀那院日輝和上著（日蓮宗声明師会連合会）2011年。

【学生へのメッセージ】

日蓮宗教師資格取得に必要な内容である。受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。授業中に配布した資料は、クリアファイル等に保存し、毎回授業に持参すること。中啓を持っている学生は授業に持参してください。

【オフィスアワー】

村上通明：毎週金曜日 4 時限目の授業の前後に教室にて対応します。

上田尚教：授業の前後に教室にて対応します（コマ担当教員）。

【実務経験】

村上通明：日蓮宗声明師会講師18年、信行道場の指導12年

上田尚教：日蓮宗声明導師、日蓮宗声明師養成講習所主任講師

年度	区分	分野
令和6年度	日蓮宗専攻 専門科目	仏教実践系科目

講義名	[E_mbp4] [05] 法要実践
-----	--------------------

区分	前期（15回）	単位	必修（1）	形式	実技
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	村上 通明	ムラカミ ツウミョウ	murakami tsumyou [murakami(a)]
------	-------	------------	--------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

『宗定日蓮宗法要式』を用いてその理念を解説し、その内容を実習する。宗定七曲の声明を実唱し、その所作を実習する。法要に必要な各種の袈裟、衣の扱いやたたみ方を実習する。払子、中啓、柄香炉等の法具の扱い方、引金、繞鉢、木鉦等の鳴らし物の扱いを実習する。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

日蓮宗の法要儀式の規範書である『宗定日蓮宗法要式』の講義によって「読解力」を養い、本宗の統一的法要式に対する「論理的思考力」や、「多様な学問の考え方」の理解を深め、その理論に基づいた法要実習を繰り返し実践する事によって、「実行力」を身につけることを目標とします。また、法要式に関わる多くの書籍を学ぶ事によって得られた知識を基として、現代社会に適應する計画力を養う事を目標とします。

【授業方法（フィードバックの内容）】

『宗定日蓮宗法要式』の内容に従って宗定の法式声明の理念を講義し、その理念に基づいて法要式の実習を行う。実習を重ねることによって、実技習得の進歩を高め、法式声明の実践がすなわち修行であることを理解できるようにする。課題解決や自主学習支援の為にいつでも質問を受付、学習状況を把握する。

【授業外学習の方法（時間数）】

事前学習（2時間以上）は、受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。事後学習（2時間以上）は、受講後は修得出来るように反復すること。授業中に指示した関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。

【成績評価（方法・基準）】

授業内で実施する小テスト（50%）、学力確認テスト（50%）で評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	切散華について、中啓、花皿の扱い方、散華、八チの実習、開経偈訓読、真読
第2回	道場偈について、所作の確認、礼盤昇降、御宝前作法、方便品真読、訓読、引金、木鉦、鉢の実習
第3回	三宝礼について、所作の確認、礼盤昇降、御宝前作法、欲令衆訓読、引金、木鉦、鉢の実習
第4回	道場偈、三宝礼、切散華の実習、礼盤昇降、御宝前作法、開経偈、方便品、欲令衆、引金、木鉦、鉢の実習
第5回	咒讚・繞鉢について、所作の確認、繞鉢の実習、自我偈真読、木鉦、鉢の実習
第6回	対揚について、所作の確認、自我偈訓読、木鉦、鉢の実習
第7回	対揚について、所作の確認、部瀝加について、自我偈訓読、木鉦、鉢の実習
第8回	三歸について、所作の確認、神力品別付属真読、木鉦、鉢の実習
第9回	奉送について、所作の確認、神力品別付属訓読、木鉦、鉢の実習
第10回	導師作法について、払子、中啓、焼香、礼拝の作法、礼盤昇降、御宝前作法、勸請、回向について
第11回	首座の作法について、袈裟、衣の扱いとたたみ方、回向文について
第12回	役衆作法について、追善法要の次第、回向文について
第13回	役衆作法について、葬儀の次第、引導文について
第14回	追善法要実習、枕経、葬儀用文、回向文について
第15回	法要実習・まとめ

【教科書・参考書】

教科書：『宗定日蓮宗法要式』（日蓮宗）2002年。参考書：『妙行日課』（平楽寺書店）1916年、『新編日蓮宗信行要典』宮崎英修編著（平楽寺書店）1967年、『日蓮宗事典』（日蓮宗）1981年、『原文対訳立正安国論』北川前肇編（大東出版社）1999年、CD日蓮宗声明（日蓮宗声明師会連合会）2005年、『充洽園禮誦儀記』優陀那院日輝和上著（日蓮宗声明師会連合会）2011年、法華経要品（真読、訓読の読める本）

【学生へのメッセージ】

日蓮宗教師資格取得に必要な、信行道場入場に必要な内容である。受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。授業中に配布した資料は、必ずクリアファイル等に保存し、毎回授業に持参すること。法華経要品（真読、訓読の読める本）、数珠を持参すること。

【オフィスアワー】

毎週金曜日5限目の授業の前後に教室にて対応する。

【実務経験】

村上通明：日蓮宗声明師会講師18年、信行道場の指導12年

年度	区分				分野	
令和6年度	日蓮宗専攻 専門科目				仏教実践系科目	
講義名	[F_mbp4] [06] 法要実践					
区分	後期（15回）		単位	必修（1）		形式 実技
授業年次	--	2年	3年	--		
担当教員	村上 通明		ムラカミ ツウミョウ		murakami tsumyou [murakami(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
『宗定日蓮宗法要式』『法華懺法』『礼法華式』の本を用いてその理念を理解し、その内容を解説し、その内容を学び実習する。また本宗の理念に基づいた葬儀式や追善法要について学び、その所作を実習する。法要に必要な袈裟、衣の扱いや、花皿、柄香炉、払子、中啓等の法具の扱い、引金、鉢、木鉦、繞鉢等の鳴らし物の扱いを実習する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
日蓮宗の法要儀式の規範書である『宗定日蓮宗法要式』に示される「法要とは三宝帰依の純一無雑なる信仰が最高度に具現化されたものでなければならない」との精神を理解した上で、法要儀式の基本を反復修練することによって、将来の本宗教師として依って立つ根幹を伝えたい。各種教本を学ぶ事によって「読解力」を身につける目標とする。また、法要式に関わる多くの書籍を学ぶことによって得られた知識を基として、現代社会に適應する「計画力」を養うことを目標とする。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
『宗定日蓮宗法要式』の内容に従って宗定の法式声明の理念を講義し、その理念に基づいて法要式の実習を行う。実習を重ねる事によって、実技修得の迫りを高め、法式声明の実践がすなわち修行であることを理解できるようにする。課題解決や自主学習支援にいつでも質問を受け付け、学習状況を把握する。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学習（2時間以上）は、受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、内容の理解を深めること。事後学習（2時間以上）は、受講後は内容が修得できるように反復すること。授業中に指示した関連書籍を読み、復習しつつ受講することが望ましい。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業内で実施する小テスト（50%）、学力確認テスト（50%）で評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	切散華について、花皿、散華、八チの実習、開経偈訓読、真読					
第2回	道場偈、三宝礼について、所作の確認、礼盤昇降、御宝前作法、方便品真読、訓読、引金、木鉦、鉢の実習					
第3回	道場偈、三宝礼、切散華の実習、礼盤昇降、御宝前作法、欲令衆、訓読、引金、木鉦、鉢、八チの実習					
第4回	咒讃、繞八チの実習、居鉢、出鉢の所作について、開経偈、方便品、欲令衆、引金、木鉦、鉢の実習					
第5回	対揚について、所作の確認、自我偈真読、木鉦、鉢の実習					
第6回	対揚について、柄香炉の扱いについて、自我偈訓読、木鉦、鉢の実習					
第7回	対揚について、部漕加について、自我偈訓読、木鉦、鉢の実習					
第8回	回向伽陀、初伽陀について、神力品別付属真読、木鉦、鉢の実習					
第9回	導師作法について、御宝前作法、礼盤昇降、打磬作法、神力品別付属訓読、木鉦、鉢の実習					
第10回	導師作法について、払子、中啓、柄香炉、香炭の扱い方、香合の扱い方、勧請、回向について					
第11回	首座の作法について、袈裟、衣の扱いとたたみ方、追善供養回向文について					
第12回	役衆作法について、献香、献花の作法、袈裟、衣の扱いとたたみ方、先師法要回向文について					
第13回	教師葬儀式について、遺弟の作法について、歎徳文について					
第14回	葬儀式実習、引導文について					
第15回	法要実習・まとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：『宗定日蓮宗法要式』（日蓮宗）2002年。『法華懺法・礼法華式』（日蓮宗声明師会連合会）2020年。参考書：『妙行日課』（平楽寺書店）1916年。『新編日蓮宗信行要典』宮崎英修編著（平楽寺書店）1967年。『日蓮宗事典』（日蓮宗）1981年。『原文対訳立正安国論』北川前肇編（大東出版社）1999年。CD日蓮宗声明（日蓮宗声明師会連合会）2005年。『充洽園禮誦儀記』優陀那院日輝和上著（日蓮宗声明師会連合会）2011年。法華経要品（真読、訓読の読める経本）						
【学生へのメッセージ】						
日蓮宗教師資格に必要な内容である。受講にあたり、あらかじめ指示した参考書は必ず読んでおくこと。さらに受講後は「まとめノート」の作成が必須である。授業中に配布した資料は、クリアファイル等に保存し、毎回持参すること。法華経要品、数珠、を持参して受講すること。						
【オフィスアワー】						
毎週金曜日 5時限の授業の前後に教室にて対応する。						

【実務経験】

村上通明：日蓮宗声明師会講師18年、信行道場の指導12年

年度	区分		分野		
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教実践系科目		
講義名	[G_mbp5] [09] 寺院運営				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2) 日蓮学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	丸茂 龍正		マルモ リュウショウ	marumo ryusho [marumo(a)]	
	山本 玄雄		ヤマモト ゲンユウ	yamamoto genyu [gyamamoto(a)]	
	木村 中一		キムラ チュウイチ	kimura chuichi [kimura(a)]	
【授業の目的・ねらい/授業全体の内容の概要】					
僧侶として学ばなければならないことは多々あるが、日蓮宗の教師、寺院教会の住職・担任を志す者は、宗門の一員として、社会の一員として学ばなければならない事柄はさらに多岐にわたります。宗教法人法や日蓮宗宗制を学び、更に僧侶や寺院をはじめ宗教界全体をとりまく現状を概説し、寺院運営或いは儀式等の課題を通じて、広くはSDGsについて考察し、将来の具体的な目標を持つことができるよう講義を行います。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
僧侶や寺院をはじめ宗教界全体をとりまく現状、特に世界全体で目標とするSDGsについて認識し、宗教者・僧侶として「多様な学問の考え方」を学び、「情報収集力」や「情報分析力」を高め、寺院運営或いは儀式等の「課題設定力」を身につけ、将来の具体的な「構想力」「計画力」「実行力」を持つことができるようになります。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
様々な資料を使用し、宗教を取り巻く現状を認識し、総説的ガイダンスとともに、専門分野の先生を招き、効果的に授業を行い、理解を深めます。期末のレポートは、授業内容を踏まえた課題となりますので、よく集中して臨んでください。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。特に、事後の復習を行い、多岐にわたる授業内容をよく整理しておく必要があります。また、時事的な話題にも触れていきますので、日頃からのニュース記事等を読んでおくことを勧めます。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業への取り組み姿勢 (40%)、期末のレポート (60%) で、総合的に判断します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス				
第2回	宗教をとりまく環境 1				
第3回	宗教をとりまく環境 2 SDGsと宗教の課題				
第4回	日蓮宗の現状と課題				
第5回	宗教法人法と日蓮宗宗制概要 1				
第6回	宗教法人法と日蓮宗宗制概要 2				
第7回	宗教法人の税制と経理 1				
第8回	宗教法人の税制と経理 2				
第9回	人権教育 1 SDGsと人権について				
第10回	人権教育 2 SDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」について				
第11回	日蓮宗の教育制度				
第12回	寺院運営の現状と課題 1				
第13回	寺院運営の現状と課題 2 SDGsに関する取り組みについて				
第14回	寺院運営のリスクマネジメント				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
参考書：日蓮宗宗制、日蓮宗宗報、日蓮宗新聞他					
【学生へのメッセージ】					
専門分野の先生による貴重な内容も含まれます。特に日蓮宗の僧侶を志す学生は受講することを強く勧めます。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて、または法人事務局 (丸茂) にて随時対応します。					
【実務経験】					
丸茂龍正：なし 山本玄雄：なし 木村中一：なし					

年度	区分	分野
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目	仏教実践系科目

講義名	[H_mbp5] [11] 布教実践
-----	--------------------

区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	松本 学亮	マツモト ガクギョウ	matsumoto gakugyou [gmatsumoto(a)]
	伊藤 悠温	イトウ ユウオン	itou yuo*
	深澤 恭徳	フカサワ キョウトク	fukasawa kyotoku [kfukasawa(a)]
	木村 中一	キムラ チュウイチ	kimura chuichi [kimura(a)]

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

3人の教員が担当し、言説布教6回、修法布教6回、海外布教3回実施し、布教の理念と方法について講義を行う。

【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】

授業中に講義した日蓮宗の布教方法について理解することを目標とする。さまざまな形態の布教方法を学び実践することにより、「地域理解」「異文化理解」「傾聴力」「国z力」「実行力」「外国語リテラシー」「読解力」「会話力」「文章表現力」「口頭発表力」が身につく。

【授業方法 (フィードバックの内容)】

3人の教員がそれぞれ最初の授業に具体的な授業内容を提示する。最後に3先生の講義内容をレポートし、提出してもらう。

【授業外学修の方法 (時間数)】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。

【成績評価 (方法・基準)】

各教員への提出物 (50%)、授業への取り組み姿勢 (50%) で評価する。

【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	4/10 布教方法【担当：松本学亮】
第2回	4/17 言説布教1 言説布教の目的や心構え (人前で話す実習)【担当：深澤恭徳】
第3回	4/24 修法布教1 祈祷と修法の歴史【担当：松本学亮】
第4回	5/15 海外布教1 海外布教の歴史と現状【担当：伊藤悠温】
第5回	5/22 修法布教2 「祈りと禱り」祈祷修法概説 (概念)【担当：松本学亮】
第6回	5/29 海外布教2 海外布教と国際布教1 (理論と実践)【担当：伊藤悠温】
第7回	6/5 海外布教3 海外布教と国際布教2 (理論と実践)【担当：伊藤悠温】
第8回	6/12 修法布教3 「祈りと禱り」祈祷修法概説 (儀式)【担当：松本学亮】
第9回	6/19 修法布教4 日蓮宗の年中行事と祈祷修法【担当：松本学亮】
第10回	6/26 言説布教2 説教組織法 (五段論法と序説八則)【担当：深澤恭徳】
第11回	7/3 言説布教3 説教の教案と原稿の作成方法【担当：深澤恭徳】
第12回	7/10 言説布教4 教案・原稿の作成1【担当：深澤恭徳】
第13回	7/17 言説布教5 教案・原稿の作成2【担当：深澤恭徳】
第14回	7/24 言説布教6 高座説教 (儀式・要文) について【担当：深澤恭徳】
第15回	7/31 修法布教5 僧侶に求められる実践的な祈願の方法について【担当：松本学亮】

【教科書・参考書】

教科書、参考書はそれぞれの教員が最初の授業の折に示すことにする。

【学生へのメッセージ】

担当教員の都合により、授業の順番が入れ替わる場合があるが、その際はわかった時点で受講生に連絡するので対応してもらいたい。

【オフィスアワー】

担当教員の授業開始前、終了後に質問等があれば教室で対応する。木村中一が科目担当教員なので、授業に関することはメール (kimura(a)min.ac.jp) で対応する。

【実務経験】

松本学亮：なし
伊藤悠温：なし
深澤恭徳：なし
木村中一：なし

年度	区分			分野	
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目			仏教実践系科目	
講義名	[l_mbp5] [13] 布教実践				
区分	後期 (15回)		単位	選択 (2)	形式 講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	飯室 智光		イイムロ チコウ		iimuro chikou [iimuro(a)]
	浜島 典彦		ハマジマ テンゲン		hamajima tengen [hamajima(a)]
	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
2人の教員により日蓮宗の布教方法に関する授業を行う。授業内容は、曼荼羅本尊の書写7回、書写行6回、唱題行2回とする。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
曼荼羅本尊を書写し、書写行や唱題行の方法論等を学び、それぞれひとりで実践できるようになることを目標とする。さまざまな形態の布教方法を学び実践することにより、「多様な学問の考え方」「構想力」「実行力」が身につく。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
それぞれの教員に授業内容は任せてあるので、各担当教員の最初の授業で内容を示すことにする。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。その方法については授業中に説明する。					
【成績評価 (方法・基準)】					
各教員への提出物 (50%)、授業への取り組み姿勢 (50%) で評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	書写行1 写経の目的と歴史 規則【担当：飯室智光】				
第2回	書写行2 方便品写経【担当：飯室智光】				
第3回	書写行3 自我偈写経1【担当：飯室智光】				
第4回	書写行4 自我偈写経2【担当：飯室智光】				
第5回	書写行5 神力偈写経1【担当：飯室智光】				
第6回	書写行6 神力偈写経2【担当：飯室智光】				
第7回	曼荼羅本尊の書写1 曼荼羅本尊の形態と変遷【担当：飯室智光】				
第8回	曼荼羅本尊の書写2 書写実践1【担当：飯室智光】				
第9回	曼荼羅本尊の書写3 書写実践2【担当：飯室智光】				
第10回	曼荼羅本尊の書写4 書写実践3【担当：飯室智光】				
第11回	曼荼羅本尊の書写5 書写実践4【担当：飯室智光】				
第12回	曼荼羅本尊の書写6 書写実践5【担当：飯室智光】				
第13回	曼荼羅本尊の書写7 書写実践6【担当：飯室智光】				
第14回	唱題行1 教理概説【担当：浜島典彦】				
第15回	唱題行2 作法と実践【担当：浜島典彦】				
【教科書・参考書】					
書写行の授業では、初回講義より実践を行うので、授業までに下記用具を準備すること。その他の参考書については、各担当教員の講義の折に紹介する。写経・曼荼羅書写の授業には、必ず各自、書道用具 (墨液不可) 並びに半紙を持参すること。写経用小筆は新しいものを用意すること。写経セット・本尊用紙は、大学事務局で購入すること。					
【学生へのメッセージ】					
担当教員の都合により授業日程を変更する可能性があるが、その際は事前に受講生に連絡するので対応してもらいたい。 各自で準備するもの：書道用具と写経用の筆、持っている学生は写経セット 大学事務局で購入：写経セット (持っていない学生)、本尊用紙					
【オフィスアワー】					
授業開始前、終了後に質問等を担当教員が教室で受け付ける。木村中一が科目担当教員なので、授業に関することはメール (kimura(a)min.ac.jp) で対応する。					
【実務経験】					
飯室智光：なし 浜島典彦：なし 木村中一：なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	日蓮学専攻 専門科目		仏教実践系科目		
講義名	[J.mbp4] [15] 仏教瞑想				
区分	後期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	井上 ウィマラ		イノウエ ウィマラ		inoue vimala [winoue(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
止観（集中力と洞察力）、智慧と慈悲（洞察と思いやり）、アンビバレンスの統合（中道の現代的再構築）をキーワードにして、子育てから看取りまで仏教瞑想を人生全般に応用するための方法論について学ぶ。すべての人々に健康と福祉を届ける（SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」）ための 人間力 の養成を目指す。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、異文化理解、外国語リテラシー					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
関係性における自己覚知を涵養しながら、「私」という観念がどのようにして浮上してくるのかについて進化と発達の見点から理解する。「私」という意識を健康的に使いこなす術を身につけ、他者への思いやりと自然環境への感謝が自他を守ることに繋がってゆくことを体験的に理解してゆく。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
はじめに「三宝帰依の歌」を歌い短い呼吸瞑想を実践する。前回のリアクションペーパーについて返答してから、その日のテーマについて講義し、必要に応じたエクササイズやディスカッションを行い、振り返りをして理解を深める。最後の10分間でリアクションペーパーを記入して、次の授業につなげる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
予習は必要としないが、復習として、次の授業までの日常生活や修行の中で、授業で学んだことを数時間程度応用実践すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（70%）、授業への取り組み姿勢（30%）によって評価する。期末レポートでは、授業で学んだことをどのように理解して実践できるようになっているかを評価する。授業への取り組み姿勢はリアクションペーパーの記述から評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	仏教瞑想とは何か				
第2回	マインドフルネスについて				
第3回	アジアの仏教、西洋仏教、社会参画仏教				
第4回	幸せについて				
第5回	呼吸と瞑想				
第6回	身体と瞑想				
第7回	瞑想と間主観性について				
第8回	中間のふりかえり				
第9回	コミュニケーションと瞑想				
第10回	子育てと瞑想				
第11回	看取りと瞑想				
第12回	ケアと瞑想				
第13回	智慧と慈悲：四無量心の瞑想				
第14回	瞑想と生老病死				
第15回	まとめ：唱題行とマインドフルネス				
【教科書・参考書】					
教科書：毎回、パワーポイントの資料を配布する。参考書：『呼吸による気づきの教え』井上ウィマラ（佼成出版社）2005年、『子育てから看取りまでの臨床スピリチュアルケア』井上ウィマラ（興山舎）2019年。					
【学生へのメッセージ】					
出来るだけ具体的な瞑想法の紹介を心がけるので、授業で学んだことを日常や修行の中に応用してみて、その体験を次の授業につなげるように心がけてほしい。わからないことがあればその場で質問して、積極的に授業に参加すること。さまざまなエクササイズをする予定なので、動きやすい服装で参加すること。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に、非常勤講師控室あるいは教室で対応する。					
【実務経験】					
仏教瞑想指導歴30年					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[A_mba2] [01] 仏教美術史				
区分	後期（15回）		単位	必修（2）文学・芸術専攻	
形式	講義				
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>仏教の大意を理解するうえで、尊崇や敬愛を具体的に表現する手段として生まれた仏教美術を知ることの意義は大きい。その仏教美術の流れをインド、中国、日本に渡り、広く概観し、特に日本美術に与えた仏教美術の影響を知ることによって、仏教美術の作品をより身近に感じる様にしたい。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>本講義を受講することにより、仏教美術の出現（特にガンダーラ等の仏像）から仏教美術の東進（中央アジア・中国）日本、飛鳥から鎌倉時代までを順を追って、各時代を代表する寺院等の美術を中心に比較検討することができるようになる。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、情報分析力、論理的思考力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
時代順に沿って、スライド・写真・動画等を用いて授業を進めていく。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
受講前（2時間以上）にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（50%）、授業への取り組み姿勢（25%）、事前・事後学修（25%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	仏像の誕生以前、ギリシャからの影響・大月氏・バクトリア				
第2回	ガンダーラ・マトゥーラ				
第3回	仏教美術の東進、シルクロードの石窟（パーミアン・キジル・その他）				
第4回	敦煌石窟と河西回廊の攻防（魏・五胡十六国）				
第5回	龍門石窟・雲崗石窟（北魏様式） 北魏・随・唐				
第6回	法隆寺再建論・非再建論				
第7回	法隆寺の仏像と飛鳥・白鵬仏 壬申の乱と藤原教（薬師寺）				
第8回	興福寺の仏像と藤原氏 平城京、天皇家と藤原氏				
第9回	興福寺から東大寺へ 長屋王の変				
第10回	天平美術 東大寺大仏開眼 東大寺法華堂				
第11回	空海と最澄 東寺と密教美術				
第12回	阿弥陀信仰と藤原彫刻 平等院と定朝様式の完成				
第13回	京都仏師と慶派の興亡				
第14回	東大寺南大門と運慶・快慶、三十三間堂と鎌倉美術				
第15回	まとめと確認				
【教科書・参考書】					
進捗状況を鑑み、随時指示する。『日本の美術』（至文堂）、『日本の国宝』（朝日新聞社）、『原色日本の美術』（小学館）。					
【学生へのメッセージ】					
副専攻の学生は選択科目です。時間的余裕があれば、身延山山内の見学を行いたい。					
【オフィスアワー】					
水曜日 4・5 時限目、木曜日 4・5 時限目。質問はメール（yanagi(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分			分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[B_mba2] [07] 仏像の基礎知識			
区分	前期（15回）	単位	必修（2）文学・芸術専攻	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ	yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
<p>仏像を知ることによって、仏教文化の知識を深めていきたい。仏教の大意を理解するうえで、尊崇や敬愛を具体的に表現する手段として生まれた仏教美術を知ることの意義は大きい。その仏教美術の流れをインド、中国、日本に渡り、広く概観し、特に日本美術に与えた仏教美術の影響を知ることによって、仏教美術の作品をより身近に感じる様にしたい。</p>				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
<p>仏像を鑑賞する場合、それぞれ色々な方法があると思う。ここでは仏像の種類・時代などの方面から仏像の基礎知識を身につけ、仏像に触れあうことができるようにしたい。本講義は日本の仏像あるいは海外の仏像について学んでいきたい。本講義を受講することにより飛鳥から安土・桃山時代までを時代順に追って、各時代を代表する寺院等の美術を中心に比較検討することができるようになる。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、情報分析力、論理的思考力</p>				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
<p>仏像は、如来・菩薩・明王などと様々な種類に分けられる。それぞれの姿・技義・制作年代をスライド・図を中心に解説し、できれば実物を鑑賞したい。</p>				
【授業外学修の方法（時間数）】				
<p>受講前（2時間以上）にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。</p>				
【成績評価（方法・基準）】				
<p>学力確認テスト（50％）、授業への取り組み姿勢（25％）、事前・事後学修（25％）で評価する。</p>				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	授業の進め方。仏像の種類（素材・工法）について			
第2回	釈迦如来			
第3回	薬師如来			
第4回	阿弥陀如来			
第5回	大日如来・如来両脇侍			
第6回	聖観音菩薩・十一面観音・千手観音			
第7回	文殊菩薩・普賢菩薩			
第8回	如意輪観音・馬頭観音			
第9回	地藏菩薩・虚空蔵菩薩			
第10回	不動明王・愛染明王			
第11回	梵天・帝釈天			
第12回	四天王			
第13回	金剛力士			
第14回	肖像彫刻・羅漢			
第15回	まとめ			
【教科書・参考書】				
<p>進捗状況を鑑み、随時指示する。『仏像大全書』（四季社）、『日本の美術』（至文堂）、『仏像彫刻の基礎知識』光森正士・岡田健著（至文堂）。</p>				
【学生へのメッセージ】				
<p>副専攻の学生は選択科目です。授業に合わせ身延山内の仏像見学を予定している。その折りには大勢の参加を望む。</p>				
【オフィスアワー】				
<p>水曜日 4・5 時限目、木曜日 4・5 時限目。質問はメール（yanagi(a)min.ac.jp）でも可。</p>				
【実務経験】				
なし				

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[C_mba4] [09] 仏教彫刻の鑑賞と実践				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）R5以降選択		形式 講義と演習、実践
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
その時々工房で制作中の仏像を中心に制作過程を鑑賞する。仏像彫刻等の実践を行う。仏教の大要を理解するうえで、尊崇や敬愛を具体的に表現する手段として生まれた仏教美術を知ることの意義は大きい。その仏像を制作面から知ることによって、仏教美術の作品をより身近に感じる様にしたい。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日本人にとって仏像に対する想いには特別なものがあり、様々な鑑賞方法がある。実際に仏像を制作する立場から授業を進め、仏像に対する理解を深めたい。本講義は日本の仏教美術、特に一般的に言われている日本史との相違について探求する。本講義を受講することにより飛鳥から鎌倉時代までを時代順に追って、各時代を代表する寺院等の美術を中心に比較検討することができるようになる。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
現在工房ではその時々仏像の制作が行われている。それらの作業工程を鑑賞する。工房作成のテキスト・石膏原型を用いて模刻を行う。制作を行うには個人差があるため、遅れが生じた学生は授業外にも工房にて制作可。また指定以外の仏像制作希望についても考慮する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
受講前（2時間以上）はテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。また制作工程の遅れている学生は事後学修として工房での作業も可。					
【成績評価（方法・基準）】					
作品（50%）、授業への取り組み姿勢（25%）、事前・事後学修（25%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	仏像制作の鑑賞と実践 1				
第2回	仏像制作の鑑賞と実践 2				
第3回	仏像制作の鑑賞と実践 3				
第4回	仏像制作の鑑賞と実践 4				
第5回	仏像制作の鑑賞と実践 5				
第6回	仏像制作の鑑賞と実践 6				
第7回	仏像制作の鑑賞と実践 7				
第8回	仏像制作の鑑賞と実践 8				
第9回	仏像制作の鑑賞と実践 9				
第10回	仏像制作の鑑賞と実践10				
第11回	仏像制作の鑑賞と実践11				
第12回	仏像制作の鑑賞と実践12				
第13回	仏像制作の鑑賞と実践13				
第14回	仏像制作の鑑賞と実践14				
第15回	批評とまとめ				
【教科書・参考書】					
工房作成のテキスト：『石膏像』。『日本の美術』（至文堂）、『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版）、『仏像持仏装飾大事典』（国書刊行会）。					
【学生へのメッセージ】					
人数制限あり。作業が遅れた学生は授業外に事前・事後学修として彫ってもらおう。ノミ等道具類については工房所有の道具類を使用する。					
【オフィスアワー】					
水曜日 4・5時限目、木曜日 4・5時限目。質問はメール（yanagi(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分			分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[D_mba4] [11] 仏教彫刻の鑑賞と実践			
区分	後期（15回）	単位	必修（2）R5以降選択	形式 講義と演習、実践
授業年次	--	2年	3年	--
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ	yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
その時々工房で制作中の仏像を中心に制作過程を鑑賞する。仏像彫刻等の実践を行う。仏教の大要を理解するうえで、尊崇や敬愛を具体的に表現する手段として生まれた仏教美術を知ることの意義は大きい。その仏像を制作面から知ることによって、仏教美術の作品をより身近に感じる様にしたい。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
日本人にとって仏像に対する想いには特別なものがあり、様々な鑑賞方法がある。実際に仏像を制作する立場から授業を進め、仏像に対する理解を深めたい。本講義は日本の仏教美術、特に一般的に言われている日本史との相違について探求する。本講義を受講することにより飛鳥から安土・桃山時代までを時代順に追って、各時代を代表する寺院等の美術を中心に比較検討することができるようになる。コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
現在工房ではその時々仏像の制作が行われている。それらの作業工程を鑑賞する。工房作成のテキスト・石膏原型を用いて模刻を行う。制作を行うには個人差があるため、遅れが生じた学生は授業外にも工房にて制作可。また指定以外の仏像制作希望についても考慮する。				
【授業外学修の方法（時間数）】				
受講前（2時間以上）はテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。また制作工程の遅れている学生は事後学修として工房での作業も可。				
【成績評価（方法・基準）】				
作品（50%）、授業への取り組み姿勢（25%）、事前・事後学修（25%）で評価する。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	仏像制作の鑑賞と実践 1			
第2回	仏像制作の鑑賞と実践 2			
第3回	仏像制作の鑑賞と実践 3			
第4回	仏像制作の鑑賞と実践 4			
第5回	仏像制作の鑑賞と実践 5			
第6回	仏像制作の鑑賞と実践 6			
第7回	仏像制作の鑑賞と実践 7			
第8回	仏像制作の鑑賞と実践 8			
第9回	仏像制作の鑑賞と実践 9			
第10回	仏像制作の鑑賞と実践10			
第11回	仏像制作の鑑賞と実践11			
第12回	仏像制作の鑑賞と実践12			
第13回	仏像制作の鑑賞と実践13			
第14回	仏像制作の鑑賞と実践14			
第15回	批評とまとめ			
【教科書・参考書】				
工房作成のテキスト：『石膏像』。『日本の美術』（至文堂）、『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版）、『仏像持仏装飾大事典』（国書刊行会）。				
【学生へのメッセージ】				
人数制限あり。作業が遅れた学生は授業外に事前・事後学修として彫ってもらおう。ノミ等道具類については工房所有の道具類を使用する。				
【オフィスアワー】				
水曜日 4・5時限目、木曜日 4・5時限目。質問はメール（yanagi(a)min.ac.jp）でも可。				
【実務経験】				
なし				

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[E_mba4] [13] 仏像修復の鑑賞と実践				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）R5以降選択		形式 講義と演習、実践
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
その時々工房で修復中の仏像を中心に修復過程を鑑賞する。仏像修復等の実践を行う。仏像修復を通じて、その技法を直接学ぶ事により日本における仏教美術の根底を探る事ができる、また実際に簡単な修復作業を行う事は仏像の構造等を直接知る事ができ、仏像を鑑賞する上でより深い感動を得る事ができる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
課題を通して、仏像修復を身近に感じてもらいたい。僧職を志す学生には、仏像等を修復に出す際の知識を身につける。本講義は仏像の「国」を知る上でも役立ち、より専門的な仏像の知識を得る事ができる。また課題によっては金箔・漆・胡粉等、日本古来からの技法についても知識として身につける事ができる。 コンピテンシー：地域理解、情報収集力、構想力、改善力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
現在工房では実際に仏像修復が行われている。過去行われた修復実例と合わせて修復課程等を紹介していく。実習作業では、修復に関連した課題を行う。作業においては個人差もあるため、遅れた学生は工房において事前・事後学修で補う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
受講前（2時間以上）にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。また、工房にて課題に関する作業を事前・事後学習として行うも可。					
【成績評価（方法・基準）】					
実習で行った課題作品（50%）、授業への取り組み姿勢（25%）、事前・事後学修（25%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	仏像修復に関連する課題1				
第2回	仏像修復に関連する課題2				
第3回	仏像修復に関連する課題3				
第4回	仏像修復に関連する課題4				
第5回	仏像修復に関連する課題5				
第6回	仏像修復に関連する課題6				
第7回	仏像修復に関連する課題7				
第8回	仏像修復に関連する課題8				
第9回	仏像修復に関連する課題9				
第10回	仏像修復に関連する課題10				
第11回	仏像修復に関連する課題11				
第12回	仏像修復に関連する課題12				
第13回	仏像修復に関連する課題13				
第14回	仏像修復に関連する課題14				
第15回	批評とまとめ（作品の評価採点）				
【教科書・参考書】					
『日本の美術 彫刻の保存と修理』（至文堂）、『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版）、『仏像持仏装飾大事典』（国書刊行会）。					
【学生へのメッセージ】					
仏像修復に関して、工房では多くの仏像修復が行われているがその時々によって鑑賞する仏像が違ってくるので承知して貰いたい。実習作業を行うため人数に制限がある。また課題の制作に関して個人差が大きいので、1回目の授業時に話し合っ決めて、さらに無理の場合には変更する事がある。道具類については工房の道具を使用させるので、手入れ及び整理整頓には特に注意をするように。					
【オフィスアワー】					
水曜日4・5時限目、木曜日4・5時限目。質問はメール（yanagi(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[F_mba4] [15] 仏像修復の鑑賞と実践				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）R5以降選択		形式 講義と演習、実践
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
その時々工房で修復中の仏像を中心に修復過程を鑑賞する。仏像修復等の実践を行う。仏像修復を通じて、その技法を直接学ぶ事により日本における仏教美術の根底を探る事ができる、また実際に簡単な修復作業を行う事は仏像の構造等を直接知る事ができ、仏像を鑑賞する上でより深い感動を得る事ができる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
課題を通して、仏像修復を身近に感じてもらいたい。僧職を志す学生には、仏像等を修復に出す際の知識を身につける。本講義は仏像の構造を知る上でも役立ち、より専門的な仏像の知識を得る事ができる。また課題によっては金箔・漆・胡粉等、日本古来からの技法についても知識として身に着ける事ができる。 コンピテンシー：地域理解、情報収集力、構想力、改善力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
現在工房では実際に仏像修復が行われている。過去行われた修復実例と合わせて修復課程等を紹介していく。実習作業では、修復に関連した課題を行う。作業においては個人差もあるため、遅れた学生は工房において事前・事後学修で補う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
受講前（2時間以上）にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。また、工房にて課題に関する作業を事前・事後学修として行うも可。					
【成績評価（方法・基準）】					
実習で行った課題作品（50%）、授業への取り組み姿勢（25%）、事前・事後学修（25%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	仏像修復に関連する課題1				
第2回	仏像修復に関連する課題2				
第3回	仏像修復に関連する課題3				
第4回	仏像修復に関連する課題4				
第5回	仏像修復に関連する課題5				
第6回	仏像修復に関連する課題6				
第7回	仏像修復に関連する課題7				
第8回	仏像修復に関連する課題8				
第9回	仏像修復に関連する課題9				
第10回	仏像修復に関連する課題10				
第11回	仏像修復に関連する課題11				
第12回	仏像修復に関連する課題12				
第13回	仏像修復に関連する課題13				
第14回	仏像修復に関連する課題14				
第15回	批評とまとめ				
【教科書・参考書】					
『日本の美術 彫刻の保存と修理』（至文堂）、『日本彫刻史基礎資料集成』（中央公論美術出版）、『仏像持仏装飾大事典』（国書刊行会）。					
【学生へのメッセージ】					
仏像修復に関して、工房では多くの仏像修復が行われているがその時々によって鑑賞する仏像が違ってくるので承知して貰いたい。実習作業を行うため人数に制限がある。また課題の制作に関して個人差が大きいので、1回目の授業時に話し合っ決めて、さらに無理の場合には変更する事がある。道具類については工房の道具を使用させるので、手入れ及び整理整頓には特に注意をするように。					
【オフィスアワー】					
水曜日4・5時限目、木曜日4・5時限目。質問はメール（yanagi(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[G_mba5] [23] 世界遺産研究				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	
形式	講義と演習				
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ラオス・ルアンプラバン世界遺産地区を中心として、東南アジア全般における世界遺産研究を行います。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
身延山大学が行っている、世界遺産ラオス・ルアンプラバンの仏像修復プロジェクトを通してインド・インドシナの世界遺産に指定されている遺跡の学習を行う。 コンピテンシー：異文化理解、情報収集力、情報分析力、論理的思考力、計画力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
基本的にはラオス・ルアンプラバンの仏像修復プロジェクトに参加して、実際に修復や調査を行う。プロジェクトの実施がない場合に講義（スライド・ビデオ等使用）のみで進めて行きたい。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前（企画書あるいは予習）・事後（日報あるいは復習）の学修として、2時間以上を要する。各自問題意識をもって各講義を受講してもらいたい。					
【成績評価（方法・基準）】					
作業報告書（50%）、受業への取り組み姿勢（25%）、事前・事後学修（25%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方、世界遺産の概略				
第2回	ラオス・ルアンプラバン、ランサーン王朝の歴史				
第3回	ラオス・ルアンプラバンの建築及び町並み				
第4回	ラオス・ルアンプラバン及びピエンチャンの仏像				
第5回	ラオス・ルアンプラバン仏像の修復過程				
第6回	インド・アジャンタ				
第7回	インド・エローラ				
第8回	スリランカ・アヌラーダプラ他				
第9回	タイ・スコータイ遺跡				
第10回	タイ・アユタヤ遺跡				
第11回	ミャンマー・バガン				
第12回	カンボジア・バイヨン（仏教寺院）				
第13回	カンボジア・アンコールワット（ヒンドゥー教寺院）				
第14回	インドネシア・ボロブドゥール（大乘仏教寺院）				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
『ラオス・ルアンプラバン仏像修復プロジェクト日報及び報告書』（身延山大学東洋文化研究所所報）、TREASURES OF LUANG PRABANG』（Edition Route de la Soie）、『LAO BUDDHA』（S.O.M. INTERNATIONAL COMPANY, LIMITED）、『アジャンタ壁画』（NHK出版）。					
【学生へのメッセージ】					
世界遺産仏像修復プロジェクトは選抜制で厳しい審査が在るため、だれでも参加できるわけではない。したがってプロジェクト参加が基本なので、受講に際しては必ず担当教員の所まで受講の有無を確認に来ること。					
【オフィスアワー】					
水曜日 4・5 時限目、木曜日 4・5 時限目。質問はメール（yanagi(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[H_mba2] [17] 書道実践				
区分	通年（30回）		単位	選択（2）	形式 講義と演習
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	秋山 恵子		アキヤマ ケイコ		akiyama keiko [kakiyama(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
書道教育は生涯の自己形成の一端を担う文字教育・芸術教育としての教育活動であり、個人の能力向上を目指します。具体的には書道史に残る古典の法帖を学び、書のもつ美の芸術を理解すると共に、日常生活に役立つ毛筆・硬筆の実技指導を行う。日本・中国文化において書体の変貌について学びながら学視力の向上を目指します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
楷書或いは年度により仮名実践又は写経実践を通して手書き文字の大切さを学び、人間力をより深める。中国・日本における文字の変遷について名品を鑑賞し理解を深め、異文化理解度を高めながら芸術文化を通してグローバル社会に対応できる日本人としてのアイデンティティある人材育成に努める。文字教育の大切さを学び、今後を担う学童への指導法を修得する。 コンピテンシー：異文化理解、傾聴力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、改善力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
書とは徳業を積む一つの行学です。書道学修を通して実技の向上とグループワークを交えた作品発表をしながら生徒の自主性を求めたアクティブ・ラーニング型の授業を展開する。事前に目習い、手習いを重ね、五感を養うような講義と実技を行う。加えて芸術鑑賞の体験を通して自己研鑽を積み、書に対する学修意欲を高めてもらいたい。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
中国・日本書道史の理解度を高めるための調べとして事前学修2時間程度、実技の向上の事後学修として2時間程度、芸術鑑賞体験として6時間（美術館鑑賞含む）を必要とする。美術館鑑賞などの校外学修（諸般の事情による変更の可能性あり）は現地集接地解散とします。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（50%、積極的授業参加を評価）、レポート提出（20%）、作品評価・提出（30%）です。書道実践（第1回～第30回）受講をもって評価とする。年度により写経又は仮名実習の評価あり。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	生活書道として硬筆での漢字の原理・原則を学ぶ 書道史、中国・日本の文字の歴史的変貌について				
第2回	書道芸術の美について理解を深め、書の学修の意義を学ぶ				
第3回	書体、書風、字形の研究と古典法帖の実技指導				
第4回	文房四宝、用材、執筆法の研究と実技指導（半紙）				
第5回	北魏、随、唐の楷書から学童楷書まで学ぶ（半紙）				
第6回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）1 / レポート課題案課題指示				
第7回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）2				
第8回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）3				
第9回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）4				
第10回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）5				
第11回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）6				
第12回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）7				
第13回	楷書作品の臨書、鑑賞、作品の制作（条幅）8				
第14回	条幅作品完成生活と書				
第15回	最終作品発表・作品提出・表装代・レポート提出				
第16回	行書、草書の歴史的流れについて学ぶ				
第17回	王羲之を中心とした古典の臨書と鑑賞				
第18回	王羲之古典臨書 1 又は仮名実技書道実践 1 又は写経の卷子実技指導 1				
第19回	王羲之古典臨書 2 又は仮名実技書道実践 2 又は写経の卷子実技指導 2				
第20回	王羲之古典臨書 3 又は仮名実技書道実践 3 又は写経の卷子実技指導 3				
第21回	王羲之做書作品制作 1 又はいろは歌の作品制作 又は写経卷子制作 1				
第22回	王羲之做書作品制作 2 又は仮名書道実践 1 又は写経卷子制作 2				
第23回	王羲之做書作品制作 3 又は仮名書道実践 2 又は写経卷子制作 3				
第24回	王羲之做書作品制作 4 又は散らし書きについて学修 又は写経卷子制作 4				
第25回	王羲之做書作品制作 5 又は散らし書き作品制作 1 又は写経卷子制作 5				

第26回	王羲之倣書作品制作 6 又は散らし書き作品制作 2 又は写経卷子制作 6
第27回	王羲之倣書作品制作 7 又は散らし書き作品制作 3 又は写経卷子制作 7
第28回	王羲之倣書作品完成・提出 又は散らし書き作品制作 4 写経卷子完成・提出
第29回	校外学修（美術館鑑賞）
第30回	最終作品発表・提出・表装代・レポート提出
【教科書・参考書】	
参考書：『書道の古典 全三冊』大東文化大学書道文化センター編（二玄社）、『書道テキスト 第1巻 日本書道史』古谷稔執筆担当（二玄社）、『書道テキスト 第2巻 中国書道史』玉村霽山執筆担当（二玄社）、『仮名のレッスン 入門編』村上翠亭監修（二玄社）他。	
【学生へのメッセージ】	
生涯教育として書に興味を持ち自主的な実技実践を行い自己形成に役立ててもらいたい。書の伝統文化を後世に残す担い手として行学二道に励み、直筆の必要性和精神安定の自己表現手段の一つとして書道の楽しさを知り、身につけてもらいたい。受講者は書道道具を持参してください。	
【オフィスアワー】	
提出物・レポート質問は授業時間内に受付けます。	
【実務経験】	
秋山書道教室松恵書院主宰	

年度	区分	分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目	仏教芸術系科目

講義名	[l_mba5] [27] 文化財研究
-----	---------------------

区分	後期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	--	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	長澤 宏昌	ナガサワ コウショウ	nagasawa kosyo [nagasawa(a)]
------	-------	------------	------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

文化財は人体に例えればDNAに相当する。これを知ることによって、地域や国の大本（おおもと）を知ることになる。また、現在では知ることのできない、途絶えたモノや習俗などを知ること、現在に伝わる儀礼などの意味を真に理解できる。それらはすべて必要であったからこそ、先人の智慧によって編み出されたのであり、一度途絶えたら、二度と得られないかけがえないものであることを学生に考えてほしい。また、寺院は文化財の宝庫である事も意識してほしい。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

文化財研究とは聞き慣れないうえ抽象的な言葉であるが、遺跡出土遺物や絵画、彫刻、民具などを研究対象として、モノ自体の研究と同時に、それらが作り出された背景や自然環境や使用法を通して、日本および「地域理解」を目的とした学問である。有形・無形の文化財の保存と継承、また活用がいかに重要であるかを通して、学生の「異文化理解」「情報分析力」「構想力」を育みたい。

【授業方法（フィードバックの内容）】

講義により、文化財の区分や文化財から何がわかるかを理解し、地域の生活習慣や歴史を明らかにする。また、現代社会においては、あらゆる情報が、大都市から発信されたものに画一化されている。しかし、南北3000キロメートルにも及び日本の文化とは、決して画一化されたもので無く、そのことは文化財の研究と保護によって、確認する事ができる事を学生に意識してもらうことも目的である。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。授業の理解度を確認するため、翌週に前回授業の内容を400字詰め1枚程度のレポートとして提出することを義務付ける。総括では、このレポートの状況を基に重点項目を設定し、学生の理解を深めることとする。

【成績評価（方法・基準）】

学力確認テスト（60%）、授業への取り組み姿勢（20%）、毎回の授業内容をまとめたレポート提出（20%）で評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	文化財研究の意義と講座内容概説
第2回	文化財とは何か
第3回	伝世した文化財と危機
第4回	文化財の現在
第5回	文化財を伝える 1 正倉院と冷泉家と犬山城の事例
第6回	文化財を伝える 2 保存方法
第7回	どこまで復元するのか
第8回	文化財の展示
第9回	文化と技術 縄文時代の酒と日本酒の比較
第10回	富士山と文化財 1 富士山とはどのような文化財か
第11回	富士山と文化財 2 神の山から仏の山へ 富士山経ヶ岳の出土遺物
第12回	民俗文化財 1 伝承の重要性
第13回	民俗文化財 2 葬儀と墓をめぐる民俗
第14回	総括 1
第15回	総括 2

【教科書・参考書】

毎週、講義の初めに必要資料を配布する。

【学生へのメッセージ】

文化財は、その地域の生活を形に示したモノである。これを認識することはまさに地域を知ることであり、学生諸君が将来生活するいかなるところにも、それぞれの地域の文化と文化財が存在することを意識し、そのことが寺院経営の大きな柱となることを理解してほしい。

【オフィスアワー】

授業の前後に教室にて対応します。

【実務経験】

山梨県立考古博物館学芸員20年、山梨県埋蔵文化財センター文化財主事25年。

年度	区分				分野		
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目		
講義名	[J_mba2] [19] かたちと見方・描き方						
区分	前期（15回）		単位	必修（2）文学・芸術専攻		形式	演習
授業年次	--	2年	3年	--			
担当教員	雨宮 弥太郎		アメミヤ ヤタロウ		amemiya yatarou [yamemiya(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
「ものを見る」ということは、当たり前で日常で再考することもないが、実際には習慣に捕らわれ「見たつもり」になっていることがほとんどである。そのため、素描という手段によって改めて「見る」事をとらえ直し、より深く見る技術を身につける。受講することにより、より深く対象をとらえ内包する価値を見出すことができるようになる。							
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】							
素描による対象観察によって、深いものの見方を身につける。多様な視点を持ち、視覚による情報収集力・分析力・構成力を獲得する。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、情報収集力、情報分析力、情報構成力							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
用意された観察目標に沿ったモチーフを鉛筆によって描く。観察のポイントを指導し全体講評を取り入れながら素描、観察を進める。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前学修（2時間以上）は、次回授業で行う資料について予め調べておくこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学修した論点を各自整理し、所見を記録するまとめノートを作成する。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業への取り組み姿勢（50%）、レポート・成果物（50%）により総合的に評価します。							
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】							
第1回	「見る事」「描く事」とはどのようなことか						
第2回	花を描く：花に何を見るのか						
第3回	花を描く：どう表現するか						
第4回	空間の中の立方体 1						
第5回	空間の中の立方体 2						
第6回	陰影をとらえる						
第7回	静物を描く 1						
第8回	静物を描く 2						
第9回	貝を描く：どうとらえるか						
第10回	貝を描く：どう表現するか						
第11回	頭像を描く：どうとらえるか						
第12回	頭像を描く：どう表現するか						
第13回	自画像を描く：どうとらえるか						
第14回	自画像を描く：どう表現するか						
第15回	まとめ 見る事 描く事と表現すること						
【教科書・参考書】							
教科書：必要に応じてプリントを配布する。参考書：『鉛筆デッサン』（グラフィック社）1996年、『彫刻の美』（中央公論美術出版）1980年。							
【学生へのメッセージ】							
副専攻の学生は選択科目です。素描の実践を通して造形的なものの見方を獲得します。体感したことを言葉に置き換える習慣を身につけましょう。造形の語彙を増やし定着させるために「まとめノート」を作成してください。							
【オフィスアワー】							
授業の前後に教室にて対応します。							
【実務経験】							
伝統工芸士、硯作家							

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[K_mba3] [21] 音楽療法				
区分	通年（30回）		単位	選択（2）	形式 講義と演習
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	富山 美由紀		トミヤマ ミユキ		tomiya miyuki [tomiya(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
音楽療法とは、音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを用いて心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、問題となる行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること（日本音楽療法学会）である。現在高齢者施設などで多く取り入れられているが、乳幼児も含めた発達障害、身体障害児者の施設や引きこもりの方など様々な対象者に効果的に使われている。また健康な方にも「癒し」として活用される。ここでは実際に音楽の力を体感し、様々な場面で取り入れられる知識とスキルを身につけ、他者だけでなく自身をも癒せる術を知って欲しい。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
音楽療法の知識を得ることにより「多様な学問の考え方」や健康力への理解が深まる。また、音楽を聴く・歌う・カスタネットなどの簡単な楽器を演奏し、実際の活動をプログラムすることで「構想力」「計画力」「実行力」が、対象者の動きに注目し、対象者に合った活動を考えることで「評価力」「改善力」を身につけることができる。音楽はノンバーバル（言葉のない）コミュニケーションであるので、音を通じてのコミュニケーション能力をアップさせることができる。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義と演習の複合形式。音楽療法の概論や対象者についての理解など、理論と、歌唱・ゲームなどの演習。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。事前・事後の学習内容については授業中に指示する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（50%、授業への積極的な参加や事前・事後学習など）、小論文（50%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	音楽療法概論と日常での音楽の取り入れ方の方法と実践 1				
第2回	音楽療法概論と日常での音楽の取り入れ方の方法と実践 2				
第3回	音楽療法概論と日常での音楽の取り入れ方の方法と実践 3				
第4回	音楽療法概論と日常での音楽の取り入れ方の方法と実践 4				
第5回	音楽療法概論と日常での音楽の取り入れ方の方法と実践 5				
第6回	音楽療法概論と日常での音楽の取り入れ方の方法と実践 6				
第7回	音楽の性質と具体的な場面での利用方法と実践 1				
第8回	音楽の性質と具体的な場面での利用方法と実践 2				
第9回	音楽の性質と具体的な場面での利用方法と実践 3				
第10回	音楽の性質と具体的な場面での利用方法と実践 4				
第11回	音楽の性質と具体的な場面での利用方法と実践 5				
第12回	音楽の性質と具体的な場面での利用方法と実践 6				
第13回	音楽の性質と具体的な場面での利用方法と実践 7				
第14回	音楽の性質と具体的な場面での利用方法と実践 8				
第15回	前半のまとめ（レポート提出）				
第16回	認知症・脳血管障害を含む高齢者への音楽療法 1				
第17回	認知症・脳血管障害を含む高齢者への音楽療法 2				
第18回	認知症・脳血管障害を含む高齢者への音楽療法 3				
第19回	認知症・脳血管障害を含む高齢者への音楽療法 4				
第20回	認知症・脳血管障害を含む高齢者への音楽療法 5				
第21回	精神障害を持つ方への音楽療法 1				
第22回	精神障害を持つ方への音楽療法 2				
第23回	発達障害児を含む子どもへの音楽療法 1				
第24回	発達障害児を含む子どもへの音楽療法 2				
第25回	身体障害児者への音楽療法 1				
第26回	身体障害児者への音楽療法 2				
第27回	健常な方への音楽療法とは 1				
第28回	健常な方への音楽療法とは 2				

第29回	総括 1
第30回	総括 2 (レポート提出)
【教科書・参考書】	
教科書：『音楽療法の手引』松井紀和（牧野出版）1980年、参考書：『音楽療法の実際』松井紀和（牧野出版）1996年、『高齢者のための音楽レクリエーション』（メイツ出版）2018年、『音楽療法・レッスン・授業のためのセッション・ネタ帳』（音楽之友社）2005年。	
【学生へのメッセージ】	
日常的に聴いている音楽に潜んでいる、様々な「力」を知ること、施設などのリハビリや訓練だけでなく、一般の方が対象のレクリエーション、イベントなどでも効果的に場面を盛り上げたり、雰囲気を変えることができる。様々な場面で有効な音楽療法の知識を楽しみながら身につけて欲しい。	
【オフィスアワー】	
木曜日8:50-12:25。メールアドレスtomiyama(a)min.ac.jp	
【実務経験】	
日本音楽療法学会認定音楽療法士として病院、施設等で音楽療法を實踐中。これらの活動を活かした指導をします。	

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[L_mba5] [29] 仏教芸術特講				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）文学・芸術専攻		形式 講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	雨宮 弥太郎		アメミヤ ヤタロウ		amemiya yatarou [yamemiya(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>仏教の多様な芸術表現のあらわれの中から特に「祈り」と「美」の関係性に着目し、科学的な視点、西洋芸術との対比、また歴史的な造形表現の変遷から俯瞰することにより仏教の精神性がどのように造形に結実しているかを考察する。受講することにより仏像の造形性ととどまらず、美しさの原理、そして仏教精神がいかに総合的に寺院空間を満たしているのか理解を深めることができる。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>造形理論を学ぶことにより視覚情報の分析力を養う。また、多様な学問の考え方に触れその意味を検討することで地域と異文化の理解を広め、造形に内包された「祈り」の理解を深める。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、異文化理解、情報分析力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>造形芸術の基本要素を歴史的な作品を提示しながら解説する。また「美」にまつわる科学的な知見を紹介することにより自然と造形の関連性、「かたち」に込められる「精神性」について検討する。各論点を討論を重ねることで造形の理解、基本的な素養を深めてゆく。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>事前学修（2時間以上）は、次回授業で行う資料について翌 調べておくこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学修した論点を各自整理し、所見を記録する「まとめ」ノートを作成する。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>授業への取り組み姿勢（50%）、レポート（50%）により総合的に評価します。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス 祈りの造形				
第2回	造形的なものの見方（単純化1）				
第3回	造形的なものの見方（単純化2）				
第4回	造形的なものの見方（比率1）				
第5回	空間をとらえる（遠近法1）				
第6回	空間をとらえる（遠近法2）				
第7回	日本古代にみる仏像造形				
第8回	造形的なものの見方（比率2）				
第9回	造形的なものの見方（単純化3）				
第10回	自然の美				
第11回	自然の幾何学				
第12回	造形と空間				
第13回	造形にみる祈りの精神性				
第14回	表現の時代性				
第15回	まとめ 祈りと美				
【教科書・参考書】					
<p>教科書：プリントを配布する。参考書：『彫刻の美』本郷新（中央公論美術出版）1980年、『鉛筆デッサン』岡勇樹（グラフィック社）1996年、『魅惑の仏像 1～20』（毎日新聞社）1986年。その他参考書は講義中に適宜紹介する。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>副専攻の学生は選択科目です。授業で提示された視点で身の回りの自然を また寺院空間をとらえなおすこと。自分の美意識を客観視して言葉で発浮てもらいます。その記録としての「まとめノート」を作成してください。</p>					
【オフィスアワー】					
<p>授業の前後に教室にて対応します。</p>					
【実務経験】					
<p>伝統工芸士、硯作家</p>					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[M_mba5] [31] 仏教芸術特講				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2) 文学・芸術専攻		形式 講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	雨宮 弥太郎		アメミヤ ヤタロウ		amemiya yatarou [yamemiya(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
造形的に対象を観察する技術を修得することにより仏像の美の構造を理解する。また、仏像造形の精神性を美学的な観点から考察する。受講することにより「祈り」と「造形」の関連性の理解を深めることができる。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
仏像の造形的な分析を通して獲得した「情報を構成」して表現につなげる。「多様な学問の考え方」に触れ、「地域文化」「異文化の理解」を踏まえて造形芸術の精神性の理解を深める。					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
仏像の造形的な分析を通して造形的な物の見方を实际的に解説する。また美学的な観点から仏像の精神性への理解を深める。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
事前学修 (2時間以上) は、授業で行う資料について、下調べをしておくこと。事後学修 (2時間以上) は、授業では体感による理解を重視するが、体感したものを言葉に置き換える技術の獲得を目標とする。「まとめノート」の作成を行うこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
授業への取り組み姿勢 (50%)、レポート (50%) により総合的に評価します。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	ガイダンス 仏を写す				
第2回	彫刻造形の観察				
第3回	仏像の観察 比率・形の単純化 1				
第4回	仏像の観察 比率・形の単純化 2				
第5回	原始美術にみる祈りの造形				
第6回	飛鳥時代の祈りの造形				
第7回	天平時代の祈りの造形				
第8回	平安前期の祈りの造形				
第9回	平安後期の祈りの造形				
第10回	鎌倉時代の祈りの造形				
第11回	花の表現にみる歴史と造形性 1				
第12回	花の表現にみる歴史と造形性 2				
第13回	工芸芸術 手業の精神性				
第14回	民衆の祈りの造形				
第15回	まとめ 造形にあらわれる精神性				
【教科書・参考書】					
教科書：プリントを配布する。参考書：『彫刻の美』本郷新 (中央公論美術出版) 1980年、『鉛筆デッサン』岡勇樹 (グラフィック社) 1996年、『魅惑の仏像 1~20』 (毎日新聞社) 1986年。					
【学生へのメッセージ】					
副専攻の学生は選択科目です。素描を伴った仏像造形の分析を通じ造形的なものの見方を獲得します。体感したことを言葉に置き換える習慣を身につけましょう。造形の語彙を増やし定着させるために「まとめノート」を作成してください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
伝統工芸士、硯作家					

年度	区分			分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目			仏教芸術系科目
講義名	[N_mba3] [33] 仏教絵画			
区分	前期（15回）	単位	必修（2）文学・芸術専攻	形式 講義と演習
授業年次	--	--	3年	4年
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ	yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
<p>仏教絵画を通して、仏画等の知識を深めると同時に、実際に制作を行う。仏教の大意を理解するうえで、尊崇や敬愛を具体的に表現する手段として生まれた仏教絵画を知ることの意義は大きい。その仏教美術の流れを、中国、日本に渡り、広く概観し、特に日本美術に与えた仏教絵画の影響を知ることによって、仏教美術の作品をより身近に感じる様にしたい。</p>				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
<p>仏教文化を探究する上で仏画の知識を得る事は重要だと思う。本講義を受講することにより実際に仏画を制作する場から授業を進め、仏画に対する理解を深めることができる。本講義は日本の仏教美術、について探究する。本講義を受講することにより中国院体派・室町・安土桃山・江戸時代順に追って、各時代を代表する寺院等の仏画を中心に比較検討することができるようになる。</p> <p>コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力</p>				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
<p>課題を通して、金箔・極彩色等を行う。各授業の前半で、狩野派を中心に仏教絵画の周辺をスライド等で紹介して行く。</p>				
【授業外学修の方法（時間数）】				
<p>事前・事後学修とも2時間以上を目途とする。制作においては個人差もあるため、遅れた学生は工房において事前・事後学修で補う。受講前テキストの該当箇所を熟読し、制作手順を確認しておくこと。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。また受講後は時間内に達成できなかった制作工程を事後学修として行うことも可。</p>				
【成績評価（方法・基準）】				
<p>作品（50%）、講義への取り組み姿勢（25%）、事前・事後学修（25%）で評価する。</p>				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践1（個人差があるのでシラバス内容はその都度受講者に合わせて行う）			
第2回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践2			
第3回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践3			
第4回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践4			
第5回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践5			
第6回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践6			
第7回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践7			
第8回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践8			
第9回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践9			
第10回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践10			
第11回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践11			
第12回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践12			
第13回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践13			
第14回	仏教絵画の鑑賞と仏像絵画の実践14			
第15回	批評とまとめ			
【教科書・参考書】				
<p>工房自作の教科書を使用して課題を行う。筆・箔ばし等道具類については工房所有の専属道具類を使用する。それに関連した書籍を随時指示する。『日本の美術』（至文堂）、『日本美術全集』（学研）、『原色日本の美術』（小学館）、『水墨美術体系』（講談社）。</p>				
【学生へのメッセージ】				
<p>副専攻の学生は選択科目です。人数制限あり。仏画制作に遅れている学生は時間外の制作を行う場合がある。</p>				
【オフィスアワー】				
<p>水曜日 4・5 時限目、木曜日 4・5 時限目。質問はメール（yanagi(a)min.ac.jp）でも可。</p>				
【実務経験】				
なし				

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				仏教芸術系科目
講義名	[O_mba3] [35] 仏教絵画				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）文学・芸術専攻		形式 講義と演習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	柳本 伊左雄		ヤナギモト イサオ		yanagimoto isao [yanagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>仏教絵画を通して、仏画等の知識を深めると同時に、実際に制作を行う。仏教の大意を理解するうえで、尊崇や敬愛を具体的に表現する手段として生まれた仏教絵画を知ることの意義は大きい。その仏教美術の流れを、中国、日本に渡り、広く概観し、特に日本美術に与えた仏教絵画の影響を知ることによって、仏教美術の作品をより身近に感じる様にしたい。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>日本人にとって仏像に対する想いには特別なものがあり、様々な鑑賞方法がある。実際に仏画を制作する立場から授業を進め、仏画に対する理解を深めたい。本講義は日本の仏教美術、特に一般的に言われている日本史との相違について探求する。本講義を受講することにより中国院体派・室町・安土桃山・江戸時代順に追って、各時代を代表する仏画を比較検討することができるようになる。 コンピテンシー：地域理解、異文化理解、構想力、実行力</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>工房作成の教科書を使用して、授業を進めたい。また各授業の前半に、スライドを使用して、南宋・院体派、琳派、江戸絵画等の鑑賞を行う。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>事前・事後学修とも2時間以上を目途とする。受講前は教科書の該当箇所を熟読し、制作手順を確認しておくこと。受講後は時間内に達成できなかった箇所の模写を行うこと。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>作品・制作過程（50％）、講義への取り組み姿勢（25％）、事前・事後学修（25％）で評価する。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	仏教絵画の鑑賞と実践1（個人差があるのでシラバス内容はその都度受講者に合わせて行う）				
第2回	仏教絵画の鑑賞と実践2				
第3回	仏教絵画の鑑賞と実践3				
第4回	仏教絵画の鑑賞と実践4				
第5回	仏教絵画の鑑賞と実践5				
第6回	仏教絵画の鑑賞と実践6				
第7回	仏教絵画の鑑賞と実践7				
第8回	仏教絵画の鑑賞と実践8				
第9回	仏教絵画の鑑賞と実践9				
第10回	仏教絵画の鑑賞と実践10				
第11回	仏教絵画の鑑賞と実践11				
第12回	仏教絵画の鑑賞と実践12				
第13回	仏教絵画の鑑賞と実践13				
第14回	仏教絵画の鑑賞と実践14				
第15回	批評とまとめ				
【教科書・参考書】					
<p>工房自作の教科書を使用して行う。筆・箔ばし等道具類については工房所有の専属道具類を使用する。それに関連した書籍を随時指示する。</p>					
【学生へのメッセージ】					
<p>副専攻の学生は選択科目です。人数に制限あり。</p>					
【オフィスアワー】					
<p>水曜日4・5時限目、木曜日4・5時限目。質問はメール（yanagi(a)min.ac.jp）でも可。</p>					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目		仏教芸術系科目		
講義名	[P_mba2] [37] 仏教音楽				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）R5以降選択	形式	講義と実技
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	下宮 高純		シモミヤ コウジュン		shimomiya koujun [shimomiya(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>仏教音楽としての雅楽音楽・聲明音楽について学修する。日本音楽の源流である雅楽は、日本の宮廷音楽として、また神社仏閣において神仏諸尊に奏献する音楽として、ほぼその基本的な形態を変えることなく、今日まで大切に伝承されてきた。また聲明も、中国から伝承された聲明を源流として、雅楽や俗楽などの影響を受けつつ、各宗派の独自の聲明を形成し、今日まで大切に伝承されてきた。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>本講座の目標は次の通りである。雅楽では、雅楽に関する基礎知識を理解し、各楽器で平調「越殿楽」の一部を演奏し、舞楽の基本動作を理解し、雅楽装束や舞楽装束を着装し、朗詠「嘉辰」に触れる。また日蓮宗聲明では、延山流聲明・池山流聲明・光山流聲明などを、聲明雅楽協奏曲では「極楽声歌老君子」「萬歳楽付歌・池の涼し」「三十二相讃吟打毬楽」「高祖讃」などを紹介し、天台聲明・真言聲明などに触れ、日本の古典音楽文化の源流を知るところにその目的がある。これにより学士力として「異文化の理解」「論理的思考力」「課題への実行力」などの大いなる伸張を期待する。</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>授業の形態は「講義」と「実技」が中心となり、下記のような授業計画に従って進行する。雅楽では、その基礎知識を理解するとともに、鳳笙を除くすべての楽器を直接演奏し、学生全員のワーキングとして合奏できるようにしたい。また聲明においても、一部の曲目においては紹介のみならず、学生全員のワーキングとして実唱できるようにしたい。SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」とSDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」に基づき、ジェンダー格差克服のため主音を移調させて実唱する。なお「日蓮宗宗定聲明」については、本学の他講座と重複するので、本講座では特に取り扱わない。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。音楽実技は、一朝一夕に修得できるものではないので、授業時間外にも、各自が自発的に研修を積み重ねることが望ましい。さらにインターネット情報などによって、自らがその情報を活用研究し、この講義に係る諸事項を学修することを期待する。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>レポート提出（40％）、音楽実技（40％）、受講姿勢（20％）により総合評価する。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	4月11日	講座「佛教音楽」開講に当たって・雅楽概論1（講義）			
第2回	4月18日	雅楽概論3（講義）			
第3回	4月25日	龍笛1（実技）			
第4回	5月09日	箏1（実技）			
第5回	5月16日	鳳笙1（実技）			
第6回	5月23日	雅楽聲明音律論1（講義）			
第7回	5月30日	舞楽概論1（講義）			
第8回	6月06日	打楽器・絃楽器1（実技）			
第9回	6月13日	「越殿楽」合奏1（実技）			
第10回	6月20日	雅楽装束1（実技）			
第11回	6月27日	聲明概論1（講義）			
第12回	7月04日	日蓮宗古儀聲明1（実技）			
第13回	7月11日	聲明雅楽協奏曲1（講義）			
第14回	7月18日	天台宗聲明・真言宗聲明・その他の聲明1（講義）			
第15回	7月25日	雅楽雑学1（講義）			
【教科書・参考書】					
『仏教音楽』下宮高純編（延命院2024年第3版）					
【学生へのメッセージ】					
<p>箏管と龍笛管は講義中に貸与する。箏のリードはパーツの特性上講義中に頒布（2000円の予定）する。鳳笙については楽器の特性上感染防止の観点から各自の演奏を行わない。</p>					
【オフィスアワー】					
下宮高純への連絡は（thegagaku(a)yahoo.co.jp）とする。					

【実務経験】

日蓮宗聲明師・雅楽師

年度	区分		分野		
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目		仏教芸術系科目		
講義名	[Q_mba2] [39] 仏教音楽				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）R5以降選択	形式	講義と実技
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	下宮 高純		シモミヤ コウジュン		shimomiya koujun [shimomiya(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>仏教音楽としての雅楽音楽・聲明音楽について学修する。日本音楽の源流である雅楽は、日本の宮廷音楽として、また神社仏閣において神仏諸尊に奏献する音楽として、ほぼその基本的な形態を変えることなく、今日まで大切に伝承されてきた。また聲明も、中国から伝承された聲明を源流として、雅楽や俗楽などの影響を受けつつ、各宗派の独自の聲明を形成し、今日まで大切に伝承されてきた。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>本講座の目標は次の通りである。雅楽では、雅楽に関する基礎知識を理解し、各楽器で平調「越殿楽」の一部を演奏し、舞楽の基本動作を理解し、雅楽装束や舞楽装束を着装し、朗詠「嘉辰」に触れる。また日蓮宗聲明では、延山流聲明・池山流聲明・光山流聲明などを、聲明雅楽協奏曲では「極楽声歌老君子」「萬歳楽付歌・池の涼し」「三十二相讃吟打毬楽」「高祖讃」などを紹介、天台聲明・真言聲明などに触れ、日本の古典音楽文化の源流を知るところにその目的がある。これにより学士力として「異文化の理解」「論理的思考力」「課題への実行力」などの大いなる伸張を期待する。</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>授業の形態は「講義」と「実技」が中心となり、下記のような授業計画に従って進行する。雅楽では、その基礎知識を理解するとともに、鳳笙を除くすべての楽器を直接演奏し、学生全員のワーキングとして合奏できるようにしたい。また聲明においても、一部の曲目においては紹介のみならず、学生全員のワーキングとして実唱できるようにしたい。SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」とSDGs5の目標「ジェンダー平等を実現しよう」に基づき、ジェンダー格差克服のため主音を移調させて実唱する。なお「日蓮宗宗定聲明」については、本学の他講座と重複するので、本講座では特に取り扱わない。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>毎回それぞれ2時間以上の事前・事後の学修を行うこと。音楽実技は、一朝一夕に修得できるものではないので、授業時間外にも、各自が自発的に研修を積み重ねることが望ましい。さらにインターネット情報などによって、自らがその情報を活用研究し、この講義に係る諸事項を学修することを期待する。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>レポート提出（40％）、音楽実技（40％）、受講姿勢（20％）により総合評価する。</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	4月11日	雅楽概論2（講義）			
第2回	4月18日	雅楽概論4（講義）			
第3回	4月25日	龍笛2（実技）			
第4回	5月09日	箏篋2（実技）			
第5回	5月16日	鳳笙2（実技）			
第6回	5月23日	雅楽聲明音律論2（講義）			
第7回	5月30日	舞楽概論2（講義）			
第8回	6月06日	打楽器・絃楽器2（実技）			
第9回	6月13日	「越殿楽」合奏2（実技）			
第10回	6月20日	雅楽装束2（実技）			
第11回	6月27日	聲明概論2（講義）			
第12回	7月04日	日蓮宗古儀聲明2（実技）			
第13回	7月11日	聲明雅楽協奏曲2（講義）			
第14回	7月18日	天台宗聲明・真言宗聲明・その他の聲明2（講義）			
第15回	7月25日	雅楽雑学2（講義）			
【教科書・参考書】					
『仏教音楽』下宮高純編（延命院2024年第3版）					
【学生へのメッセージ】					
<p>箏篋管と龍笛管は講義中に貸与する。箏篋のリードはパーツの特性上講義中に頒布する（2000円予定）。鳳笙については楽器の特性上感染防止の観点から各自の演奏を行わない。</p>					
【オフィスアワー】					
下宮高純への連絡は（thegagaku(a)yahoo.co.jp）とする。					

【実務経験】

日蓮宗聲明師・雅楽師

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				文学・歴史学系科目
講義名	[A_mlh2] [01] 古典文学を読む				
区分	後期（15回）		単位	必修（2）文学・芸術専攻	
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	Jill Emma Strothman		ジル・エマ・ストロースマン		jill emma strothman [jill(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
古典文学をはるか昔の人々のものではなく、現代のわたしたちにも通じるものだと理解して、古典文学について語り合っ、俳句や川柳を作詞してみる事を狙いとする楽しい授業です。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
日本文学を代表する数々の作品から万葉集万葉集、枕草子、源氏物語、方丈記、徒然草、百人一首と御伽草子を読み、古典に親しむことを目的とします。本講義を受講することにより、古典文学はもとより、俳句にも親しみ、いつでも自らの気持ちを俳句や川柳などで表現できるようになります。コンピテンシー：異文化理解、文章表現力、口頭発表力、読解力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
作品を読んで解説をしているいろいろな意見がある場面について話しましょう。中間発表して、授業で扱わない作品や、扱った作品の別な部分について調べて発表していただきます。毎週、終わりの15分を使って、俳句や川柳を与えられた季語やテーマにあわせてみんなで考えます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、前回までの作品の重要なデータをノートにまとめる。事後学修（2時間以上）は、授業で学修した作品を読み返して、発表の準備をする。受講の前後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間発表（30%）、学力確認テスト（40%）、授業に対する取り組み（30%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	俳句、川柳				
第2回	枕草子				
第3回	方丈記				
第4回	徒然草				
第5回	御伽草子				
第6回	万葉集				
第7回	中間発表				
第8回	源氏物語 1 歴史的背景と「桐壺」				
第9回	源氏物語 2 身代わりとしての紫				
第10回	源氏物語 3 罪と仏教：柏木、藤壺、六条御息所				
第11回	百人一首				
第12回	百人一首大会				
第13回	源氏物語 4 浮船の様々な選択を考えて				
第14回	往生要集、後期の復習				
第15回	まとめ及び振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：プリントを配ります。参考書：本講義受講中、学生自らの興味より選択します。					
【学生へのメッセージ】					
旧仏教芸術専攻の学生は選択科目です。難しいと思われがちな古典文学を気軽に楽しめるものだとわかって、好きになっていただきたい。					
【オフィスアワー】					
月曜日 5 時限					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				文学・歴史学系科目
講義名	[B_mlh2] [03] 古文書学				
区分	後期 (15回)	単位	必修 (2)		形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	木村 中一		キムラ チュウイチ		kimura chuichi [kimura(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
古文書の読解は、歴史学や仏教史を研究するには必修となる。そこで本講義は古文書学はどのような学問か、そしてくずし字の基礎から読解に至るまで指導していく。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
古文書解読辞典を引きながら初歩的な古文書を解読できるようになることを到達目標とする。 コンピテンシー：読解力、文章表現力、論理的思考力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
古文書読解の授業は、実習形式とするのでノート、筆記用具、古文書辞典は持参のこと。学外の古文書を研究する研究者に講義してもらうこともあります。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。事前学修では前回の資料の理解を深めることを主に行い、事後学修ではノートのまとめや理解違いなどの修正を行うこと。					
【成績評価 (方法・基準)】					
2人の基幹教員がそれぞれ授業の最後に行うレポート (60%) と通常授業の取組姿勢 (40%) で評価し、最後に2人の教員により総合評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	古文書学とは				
第3回	古文書の形態				
第4回	古文書の読解 くずし字の基礎と用例				
第5回	古文書の読解 くずし字の応用 漢字				
第6回	古文書の読解 くずし字の応用 ひらがなとカタカナ				
第7回	古文書の読解 日本の書跡・典籍				
第8回	古文書の読解 公式文書 (院宣・下文)				
第9回	古文書の読解 公式文書 (宣旨)				
第10回	古文書の読解 公式文書 (官宣旨)				
第11回	古文書の読解 読解実践 入門編				
第12回	古文書の読解 読解実践 初級				
第13回	古文書の読解 読解実践 中級その1				
第14回	古文書の読解 読解実践 中級その2				
第15回	確認とまとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『くずし字用例辞典 普及版』児玉幸多編 (東京堂出版) 1981年。参考書：『入門近世文書字典』林英夫・中田易直編 (柏書房) 1975年。					
【学生へのメッセージ】					
古文書の読解は、ステップアップで進んでいくので途中で授業を休まないこと。もし休んだ場合は、その箇所を復習し、次の授業に臨むこと。					
【オフィスアワー】					
火曜日 4 時限目、水曜日 2 時限目、質問はメール (kimura(a)min.ac.jp) でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				文学・歴史学系科目
講義名	[C_mlh2] [05] 宗教と文学 / 仏教と文学				
区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)		形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	--	
担当教員	Jill Emma Strothman		ジル・エマ・ストロースマン	jill emma strothman [jill(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
様々な国の文学を通して宗教、仏教を考えるきっかけとなる授業です。					
【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】					
本講義はインドから始まって、中国、韓国、日本へと伝わって来た仏教や、キリスト教・イスラムなどの宗教の波はどのように文学に影響を与えてきたのかを探求します。本講義を受講することにより、それぞれの宗教文学作品から短めな例を用いて諸宗教学と仏教文学を比較検討することができます。コンピテンシー：異文化理解、文章表現力、口頭発表力、読解力					
【授業方法 (フィードバックの内容)】					
プリントを読んで、多少の歴史を学んで、話し合います。西遊記とDaVinci Codeの回はDVDを用います。中間発表で日本以外の国の文学について自習的に研究して発表し、総合発表では、日本の文学について調べて発表してもらいます。					
【授業外学修の方法 (時間数)】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。受講の前後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
【成績評価 (方法・基準)】					
中間発表 (30%)、授業への取り組み (30%)、学力確認テスト (40%) で評価する。					
【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】					
第1回	どんぐりと山猫 (日本)				
第2回	西遊記 (中国)				
第3回	杜子春 (中国版 vs 日本版)				
第4回	中国の仏教文学に大きな影響を与えた道教：老子・荘子・天問 (中国)				
第5回	韓国の昔話 (日本と比較しましょう)				
第6回	三国史記 (韓国)				
第7回	春香伝 (韓国)				
第8回	中間発表				
第9回	千夜一夜 (アラビア)				
第10回	日本文学				
第11回	往生要集 vs Danteの神話の天国と地獄				
第12回	ベトナムとラオスの昔話 (日本と比較しましょう)				
第13回	DaVinci Code				
第14回	古事記と日本書紀				
第15回	まとめ及び振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：プリントを用意いたします。参考書：受講生の興味に応じ、適宜指示します。					
【学生へのメッセージ】					
知らない国のほんの少しの知識を身につけることで、シルクロードを渡って来た仏教、そしてイスラム・キリスト教など他の宗教がどのように人々の考えを変えたかについて事前に学修し、もっと知りたいと興味を持って復習してほしい。					
【オフィスアワー】					
月曜日 5 時限					
【実務経験】					
なし					

年度	区分	分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目	文学・歴史学系科目

講義名	[D_mlh3] [07] 考古学概論 / 仏教考古学
-----	-----------------------------

区分	前期 (15回)	単位	選択 (2)	形式	講義
----	----------	----	--------	----	----

授業年次	--	2年	3年	--
------	----	----	----	----

担当教員	長澤 宏昌	ナガサワ コウショウ	nagasawa kosyo [nagasawa(a)]
------	-------	------------	------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

あらゆる生命体の中で、人間だけが行ってきた葬送行為やその儀礼を知ることは、言い換えれば人間らしさを確認することでもある。埋葬の歴史を通じて改めてそれを意識すると同時に、葬送行為を簡略化もしくは不要なものとする現代社会の実態を知ること、僧侶を目指す学生諸君がこれから何を為すべきかを、学生とともに考える。

【授業修了時の達成課題 (到達目標・competency)】

仏教考古学とは、遺跡からの出土品や伝世品を通して、仏教の成り立ちや変遷を学ぶことを目的とするが、この講義では、考古学の成果に基づき仏教伝来以前の日本列島の埋葬や信仰形態を理解することに主眼を置き、埋葬や信仰の意識が希薄になっている現代社会との対比を行う。それにより、遺物や遺構から何がわかるかという「情報収集力」「情報分析力」「論理的思考力」を育み、僧侶を目指す学生に、これからの社会で「何をなすべきか」の「構想力」を高めてもらうためである。

【授業方法 (フィードバックの内容)】

講義により、埋葬や信仰の歴史及び遺跡出土仏教関係遺物・遺構の概説を行う。日本においては、古墳時代前期以前は基本的には仏教とは無縁であるが、旧石器時代以降、頑なな埋葬や信仰への思いを学ぶことによって、現代社会で急激におろそかにされつつある祖先や家族・一族の繋がりを再確認する。

【授業外学修の方法 (時間数)】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。授業の理解度を確保するため、翌週に前回授業の内容を400字詰め1枚程度のレポートとして提出することを義務付ける。総括ではこのレポートの状況を基に重点項目を設定し、学生の理解を深めることとする。

【成績評価 (方法・基準)】

学力確認テストを (60%)、授業への取り組み姿勢 (20%)、毎回の授業内容をまとめたレポート (20%) で評価する。

【授業計画 (諸般の事情による計画変更の可能性あり)】

第1回	仏教考古学の定義と講座内容概説
第2回	発掘調査の理論 / 旧石器時代の信仰と埋葬
第3回	縄文時代の埋葬と信仰 1
第4回	縄文時代の埋葬と信仰 2
第5回	弥生時代の埋葬と信仰
第6回	古墳時代の埋葬と信仰
第7回	古代・中世の埋葬と信仰
第8回	寺院跡の調査 甲斐国分寺の調査例
第9回	近世・近現代の埋葬と信仰
第10回	伝来した仏教と埋葬儀礼との関わり (古墳と仏教)
第11回	遺跡にみられる先祖供養の痕跡
第12回	民俗学から見た先祖観
第13回	現代の状況
第14回	謙虚さを考える
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：『今、先祖観を問う：埋葬の歴史と現代社会』長澤宏昌 (石文社) 初回授業時に頒布する。参考書：『仏教考古学講座』 (雄山閣)、『仏教考古学辞典』 (雄山閣)。

【学生へのメッセージ】

講義で学ぶことと、現代社会の仏教を取り巻く状況をしっかり理解し、それらがいかに乖離しているかに気付いてほしいと同時に、その認識のもと僧侶として何をなすべきかを考えてほしい。

【オフィスアワー】

授業の前後に教室にて対応します。

【実務経験】

住職26年、博物館学芸員20年。葬送の歴史と現代の実態を把握している。

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				文学・歴史学系科目
講義名	[E_mlh3] [09] 民俗学概論				
区分	前期（15回）	単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	堀内 眞		ホリウチ マコト		horiuchi makoto [horiuchi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
民俗学とはどういう学問なのかについて講義する。日本には豊かな自然環境の中で生まれ発達してきた民俗文化がある。その地域特有の歴史や文化を学び、身の回りにある民俗文化を再認識する。民俗とは、習俗や習慣、言い伝えなど、日本では柳田国男が研究対象を幅広いものとして設定した。従来からの調査分野を踏まえ、社会構成（村制・族生）、人の一生、生業、衣食住、年中行事、信仰、芸能、口承文芸の8分野からテーマを抽出して講義ごとに考えていく。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
身の回りの出来事や民俗事象に注目して、民俗学の歴史や方法論、成果について学習し、民俗学に関する基礎的学習能力を身につけることを目指す。コンピテンシー：地域理解、情報収集力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義形式で行う。必要に応じて、写真やDVD、映像資料などを用いながら講義を進める。資料は授業前に配布する。授業終了後に出欠の確認と合わせて小カードを提出してもらい、理解度の確認をし、受講態度の評価にあてる。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。事前学修は、新聞などに掲載された民俗的な出来事や祭り行事などを用いし内容等の把握・確認をしておく。事後学修は、授業で習った内容について復習し、わからないことは辞書等で調べておく。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（50%）、授業に取り組む姿勢（50%）により総合評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス、授業の進め方、民俗学とはどういう学問か				
第2回	社会構成 1 山梨の地域性				
第3回	社会構成 2 無尽と貯金会				
第4回	人の一生 1 子どもを産み育てる				
第5回	人の一生 2 葬制と墓				
第6回	生業 1 環境と農業				
第7回	生業 2 畑作				
第8回	生業 3 焼畑				
第9回	年中行事 1 正月・小正月の行事				
第10回	年中行事 2 夏の行事・山開き				
第11回	年中行事 3 秋の行事				
第12回	年中行事 4 冬の行事・コト八日				
第13回	芸能 1 念仏行事・無生野の大念仏				
第14回	芸能 2 疫病退散・悪魔祓いの神楽				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
授業中に民俗分野の概説等を配付します。					
【学生へのメッセージ】					
身近な地域やことがらを再認識できるような学修を目標とする。					
【オフィスアワー】					
授業前、授業後に質問等を随時教室で受け付ける。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				文学・歴史学系科目
講義名	[F_mlh3] [11] 世界宗教史《遠隔授業》				
区分	前期（15回）	単位	選択（2）R2以前は必修		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	4年	
担当教員	岡田 文弘		オカダ フミヒロ		okada fumihiro [ookada(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
本学は基本的に仏教の修学を主とするものですが、その理解を深めるためにも、また現代世界の趨勢を知るためにも、世界における宗教の知識と歴史を身につけておくことが必要です。そこで本講義では世界の宗教、特に「一神教」の「ユダヤ教」「キリスト教」「イスラム教」を中心に取り上げ、その歴史を概観します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
世界の諸宗教について基本的な知識を体系的に身につけ、「多様な学問の考え方」を修得し、「異文化理解」を深める。そして体得した知識の検討を通して、「批判的思考力」「構想力」を身につける。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
この授業は同時双方向型（ライブ配信）のオンライン授業です。ファイル・キャビネットにアップした資料を中心に講義を進めます。また毎回、質問・意見等を記入してもらい（Googleフォーム使用）、翌週の授業の冒頭でフィードバック（回答や補足説明など）を行います。ディベートの機会も適宜設けます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
この授業では、毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。事前学修は、事前配布資料を読んでおくこと。事後学修は、学修した内容を自分なりに整理しておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組みの姿勢（50%、毎回の質問・意見等の記入等）およびレポート（50%）により、総合的に評価を行います。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス（シラバス確認） 対面				
第2回	ユダヤ教1：概論 同時双方向型のオンライン授業				
第3回	ユダヤ教2：国家形成からバビロン捕囚へ 同時双方向型のオンライン授業				
第4回	ユダヤ教3：ヘレニズム文化からラビ・ユダヤ教へ 同時双方向型のオンライン授業				
第5回	キリスト教1：概論 同時双方向型のオンライン授業				
第6回	キリスト教2：原始キリスト教 同時双方向型のオンライン授業				
第7回	キリスト教3：キリスト教の広がりとは展開 同時双方向型のオンライン授業				
第8回	キリスト教4：キリスト教の広がりとは展開（承前） 同時双方向型のオンライン授業				
第9回	キリスト教5：宗教改革以降 同時双方向型のオンライン授業				
第10回	イスラム教1：概論 同時双方向型のオンライン授業				
第11回	イスラム教2：ムハンマドの時代 同時双方向型のオンライン授業				
第12回	イスラム教3：イスラム世界の確立 同時双方向型のオンライン授業				
第13回	イスラム教4：イスラム世界の展開 同時双方向型のオンライン授業				
第14回	イスラム教5：近現代のイスラム教 同時双方向型のオンライン授業				
第15回	まとめ 同時双方向型のオンライン授業				
【教科書・参考書】					
教科書：レジュメをもって代替とする。参考書：『宗教の世界史7ユダヤ教の歴史』市川裕（山川出版社）2009年、『宗教の世界史8キリスト教の歴史1』松本宣郎（山川出版社）2009年、『宗教の世界史9キリスト教の歴史2』松本宣郎・高柳俊一（山川出版社）2009年、『宗教の世界史11イスラムの歴史1』佐藤次高（山川出版社）2010年、『宗教の世界史12イスラムの歴史2』小杉泰（山川出版社）2010年。					
【学生へのメッセージ】					
なるべく双方向の授業とするため、質問・意見等の記入の記入に注力すること。					
【オフィスアワー】					
随時、メール（ookada(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				文学・歴史学系科目
講義名	[K_mlh4] [19] 東洋史特講 / 現代宗教事情				
区分	後期 (15回)		単位	選択 (2)	
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	金 炳坤		キム ビョンコン		kim byungkon [kim(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ステレオタイプで、宗教に対する良し悪しを判ずるのではなく、その宗教の、宗祖、教義（聖典）、教徒（信徒）についてありのままに受け止め、そのうえで仏教との比較を試み、それが自己にとっていかに響いたかについては話し合いながら、存在のあるべき姿（理想）について考えていきます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)宗教や存在に対する理解を深めることができる。(2)受講者それぞれの研究意欲や課題設定のための視野を広げることができる。(3)卒業論文に向けた研究方法を修得し論文作成のためのスキルを高めることができる。 コンピテンシー：異文化理解、情報分析力、読解力、口頭発表力、批判的思考力、課題設定力、評価力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書に沿って進めていきます。提出された「授業のまとめ」（メールでのやり取り）を添削し、次回までに返却します。これらに基づくディスカッションを通して、自己の生き方について見つめなおすきっかけと場としていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、授業計画に即して教科書の該当ページを読んで授業に備えておくこと。事後学修（2時間以上）は、参考書や教育リソースを駆使して、毎回の授業のまとめを行い、次回の授業にて振り返りができるように用意しておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認のための課題提出2回（20%）、期末レポート（30%）、及び授業への取り組み姿勢（50%、「授業のまとめ」の提出を含む）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス / イエス・キリストとは？				
第2回	キリスト教と聖書				
第3回	イエスの奇跡と復活				
第4回	キリスト教と教徒（第1回目の課題提出）				
第5回	ムハンマドとアッラー				
第6回	イスラム教の教え				
第7回	イスラム教とコーラン				
第8回	イスラム教と教徒（第2回目の課題提出）				
第9回	ユダヤ教と戒律				
第10回	ヒンドゥー教と輪廻転生				
第11回	多神教の古代エジプト・古代ギリシャ・古代ローマ帝国				
第12回	「生き仏」の宗教・チベット教（ラマ教）（期末レポートの課題提示）				
第13回	宗教対立がもたらす戦い				
第14回	現代宗教戦争を読み解く				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書は『決定版！世界の宗教がとてよくわかる本：三大宗教から小宗教、現代紛争まで』宗教と神々を研究する会編（廣済堂出版）2006年を使います。参考書は『世界宗教大事典』平凡社編集部編（平凡社）1991年を用いてください。その他、随時「教育リソース」を提供します。					
【学生へのメッセージ】					
「現代宗教事情」（R6まで）は「仏教芸術専攻」の難易度（D3：専門課程に必須な知識や技能を身につける難度）に位置づけられる「宗教学系科目」の一つになります（詳しくは、令和4年度カリキュラムツリー参照）。ですので、仏教芸術専攻を主専攻とする者で、卒業制作ではなく、卒業論文を希望する学生は、なるべく履修するようにしてください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後、火・水・木曜日のオフィスアワーに対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				博物館学系科目
講義名	[A_mmu2] [05] 博物館概論				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）文学・芸術専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
現在も多種多様な博物館が全国各地で誕生している。この博物館のあり方を考える場合、その館の性格や社会的機能を正確に把握することが必要である。博物館の定義から博物館の今日までの歴史をたどり、博物館が現代社会に果たしている役割についてみていくことにする。生涯学習施設である地域の博物館の機能や役割を通じて、人々がよい教育を受ける必要性について学んでいくことがSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
博物館とはどういう施設が理解することを到達目標とする。現代の博物館のあり方について学ぶことにより、「情報収集力」「構想力」「評価力」が身につく。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
生涯学習社会にあって、市民の学習ニーズが多様化、高度化しており、博物館への期待が高まるばかりである。これをとらえていくために、新しく開館した博物館を例にとり、その役割や活動内容についてみていきたい。視聴覚教材も使い、タブレット端末等のICT機器を使用して双方向授業を行う。授業中に実際の博物館資料を用いて実習することもある。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の部分を読んでおくこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ主な博物館用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末テスト（70%）、授業に取り組む姿勢（30%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	博物館で学ぶ内容				
第2回	博物館学とは何か SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」				
第3回	博物館の歴史				
第4回	博物館の基本的機能				
第5回	学芸員の役割				
第6回	博物館の種類				
第7回	博物館を支える仕組み				
第8回	博物館を支える人々				
第9回	現代社会と博物館 SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」				
第10回	学校教育と博物館				
第11回	生涯学習と博物館 SDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」				
第12回	文化財保護と博物館				
第13回	博物館の現状と課題				
第14回	期待される博物館				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）。参考書：『博物館体験』高橋順一訳（雄山閣）、『新しい地域博物館活動』村上義彦（雄山閣）。					
【学生へのメッセージ】					
副専攻の学生は選択科目です。博物館学芸員資格を取得し、将来博物館関係の業務に携わることを希望する学生に受講してもらいたい。					
【オフィスアワー】					
授業の開始前、終了後に質問等を研究室や教室で受け付ける。その他の時間帯に質問等があればメール（smochi(a)min.ac.jp）で対応する。					
【実務経験】					
博物館学芸員として勤務経験（40年）あり。現場に即した授業を行います。					

年度	区分				分野	
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				博物館学系科目	
講義名	[B_mmu3] [07] 博物館資料論					
区分	前期（15回）		単位	必修（2）文学・芸術専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--		
担当教員	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ		mochizuki shincho [smochi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
博物館が担う役割として、資料の収集・整理・保存・展示・調査研究・教育普及活動といった活動があるが、その中で資料がどのような位置を占めているのか講義していく。特に、博物館資料の種類・分類・整理の方法について、寺院博物館資料を例に講義していきたい。博物館資料の取扱方についても実習する。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
博物館資料にはどのようなものがあるか把握できることを到達目標とする。資料に関する情報について学ぶことにより、「情報収集力」「情報分析力」「情報構成力」「批判的思考力」が身につく。						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
広く博物館学を学ぼうとする学生を対象とするが、博物館学芸員として必要な知識を修得してもらうため、専門的かつ実務的な内容にするつもりである。ICT機器や視聴覚教材を用いて授業を行う。そして、受講生がタブレット端末等のICT機器を利用して双方向授業を行う。授業中に実際の博物館資料の取り扱い方について実習する。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
（2時間以上）は、該当する教科書の部分を読んでおくこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ主な博物館用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。						
【成績評価（方法・基準）】						
期末レポート（40%）、授業に取り組む姿勢（60%）によって評価する。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	博物館資料とは何か					
第2回	博物館資料の収集・整理 1					
第3回	博物館資料の収集・整理 2					
第4回	博物館資料の調査・研究 1					
第5回	寺院博物館の調査・研究 2					
第6回	寺院博物館の取り扱い 1					
第7回	寺院博物館の取り扱い 2					
第8回	博物館資料の保存・修復 1					
第9回	博物館資料の保存・修復 2					
第10回	博物館資料と情報 1					
第11回	博物館資料と情報 2					
第12回	博物館資料の可能性					
第13回	博物館資料の調査方法 1					
第14回	博物館資料の調査方法 2					
第15回	総括					
【教科書・参考書】						
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）、『寺宝護持の心得』日蓮宗勸学院監修（日蓮宗新聞社）、参考書：『博物館技術学』青木豊（雄山閣）、『アーカイブズの科学』上・下 国文学研究資料館史料館編（柏書房）。						
【学生へのメッセージ】						
副専攻の学生は選択科目です。博物館学芸員資格を取得し、将来博物館関係の業務に携わることを希望する学生に受講してもらいたい。						
【オフィスアワー】						
授業の開始前、終了後に質問等があれば対応する。その他の時間帯に質問等があればメール（smochi(a)min.ac.jp）で対応する。						
【実務経験】						
博物館学芸員として勤務経験（40年）あり。現場に即した授業を行います。						

年度	区分			分野	
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目			博物館学系科目	
講義名	[C_mmu3] [09] 博物館情報・メディア論				
区分	後期（15回）		単位	必修（2）R5以前	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	海老沼 真治		エビヌマ シンジ		ebinuma shinji [ebinuma(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
博物館では、収蔵資料に関する情報、学芸員による調査・研究によって得られた情報など、膨大な量の情報を取り扱います。こうした情報は、最終的には広く公開して社会に還元し、利用者に活用してもらうものですから、誰にでもわかりやすい形で記録し、発信される必要があります。博物館における情報の集積・管理・活用や、博物館情報を活用するための様々なメディアに関する基礎知識について概説します。また新型コロナウイルス感染症の影響で、博物館でもオンラインによる様々なサービスの提供を行うことが、これまで以上に盛んになり、その動きは今後も継続すると見込まれます。こうした現在の状況もふまえて、博物館の情報発信にどのようなことが求められるか、受講者とともに考えていきたいと思えます。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
博物館において情報をいかに集積・管理するか、集められた情報をどのように公開するか、その場合にどのような媒体（メディア）を用いるか、発信にあたり留意するべき点は何か、などの課題について考えることを通して、受講者が博物館における情報・メディアの取り扱いについて理解を深めることを目標とします。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、情報収集力、情報分析力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
博物館情報・メディアに関する一般論的な講義とともに、様々な博物館の事例を取り上げ、受講者とともに考えていきます。授業中に、内容についての発言や小レポートの提出を求めることがあります。また、博物館の実地見学を行い、実際に博物館で行われている情報管理・発信の状況を説明することも予定しています。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、教科書をあらかじめ読んでおくこと。事後学修（2時間以上）は、配布したレジュメを読み直すとともに、紹介した博物館のウェブサイト等を確認すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（40%）、授業への取組の姿勢（60%）によって評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス、現代の博物館事情				
第2回	博物館における情報・メディアの意義 1：博物館における情報、情報の作成・整備等について				
第3回	博物館における情報・メディアの意義 2：博物館におけるメディア、メディアとしての博物館等について				
第4回	博物館情報の蓄積と管理				
第5回	博物館資料のデータベース化 1：博物館におけるデータベースの概要、類型等について				
第6回	博物館資料のデータベース化 2：博物館データベースの具体的な運用事例等について				
第7回	博物館資料のデジタル化（デジタル・アーカイブス）				
第8回	情報の公開 1：館内における情報公開				
第9回	情報の公開 2：インターネットによる情報公開				
第10回	情報の公開 3：情報の公開と保護				
第11回	博物館と知的財産				
第12回	博物館の情報をめぐる環境				
第13回	事例研究 1：山梨県立博物館における情報管理				
第14回	事例研究 2：山梨県立博物館における情報公開				
第15回	博物館における情報のこれから、まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）2012年、基本的にはレジュメを配布して授業を進めます。参考書：『博物館学 2』大堀哲・水嶋英治編著（学文社）2012年、『博物館情報・メディア論』日本教育メディア学会編（ぎょうせい）2013年、『歴史情報学の教科書 歴史のデータが世界をひらく』後藤真・橋本雄太編（文学通信）2019年、『発信する博物館 持続可能な社会に向けて』小川義和・五月女賢司編（ジグアイ社）2021年、『学芸員の観察日記』滝登くらげ（文学通信）2023年。そのほか、講義の内容に応じて紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
実際に博物館の見学を行うので「事例研究 1・2」の出席を重視します。博物館は時代の移り変わりとともに、その活動は常に変化していきます。授業だけでなく、状況が許せば実際に各地の博物館を見学し、どのような活動がなされているか考えることを心がけるようにしてください。現在では博物館も様々なメディアを用いて情報発信を行っています。ホームページだけでなく、SNSなど様々な手段で博物館の情報を収集してみてください。					

【オフィスアワー】

授業の前後に教室にて対応します。

【実務経験】

山梨県立博物館学芸員19年。博物館での実際の業務や課題等も授業内容に反映します。

年度	区分			分野	
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目			博物館学系科目	
講義名	[D_mmu4] [11] 博物館展示論				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）R5以前	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	保坂 康夫		ホサカ ヤスオ		hosaka yasuo [hosaka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
博物館展示論とは、博物館学の一分野である。展示は、学び体感しようとする主体が集う「生涯学習の場」である博物館の活動の根幹である。「収集資料を調査・研究」し、新たに生み出した知識体系を示すのが展示であり、学芸員として最も手腕が示される場面である。半面、「収集資料の保存」にとっては危険を伴う局面でもあるのが展示であり、確実な知識と認識のもとに展示に臨む必要がある。「見学者の理解」が着実に進み、収集資料にとって最適な展示を行う理論と方法を学ぶことを目的とする。また、博物館学芸員になることで、博物館活動をとおして、誰もが平等に質の高い教育を受けられる環境をつくるSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」実現に貢献します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
博物館展示論の知識を体系的に修得し、「多様な学問の考え方」を深く理解し、「情報収集力・分析力・構成力」や、「文章表現力・口頭発表力」を獲得することで、学芸員として基礎的な知識や資質を身に付け、実際に博物館展示を担うことができるようになることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書にそって博物館展示論を概説し、重要な概念などについて配布資料でさらに深く解説する。各回の授業内容に応じて、タブレットなどICT機器を利用して現在実施されている博物館展示の情報を検索・収集し、分析・再構成してその内容をまとめて口頭発表する。さらにより一層理解を深めるために、具体的に博物館の展示例を見学し、その内容を口頭発表する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
各回の講義内容について、教科書や参考書による事前学修を毎回2時間以上実施すること。事後学修では、教科書・配布資料を読み直し、ノートをまとめる作業を2時間以上行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（60%、知識の修得度や文章表現力を評価）、授業への取り組み姿勢（40%、情報検索成果口頭発表を5～8回実施し、各回の口頭発表力、情報収集力、分析力、構成力の評価を回数に応じて8～5%とする）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	展示の目的とその歴史				
第2回	展示資料の調査と収集				
第3回	展示の構想と企画				
第4回	展示の設計、施行（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）				
第5回	展示と法令				
第6回	博物館展示の実際（博物館見学）				
第7回	展示の環境と設備、見学博物館のプレゼンテーション				
第8回	展示作業				
第9回	展示の照明と音響（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）				
第10回	展示と解説・展示解説書の作成（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）				
第11回	人文系の展示（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）				
第12回	自然系の展示（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）				
第13回	展示のあり方				
第14回	博物館展示の総合的検討				
第15回	博物館展示論のまとめと総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）2012年、および配布資料。参考書：『博物館学』大堀哲・水嶋英治編著（学文社）2012年、『博物館展示法（新版博物館学講座9）』加藤有次・鷹野光行ほか（雄山閣）2000年。					
【学生へのメッセージ】					
今求められている博物館の展示とはいかなるものか、実際の博物館展示はどのようなものがあるか、展示手法による見易さ、理解しやすさ、楽しさを考える。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					

【実務経験】

山梨県立考古博物館学芸課長 6 年、同博物館次長 1 年

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				博物館学系科目
講義名	[E_mmu4] [13] 博物館教育論				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）R5以前		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	保坂 康夫		ホサカ ヤスオ		hosaka yasuo [hosaka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
博物館教育論は、博物館学の一分野で、「社会教育施設」としての博物館を認識するための授業である。人間の教育に対する考え方は常に変化しているが、基本的には学習しようとする「主体性」を引き出し、育てることが重要である。教育には「学校教育」と「生涯学習」とがあるが、博物館教育は両者にかかわり、学習の機会と素材とを提供し続けることが求められている。これらに対応可能な、博物館内外での活動についての理念と方法論を学ぶことを目的とする。また、博物館学芸員になることで、博物館活動をとおして、誰もが平等に質の高い教育を受けられる環境をつくるSDGs4の目標「質の高い教育をみんなに」実現に貢献します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
博物館教育論の知識を体系的に修得し、「多様な学問の考え方」を深く理解し、「情報収集力・分析力・構成力」や、「文章表現力・口頭発表力」を獲得することで、学芸員として基礎的な知識や資質を身に付け、実際に博物館教育活動を行うことができるようになることを目標とする。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書にそって博物館教育論を概説し、重要な概念などについて配布資料でさらに深く解説する。各回の授業内容に応じて、タブレットなどICT機器を利用して現在実施されている博物館教育活動の情報を検索・収集し、分析・再構成してその内容をまとめて口頭発表する。さらに、より一層理解を深めるために、具体的に博物館の教育実践例を見学し、その内容を口頭発表する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
各回の講義内容について、教科書や参考書による事前学修を毎回2時間以上実施すること。事後の学修では、教科書・配布資料を読み直し、ノートをまとめる作業を2時間以上行うこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（60%、知識の修得度や文章表現力を評価）、授業への取り組み姿勢（40%、情報検索成果口頭発表を5～8回実施し、各回の口頭発表力、情報収集力、分析力、構成力の評価を回数に応じて8～5%とする）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	博物館教育史				
第2回	世界水準の博物館教育				
第3回	学芸員の教育的役割（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）				
第4回	ボランティアの養成				
第5回	博学連携と生涯学習				
第6回	展示と展示解説				
第7回	博物館見学				
第8回	ワークショップ、見学博物館のプレゼンテーション（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）				
第9回	ハンズオンとアウトリーチ（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）				
第10回	子どものための展示と歴史系博物館・科学館の実践例（ICT機器を利用した検索調査 / 口頭発表）				
第11回	子どものための展示の動物園・水族館の実践例（ICT機器を利用した検索調査）				
第12回	子どものための展覧				
第13回	教育目標と計画、評価				
第14回	博物館教育論の課題・展望				
第15回	博物館教育論のまとめと総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）2012年、および配布資料。参考書：『博物館学』大堀哲・水嶋英治編著（学文社）2012年、『博物館教育論』黒沢浩（講談社）2015年。					
【学生へのメッセージ】					
博物館学芸員にとって博物館教育とはどのようなものであるのか、とくに社会的要求にどのように応えるのかを、参加者や見学者の立場に立って考えてほしい。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					

【実務経験】

山梨県立考古博物館学芸課長 6 年、同博物館次長 1 年

年度	区分			分野	
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目			博物館学系科目	
講義名	[F_mmu4] [15] 博物館資料保存論				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）R5以前	形式	講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	望月 真澄		モチヅキ シンチョウ	mochizuki shincho [smochi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
博物館資料の理念として、保存と活用によって国民の文化的向上と世界文化の進歩に貢献することが謳われている。よって、資料保存の基本理念から、博物館で行われている資料保存の実態やその具体的方法等について講義していく。博物館資料の保存について、よりよい方法を学ぶことにより、SDGs7の目標「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、SDGs13の目標「気候変動に具体的な対策を」に繋がる。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
博物館における資料保存の必要性について理解できるようにする。資料保存に関する情報や保存状況等をみていくことにより、「情報収集力」「情報分析力」「情報構成力」「論理的思考力」が身につく。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業は、実際の寺院資料をもとに、保存について考える形の授業とする。視聴覚教材も使い、タブレット端末等のICT機器を使用して双方向授業を行う。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の部分を読んでおくこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学修した主な博物館用語や事項を次回授業までに確認しておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
学修レポート（30%）、授業に取り組む姿勢（70%）によって評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	資料保存の意義 SDGs7の目標「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、SDGs13の目標「気候変動に具体的な対策を」				
第2回	資料保存の目的				
第3回	資料の保存と修復 1				
第4回	資料の保存と修復 2				
第5回	資料の保存と修復 3				
第6回	資料の保存と環境 1				
第7回	資料の保存と環境 2				
第8回	資料の保存と環境 3				
第9回	資料保存の実態と実際 1				
第10回	資料保存の実態と実際 2				
第11回	資料保存の実態と実際 3				
第12回	博物館資料の保存と活用の問題 SDGs7の目標「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、SDGs13の目標「気候変動に具体的な対策を」				
第13回	災害と博物館資料				
第14回	学外資料見学				
第15回	全体のまとめ				
【教科書・参考書】					
『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）。					
【学生へのメッセージ】					
「博物館概論」「博物館資料論」修得後に履修してもらいたい。学外の博物館・資料を見学する場合があるが、その際は事前に連絡する。					
【オフィスアワー】					
授業の開始前、終了後に質問等があれば研究室、教室で対応する。その他の時間帯に質問等があればメール（smochi(a)min.ac.jp）で対応する。					
【実務経験】					
博物館学芸員として勤務経験（40年）あり。現場に即した授業を行います。					

年度	区分			分野	
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目			博物館学系科目	
講義名	[G_mmu4] [17] 博物館経営論				
区分	後期（15回）		単位	必修（2）R5以前	形式 講義
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	海老沼 真治		エビヌマ シンジ		ebinuma shinji [ebinuma(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
近年、博物館をめぐる環境は厳しく、予算減少や人員削減、閉館・休館の危機にある博物館も少なくありません。加えて「観光への寄与」や「稼ぐ」ことへの過度な要求など、新たな困難も生じています。こうした状況の中で必要性が高まっているのが、博物館を「経営する」視点です。博物館は誰のためにあり何を指すのか、社会や地域にどのように貢献し、そのためにどのような事業を展開するか、そうした博物館の活動をいかに評価するかなど、博物館経営に必要な論点を概説します。また新型コロナウイルス、燃料費高騰などの影響で、深刻な経営危機に陥る博物館も出てきており、これまでの博物館経営や評価の見直しも求められています。博物館にとって真に必要な活動やその評価について、受講者とともに考えてみたいと思います。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
博物館経営に関連する今日的課題と経営上の基礎的な知識を修得するとともに、博物館が抱える課題を解決するためにどのように取り組むかを考え、実践できる能力を養うことを目標とします。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、情報収集力、批判的思考力、課題設定力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
博物館経営に関する一般論的な講義とともに、様々な博物館の事例から、各地の博物館で実際に展開されている経営のあり方について、受講者とともに考えていきます。授業中に、内容についての発言や小レポートの提出を求めることがあります。また博物館の実地見学も行う予定です。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、教科書をあらかじめ読んでおくこと。事後学修（2時間以上）は、教科書・レジュメを読み直すとともに、授業で紹介した博物館のウェブサイト等を確認し、現在の運営・活動状況を把握すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
期末レポート（40%）、授業への取組の姿勢（60%）によって評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ガイダンス、現代の博物館事情				
第2回	博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の意義1： ミュージアム・マネジメントの定義や要素、博物館の経営上の特性等について				
第3回	同上2：日本におけるミュージアム・マネジメント導入の経緯、博物館における公共性等について				
第4回	博物館の法・制度、博物館行政				
第5回	博物館の経営形態1：国立博物館、公立博物館の経営形態について				
第6回	同上2：公立博物館の経営形態（とくに指定管理者制度）、私立博物館の経営形態について				
第7回	博物館施設の運営と管理				
第8回	博物館の組織				
第9回	博物館の使命と評価1：博物館における評価の経緯や社会的背景、評価に必要な要素や手順について				
第10回	同上2：博物館評価の具体的事例について				
第11回	博物館の広報・営業				
第12回	博物館と社会連携・ネットワーク				
第13回	事例研究1：山梨県立博物館の施設・組織と経営				
第14回	同上2：山梨県立博物館における評価のあり方				
第15回	博物館経営の実際と課題、まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編（芙蓉書房出版）2012年、基本的にはレジュメを配布して授業を進めます。参考書：『博物館学2』大堀哲・水嶋英治編著（学文社）2012年、『博物館経営論』佐々木亨・亀井修著（放送大学教材）2013年、『非営利組織の経営』P.F.ドラッカー著、上田惇生・田代正美訳（ダイヤモンド社）1991年7月、『博物館の未来を考える』「博物館の未来を考える」刊行会編（中央公論美術出版）2021年。そのほか、講義の内容に応じて紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
実際に博物館の見学を行うので、出席を重視します。博物館は時代の移り変わりとともに、その活動は常に変化していきます。授業だけでなく、実際に各地の博物館を見学し、どのような活動がなされているか考えることを心がけるようにしてください。とくに博物館経営では、現在の社会・経済の状況がその活動に反映される場合がありますので、時事問題にも関心を寄せ、博物館とどのような関わりがありそうかも考えてみてください。また令和5年4月より、改正博物館法が施行されました。関係法規については授業でも取り上げますが、受講前に目を通しておいてください。					

【オフィスアワー】

授業の前後に教室にて対応します。

【実務経験】

山梨県立博物館学芸員19年。博物館での実際の業務や課題等も授業内容に反映します。

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				社会教育士系科目
講義名	[A_mse2] [01] 生涯学習支援論				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田 真司		クリタ シンジ	kurita shinji [kurita(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ソーシャル・キャピタルに着目した生涯学習支援の考え方、生涯学習施設と専門職員の役割、生涯学習の評価体系、生涯学習資源などについて解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
学習者の多様な特性に応じた生涯学習支援に関する知識・技能を修得します。 コンピテンシー：地域理解、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回2時間の事前・事後学修を行うことを望みます。その方法については授業中に説明します。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など（60%）、学力確認テスト（40%）により総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ソーシャル・キャピタルと生涯学習支援				
第2回	多様化する学習機会と行政の役割				
第3回	生涯学習支援の財政的課題				
第4回	生涯学習の評価体系				
第5回	社会的不利益層（障害者、高齢者、外国人など）に対する生涯学習支援				
第6回	生涯学習コーディネーターの役割				
第7回	生涯学習としてのプロフェッショナル・ボランティア（プロボラ）				
第8回	アウトリーチによる生涯学習支援の実践				
第9回	生涯学習資源の収集・提供				
第10回	社会教育主事、公民館主事の役割				
第11回	社会教育委員、公民館運営審議会委員、図書館協議会委員等行政委嘱委員の役割				
第12回	図書館司書、博物館学芸員、青少年教育施設・社会体育施設の専門職員等の役割				
第13回	生涯学習支援のためのソーシャル・ネットワークの活用法				
第14回	EUの生涯学習指導者養成				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
【実務経験】					
臨床心理カウンセラー10年					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				社会教育士系科目
講義名	[B_mse3] [05] 生涯学習支援論				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田 真司		クリタ シンジ	kurita shinji [kurita(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
コミュニティ、協働学習、まちづくり、参加型学習の意義について解説します。それをもとに実際にワークショップを計画し、模擬実践します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
コミュニティ、協働学習、まちづくり、参加型学習の意義について理解し、それをもとに実際にワークショップを計画し、生涯学習支援活動を実践するための基礎的な能力を身に付けます。 コンピテンシー：地域理解、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
実際にワークショップを計画し、模擬実践します。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回2時間の事前・事後学修を行うことを望みます。その方法については授業中に説明します。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など（60%）、まちづくりの発表（40%）により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	コミュニティ政策の変遷				
第2回	地域の課題解決としての協働学習				
第3回	日本古来の協働学習：結い、無尽、手間借り				
第4回	生涯学習としてのまちづくり事業の鍵はアソシエーション				
第5回	まちづくりと街づくりと町づくり 田村明の実践				
第6回	生涯学習としてのまちづくり、地域活性化、地域おこし				
第7回	「ないものねだり」から「あるものさがし」へ				
第8回	「コミュニティ」の再検討 地縁団体と知縁団体（テーマ別団体）				
第9回	ニューパブリック・マネジメントと指定管理者制度				
第10回	参加型学習におけるファシリテーターの心得				
第11回	ファシリテーションとコーチングの実際				
第12回	ローレンス・ハルプリンのワークショップ理論				
第13回	ワークショップのプランニング				
第14回	ワークショップの模擬実践				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に各回のテーマについて自分の考えをまとめておきましょう。板書を写すだけにならないノートの取り方についても学びます。受講後は、ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpをお願いします。					
【実務経験】					
臨床心理カウンセラー10年					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				社会教育士系科目
講義名	[C_mse2] [03] 社会教育経営論				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会教育計画の計画体系と評価体系、学習展開計画案、各地の具体的な推進計画について解説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
多様な主体と連携・協働を図りながら、学習成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を修得します。 コンピテンシー：地域理解、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回2時間の事前・事後学修を行うことを望みます。その方法については授業中に説明します。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など（60%）、地域課題の発表（40%）により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	対話型討論：「社会教育とは何を指すのか」				
第2回	教育基本法第13条（学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力）				
第3回	社会教育計画の計画体系と評価体系				
第4回	社会教育計画の具体的な学習展開計画案				
第5回	社会教育計画の実例の検討				
第6回	社会教育関連施設のネットワーク化				
第7回	人的ネットワークの活用（NPO、地縁団体、アソシエーション、人材バンク）				
第8回	コーディネーターによる学習支援（橋渡し、循環、情報提供、コーチングなど）				
第9回	社会教育調査とデータの活用				
第10回	学習成果を発表する場づくり				
第11回	子ども読書活動推進計画				
第12回	芸術文化振興に関する計画				
第13回	スポーツ振興に関する計画				
第14回	家庭の教育力向上の支援、親学力向上推進計画				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
【実務経験】					
臨床心理カウンセラー10年					

年度	区分				分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目				社会教育士系科目
講義名	[D_mse3] [07] 社会教育経営論				
区分	後期（15回）		単位	選択（2）	形式 講義
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていく方法論や実際の具体的な事例について解説します。授業全体が、SDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」と関連しています。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
多様な主体と連携・協働を図りながら、生涯学習の成果を地域課題解決やまちづくりにつなげていくための知識・技能を修得し、発表します。コンピテンシー：地域理解、構想力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
毎回のテーマについての参考資料やプリントなどを配布して授業を進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回2時間の事前・事後学修を行うことを望みます。その方法については授業中に説明します。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業中の小テストや課題など（60%）、期末のプレゼンテーション（40%）により総合的に評価します。定量的な評価方法ではなく、定性的な評価方法を採用します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	まちづくり・地域活性化策としての社会教育：SDGs11の目標「住み続けられるまちづくりを」と関連して				
第2回	社会教育と住民参加				
第3回	社会教育施設と専門職員・コーディネーターが果たす役割				
第4回	地域フィールドワークによる学習課題の抽出				
第5回	学習成果の公開と評価				
第6回	ヨコのネットワークとタテのネットワーク				
第7回	青少年の居場所づくりと青少年リーダーの育成				
第8回	障害者とともに学ぶ仕組み				
第9回	事例の検討：静岡県富士宮市、長野県飯田市				
第10回	事例の検討：徳島県上勝町、長野県下條村				
第11回	事例の検討：滋賀県長浜市、石川県輪島市				
第12回	事例の検討：長野県飯山市、京都府美山町				
第13回	事例の検討：新潟県村上市、大分県豊後高田市				
第14回	プレゼンテーション				
第15回	総括 振り返りとシェアリング				
【教科書・参考書】					
講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に前回の講義ノートや資料に必ず目を通しておきましょう。受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpをお願いします。					
【実務経験】					
臨床心理カウンセラー10年					

年度	区分	分野
令和6年度	文学・芸術専攻 専門科目	社会教育士系科目

講義名	[E_mse4] [09] 社会教育課題研究
-----	------------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	望月 厚志	モチヅキ アツシ	mochizuki atsushi [amochi(a)]
------	-------	----------	-------------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

社会教育主事（社会教育士）としての職務を遂行するに必要な資質及び能力の総合的かつ実践的な定着を図ることをねらいとします。上田紀行著『生きる意味』の講読と内容理解を通して人間としての「生き方」を再考し、地域住民の「人間形成」（パーソナリティ形成）での課題や地域社会形成の課題について、様々な観点から考えます。また、仏教（お寺）と社会教育との関連性、特に、仏教（お寺）によるコミュニティ形成の課題と方法について考察します。それにより、地域住民の「学習支援の在り方」や「社会的包摂」を探り、「社会教育実践力の基礎」を身に着けます。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)現代社会における「人間形成」（パーソナリティ形成）の課題や問題点について理解できたか。(2)「内的成長」の意味や方法を理解できたか。(3)新たなコミュニティ形成と「社会的包摂」の課題と方法を理解できたか。

【授業方法（フィードバックの内容）】

テキストの読解と内容紹介を中心として、受講者によるプレゼンテーション・演習形式で授業を進めます。（指定テキストは、教授者が用意し、授業期間中、受講者に貸与いたします）必要に応じて、映像資料を提示し理解を深めます。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うことを望みます。テキストをよく読んで、その内容把握に努力してください。

【成績評価（方法・基準）】

「到達目標」を基準とし、授業への参加・取組み姿勢、発表時のレポート（50%）、最終課題レポート（50%）に基づき総合的に成績評価・判断します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーションー授業とテキストの概要説明 上田紀行著『生きる意味』の「はじめに」講読
第2回	「苦悩の正体」1 - (テキスト第1章「生きる意味の病」)
第3回	同上2 : (テキスト第2章「かげいのなさ」の喪失)
第4回	数値化と効率化の果てに1 : (テキスト第3章グローバリズムと私たちの「喪失」)
第5回	同上2 : (テキスト第4章「数値信仰」から「人生の質へ」)
第6回	「生きる意味」を創る社会へ1 : (テキスト第5章「苦悩」がきりひらく「内的成長」、1. 意味の創造者としての「私」)
第7回	同上2 : (テキスト第5章「苦悩」がきりひらく「内的成長」、2. 「内的成長」の条件)
第8回	同上3 : (テキスト第6章「内的成長」社会へ、1. 苦悩を支え合うコミュニティ、2. 新しいコミュニティの在り方)
第9回	同上4 : (テキスト第6章「内的成長」社会へ、2. 新しいコミュニティの在り方)
第10回	同上5 : (テキスト第6章「内的成長」社会へ、3. 宗教者たちの挑戦、
第11回	同上6 : (テキスト第6章「内的成長」社会へ、4. 「内的成長」をもたらす社会へ)
第12回	同上7 : (テキスト第7章「かけがいのない「私」たち、1. 我がまま>と<ワガママ
第13回	同上8 : (テキスト第7章「かけがいのない「私」たち、2. 「生きる意味」への第一歩>
第14回	『がんばれ仏教!』から仏教（お寺）による新しいコミュニティ創造と「社会的包摂」
第15回	授業のまとめと今後の課題：『生きる意味』から「社会教育」の課題へ

【教科書・参考書】

テキスト：『生きる意味』上田紀行（岩波新書）2005年。参考書：『かけがいのない人間』上田紀行（講談社現代新書）2008年、『がんばれ仏教!』上田紀行（NHKブックス）2004年、『菊と刀』ルース・ベネディクト著／越智敏之・越智道雄訳（平凡社）2013年、『レクサスとオリーブの木』トーマス・フリードマン著／東江一紀・服部清美訳（草思社）2000年、『がんばらない』鎌田實（集英社）2010年、『ローカル・フューチャー “しあわせの経済” の時代が来た』ヘレナ・ノーパーク・ホッジ著／辻信一訳（ゆっくりり堂）2017年、『増補改訂版 懐かしい未来：ラダックから学ぶ』ヘレナ・ノーパーク・ホッジ著／鎌田陽司訳（ヤマケイ文庫）2021年。

【学生へのメッセージ】

積極的な授業参加を望みます。

【オフィスアワー】

ご質問や補充説明など、毎週の授業の前後に授業実施教室にて受け付けます。

【実務経験】

社会教育委員10年、公民館運営審議会委員 4 年、生涯学習推進懇談会委員 2 年の経験を活かして今後の社会教育実践の課題について指導をします。

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[1_mwt1] [03] ボランティア論				
区分	前期 (15回)	単位	必修 (2) 福祉学専攻		形式 講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	中野 宏子		ナカノ ヒロコ		nakano hiroko [hnakano(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
近年、被災地などでボランティア活動が注目され、ボランティアの活動領域も年々広がってきています。そもそもボランティアとは何なのか。私たちはなぜ何のためにボランティア活動をするのか。ボランティア活動の基礎となるボランティアの考え方を「自発性」「無償性」「公共性」の視点から概説します。これら3点を理解することはSDGs3の目標「すべての人々に健康と福祉を」SDGs17の目標「パートナーシップで目標を達成しよう」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
ボランティアの基礎知識を体系的に修得するとともに、ボランティア活動を行う意義を自ら考察する力をつけることを目標とします。 コンピテンシー：地域理解、情報収集力、情報分析力、批判的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ボランティアの本質の検討を通して、私たちの生活とボランティア活動を取り巻く諸問題について追究します。具体的には、ボランティア活動に関する問題について正確に理解するように講義すると同時に、受講生自身が自分の生活に引き付けて思考できるようディスカッションを行います。また、実際にボランティア実践をしている方達との交流を通して現実のボランティア活動について深く理解できるような授業を行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後学修（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。					
【成績評価（方法・基準）】					
プレゼンテーション（20%）、学力確認レポート（80%）によって評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業についてオリエンテーション				
第2回	ボランティアとは				
第3回	ボランティア活動の沿革（海外）				
第4回	ボランティア活動の沿革（日本）				
第5回	ボランティア活動の内容				
第6回	社会福祉機関が行うボランティア活動				
第7回	企業が行うボランティア活動				
第8回	学校が行うボランティア活動				
第9回	中間プレゼンテーション				
第10回	ボランティア活動の実際 1				
第11回	ボランティア活動の実際 2				
第12回	地域で必要なボランティア活動 1				
第13回	地域で必要なボランティア活動 2				
第14回	最終プレゼンテーション				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
『ボランティア論』川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2006年、『ボランティアってなんだっけ？』猪瀬浩平（岩波書店）2020年、『ボランティアも一つの情報社会』金子郁容（岩波書店）1992年。					
【学生へのメッセージ】					
座学だけではなく、実際にボランティア活動を行い理解を深めていく科目になります。授業以外でボランティア活動に参加し、授業で学んだ知識を活かすように望みます。					
【オフィスアワー】					
水曜日・金曜日（10:00～12:00）大学事務室を通じて予約してください。					
【実務経験】					
山梨県中央市社会福祉協議会 7年。地域福祉全般の業務、ボランティアセンター長の経験を活かした授業にしたいと考えます。					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[2_mwt4] [61] 地域福祉演習				
区分	後期（15回）		単位	必修（1）福祉学専攻	形式 演習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	叶寧		ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
<p>本科目では講義と演習を通じて、「地域福祉と包括的支援体制」に関する内容を復習し、次の5点の理解を深める。1．地域福祉の基本的考え方、2．地域福祉の主体と対象、3．地域福祉に係る行政組織及び民間組織の役割と実際、4．地域福祉に係る専門職や地域住民の役割と実際、5．地域福祉の推進方法。また、地域社会と福祉の関係を、共同体と個人の視点から捉え、これからの地域福祉の抱える問題を検討していく。その上で、現在想定出来る地域福祉の課題を取り上げ、演習を通して実際の模擬活動を行い、課題解決のプロセスを体験し、その方法を修得する。加えて、地域課題と国連が掲げるSDGsとの関連についても考察し、理解を深める。さらに、「地域福祉実践」の科目と関連付けして、講義・演習を進める。</p>					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
<p>1．地域福祉の考え方、展開、動向について理解し、説明することができる。2．地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を説明することができる。3．地域福祉を推進するためには、ボランティア、福祉教育、コミュニティソーシャルワーク等の実践が必要である旨を説明することができる。4．複雑化・多様化した福祉ニーズを解決するために地域住民や関係機関が連携することの意義について説明することができる。5．地域生活課題の変化と現状を踏まえ、受講生の居住地における地域福祉実践に関心を持つようになる。また、福祉現場で求められている「考える力」「言語化する力」「文章化する力」「協働する力」を身につける。事例を通して地域理解が深まり、地域に内在する情報を収集・分析し、問題点を再構成して顕在化させ、その課題を探求し、解決策を策定し、福祉現場にて実践し、解決への道筋を目指す。総じて福祉現場で必要な能力を身につける。さらに、授業を通して「知識活用能力（情報リテラシー）」「表現力」「課題探求力」を修得することを目指す。</p>					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
<p>市町村の地域福祉計画、地域福祉活動計画等の行政資料等を一緒に調べ、行っている地域活動事業の内容と現状を把握し、理解する。学生自身が実際の地域生活者として考える場合に、どのような地域福祉活動等に参加したいのか等について議論およびロールプレイを行い、必要に応じて施設見学と実際のボランティア活動参加（オレンジカフェ）も企画する。また、見学等に関してはその施設の概略を事前に調べる必要がある。必要に応じてプロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。適宜、レジュメを配布する。</p>					
【授業外学修の方法（時間数）】					
<p>事前学習（2時間以上）：授業の前に、テキストの関係する箇所を読み、内容を理解しておくこと。また、その際に出てきた専門用語を『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）等で調べておくこと。事後学習（2時間以上）：授業の要点を整理し、まとめておくこと。授業で取り上げる事項は、みなさんの日常生活に関連する内容や、他の科目で学んでいる内容であることが少なくない。みなさんの生活や地域に関心を持つと共に、他の科目で学んだ内容と結び付けて理解を深めよう。また、授業中に理解できない内容があった際にはテキストや参考文献等を活用して調べ、それでもわからない場合はリアクションペーパー等に記入すること。</p>					
【成績評価（方法・基準）】					
<p>受講状況（80%、リアクションペーパーをはじめとする提出物の記述内容により授業の理解度を評価すると共に、グループディスカッションや発表、活動などの参加度等も含め、毎回の受講状況を総合的に評価する）、期末課題（20%、提出された内容により、課題理解度、表現の適正さ、考察の論理性等を総合的に評価する）</p>					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	授業の進め方と成績評価の考え方の説明。授業に取り入れる活動に関する説明と、留意点の提示。				
第2回	地域福祉の考え方の復習、再確認				
第3回	地域福祉の実際（県、市、町の活動と政策）理解				
第4回	地域を基盤とする概念（生活困窮者自立支援法）				
第5回	地域福祉の事例検討1（ロールプレイ等を行う）				
第6回	地域福祉の事例検討2（ロールプレイ等を行う）				
第7回	地域福祉の事例検討で気づいた課題の発表				
第8回	地域の複合型困難事例の検討1				
第9回	地域の複合型困難事例の検討2				
第10回	包括的支援体制の構築と重層的支援体制整備事業				
第11回	地域ケア会議				
第12回	地域福祉の担い手と活動の内容				
第13回	コミュニティソーシャルワークについて				
第14回	地域資源の現状と開発				

第15回	総括
【教科書・参考書】	
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規出版）2021年。参考書：『事例と演習を通して学ぶソーシャルワーク』川村隆彦著（中央法規出版）2003年。岩間伸之、原田正樹『地域福祉援助をつかむ』有斐閣、2012年。	
【学生へのメッセージ】	
本科目では、社会福祉の各分野に共通する諸制度や事業等の基本的な考え方について学びます。みなさんが学ぶ社会福祉専門科目の中には、児童福祉論、老人福祉論、障害者福祉論をはじめとする対象・分野別の科目があります。一方、本科目は、それらの科目を（分野ごとではなく）横断的に捉える点に特徴があります。本科目の受講を通じ、各科目に共通する基本的事項について学びを深めた上で、他の科目の内容を肉付けていくとよいでしょう。地域福祉を推進する主体は、地域住民です。みなさんも、それぞれの居住地の地域の地域住民です。つまり、地域福祉を推進する主体であるということです。本科目の受講を通じて地域に対する関心を高め、地域づくりの担い手として（専門職として/地域住民として）活躍されるよう期待しています。	
【オフィスアワー】	
授業担当時の前後、火・水・金曜日の授業・会議以外の時間帯	
【実務経験】	
市町村の委託事業を受けている社会福祉協議会にて生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。	

年度	区分	分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[3_mwt4] [63] 地域福祉実践
-----	----------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（1）福祉学専攻	形式	演習
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	--	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	叶寧	ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]
------	----	-------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

本科目では講義と演習を通じて、「地域福祉と包括的支援体制」に関する内容を復習し、次の5点の理解を深める。1. 地域福祉の基本的考え方、2. 地域福祉の主体と対象、3. 地域福祉に係る行政組織及び民間組織の役割と実際、4. 地域福祉に係る専門職や地域住民の役割と実際、5. 地域福祉の推進方法。

また、実際の地域での課題を取り上げ、地域における課題を検討、議論を行う。地域における福祉活動を通して、現状の問題点を抽出して、その具体的な解決方法を、周囲と連携、調整して解決してゆく。PDCAサイクルの考え方と実際を学ぶ。さらに、「地域福祉演習」の科目と関連付けして、講義・演習を進める。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

1. 地域福祉の考え方、展開、動向について理解し、説明することができる。2. 地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を説明することができる。3. 地域福祉を推進するためには、ボランティア、福祉教育、コミュニティソーシャルワーク等の実践が必要である旨を説明することができる。4. 複雑化・多様化した福祉ニーズを解決するために地域住民や関係機関が連携することの意義について説明することができる。5. 地域生活課題の変化と現状を踏まえ、受講生の居住地における地域福祉実践に関心を持つようになる。また、福祉現場で求められている「考える力」「言語化する力」「文章化する力」「協働する力」を身につける。事例を通して地域理解が深まり、地域に内在する情報を収集・分析し、問題点を再構成して顕在化させ、その課題を探求し、解決策を策定し、福祉現場にて実践し、解決への道筋を目指す。総じて福祉現場で必要な能力を身につける。

【授業方法（フィードバックの内容）】

市町村の地域福祉計画、地域福祉活動計画等の行政資料等を一緒に調べ、行っている地域活動事業の内容と現状を把握し、理解する。学生自身が実際の地域生活者として考える場合に、どのような地域福祉活動等に参加したいのか等について議論、グループディスカッションを行う。実際のボランティア活動参加（オレンジカフェ）も企画し、学生が実際に主催し運営する。必要に応じてプロジェクターや、インターネット、視聴覚教材を用いたタブレット端末を使用し、双方向授業を行う。適宜、レジュメを配布する。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学習（2時間以上）：授業の前に、テキストの関係する箇所を読み、内容を理解しておくこと。また、その際に出てきた専門用語を『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）等で調べておくこと。事後学習（2時間以上）：授業の要点を整理し、まとめておくこと。授業で取り上げる事項は、みなさんの日常生活に関連する内容や、他の科目で学んでいる内容であることが少なくない。みなさんの生活や地域に関心を持つと共に、他の科目で学んだ内容と結び付けて理解を深めよう。また、授業中に理解できない内容があった際にはテキストや参考文献等を活用して調べ、それでもわからない場合はリアクションペーパー等に記入すること。

【成績評価（方法・基準）】

受講状況（80%、リアクションペーパーをはじめとする提出物の記述内容により授業の理解度を評価すると共に、グループディスカッションや発表などの参加度等も含め、毎回の受講状況を総合的に評価する）、期末課題（20%、提出された内容により、課題理解度、表現の適正さ、考察の論理性等を総合的に評価する）

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション。授業の進め方と成績評価の方法の説明。
第2回	なぜ地域で支え合うことが大切か
第3回	社会的孤立に関する事例検討（後半部分はオレンジカフェの開催準備のための認知症に関する知識と理解の内容学習）
第4回	住民主体の地域福祉活動の実際（後半部分はオレンジカフェの開催準備）
第5回	民生委員・児童委員等の地域活動者の現状と課題（後半部分はオレンジカフェの開催準備）
第6回	社会福祉協議会の現状と課題。福祉教育活動の現状と課題（後半部分はオレンジカフェの開催準備）
第7回	地域アセスメントと地域支援 福祉実践活動（地域理解による情報の収集と分析）（後半部分はオレンジカフェの開催準備）
第8回	オレンジカフェの開催
第9回	地域福祉計画と地域福祉活動計画 福祉実践活動（収集・分析された事例を検討1）（後半部分はオレンジカフェの反省等）
第10回	地域福祉計画と地域福祉活動計画
第11回	PDCAサイクルの考え方
第12回	包括的支援体制の構築と重層的支援体制整備事業1
第13回	包括的支援体制の構築と重層的支援体制整備事業2
第14回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働

第15回	全体の総括
【教科書・参考書】	
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規出版）2021年。	
【学生へのメッセージ】	
<p>本科目では、社会福祉の各分野に共通する諸制度や事業等の基本的な考え方について学びます。みなさんが学ぶ社会福祉専門科目の中には、児童福祉論、老人福祉論、障害者福祉論をはじめとする対象・分野別の科目があります。一方、本科目は、それらの科目を（分野ごとではなく）横断的に捉える点に特徴があります。本科目の受講を通じ、各科目に共通する基本的事項について学びを深めた上で、他の科目の内容を肉付けていくとよいでしょう。地域福祉を推進する主体は、地域住民です。みなさんも、それぞれの居住地の地域の地域住民です。つまり、地域福祉を推進する主体であるということです。本科目の受講を通じて地域に対する関心を高め、地域づくりの担い手として（専門職として/地域住民として）活躍されるよう期待しています。</p>	
【オフィスアワー】	
授業担当時の前後、火・水・金曜日の授業・会議以外の時間帯	
【実務経験】	
市町村の委託事業を受けている社会福祉協議会にて生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。	

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[4_mwt4] [19] 青少年問題と社会教育				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	
授業年次	1年	2年	3年	4年	
担当教員	栗田 真司		クリタ シンジ		kurita shinji [kurita(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
青少年問題の背景にある青少年を取り巻く家庭、学校、地域社会などの環境の変化や、青少年自身の問題、大人や社会の価値観が引き起こす問題などの特性と心理学的支援方法、社会教育の方法について解説します。それを踏まえて、各自が1つの問題を取り上げ、その問題を解決するための具体的な援助方法について考察し、自分の考えを発表します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
青少年を取り巻く諸問題について理解し、問題の解決につながる青少年の社会教育活動を計画し、実践するための基礎的な能力を身に付けることが目標です。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、課題設定力、改善力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
青少年問題の背景にある青少年を取り巻く家庭、学校、地域社会などの環境の変化や、青少年自身の問題、大人や社会の価値観が引き起こす問題などについて、その問題を解決するための具体的な援助方法について考察し、自分の考えを発表します。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回2時間の事前・事後学修を行うことを望みます。その方法については授業中に説明します。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業時提出物（80%、振り返りカード、小レポート）、プレゼンテーション（20%）で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	対話型討論：「青少年とは誰を指すのか」「青少年問題とはどのようなものか」				
第2回	青少年問題1：不登校、いじめ、虐待、引きこもり				
第3回	青少年問題2：発達障害を含む障害、非行・犯罪、貧困、ニート				
第4回	中央青少年問題協議会（1949年）以降の社会教育の経緯				
第5回	地域教育力：学校教育・地域社会教育・家庭教育の協働				
第6回	少子化・超高齢社会がもたらす青少年への影響				
第7回	同年齢交流と異年齢交流の意義：競争意識と愛他意識				
第8回	自然体験活動、生活体験活動の特性と課題				
第9回	青少年問題への心理学的支援1：臨床心理学的視点による子ども理解				
第10回	青少年問題への心理学的支援2：認知行動療法の実践				
第11回	SNSなどのソーシャルメディアとメディアリテラシー：多くの友人よりもたった一人の親友				
第12回	人生における宗教や芸術のもつ意義と日本における問題点				
第13回	家庭でも学校でもない青少年の居場所づくり：新・放課後子ども総合プラン				
第14回	新しい社会教育施設：児童青少年センター「ゆう杉並」の挑戦				
第15回	プレゼンテーションと総括				
【教科書・参考書】					
文部科学省『高等学校学習指導要領解説公民編』2018年。栗田真司『子どもの心を育てるコミュニケーション』学術研究出版、2017年。その他、講義の中で適宜紹介します。					
【学生へのメッセージ】					
受講前に各回のテーマについて自分の考えをまとめておきましょう。板書を写すだけのノートにならないノートの取り方についても学びます。受講後は、ノートの整理を行い、講義内容の理解を深め次回に備えましょう。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。メールでの連絡は、pico(a)olive.ocn.ne.jpにお願いします。					
【実務経験】					
臨床心理カウンセラー10年					

年度	区分	分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[5_mwt3] [21] 家庭教育
-----	--------------------

区分	前期（15回）	単位	選択（2）	形式	講義
----	---------	----	-------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	田淵 和子	タブチ カズコ	tabuchi kazuko [tabuchi(a)]
------	-------	---------	-----------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

家庭で子どもを教育する際の基礎知識の修得を目指す。また、学生自身が子どもや保護者の支援方法の視点を培うことができるよう具体的に説明をする。現代の家庭教育について子どもや家庭教育をめぐる諸問題について各回で取り上げ受講生の理解を深める。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

現代の家庭教育における諸問題について考察し、子どもの発達過程における家庭教育の役割やその方法について理解することを目的とする。授業を通じて、受講生は、家庭教育の現状と課題について理解するとともに、家庭で保護者がすぐにチャレンジできる知識や技術を修得できる。 コンピテンシー：健康力、地域理解、実行力

【授業方法（フィードバックの内容）】

毎回テーマにそって講義を進める。内容によって演習、ディスカッションも行う。授業の中では家庭で子どもを教育する場合の知識や技術について具体的に紹介する。受講生同士アイデアを出し合い、できる限り多くの知識・技術を修得できるようにする。

【授業外学修の方法（時間数）】

毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。事前に、予め次回テーマを伝えるので、それに関する情報収集等の予習を行うこと。

【成績評価（方法・基準）】

学力確認テスト（80%）、授業への取り組み（20%）で評価する。授業への取り組みは、毎回のリアクションペーパーなどにより評価する。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	シラバスの確認、自己紹介、家庭教育とは？：現代の家庭教育における課題
第2回	子どもの発達と家庭教育 1
第3回	子どもの発達と家庭教育 2
第4回	遊ぶこととしつけ
第5回	しつけをバッドサイクルからグッドサイクルへ、家庭教育のポイント
第6回	家庭教育がうまくいかなくなるときの、無条件の子育ての諸原則
第7回	子どもの発達を促す日常生活の工夫
第8回	子どもがかかえる要因別生活スキルの身につけ方 1
第9回	子どもがかかえる要因別生活スキルの身につけ方 2
第10回	子どもがかかえる要因別ソーシャルスキルの身につけ方 1
第11回	子どもがかかえる要因別ソーシャルスキルの身につけ方 2
第12回	子どもがかかえる要因別運動スキルの身につけ方
第13回	子どもがかかえる要因別認知、学習スキルの身につけ方
第14回	育てにくい子どもの家族支援
第15回	まとめ：授業全体の振り返り

【教科書・参考書】

教科書：毎回プリントを配布する。参考書：『家庭教育論』住田正樹著（放送大学教育振興会）2013年、『むずかしい子を育てるペアレント・トレーニング』野口啓示著（明石書店）2013年、『現代の家庭教育』田中理恵編著（放送大学教育振興会）2018年、『イラスト版 発達障害児の楽しくできる感覚統合：感覚とからだの発達をうながす生活の工夫と遊び』太田篤志著（合同出版）2019年、『発達に気になる子への生活動作の教え方』鴨下賢一編著（中央法規）2019年、『発達に気になる子へのスモールステップではじめる生活動作の教え方』鴨下賢一編著（中央法規）2020年、『発達に気になる子へのソーシャルスキルの教え方』鴨下賢一編著（中央法規）2020年、『育てにくい子の家族支援、親が不安・自責・孤立しないために支援者ができること』高山恵子著（合同出版）、『無条件の愛情 自主性を育む家庭教育』アルフィー・コーン著、友野清文・飯牟禮光里訳（丸善プラネット）2020年。

【学生へのメッセージ】

家庭での教育は、保育所、幼稚園、学校以外を除いた場合、子どもにとってもっとも重要な経験です。子育ての専門家として関わる場合には、子育て支援について知識と技術を必要とします。

【オフィスアワー】

授業の前後に教室にて対応します。質問はメール（tabuchi(a)min.ac.jp）でも可。

【実務経験】

なし

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[6_mwt3] [25]【指定科目】障害者福祉論				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	高木 寛之		タカギ ヒロユキ		takagi hiroyuki [takagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
障害者の生活実態とこれを取巻く社会情勢について理解し、障害者の自立支援のための法律と支援の方策、専門職の役割等について考える。講義を中心とし、サービス施設訪問や障害者自身の声を聞く等の機会を設ける。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
共生社会を目指すため、障害者自立支援法における専門職の役割と実際について適確な知識と判断力を持つこと。コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、計画力、実行力、評価力、改善力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストによって進める。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、事前に配布する資料を予習すること。事後学修（2時間以上）は、授業で提示したポイントや考え方をノートに整理すること。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（20%）、中間レポート（30%）、小テスト（50%）の割合で総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	障害者の生活実態：障害者が置かれている状況を中心に				
第2回	「障害」とは、「障害者」とは：改正障害者基本法、法律上の定義、障害者福祉の歩み				
第3回	障害者福祉の思想と理念1：障害の概念 障害者観、人権尊重 ～障害者の権利に関する条約、障害者虐待防止法～				
第4回	障害者福祉の思想と理念2：ノーマライゼーション、インクルージョン、自立生活の思想				
第5回	障害者福祉の思想と理念3：リハビリテーション、エンパワメント、QOL				
第6回	DVDを鑑賞し課題をまとめる：障害者運動草創期を戦った人々				
第7回	障害者自立支援制度1：障害者自立支援法・障害者総合支援法の創設の背景及び目的				
第8回	障害者自立支援制度2：障害者総合支援法の仕組みと基礎的理解				
第9回	障害者総合支援法における組織及び団体、相談支援事業所の役割と実際				
第10回	障害者総合支援法における専門職の役割と実際、他職種連携、ネットワーキング				
第11回	障害者が利用する各種制度：保健・医療、教育、雇用・労働				
第12回	障害者を支援する生活基盤：経済生活、生活環境				
第13回	障害者福祉の関連分野：スポーツ、芸術、ボランティア				
第14回	当事者参加と諸活動				
第15回	まとめ：障害者福祉の課題と展望				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 8 障害者福祉』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
日頃から図書館を活用し、福祉に関係するニュース等をスクラップするなど、自分なりの勉強方法を見つけて欲しい。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に非常勤講師控室（大学事務室隣）か教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[7_mwt3] [47]【指定科目】児童・家庭福祉				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	小田切 則雄		オtagiri ノリオ		otagiri norio [otagiri(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
(1)子ども・児童福祉の必要性についての基本的視点について学ぶ。(2)児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（DV）の実態を含む）について理解する。(3)児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。(4)児童が健全に成長・発達する権利を有していることを理解する。(5)相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度及びサービス体系について理解する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
子どもを大切に社会・地域環境とは何か、そのために家庭や地域・社会としてどのようなサポートをすればよいか、また児童福祉の歴史や児童福祉法及びその他の関連法規について学び、今後必要な施策などについて理解させる。 コンピテンシー：多様な学問の考え方、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書に沿って進めます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
受講前（2時間以上）にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後（2時間以上）はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（25%）、学力確認テスト（75%）などを総合的に評価する。受講前にシラバスに示された教科書の該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	はじめに：児童福祉とは 子ども（児童）家庭福祉の理念				
第2回	児童福祉の理念。児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（DV）、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む）と実際				
第3回	児童・家庭福祉制度の発展過程・日本及び欧米における児童福祉の歩み				
第4回	児童の定義と権利（子どもの権利）				
第5回	児童福祉法（法形系と体制）				
第6回	児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）・配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV法）				
第7回	母子及び寡婦福祉法・母子保健法・児童手当法・現代社会と児童家庭福祉問題				
第8回	児童扶養手当法・特別児童扶養手当等の支給に関する法律				
第9回	次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法・売春防止法				
第10回	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際				
第11回	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際及び、児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワーキングと実際				
第12回	児童福祉の財政と児童相談所の役割と実際				
第13回	福祉・保健・医療に係わる施策：子どもの健全育成				
第14回	福祉・保健・医療に係わる施策：子ども家庭福祉				
第15回	子ども（児童）家庭福祉動向：講義のまとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
授業はビデオ等を用いてできるだけ具体的に進めるが、学生も積極的に参加し意欲的な学修姿勢を期待する。					
【オフィスアワー】					
質問などは講義時間の前後で受け付ける。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[8_mwt2] [31]【指定科目】社会保障論				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	高木 寛之		タカギ ヒロユキ	takagi hiroyuki [takagi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題を捉える。社会保障を学ぶことは「私たちの日常生活にも役に立つ」ことであるし、社会全体の生きづらさを明らかにし国が保障すべき生活の水準を考える貴重な機会でもある。イギリスの社会保障の歴史から貧困を克服するために私たち国民が作り上げてきた社会保障制度をよく理解し、現代社会における問題と課題を自分たちの生活に照らして考えられるようにする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
社会保障制度、社会保障の概念、理論と政策の歴史を理解し、社会保障の財政、機能、問題点を学ぶ。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書、映像資料の内容を参照しながら講義形式で進める。コメントペーパーを書いてもらい理解度を確認しながら進めていく。学力確認テストでは講義やレジュメの内容に基づきその理解度を確認する。そして、援助方法について理解できるよう、小グループによる事例検討などを交えた授業にしていく。社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、教科書をあらかじめ読み、レポートを作成すること。質問事項をまとめておくこと。事後学修（2時間以上）は、教科書を復習し、分からないところなどを明確にしておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：私のライフステージと社会保障				
第2回	現代社会と社会保障：人口動態の変化				
第3回	現代社会と社会保障：経済環境の変化				
第4回	現代社会と社会保障：労働環境の変化				
第5回	社会保障の概念や対象およびその理念：社会保障の概念と範囲				
第6回	社会保障の概念や対象およびその理念：社会保障の役割と意義				
第7回	社会保障の概念や対象およびその理念：社会保障の理念				
第8回	社会保障の概念や対象およびその理念：社会保障の対象				
第9回	社会保障の概念や対象およびその理念：社会保障制度の展開				
第10回	社会保障の現状と課題				
第11回	社会保障の財政：社会保障の財政				
第12回	社会保障の財政：社会保障給付費・内訳・動向				
第13回	社会保障の財政：国民負担率				
第14回	社会保障の財政：社会保障と経済				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座7 社会保障』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
社会保障制度の理解は困難を極めますが現代社会を生きる上では必ず必要になる知識です。苦勞しながらも身につければ、必ず役に立ちます。社会福祉士国家試験科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分		分野		
令和6年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[9_mwt2] [33]【指定科目】社会保障論				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	高木 寛之		タカギ ヒロユキ	takagi hiroyuki [takagi(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会保障とは何か、社会福祉における医療制度の考え方と制度への理解、制度を活用する専門職への専門性、意義と実際を概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
社会保険制度の体系として、医療保険制度、介護保険制度、年金制度、労災保険制度と雇用保険制度、社会手当制度、社会福祉制度を中心に学ぶ。また、現在ニュースでも話題になる時事的なトピックを取り上げることにより、社会福祉を考える上での社会保険制度の視点を身につけるとともに、日常生活と社会保険制度の結びつきについても理解を深められるようにする。（知識・理解）医療保険制度を中心とした具体的な社会保険制度について理解し、説明できる。社会保険制度にまつわる最新の動向のうちいくつかについて理解し、説明できる。（思考・技能・実践）医療保険制度についての理論を理解したうえで、現代の同制度が抱える問題点について自分の見解を抱くための基礎を身につける。最新の社会保険制度を巡るトピックについてその概要を理解したうえで、自身の見解を抱く基礎を身につける。コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書、映像資料の内容を参照しながら講義形式を進める。毎回コメントペーパーを書いてもらい理解度を確認しながら進めていく。学力確認テストでは講義やレジュメの内容に基づきその理解度を確認する。そして、援助方法について理解できるよう、小グループによる事例検討などを交えた授業にしていく。社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、教科書をあらかじめ読み、レポートを作成すること。質問事項をまとめておくこと。事後学修（2時間以上）は、教科書を復習し、分からないところなどを明確にしておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：我々のライフステージと社会保障				
第2回	社会保険・社会扶助・民間保険の関係：保険と扶助の考え方				
第3回	社会保険・社会扶助・民間保険の関係：社会保険と社会扶助の考え方				
第4回	社会保険・社会扶助・民間保険の関係：社会保険と民間保険の現状				
第5回	社会保険制度の体系：医療保険制度の概要				
第6回	社会保険制度の体系：介護保険制度の概要				
第7回	社会保険制度の体系：年金制度の概要				
第8回	社会保険制度の体系：労災保険制度と雇用保険制度の概要				
第9回	社会保険制度の体系：生活保護制度の概要				
第10回	社会保険制度の体系：社会手当制度の概要				
第11回	社会保険制度の体系：社会福祉制度の概要				
第12回	諸外国における社会保障制度：諸外国の社会保障				
第13回	諸外国における社会保障制度：社会保障の国際比較				
第14回	諸外国における社会保障制度：社会保障の国際化				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座7 社会保障』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
社会保障制度の理解は困難を極めますが現代社会を生きる上では必ず必要になる知識です。苦勞しながらも身につければ、必ず役に立ちます。社会福祉士国家試験科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					

【実務経験】

なし

年度	区分			分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目
講義名	[A_mwt4] [57]【指定科目】医学概論《遠隔授業》			
区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式 講義
授業年次	--	--	3年	--
担当教員	村瀬 正光		ムラセ マサミツ	murase masamitsu [murase(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】				
(1)介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能及び発達段階とその課題について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。(2)介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する学修とする。(3)介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解する内容とする。(4)本講義は主に「人間の欲求」「自己概念」「こころとからだのしくみ」の基礎的知識について解説する。				
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】				
人間のこころとからだのしくみを理解し説明することができる。 コンピテンシー：健康力、情報収集力、情報分析力、論理的思考力				
【授業方法（フィードバックの内容）】				
授業の前半で、教科書を中心とした知識の修得。授業の後半で、過去の国家試験を中心とした問題を解説。この授業はハイフレックス形式の遠隔授業となります。対面授業に切り替わる際は、予め担当教員より受講生へメールにて連絡します				
【授業外学修の方法（時間数）】				
事前学修（2時間以上）は、予習を促すため、予習プリントを課す。事後学修（2時間以上）は、講義中に小テストを行うため、復習しておくこと。				
【成績評価（方法・基準）】				
学力確認テスト（50%）、講義中の小テスト（25%）、予習プリント（25%）で評価する。				
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】				
第1回	人間の欲求の基本的理解（基本的欲求） 対面授業			
第2回	人間の欲求の基本的理解（社会的欲求） 対面授業			
第3回	自己概念と尊厳（自己概念に影響する要因） 同時双方向形式			
第4回	自己概念と尊厳（自立への意欲と自己概念） 同時双方向形式			
第5回	自己概念と尊厳（自己実現といきがい） 同時双方向形式			
第6回	こころのしくみの基礎（こころのしくみに関する諸理論） 同時双方向形式			
第7回	こころのしくみの基礎（思考のしくみ） 同時双方向形式			
第8回	こころのしくみの基礎（学修・記憶・思考のしくみ） 同時双方向形式			
第9回	こころのしくみの基礎（感情のしくみ） 同時双方向形式			
第10回	こころのしくみの基礎（意欲・動機づけのしくみ） 同時双方向形式			
第11回	こころのしくみの基礎（適応のしくみ） 対面授業			
第12回	からだのしくみの基礎（生命の維持・恒常のしくみ：体温、呼吸、脈拍、血圧、その他） 対面授業			
第13回	からだのしくみの基礎（人体部位の名称） 対面授業			
第14回	からだのしくみの基礎（ボディメカニクス） 同時双方向形式			
第15回	からだのしくみの基礎（関節の可動域、その他） 同時双方向形式			
【教科書・参考書】				
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座1 医学概論』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『最新 介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ 第2版』介護福祉士養成講座編集委員会編（中央法規）2022年。				
【学生へのメッセージ】				
授業に積極的に参加することを望む。				
【オフィスアワー】				
随時、メール（murase(a)min.ac.jp）でアポイントメントを取ってください。				
【実務経験】				
なし				

年度	区分			分野	
令和6年度	福祉学専攻 専門科目			福祉理論系科目	
講義名	[B_mwt2] [27]【指定科目】社会福祉調査の基礎				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	國枝 俊弘		クニエダ トシヒロ	kunieda toshihiro [kunieda(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会調査は社会の実態を把握するために必須な手法であると同時に、世論調査など普段の生活においても身近なものです。社会福祉の視点で、社会調査の目的、歴史と社会的意義について概説します。既存の社会調査の活用方法、および基本的な社会調査の設計方法を指導します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
社会調査に関する基本的事項、社会調査の目的、歴史、方法論、各種調査方法とその長所と短所、調査倫理など知識と設計、分析の技術的な技能の修得を目標とします。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、情報構成力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
資料を用いての講義形式がベースに、可能な範囲で授業内で調査に関連するワーク、一般に公開されている社会調査データを探し解釈した結果の発表・ディスカッション等も行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。課題学修や講義中に作成したノートを見直しを行い、理解を深め不明点を明確にすること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80%）、レポート・課題（20%）により総合評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	社会調査とは：社会調査の目的				
第2回	社会調査における倫理と個人情報の取り扱い				
第3回	社会調査の種類				
第4回	量的調査の手順				
第5回	アンケート票の設計の技術				
第6回	量的データの処理と解釈				
第7回	統計法1：基礎的な統計処理				
第8回	統計法2：多変量解析				
第9回	調査設計実習				
第10回	質的調査の特徴と種類				
第11回	観察法と面接法				
第12回	社会福祉における質的データの取り扱い				
第13回	インタビュー演習				
第14回	社会調査の実施におけるIT技術の活用				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座5 社会福祉調査の基礎』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『現代日本人の意識構造 [第九版]』NHK放送文化研究所編集（NHK放送文化研究所）2020年、『2020年版 白書の白書』木本書店・編集部（木本書店）2020年。					
【学生へのメッセージ】					
様々な情報が発信される現代社会において調査リテラシーは、社会福祉の場面だけでなく日常生活でも求められる力です。社会福祉に関わらず身近な情報について考え、発信することを求めます。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
社会調査会社に所属し、社会調査の実務だけでなく、統計分析の企業への支援を行っています。					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[C_mwt2] [05]【指定科目】ソーシャルワークの基盤と専門職				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	中野 宏子		ナカノ ヒロコ		nakano hiroko [hnakano(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会福祉士や精神保健福祉士の役割と意義を理解し、相談援助の概念やその範囲、他の機関との連携などソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学修します。援助活動の基本的理念を理解し、スキルを修得することを目指します。このような福祉の理念を学修することは、SDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。(2)ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。(3)ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。相談援助に関する基本的な理論、実践モデルを理解し、専門職の基盤を作ることを目標とします。 コンピテンシー：情報分析力、情報構成力、計画力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について視聴覚教材やプリントを用いて学修し、実践の場において応用できるよう様々な課題を提示します。講義、個別指導講義、個別指導、グループワークなどを通してソーシャルワークの定義や枠組みへの理解とソーシャルワーク支援過程の中で活用される技術への理解を深めていきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ内容が実社会ではどのように具現化されているのかをまとめることです。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート（20%、第8回）、学力レポート（70%）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	社会福祉及び精神保健福祉の法的な位置づけ 1 社会福祉士法及び介護福祉士法（定義・義務・法制度の背景・法制度見直しの背景）				
第2回	社会福祉及び精神保健福祉の法的な位置づけ 2 精神保健福祉法（定義・義務・法制度の背景・法制度見直しの背景）				
第3回	社会福祉及び精神保健福祉の法的な位置づけ 3 社会福祉士の専門性				
第4回	ソーシャルワークの概念 ソーシャルワーク専門職のグローバル定義				
第5回	ソーシャルワークの基盤となる考え方 ソーシャルワークの原理1 社会正義・人権尊重				
第6回	ソーシャルワークの基盤となる考え方 ソーシャルワークの原理2 集団的責任・多様性の尊重				
第7回	ソーシャルワークの基盤となる考え方 ソーシャルワークの理念1 当事者主権・尊厳の保持・権利擁護				
第8回	ソーシャルワークの基盤となる考え方 ソーシャルワークの理念2 当事者主権 自立支援・ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン				
第9回	ソーシャルワークの形成過程 1 慈善組織委員会・セツルメント運動				
第10回	ソーシャルワークの形成過程 2 医学モデルから生活モデルへ・ソーシャルワークの統合化				
第11回	ソーシャルワークの倫理 1 専門職倫理の概念 1				
第12回	ソーシャルワークの倫理 2 ソーシャルワーカーの倫理綱領				
第13回	ソーシャルワークの倫理 3 社会福祉士・精神保健福祉士の倫理綱領				

第14回	ソーシャルワークの倫理 4 倫理的ジレンマ
第15回	まとめ
【教科書・参考書】	
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門] 』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『ソーシャルワークの基盤と専門職（新・MINERVA社会福祉士養成テキスト）』空閑浩人・白澤政和・和気純子編著（ミネルヴァ書房）2021年。	
【学生へのメッセージ】	
社会福祉援助活動における相談援助の本質を説明できるように、専門職と非専門職の違いはどういった点にあるのかを意識しながら学修してください。	
【オフィスアワー】	
水曜日と金曜日（10:30-12:00）大学事務室を通じて予約してください。	
【実務経験】	
山梨県中央市社会福祉協議会 7年。地域福祉全般の業務、相談業務等に携わっていた経験を活かした授業にしたいと考えます。	

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[D_mwt2] [07]【指定科目】ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	中野 宏子		ナカノ ヒロコ		nakano hiroko [hnakano(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会福祉士や精神保健福祉士の役割と意義を理解し、相談援助の概念やその範囲、他の機関との連携などソーシャルワーク実践を行うために必要な理念について学修します。援助活動の基本理念を理解し、スキルを修得することを目指します。このような福祉の理念を学修することはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。(2)ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。(3)ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。(4)総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。 コンピテンシー：傾聴力、情報分析力、情報構成力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について視聴覚教材やプリントを用いて学修し、実践の場において応用できるよう様々な課題を提示します。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ内容が実社会ではどのように具現化されているのかをまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート（20%、第8回）、学力レポート（70%）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 1				
第2回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 2 社会福祉士の領域（行政関係・福祉関係・医療関係）				
第3回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 3 社会福祉士の領域（教育関係・司法関係・独立事務所等・社会福祉士の職域拡大）				
第4回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 4 福祉行政等における専門職（福祉事務所の現業員・査察指導員等）				
第5回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 5 民間の施設・組織における専門職（施設長、生活相談員等）				
第6回	ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲 6 諸外国の動向（欧米諸国・その他諸外国における動向）				
第7回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 1 ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象（ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味と対象）				
第8回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 2 介入と連関性				
第9回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 3 支援の実際				
第10回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 1 ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容				
第11回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 2 フォーマル・インフォーマルな社会社会資源との協働体制				
第12回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 3 ソーシャルサポートネットワーク				
第13回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 4 ジェネラリストの視点による多職種連携				
第14回	総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容 5 機関・団体間の合意形成と相互関係				
第15回	まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職 [共通・社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『ソーシャルワークの基盤と専門職（新・MINERVA社会福祉士養成テキスト）』空閑浩人・白澤政和・和気純子編著（ミネルヴァ書房）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
社会福祉援助活動における相談援助の本質を説明できるように、専門職と非専門職の違いはどういった点にあるのかを意識しながら受講してください。					
【オフィスアワー】					
水曜日と金曜日10:30～12:00（大学事務室を通じて予約してください）					
【実務経験】					
山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉全般の業務、相談業務等に携わっていた経験を活かした授業にしたいと考えます。					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[E_mwt2] [09]【指定科目】ソーシャルワークの理論と方法				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	檜木 博之		ナラキ ヒロユキ		naraki hiroyuki [naraki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会福祉推進のための相談援助（ソーシャルワーク）の意義・形態・方法を明確にし、ソーシャルワーク実践のために必要な知識と方法論を学修することにより実践に必要な知識や技術を修得する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)人と環境との相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。(2)ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。(3)ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。(4)コミュニティワークの概念とその展開について理解する。(5)ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。 コンピテンシー：情報分析力、課題設定力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書を中心に講義形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、該当の教科書を事前に読み、課題を明確にしておく。事後学修（2時間以上）は、授業で行った内容を教科書で確認し、リアクションペーパーにまとめる。レポート課題を作成する。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（40%）、レポート（15%）、リアクションペーパーの内容（45%）の配分で評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ソーシャルワークとは何か システム理論（一般システム論・サイバネティクス）				
第2回	生態学理論				
第3回	バイオ・サイコ・ソーシャルモデル				
第4回	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ				
第5回	ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチ 1：医学モデル 生活モデル ストレングスモデル				
第6回	同上2：心理社会的・機能的・問題解決・課題中心・危機介入アプローチ				
第7回	同上3：行動変容・エンパワメント・ナラティブ・解決施行アプローチ				
第8回	ソーシャルワークの過程 ケースの発見：アウトリーチ スクリーニング				
第9回	同上2：インテーク：意義・目的・方法・留意点・契約				
第10回	同上3：アセスメント：意義・目的・方法・留意点				
第11回	同上4：プランニング：意義・目的・方法・留意点・支援方針・効果と限界の卵				
第12回	同上5：支援の実施：意義・目的・方法・留意点				
第13回	同上6：モニタリング：意義・目的・方法・留意点・効果測定				
第14回	同上7：支援の終結と事後評価：意義・目的・方法・留意点				
第15回	同上8：アフターケア / まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
社会福祉援助技術とは人と人との関係を良好にするための支援をねらいとするものでだれにも応用できるものであることを承知して受講されたい。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
社会福祉士、医療機関にて16年間、医療ソーシャルワーカーとして勤務					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[F_mwt2] [39]【指定科目】ソーシャルワークの理論と方法				
区分	後期（15回）		単位	必修（2）福祉学専攻	形式 講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会福祉推進のための相談援助（ソーシャルワーク）の意義・形態・方法を明確にし、ソーシャルワーク実践のために必要な知識と方法論を学修することにより実践に必要な知識や技術を修得する。ソーシャルワーク実践の知識と方法論を学修することはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)人と環境との相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。(2)ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。(3)ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。(4)コミュニティワークの概念とその展開について理解する。(5)ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。 コンピテンシー：地域理解、情報分析力、情報構成力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
ソーシャルワーク実践の基礎となる専門性について視聴覚教材やプリントを用いて学修し、実践の場において応用できるよう様々な課題を提示します。様々な地域実践例を基に「地域の課題発見」から「課題解決」まで誰がどのような段階を踏まえて、地域を構成していくのかを分析していきます。また、「地域福祉」を理解できるよう様々な事例を比較検討していきます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ内容が実社会ではどのように具現化されているのかをまとめること。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート（20%、第8回）、学力レポート（70%）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ケアマネジメント：ケアマネジメントの原則、ケアマネジメントの歴史、適用と対象				
第2回	同上：ケアマネジメントの意義と方法、意義、プロセス、モデル				
第3回	集団を活用した支援：グループワークの意義と目的（グループダイナミクス）				
第4回	同上：グループワークの原則（個別化、受容、参加、体験の原則）				
第5回	同上：グループワークの原則（葛藤解決、制限、継続評価の原則）				
第6回	同上：グループワークの展開過程（準備期、開始期、作業期、終結期）				
第7回	同上：セルフヘルプグループ（共感性、分かち合い、ヘルパーセラピー原則）				
第8回	コミュニティワーク：コミュニティワークの意義と目的（ソーシャルインクルージョン）				
第9回	コミュニティワーク：コミュニティワークの展開（地域アセスメント、地域課題の発見、認識）				
第10回	同上（実施計画とモニタリング組織化社会資源の開発、評価と実施計画の更新）				
第11回	ソーシャルワークの記録：記録の意義と目的（ソーシャルワークの質の向上）				
第12回	同上：記録の方法と実際（文体、項目、図表）				
第13回	スーパービジョンとコンサルテーション：スーパービジョンの意義、目的、方法（定義、機能、方法、関係性）				
第14回	同上：コンサルテーションの意義・目的・方法（定義、関係性、方法）				
第15回	同上：まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法 [共通科目]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『福祉専門職のための統合的・多面的アセスメント 相互作用を深め最適な支援を導くための基礎（新・MINERVA福祉ライブラリー34）』渡部律子（ミネルヴァ書房）2019年。					
【学生へのメッセージ】					
日本の社会福祉で求められている「地域福祉」「コミュニティソーシャルワーク」とはどのようなものなのか。自分とどのような関りがあるのかを自分の問題として学修に取り組むようにしてください。					
【オフィスアワー】					
火曜日・木曜日（11:55～12:25）					
【実務経験】					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。					

年度	区分	分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[G_mwt3] [41] 【指定科目】ソーシャルワークの理論と方法（専門）
-----	--

区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	中野 宏子	ナカノ ヒロコ	nakano hiroko [hnakano(a)]
------	-------	---------	----------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

相談援助実習、相談援助演習につながる科目として、「実践能力」を身につけるための相談援助の理論と方法の基礎を学修します。相談援助の実践場面において応用できる理論としてと方法の基本的事項について、対象者への支援と実践理論の接点を概説します。ソーシャルワーク実践の知識と方法論を学修することはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。(2)支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。(3)社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。(4)個別事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。 コンピテンシー：課題設定力、情報収集力、論理的思考力

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書を中心に講義形式で授業を行います。授業中に毎回、いくつか課題を提示します。課題について自分の考えをまとめ、そこから得た新たなテーマを設定し課題解決に向けた方法を模索します。このような方法で実践力を身につける授業を行います。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出し、授業で学んだ内容が実社会ではどのように具現化されているのかをまとめること。相談援助実践に係る基本的な知識を修得するために酪K復習を行ってください。

【成績評価（方法・基準）】

中間レポート（20%、第8回）、学力レポート（70%）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価します。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：援助関係の意義と概念
第2回	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：援助関係の形成方法（自己覚知と他者理解）
第3回	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：援助関係の形成方法（コミュニケーションとラポール）
第4回	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：面接技術（面接の意義・目的・方法・留意点）
第5回	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：面接技術（面接の場面と構造・技法）
第6回	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：アウトリーチ（意義・目的・方法）
第7回	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発：社会資源の活用・調整・開発の意義・目的・方法
第8回	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：ニーズの集約・計画策定・実施評価
第9回	ソーシャルワークにおける援助関係の形成：ソーシャルアクション
第10回	ネットワークの形成：ネットワーキングの意義・目的・方法
第11回	ネットワークの形成：セーフティネットの構築とネットワーキング
第12回	ネットワークの形成：家族・住民とサービス提供者間のネットワーキング
第13回	ネットワークの形成：マイクロ・メゾ・マクロにおけるネットワーキング
第14回	ネットワークの形成：多様な分野の支援機関とのネットワーキング
第15回	ネットワークの形成：コーディネーション

【教科書・参考書】

教科書：『最新 社会福祉士養成講座 6 ソーシャルワークの理論と方法 [社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『わたしたちの暮らしとソーシャルワーク 相談援助の理論と方法』高井由紀子（保育出版社（教育情報出版））2016年、『アセスメント技術を高めるハンドブック（第3版）』近藤直司（明石書店）2022年。

【学生へのメッセージ】

日本の社会福祉で求められている「地域福祉」「コミュニティソーシャルワーク」とはどのようなものなのか。自分とどのような関りがあるのかを自分の問題として学修に取り組むようにしてください。

【オフィスアワー】

水曜日・金曜日（10:00-12:00）大学事務室を通じて予約してください。

【実務経験】

山梨県中央市社会福祉協議会 7 年。地域福祉全般の業務、相談業務等に携わっていた経験を活かした授業にしたいと考えます。

年度	区分		分野		
令和6年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[H_mwt4] [59]【指定科目】ソーシャルワークの理論と方法（専門）				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	中野 宏子		ナカノ ヒロコ	nakano hiroko [hnakano(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会福祉推進のための相談援助（ソーシャルワーク）の意義・形態・方法を明確にし、ソーシャルワーク実践のために必要な知識と方法論を学修することにより実践に必要な知識や技術を修得します。ソーシャルワーク実践の知識と方法論を学修することはSDGs3の目標「すべての人に健康と福祉を」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。(2)支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。(3)社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。(4)個別事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。 コンピテンシー：課題設定力、情報収集力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書を中心に講義形式で授業を行います。授業中に毎回、いくつか課題を提示しますので、自分の考えをまとめて行きます。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述し「書く」作業を通して自分の考えをまとめる授業を行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出し、授業で学んだ内容が実社会ではどのように具現化されているのかをまとめること。相談援助実践に係る基本的な知識を修得するために予習復習を行ってください。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート（20%、第8回）、学力レポート（70%）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ソーシャルワークに関する方法 1 ネゴシエーションの意義・目的・方法・留意点				
第2回	ソーシャルワークに関する方法 2 ファシリテーションの意義・目的・方法・留意点				
第3回	ソーシャルワークに関する方法 3 プレゼンテーションの意義・目的・方法・留意点				
第4回	カンファレンス 1 カンファレンスの意義・目的・方法・留意点				
第5回	カンファレンス 2 カンファレンスの運営と展開				
第6回	事例分析 1 事例分析の意義・目的				
第7回	事例分析 2 事例検討、事例研究の意義・目的・方法・留意点				
第8回	ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 1 総合的かつ包括的な支援の考え方（多様化した生活課題への対応）				
第9回	ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 2 総合的かつ包括的な支援の考え方（今日的な地域福祉生活課題への対応）				
第10回	ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 3 家族支援の実際				
第11回	ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 4 地域支援の実際（地域が抱える課題・多機関協働）				
第12回	ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 5 地域支援の実際（地域住民との協働）				
第13回	ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 6 非常時や災害時支援の実際（生活課題）				
第14回	ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 7 非常時や災害時支援の実際（支援の目的・方法・留意点）				
第15回	ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際 8 まとめ				

【教科書・参考書】
教科書：『最新 社会福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法 [社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『わたしたちの暮らしとソーシャルワーク 相談援助の理論と方法』高井由紀子（保育出版社（教育情報出版））2016年、『アセスメント技術を高めるハンドブック（第3版）』近藤直司（明石書店）2022年。
【学生へのメッセージ】
日本の社会福祉で求められている「地域福祉」「コミュニティソーシャルワーク」とはどのようなものなのか。自分とどのような関りがあるのかを自分の問題として学修に取り組むようにしてください。
【オフィスアワー】
水曜日・金曜日（10:30-12:00）大学事務室を通じて予約してください。
【実務経験】
山梨県中央市社会福祉協議会 7年。地域福祉、高齢者団体事務局、居宅サービス、相談業務等の経験を活かし権利擁護の実態を理解できる授業にします。

年度	区分	分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[l_mwt2] [35] 【指定科目】地域福祉と包括的支援体制
-----	----------------------------------

区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	叶寧	ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]
------	----	-------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

地方行政において1990年以降「地方分権化・地域主権化」が進み、多様な計画化が市町村行政に求められています。従来の縦割的対応の社会福祉の考え方を改める新しい「地域福祉」とは何か、新たなシステムとは何かについて概説します。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。(2)地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。(3)地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果す役割について理解する。(4)地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。(5)包括支援体制の考え方と、多職種及び他機関協働の意義と実際について理解する。(6)地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。 コンピテンス：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構力、読解力、傾聴力、会話力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書による講義や地域福祉関連の法律、制度政策、トピックスから地域福祉の全体像を把握し、地域共生社会、包括的支援体制、地域包括ケアシステム、重層的支援体制整備事業等に関して理解する。適宜、ビデオ等の視聴覚教材を使用し、双方向授業を行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ内容が実社会でどのように具現化されているのかを調べる。

【成績評価（方法・基準）】

受講状況（80%、リアクションペーパーをはじめとする提出物の記述内容により授業の理解度を評価すると共に、グループディスカッションや発表などの参加度等も含め、毎回の受講状況を総合的に評価する）、期末課題（20%、提出された内容により、課題理解度、表現の適正さ、考察の論理性等を総合的に評価する）

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	地域福祉の概念と理論（概念・構造・機能・共生社会）
第2回	地域福祉の歴史（セツルメント・COS・社会福祉基礎構造改革等）
第3回	地域福祉の動向（コミュニティソーシャルワーク）
第4回	地域福祉の推進主体（地方自治体・NPO・社会福祉協議会）
第5回	地域福祉の主体と形成（当事者・ボランティア・住民主体）福祉行政システム
第6回	国の役割と地方との関係（地方分権・法定受託事務と自治事務）
第7回	都道府県・市町村の役割
第8回	福祉行政の組織（福祉事務所・児童相談所・地域包括支援センター）
第9回	福祉行政の専門職（児童福祉司・福祉事務所の現業員等）
第10回	福祉における財源（国と地方の財源）
第11回	福祉計画の意義・目的と展開（福祉計画の歴史・福祉行財政と福祉計画の関係等）
第12回	福祉計画の意義・目的と展開（福祉計画の種類）
第13回	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容）
第14回	福祉計画の策定過程と方法 福祉計画の実態と評価（課題把握・モニタリング）
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『地域福祉論』岡村重夫（光生館）2009年、『地域福祉援助をつかむ』岩間伸之・原田正樹（有斐閣）2012年、『コミュニティソーシャルワークの理論と実践』日本地域福祉研究所監修 / 中島修・菱沼幹男共編（中央法規）2015年。

【学生へのメッセージ】

「全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる『地域共生社会』を実現する。このため、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する」という「ニッポン一億総活躍プラン」において提示した理念です。その実現に向けて、地域福祉と包括的支援体制の概念および具体的な進行・実行のあり方について検討する必要性がますます重要視されてきています。社会福祉士国家試験の新カリキュラムでは前期後期の必修科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。

【オフィスアワー】

授業担当時の前後、火・水・金曜日の授業・会議以外の時間帯

【実務経験】

市町村の委託事業を受けている社会福祉協議会にて生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。

年度	区分	分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目	福祉理論系科目

講義名	[J_mwt2] [37]【指定科目】地域福祉と包括的支援体制
-----	---------------------------------

区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
----	---------	----	------------	----	----

授業年次	--	2年	--	--
------	----	----	----	----

担当教員	叶寧	ヨウ ネイ	ye ning [ye(a)]
------	----	-------	-----------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

地方行政において1990年以降「地方分権化・地域主権化」が進み、多様な計画化が市町村行政に求められています。従来の縦割的対応の社会福祉の考え方を改める新しい「地域福祉」とは何か、新たなシステムとは何かについて概説します。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

(1)地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。(2)地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。(3)地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果す役割について理解する。(4)地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。(5)包括支援体制の考え方と、多職種及び他機関協働の意義と実際について理解する。(6)地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。コンピテンス：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力

【授業方法（フィードバックの内容）】

教科書による講義や地域福祉関連の法律、制度政策、トピックスから地域福祉の全体像を把握し、地域共生社会、包括的支援体制、地域包括ケアシステム、重層的支援体制整備事業等に関して理解する。適宜、ビデオ等の視聴覚教材を使用し、双方向授業を行う。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、該当する教科書の章を読むこと。事後学修（2時間以上）は、授業で学んだ内容が実社会でどのように具現化されているのかを調べる。

【成績評価（方法・基準）】

受講状況（80%、リアクションペーパーをはじめとする提出物の記述内容により授業の理解度を評価すると共に、グループディスカッションや発表などの参加度等も含め、毎回の受講状況を総合的に評価する）、期末課題（20%、提出された内容により、課題理解度、表現の適正さ、考察の論理性等を総合的に評価する）

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	地域社会の概念と理論
第2回	地域社会の変化（世帯構成・過疎化・地域間格差等）
第3回	多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ（ひきこもり・ニート・災害）
第4回	地域福祉と社会的孤立（社会的排除・セルフネグレクト）地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制
第5回	包括的支援体制（考え方とその展開）
第6回	地域包括ケアシステム（考え方とその展開・子育て世代包括支援センター）
第7回	生活困窮者自立支援の考え方（理念・実際）
第8回	地域共生社会の実現に向けた各種施策（多機関協働による包括的支援体制）地域共生の実現に向けた多機関協働
第9回	多機関協働を促進する仕組（総合相談・地域ケア会議・要保護児童対策地域協議会）
第10回	多職種連携、福祉以外の分野との機関協働の実際 地域共生の実現に向けた多機関協働
第11回	非常時や災害時における法制度（災害対策基本法・災害救助法・避難計画）
第12回	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援（災害時要援護者支援等）地域福祉と包括的支援体制の課題と展望
第13回	地域福祉ガバナンス（ガバナンスの考え方・住民自治・プラットフォームの形成と運営）
第14回	地域共生社会の構築（地域共生社会・地域力の強化）
第15回	まとめ

【教科書・参考書】

教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『入門地域福祉と包括的支援体制』川村匡由編著（ミネルヴァ書房）2021年、『コミュニティソーシャルワーク』菱沼幹男（有斐閣）2024年、『第8巻地域福祉と包括的支援体制』『社会福祉学習双書』編集委員会編（全国社会福祉協議会）2024年。

【学生へのメッセージ】

「全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる『地域共生社会』を実現する。このため、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する」という「ニッポン一億総活躍プラン」において提示した理念です。その実現に向けて、地域福祉と包括的支援体制の概念および具体的な進行・実行のあり方について検討する必要性がますます重要視されてきています。社会福祉士国家試験の新カリキュラムでは前期後期の必修科目ですので、受験希望者は必ず受講してください。

【オフィスアワー】

授業担当時の前後、火・水・金曜日の授業・会議以外の時間帯

【実務経験】

市町村の委託事業を受けている社会福祉協議会にて生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。

年度	区分		分野		
令和6年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[K_mwt2] [29]【指定科目】福祉サービスの組織と経営				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	榎木 博之		ナラキ ヒロユキ	naraki hiroyuki [naraki(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
福祉サービスとは何か、福祉サービスに係わる団体とは何か、福祉サービスを経営するために必要なことは何か等について説明し、社会福祉士が福祉サービスの組織と経営を学ぶ意義を考えていく。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
福祉サービスに係わる組織や団体（社会福祉法人・医療法人・特定非営利活動法人・営利法人、市民団体、自治会など）について理解できる。福祉サービスの組織と経営に係わる基礎理論について理解できる。福祉サービスの経営と運営管理について理解する。 コンピテンシー：論理的思考力、課題設定力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書を中心に講義形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後課題（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーまとめて提出する。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（40%）、レポート（15%）、リアクションペーパー・授業で出される課題（45%）の配分で評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	福祉サービスにおける組織と経営				
第2回	福祉サービスにおける組織と団体（法人とは）				
第3回	福祉サービスにおける組織と団体（社会福祉法人等）				
第4回	福祉サービスの組織と経営の基礎理論				
第5回	集団力学における基礎理論				
第6回	リーダーシップに関する基礎理論				
第7回	福祉サービスの管理運営の方法（サービス管理）				
第8回	苦情対応とリスクマネジメント				
第9回	サービス提供のあり方の方向性				
第10回	福祉サービスの管理運営の方法（人事管理と労務管理）				
第11回	人材育成				
第12回	専門職のキャリアアップ				
第13回	福祉サービスの管理運営の方法（会計管理と財務管理）				
第14回	福祉サービスの管理運営の方法（情報管理）				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 1 福祉サービスの組織と経営』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
授業内容に応じた資料を配布するので、各自まとめておくように。授業中に扱った時事問題は、各自その問題の全容を確認して問題点を整理するように。また、日頃から各種メディアを通して福祉サービスに関する諸問題をメモしておくように。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
社会福祉士、医療機関にて16年間、医療ソーシャルワーカーとして勤務					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[L_mwt2] [11]【指定科目】高齢者福祉論				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	1年	2年	--	--	
担当教員	叶寧		ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて概説する。 コンピテンシー：健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、計画力、実行力、評価力、改善力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書、参考書、各種資料を通して、受講者の高齢者への理解度を深めていく。また同時に今後必要とされる資料を読み取る力を高めていきます。加えて現実に起きている高齢者問題についてグループ討議などの方法で、多角的にものを考える力つけていく。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、各回の講義内容についてシラバスに記載した教科書、参考書による学修を行うこと。事後学修（2時間以上）は、配布プリントの内容について授業の復習を行うことを望む。					
【成績評価（方法・基準）】					
受講状況（80%、リアクションペーパーをはじめとする提出物の記述内容により授業の理解度を評価すると共に、グループディスカッションや発表などの参加度等も含め、毎回の受講状況を総合的に評価する）、期末課題（20%、提出された内容により、課題理解度、表現の適正さ、考察の論理性等を総合的に評価する）					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	高齢者の定義と特性				
第2回	高齢者の生活実態（介護需要、介護予防）				
第3回	高齢者を取り巻く社会環境				
第4回	高齢者福祉の歴史				
第5回	高齢者福祉の理念（人権の尊重、尊厳の保持、介護保険法）				
第6回	高齢者観の変遷（敬老思想、エイジズム、社会的弱者、アクティブエイジング）				
第7回	高齢者福祉制度の発展過程				
第8回	高齢者に対する法制度				
第9回	老人福祉法				
第10回	高齢者の医療の確保に関する法律				
第11回	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律				
第12回	育児・介護休業法の概要				
第13回	高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割				
第14回	高齢者と家族等に対する支援の実際				
第15回	高齢者領域における社会福祉士の役割				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 2 高齢者福祉』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『よくわかる高齢者心理学』佐藤真一（ミネルバ書房）2016年、『高齢者福祉論 [第2版]』（新・はじめて学ぶ社会福祉1）杉本敏夫（ミネルバ書房）2018年。					
【学生へのメッセージ】					
今日、世界の高齢化は急速に進展し、これまで高齢化が進行してきた先進地域はもとより、開発途上地域においても、高齢化が急速に進展することが見込まれています。老化、自立の概念、医療、介護、社会保障等の一連の課題と対策に関する法律・制度政策について現状調べを一緒に行います。現存の制度政策等では対応できているのか、さらに対応できていない場合に今後どのように対処していくのか学生各自の考えをもち、授業内外における検討・議論ができるように期待しています。					
【オフィスアワー】					
授業担当時の前後、火・水・金曜日の授業・会議以外の時間帯					
【実務経験】					
市町村の委託事業を受けている社会福祉協議会にて生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[M_mwt3] [49]【指定科目】貧困に対する支援				
区分	前期（15回）		単位	必修（2）福祉学専攻	形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	高木 寛之		タカギ ヒロユキ		takagi hiroyuki [takagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
貧困とは何か、貧困に対する支援とは何か、社会福祉における公的扶助の考え方と生活保護制度、生活困窮者自立支援制度の概要と制度を必要とする人への理解、制度を活用する専門職への専門性、意義と実際を概説します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
公的扶助の概念と貧困・低所得者問題について理解する。生活保護制度の概要とその基本原理・原則・種類及び権利と義務について理解する。生活保護制度の運営実施体制について理解する。貧困・低所得者への相談援助方法やその専門性、自立支援プログラムの意義と実際について理解する。低所得者・ホームレスに対する援助方法について理解する。 コンピテンシー：情報収集力、情報分析力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書、映像資料の内容を参照しながら講義形式を進める。毎回コメントペーパーを書いてもらい理解度を確認しながら進めていく。学力確認テストでは講義やレジュメの内容に基づきその理解度を確認する。そして、援助方法について理解できるよう、小グループによる事例検討などを交えた授業にしていく。社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、教科書をあらかじめ読み、レポートを作成すること。質問事項をまとめておくこと。事後学修（2時間以上）は、教科書を復習し、分からないところなどを明確にしておくこと。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：私たちのライフステージと公的扶助				
第2回	公的扶助の概念				
第3回	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態				
第4回	貧困状態にある人を取り巻く社会環境				
第5回	貧困の歴史：貧困状態にある人に対する福祉の理念、貧困観の変遷、貧困に対する制度の発展過程				
第6回	生活保護制度				
第7回	生活保護の動向				
第8回	低所得者に対する法制度：生活困窮者自立支援制度				
第9回	低所得者に対する法制度：生活福祉資金貸付制度				
第10回	低所得者に対する法制度：低所得者対策、ホームレス対策				
第11回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割：貧困に対する支援における公私の役割関係				
第12回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割：国、都道府県、市町村の役割				
第13回	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割：福祉事務所の役割、自立相談支援機関の役割				
第14回	貧困に対する支援の実際				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 4 貧困に対する支援』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
私たちの生活と隣り合わせに現出する貧困にしっかりと目を向けてください。社会福祉士国家試験の新カリキュラムでは必修科目となりましたので、受験希望者は必ず受講してください。					
【オフィスアワー】					
毎週授業前後に教室にて受け付けます。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[N_mwt3] [51]【指定科目】保健医療と福祉				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻		形式 講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	檜木 博之		ナラキ ヒロユキ		naraki hiroyuki [naraki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
保健医療分野において、なぜ社会福祉士・精神保健福祉士の支援が求められているのかについて考える科目である。その上で支援に必要な保健医療制度（診療報酬含む）、連携する多職種や地域の社会資源について理解を深める。さらに、体験学修や事例検討を用いて保健医療サービスについて具体的に学修する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解することで、制度の動向を調べ、相談援助活動に必要な知識を増やすことができるようになる。保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解することで、多職種の役割を理解することができる。 コンピテンシー：論理的思考力、課題設定力、実行力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
教科書を中心に講義形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後課題（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する・課題レポートを作成する。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（40%）、レポート（15%）、リアクションペーパー・授業で出される課題（45%）の配分で評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	保健医療サービスとは				
第2回	保健医療サービスの変遷				
第3回	保健医療サービスの今日的課題				
第4回	医療連携と社会福祉士の役割				
第5回	医療法による医療施設の機能・類型				
第6回	保健医療政策による医療施設の機能・類型				
第7回	介護保険法による施設の機能・類型				
第8回	在宅支援のシステム				
第9回	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 1				
第10回	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割 2				
第11回	保健医療サービスの専門職の役割				
第12回	保健医療サービスの提供と経済的保障				
第13回	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践				
第14回	保健医療サービスにおける地域の社会資源と連携の実践				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 5 保健医療と福祉』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
保健医療サービスは私たち国民の生活に大きく影響します。他人事ではなく、私たちが生活する上で必要な意識で参加してください。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
社会福祉士、医療機関にて16年間、医療ソーシャルワーカーとして勤務					

年度	区分		分野		
令和6年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[O_mwt4] [53] 【指定科目】 刑事司法と福祉				
区分	前期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	中野 宏子		ナカノ ヒロコ	nakano hiroko [hnakano(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
刑事司法では、何回も犯罪を繰り返す再犯者による犯罪の防止が課題となっており、社会内処遇を担う更生保護に対する期待はますます高まっています。更生保護制度、医療観察制度は馴染みのない分野ですが、社会福祉士・精神保健福祉士等との連携強化が求められており、その理解のために、刑事司法、少年司法、更生保護制度、医療観察制度等について概説します。授業を通じて、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」と再犯防止策等について幅広く理解することを目的とします。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
刑事政策における再犯防止の課題達成のため、関係機関連携（社会福祉士・精神保健福祉士を含む）が求められており、刑事司法・少年司法手続き、更生保護制度、医療観察制度等を理解し、「多様な学問の考え方」ができるようにする。再犯防止の課題達成のため、事案に応じた「課題設定力」「構想力」「計画力」及び課題解決のための「実行力」「評価力」「改善力」を身につける。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
授業は集中講義となります。授業内容は授業計画のとおりであり、資料を配布します。更生保護制度は馴染みがないため、DVDを使用するほか、事例研究等を行い、理解しやすいように配慮します。社会福祉士資格取得のために必修科目となっており、社会福祉士国家試験問題（過去）にも取り組みます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
受講前に、シラバスに示されたテキストを熟読し、用語の理解に努めるとともに、受講後においては、ノートを整理するなどして、授業内容の理解に努めてください。それぞれ2時間程度を目安にしてください。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業への取り組み姿勢（40%、授業中に調べ学修によって発表をしてもらう。最低2回×10%=20%+発表者に対する質問や意見など、積極的な授業参加を評価=20%）と学力確認テストの成績（60%）により総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	刑事司法における近年の動向と社会環境：犯罪の動向、高齢出所者等の支援、再犯防止等推進法、社会福祉士・精神保健福祉士の役割（再犯防止、多機関連携が重要な課題となっていること、SDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」と再犯防止策について）				
第2回	刑事司法：刑法の基本原則、刑罰、刑事事件の手続き、処遇				
第3回	少年司法：少年法の基本原則（改正少年法のポイントを理解する）、少年事件の手続き、処遇				
第4回	更生保護制度：更生保護制度の概要				
第5回	更生保護制度：更生保護の担い手（更生保護ボランティアを理解する）				
第6回	更生保護制度：生活環境の調整・仮釈放				
第7回	更生保護制度：保護観察1種類・期間、指導監督				
第8回	更生保護制度：保護観察2 遵守事項、良好・不良措置				
第9回	更生保護制度：保護観察3 専門的処遇プログラム、社会貢献活動等				
第10回	更生保護制度：保護観察4 補導援護、更生緊急保護、関係機関・団体との連携				
第11回	恩赦、犯罪予防活動：恩赦制度の概要、社会を明るくする運動				
第12回	医療観察制度：医療観察制度の概要				
第13回	医療観察制度：生活環境の調査、生活環境の調整、精神保健観察の内容、関係機関・団体との連携				
第14回	犯罪被害者支援：犯罪被害者基本法、犯罪被害者支援の内容、更生保護における被害者等通知制度等				
第15回	総括				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座10 刑事司法と福祉』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年、『更生保護入門[第6版]』松本勝編著（成文堂）2022年。					
【学生へのメッセージ】					
刑事司法の分野では、近年、社会福祉との連携強化が求められており、更生保護官署では社会福祉系の学生が職員として採用されることが増えています。この科目は、文献が少ないので、独自での勉強がしにくいところがあります。授業を聞く中で、疑問点は積極的に質問し、理解を深めてください。					
【オフィスアワー】					
水曜日・金曜日（10:30-12:00）大学事務室を通じて予約してください。					

【実務経験】

福祉士、社会福祉協議会・老人福祉センター等福祉行政機関等での相談援助の実務の経験を活かした授業にしたいと考えます。

年度	区分		分野		
令和6年度	福祉学専攻 専門科目		福祉理論系科目		
講義名	[P_mwt4] [55]【指定科目】権利擁護を支える法制度				
区分	後期（15回）	単位	必修（2）福祉学専攻	形式	講義
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	中野 宏子		ナカノ ヒロコ	nakano hiroko [hnakano(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
社会福祉法の改正に伴い、社会福祉のサービス利用のシステムが「措置制度」から「契約制度」に転換しました。契約制度に際して、判断能力の点で援助を必要とする人達が存在します。このような人たちの相談援助では支援する側に人権と社会正義などの基本理念が必要とされます。「権利とは何か」「権利侵害とはどのようなことか」「どのように権利を擁護するか」を具体的かつ体系的に理解を深めることによってSDGs16の目標「平和と公正をすべての人に」に繋がります。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
(1)法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。(2)権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。(3)権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実践について理解する。(4)権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。(5)ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。 コンピテンシー：情報分析力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキスト、資料を基に体系的に講義します。また、講義後の受講生のリアクションペーパーに記載された内容についてフィードバックを行います。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、講義にのぞむ前には提示された課題について学修をしていただくことを望みます。事後学修（2時間以上）は、受講後はノートの整理を行い、講義内容の理解を深め、次回に備えることを望みます。					
【成績評価（方法・基準）】					
中間レポート（30%、第10回）、学力確認テスト（60%、第15回、テスト60分、解説30分）、授業参画度（10%、毎回のリアクションペーパーなど）により総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	法の基礎 法と規範 法の体系・種類・機能				
第2回	法の基礎 法律の基礎知識・法の解釈 裁判制度・判例				
第3回	ソーシャルワークと法の関わり 憲法（概要・基本的人権）				
第4回	ソーシャルワークと法の関わり 民法（総則・契約・不法行為）				
第5回	ソーシャルワークと法の関わり 親族（婚姻・親権・扶養）				
第6回	ソーシャルワークと法の関わり 行政法（行政組織・行政処分）				
第7回	ソーシャルワークと法の関わり 行政法（行政強制・行政罰・行政不服申し立て・行政訴訟）				
第8回	ソーシャルワークと法の関わり 行政法（国家賠償・国と自治体の関係）				
第9回	権利擁護の意義と支える仕組み 権利擁護の意義・苦情解決の仕組み				
第10回	権利擁護の意義と支える仕組み 虐待防止法と差別禁止法の概要				
第11回	権利擁護活動で直面しうる法的諸問題 インフォームドコンセント・個人情報・守秘義務				
第12回	権利擁護に関わる組織・団体・専門職 組織団体の役割（市町村・社会福祉協議会）				
第13回	成年後見制度 成年後見の概要（後見・保佐の概要）				
第14回	成年後見制度 補助・任意後見の概要				
第15回	成年後見制度 日常生活自立支援事業・まとめ				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。参考書：『はじめて読む「成年後見」の本 制度の仕組みから具体的な手続きまでをわかりやすく解説』馬場敏彰（明石書店）2010年。					
【学生へのメッセージ】					
契約制度における社会福祉サービスの利用者支援することは、一部の人達の問題ではなく、全ての人達の生活に深く関わっています。私たちの生活がどのように「法」と関連しているのか、自分の問題として考え、学修に取り組んでください。					
【オフィスアワー】					
水曜日・金曜日（10:30-12:00）大学事務室を通じて予約してください。					
【実務経験】					
山梨県中央市社会福祉協議会7年。地域福祉全般の業務、相談業務等に携わっていた経験を活かした授業にしたいと考えます。					

年度	区分				分野	
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目	
講義名	[Q_mwt1] [13] 保育原理					
区分	後期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	1年	2年	--	--		
担当教員	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi [ito(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
保育の基本的な理念や意義について概説します。保育における子ども理解を基盤として、子どもとのかかわり方や子育て支援の在り方について具体的に理解を促します。 キーワード：保育の基本、子ども理解、現代的課題						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
保育実践に必要な子どもの理解や発達の捉え方、さらに保育の制度や現状について理解することができます。また、子育て支援の内容や方法について、施設の活動に参加することで理解を深めることができます。 コンピテンシー：論理的思考力、批判的思考力、口頭発表力、会話力、傾聴力、計画力、実行力、改善力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
主として講義形式ですが、ディスカッションなど活発な意見交流を促し双方向授業を行います。理解を深めるために地域の保育所、児童館等で実地に学ぶフィールドワークも含めます。保育施設訪問後のフィードバックを大切にします。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学修（2時間以上）は、テキストの指定された箇所を熟読し、疑問点等を明確にしておくこと。事後学修（2時間以上）は、ノート（実習ノートも含む）や配布資料を整理し授業内容の理解に努めること。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業への取り組み姿勢（30%）、学力確認テスト（70%）により総合評価します。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	保育とは何か 1					
第2回	保育とは何か 2					
第3回	保育の基本となること 1：自ら育つものを育てる					
第4回	保育の基本となること 2：社会全体で子どもを育てる					
第5回	保育の基盤としての子ども観					
第6回	保育における「子ども理解」とは					
第7回	現代の子育てと子育て支援：子育て支援の必要性					
第8回	身延児童館での子育て支援活動（計画）					
第9回	身延児童館での子育て支援活動（準備）					
第10回	身延児童館での子育て支援活動（実践）					
第11回	フィードバック					
第12回	子どもの発達を捉える「まなざし」					
第13回	子ども理解を深めるために：発達の捉え方					
第14回	保育の現状と課題：倉橋惣三『育ての心』を読む					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：『新しい保育講座 保育原理』渡邊英則（ミネルヴァ書房）2018年。参考書：『育ての心（上）倉橋惣三文庫』津守真著（フレーベル館）1988年、『子ども理解と援助』高嶋景子著（ミネルヴァ書房）2011年。						
【学生へのメッセージ】						
保育のよりよいあり方について、積極的に学ぶことを希望します。保育所等訪問は、時間割を調整して別の日時に実施することもあるので注意すること。						
【オフィスアワー】						
火曜日・金曜日（15:30-17:00）						
【実務経験】						
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭として行った保育実践を生かして、保育内容・方法と保育の現代的課題について講義します。						

年度	区分				分野	
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目	
講義名	[R_mwt3] [43] 子育て支援論					
区分	前期（15回）		単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	--	2年	--	--		
担当教員	伊東 久実		イトウ クミ		ito kumi [ito(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
保護者や家庭のかかえる支援の必要性の理解を促します。その上で、子育て支援を多面的に実践する知識や技能を養います。キーワード：保護者理解、支援の方法、社会資源						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、具体的に理解することができます。また、保育士の行う子育て支援の内容と方法及び技術を地域の児童館において実践を通して具体的に理解することができます。コンピテンシー：地域理解、情報収集力、口頭発表力、文章表現力、課題設定力、計画力、実行力、評価力、改善力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
学内での学修による理解を深めるために、地域の児童館や保育所等で実地に学ぶフィールドワークを積極的に行います。また、実地での活動後のフィードバックを大切にします。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前学修（2時間以上）は、テキストの指定された箇所を熟読し、疑問点等を明確にしておくこと。事後学修（2時間以上）は、ノート（実習ノートも含む）や配布資料を整理して授業内容の理解に努めるとともに、実地での活動後は振り返りシートを基に次の課題を明確にすること。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業への取り組み姿勢（50%）、学力確認テスト（50%）により総合評価します。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	子育て支援の意義と役割 1					
第2回	子育て支援の意義と役割 2					
第3回	子育て支援の目的と内容					
第4回	支援者に求められる基本的態度					
第5回	地域での子育て支援活動（計画）					
第6回	地域での子育て支援活動（学内での演習）					
第7回	地域での子育て支援活動（実践）					
第8回	地域での子育て支援活動（評価と改善）					
第9回	多様な支援の展開と関連機関との連携					
第10回	子育て家庭に対する支援の体制					
第11回	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解					
第12回	子育て家庭支援に対する支援の展開					
第13回	子育て家庭支援の政策動向と課題					
第14回	海外に学ぶ子育て支援					
第15回	まとめ					
【教科書・参考書】						
教科書：『実践 子ども家庭支援論』松本園子・永田陽子他著（ななみ書房）2023年。参考書：授業時間内に適宜紹介します。						
【学生へのメッセージ】						
子どもの最善の利益を守るための子育て支援のあり方について積極的に学ぶことを希望します。実地での活動は、時間割を調整して、別の日時に実施することもあるので注意すること。						
【オフィスアワー】						
火曜日・金曜日（15:30-17:00）						
【実務経験】						
私立幼稚園教諭、国立大学附属幼稚園教諭として行った保護者支援の経験を生かして、子育て支援の必要性と制度、具体的対応を講義します。						

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[S_mwt3] [45] 障がい児福祉				
区分	前期（15回）		単位	選択（2）	
授業年次	--	2年	--	--	
担当教員	田淵 和子		タブチ カズコ		tabuchi kazuko [tabuchi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
子どもをとりまく社会情勢を理解した上で、障害のある子どもの権利や子どもの最善の利益について考えていきます。障がいについての理解や支援の工夫、また福祉制度、施策についても概説し、子どもを多面的な視点から捉えることを目指します。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
障がい児を巡る動向や障害のある子どもへの理解と関わり方について、具体的な知識を身につけることができます。また子どもに関する福祉制度についての理解を深めることができます。授業を通して「多様な学問の考え方」「情報収集力」「改善力」を修得することを目指します。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
講義を通して基礎的な知識の伝達後、映像資料や参考図書を活用し理解を深めます。グループワークやロールプレイを用いることで、他者の多様な意見や視点に気づけるようにします。適宜、調べ学修を通して必要な情報を収集し、分析して、支援に活用できるような機会を設けます。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、参考書を読み、内容や用語について予習を行うこと。事後学修（2時間以上）は、学んだことを整理し、課題を行ってこること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（60％）、授業への取り組み（20％）、課題への取り組み（20％）により総合的に評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション / 自己紹介、障がい児福祉とは 子どもをとりまく社会情勢				
第2回	障がい児をめぐる動向 1 福祉の基礎となるノーマライゼーション理念 ICFの理解				
第3回	同上 2 歴史的視点 障がい観の成り立ち				
第4回	障がい児の概要と理解 1 障害の原因の分類と支援				
第5回	同上 2 身体障害・知的障害の理解と支援				
第6回	同上 3 精神障害（発達障害を含む）の理解と支援				
第7回	障がい児福祉に関する制度・施策の展開 1 児童福祉法 障がい児支援の流れ				
第8回	同上 2 児童・家庭福祉制度の理解 ICT機器を用いた調べ学修				
第9回	障がいのある子どもを支援する場 1 保育・教育の場での支援				
第10回	同上 2 障がい児入所施設での支援				
第11回	同上 3 児童発達支援センターでの支援				
第12回	障がいのある子どもをもつ保護者への支援 1 障がいのある子どもの子育て				
第13回	同上 2 家族・きょうだいへの視点				
第14回	障害のある子どもを尊重した支援（DVD鑑賞）				
第15回	まとめ / 総括と振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：適宜プリントを配布します。参考書：『Q&Aで学ぶ障がい児支援のベーシック』小畑文也・鳥海順子・義永睦子編著（コレール社）2019年、『特別支援児の心理学：理解と支援』梅谷忠勇・生川善雄・堅田明義編著（北大路書房）2006年、『子ども理解と発達臨床』山口勝己著（北大路書房）2007年、『障害児心理入門』井澤信三・小島道生編著（ミネルヴァ書房）2013年。					
【学生へのメッセージ】					
授業を通して障がい児・者の福祉について学び、理解できたことを、日常生活において実践できるようになることを望みます。福祉の専門職を希望する学生のみならず、広く学生の参加を期待します。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。質問はメール（tabuchi(a)min.ac.jp）でも可。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉理論系科目
講義名	[T_mwt1] [01] 介護総論				
区分	前期（15回）	単位	選択（2）		形式 講義
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	佐々木 さち子		ササキ サチコ		sasaki sachiko [sasaki(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
介護を必要とする人の、尊厳ある生活を学び、介護を取り巻く状況や介護問題などを幅広く理解する。この科目では、専門職に求められる役割について、介護の視点で知識・技術の修得を目標にする。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
「介護福祉士」について、資格が誕生した経緯や求められる職業意識、そして介護福祉士の法的根拠を理解する。さらに、介護における専門職能団体の活動や介護福祉士がもつべき職業倫理について学ぶ。介護保険サービスとは何かを考え、その提供の場を取り巻く歴史的展開や現在の姿、利用する人々と介護のあり方を明確にする。コンピテンシー：多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、計画力、実行力、評価力、改善力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
介護問題の現状、専門職能団体の活動、職業倫理、介護サービスを提供する場の理解をしていくためにアサイメント（宿題）を出していく。課題を基にディスカッション方式で行っていく。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
毎回それぞれ2時間以上の事前・事後学修を行うこと。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。					
【成績評価（方法・基準）】					
学力確認テスト（80%）、小テスト（20%）によって評価する。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション				
第2回	介護が誕生した社会的背景				
第3回	介護福祉士制度制定の経緯				
第4回	求められる介護福祉士像				
第5回	社会福祉士及び介護福祉士法				
第6回	介護における専門職能団体の活動				
第7回	介護福祉士の基本理念				
第8回	利用者の人権と介護（介護従事者の倫理、介護実践の場で求められる倫理、その他）				
第9回	利用者の人権と介護（身体拘束禁止、高齢者虐待、児童虐待、その他）				
第10回	介護を必要とする人の理解				
第11回	障害のある人の暮らしの理解				
第12回	介護を必要とする人の生活環境				
第13回	諸外国における介護				
第14回	介護サービス提供の場の特性（病院関連）				
第15回	介護施設で働くための留意点				
【教科書・参考書】					
『介護の基本』介護福祉士養成講座編集委員会編集（中央法規出版）					
【学生へのメッセージ】					
介護福祉士の倫理の学びを通して、介護福祉士としての人間性、資質を学んで欲しい。					
【オフィスアワー】					
出校日は火曜日、授業以外は406研究室（4階）にいる。					
【実務経験】					
JR東京総合病院他約20年以上の看護師経験を活かし、医療的ケアや介護福祉士に必要な医療的知識を伝える授業を行う。					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目
講義名	[A_mws2] [03]【指定科目】ソーシャルワーク演習				
区分	後期（15回）	単位	選択（1）		形式 演習
授業年次	1年	--	--	--	
担当教員	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ソーシャルワーカーに求められる自己覚知及び価値観を中心とした他者理解を促進するとともに、援助的コミュニケーションの基礎についてもロールプレイ等の体験を通して学ぶ。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
相談援助（ソーシャルワーク）の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。コンピテンシー：読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストを中心に演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。双方向の授業（アクティブラーニング）を実施している。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前課題（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後課題（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	オリエンテーション：ソーシャルワーク演習の意義と目的				
第2回	人と環境の交互作用：人と環境の交互作用				
第3回	人と環境の交互作用：自己理解と他者理解				
第4回	ソーシャルワークの対象、機能と役割：ソーシャルワークの対象				
第5回	ソーシャルワークの対象、機能と役割：ソーシャルワークの価値基準および倫理、理念				
第6回	ソーシャルワークの対象、機能と役割：ソーシャルワークの機能とソーシャルワーカーの役割				
第7回	コミュニケーション技術と面接技術：コミュニケーション技術				
第8回	コミュニケーション技術と面接技術：面接技術				
第9回	ソーシャルワークの展開過程と関連技法：ケース発見とエンゲージメント（インテーク）				
第10回	ソーシャルワークの展開過程と関連技法：アセスメント				
第11回	ソーシャルワークの展開過程と関連技法：プランニング				
第12回	ソーシャルワークの展開過程と関連技法：支援の実施とモニタリング				
第13回	ソーシャルワークの展開過程と関連技法：支援の終結と結果評価、アフターケア				
第14回	ソーシャルワーク実習後の演習：事例検討、事例研究、スーパービジョン				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座13 ソーシャルワーク演習 [共通科目]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
(1)グループ作業に支障を来すため、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。(2)基本的に100%の出席を求める。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。					

年度	区分				分野	
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目	
講義名	[B_mws3] [05]【指定科目】ソーシャルワーク演習（専門）					
区分	前期（15回）		単位	選択（1）		形式 演習
授業年次	--	2年	--	--		
担当教員	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
ソーシャルワーカーに求められる自己覚知及び価値観を中心とした他者理解を促進するとともに、援助的コミュニケーションの基礎についてもロールプレイ等の体験を通して学ぶ。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。コンピテンシー：読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
テキストを中心に演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。双方向の授業（アクティブラーニング）を実施している。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前課題（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後課題（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価します。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	ソーシャルワーク演習の意義と目的：社会福祉士養成における演習の意義と目的					
第2回	ソーシャルワーク演習の意義と目的：ソーシャルワーク演習[社会専門]の目標と内容					
第3回	ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）1：演習のねらいと事例の基本情報					
第4回	同上2：ケース発見とエンゲージメント（インテーク）1					
第5回	同上3：ケース発見とエンゲージメント（インテーク）2					
第6回	同上4：アセスメント1					
第7回	同上5：アセスメント2					
第8回	同上6：プランニング1					
第9回	同上7：プランニング2					
第10回	同上8：支援の実施とモニタリング1					
第11回	同上9：支援の実施とモニタリング2					
第12回	同上10：支援の終結と結果評価、アフターケア1					
第13回	同上11：支援の終結と結果評価、アフターケア2					
第14回	同上12：ソーシャルワークの展開過程とコンピテンシー					
第15回	まとめと振り返り					
【教科書・参考書】						
教科書：『最新 社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習[社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。						
【学生へのメッセージ】						
(1)グループ作業に支障を来すため、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。(2)基本的に100%の出席を求める。						
【オフィスアワー】						
授業の前後に教室にて対応します。						
【実務経験】						
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。						

年度	区分				分野		
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目		
講義名	[C_mws3] [07]【指定科目】ソーシャルワーク演習（専門）						
区分	後期（15回）		単位	選択（1）		形式	演習
授業年次	--	2年	--	--			
担当教員	高木 寛之		タカギ ヒロユキ		takagi hiroyuki [takagi(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
ソーシャルワーカーに求められる基本姿勢、ソーシャルワークの技法についてロールプレイを通して学び、ソーシャルワークの過程についても理解を深める。							
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】							
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。コンピテンシー：読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
テキストを中心に演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。双方向の授業（アクティブラーニング）を実施している。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前課題（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後課題（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。							
【成績評価（方法・基準）】							
授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価します。							
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】							
第1回	ソーシャルワーク演習の意義と目的：社会福祉士養成における演習の意義と目的						
第2回	実践的にソーシャルワークを学ぶ 地域における社会的孤立への気づきと生み出す支援を考える1：演習事例1						
第3回	同上2：演習事例2						
第4回	同上3：演習事例3						
第5回	同上4：多角的視点						
第6回	同上5：総括						
第7回	実践的にソーシャルワークを学ぶ 服役を繰り返す福祉ニーズのあるクライアントへの多機関・多職種による支援を考える1：演習事例1						
第8回	同上2：演習事例2						
第9回	同上3：演習事例3						
第10回	同上4：多角的視点						
第11回	同上5：総括						
第12回	実践的にソーシャルワークを学ぶ メンタルヘルズ課題と社会福祉士の役割・機能を考える1：演習事例1						
第13回	同上2：演習事例2						
第14回	同上3：演習事例3						
第15回	まとめと振り返り						
【教科書・参考書】							
教科書：『最新 社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習 [社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。							
【学生へのメッセージ】							
(1)グループ作業に支障を来すため、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。(2)基本的に100%の出席を求める。							
【オフィスアワー】							
授業の前後に教室にて対応します。							
【実務経験】							
なし							

年度	区分				分野	
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目	
講義名	[D_mws2] [13] 【指定科目】ソーシャルワーク実習指導					
区分	後期（15回）		単位	選択（1）		形式 演習
授業年次	--	2年	--	--		
担当教員	叶寧		ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]	
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】						
実践力のある対人援助専門職として仕事をする力量を総合的に身につける必須の過程である。実習を遂行する力量を養うため、福祉現場で必要とされる姿勢やマナーをはじめ、倫理・知識・技術等を身につけるとともに、実習内容の振り返りを通じて専門職としての自己のあり方を問うことを目的とする。						
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】						
社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に対応できる能力を修得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 コンピテンシー：情報構成力、論理的思考、課題設定力、実行力						
【授業方法（フィードバックの内容）】						
小グループによる実習事前指導及び事後指導を行う。また、実習中は週1回の巡回指導を行う。総括として、実習報告書を作成するとともに、実習報告会で報告し質疑応答を行う。						
【授業外学修の方法（時間数）】						
事前・事後学習（それぞれ2時間以上）。また、授業中に理解できない内容があった際にはテキストや参考文献等を活用して調べ、それでもわからない場合はリアクションペーパー等に記入すること。						
【成績評価（方法・基準）】						
授業への参加・取り組み姿勢（80%）、レポート・課題等（20%）の配分で評価を行う。						
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】						
第1回	実習、実習指導の意義（相談援助実習の基本的な流れ）					
第2回	実習分野と施設・機関・地域社会に関する基本的な理解					
第3回	実習先で関わる他職種の専門性や業務に関する基本的な理解					
第4回	ソーシャルワークの価値規範と倫理・知識及び技術に関する理解					
第5回	実習におけるプライバシーの保護と守秘義務の理解					
第6回	実習施設・機関見学（多様な施設、事業所における見学実習）					
第7回	実習記録への内容及び記録方法に関する理解					
第8回	個人票の作成					
第9回	実習計画書の作成 1					
第10回	実習計画書の作成 2					
第11回	実習先（実習）事前オリエンテーション訪問					
第12回	実習生・担当教員・実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書の完成					
第13回	実習施設・機関に係わる制度の理解					
第14回	社会福祉士倫理綱領・行動規範の確認、礼状の書き方					
第15回	実習先の評価と自己評価、実習に向けての心得と注意事項の理解					
【教科書・参考書】						
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 [社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年、『ソーシャルワーク実習の手引き』身延山大学社会福祉演習実習委員会編（身延山大学社会福祉演習実習委員会）2024年。						
【学生へのメッセージ】						
(1)グループ作業に支障を来たすため、遅刻は一切認めない。(2)基本的に100%の出席を求める。さらに、累積3回を超える欠席の場合は単位の修得を認めない。						
【オフィスアワー】						
授業担当時の前後、火・水・金曜日の授業・会議以外の時間帯						
【実務経験】						
市町村の委託事業を受けている社会福祉協議会にて生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。						

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目
講義名	[E_mws4] [09]【指定科目】ソーシャルワーク演習（専門）				
区分	前期（15回）	単位	選択（1）		形式 演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	高木 寛之		タカギ ヒロユキ		takagi hiroyuki [takagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
ソーシャルワーカーに求められる基本姿勢、ソーシャルワークの技法についてロールプレイを通して学び、ソーシャルワークの過程についても理解を深める。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。コンピテンシー：読解力、傾聴力、会話力、文章表現力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストを中心に演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。双方向の授業（アクティブラーニング）を実施している。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前課題（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後課題（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ソーシャルワーク演習の意義と目的：社会福祉士養成における演習の意義と目的				
第2回	実践的にソーシャルワークを学ぶ メンタルヘルス課題と社会福祉士の役割・機能を考える4：演習事例4				
第3回	同上5：多角的視点				
第4回	同上6：総括				
第5回	実践的にソーシャルワークを学ぶ 子どもや親のSOSに気づき、家族全体のレジリエンスを高めることを考える1：演習事例1				
第6回	同上2：演習事例2				
第7回	同上3：演習事例3				
第8回	同上4：多角的視点				
第9回	同上5：総括				
第10回	実践的にソーシャルワークを学ぶ クライアントが一番気になっている問題から支援を考える1：演習事例1				
第11回	同上2：演習事例2				
第12回	同上3：演習事例3				
第13回	同上4：演習事例4				
第14回	同上5：多角的視点				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習 [社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
(1)グループ作業に支障を来すため、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。(2)基本的に100%の出席を求める。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分			分野	
令和6年度	福祉学専攻 専門科目			福祉技術系科目	
講義名	[F_mws4] [11]【指定科目】ソーシャルワーク演習（専門）				
区分	後期（15回）		単位	選択（1）	形式 演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	高木 寛之		タカギ ヒロユキ		takagi hiroyuki [takagi(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
自己覚知や自己理解を基底に、集団援助技術について、グループの体験を通してグループ力動や具体的な介入を学ぶ。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に修得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。コンピテンシー：読解力、傾聴力、会話力、口頭発表力、実行力、評価力、改善力					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
テキストを中心に演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。双方向の授業（アクティブラーニング）を実施している。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前課題（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後課題（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。					
【成績評価（方法・基準）】					
授業内コメントペーパー（39%、13回×3%）、レポート（50%、5回×10%）、学力確認テスト（11%、レポート形式）で評価します。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	ソーシャルワーク演習の意義と目的：社会福祉士養成における演習の意義と目的				
第2回	実践的にソーシャルワークを学ぶ クライアントが一番気になっている問題から支援を考える6：総括				
第3回	実践的にソーシャルワークを学ぶ 災害支援からソーシャルワーカーの基本的姿勢と役割を考える1：演習事例1				
第4回	同上2：演習事例2				
第5回	同上3：演習事例3				
第6回	同上4：多角的視点				
第7回	同上5：総括				
第8回	実践的にソーシャルワークを学ぶ 地域のニーズに対応した新たなサービス・事業開発を考える1：演習事例1				
第9回	同上2：演習事例2				
第10回	同上3：演習事例3				
第11回	同上4：多角的視点				
第12回	同上5：総括				
第13回	実践的にソーシャルワークを学ぶ ソーシャルワークの価値とジレンマ1：演習事例1				
第14回	同上2：演習事例2				
第15回	まとめと振り返り				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習 [社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年。					
【学生へのメッセージ】					
(1)グループ作業に支障を来すため、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入ってきた者（具体的には、口頭での出欠確認終了以降）は、その日の受講を認めない。(2)基本的に100%の出席を求める。					
【オフィスアワー】					
授業の前後に教室にて対応します。					
【実務経験】					
なし					

年度	区分				分野		
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目		
講義名	[H_mws4] [15]【指定科目】ソーシャルワーク実習指導						
区分	前期（15回）		単位	選択（1）		形式	演習
授業年次	--	--	3年	--			
担当教員	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]		
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】							
小グループによる実習事前指導及び事後指導を行う。また、実習中は週1回の巡回指導を行う。総括として、実習報告書を作成するとともに、実習報告会で報告し質疑応答を行う。							
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】							
相談援助実習の意義について理解する。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に対応できる能力を修得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。							
【授業方法（フィードバックの内容）】							
テキストを中心に講義・演習形式で授業を行う。授業中に毎回、いくつか課題を提示し、グループで議論したり、個人で考えてまとめていく。授業終了後はリアクションペーパーに授業のまとめ、感想等を記述する。							
【授業外学修の方法（時間数）】							
事前課題（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後課題（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。							
【成績評価（方法・基準）】							
出席8割以上で成績評価を可視化する。学力確認テスト（50%）、レポート（20%）、リアクションペーパー・面接技術評価・アセスメント（30%）の配分で評価を行う。							
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】							
第1回	実習報告書の作成						
第2回	実習報告会						
第3回	実習後の振り返り（グループワーク）						
第4回	実習後スーパービジョン1						
第5回	実習後スーパービジョン2						
第6回	実習施設研究						
第7回	実習施設研究発表会						
第8回	実習計画書の意義						
第9回	実習計画書の作成						
第10回	相談援助の実際1						
第11回	相談援助の実際2						
第12回	実習記録の書き方1						
第13回	実習記録の書き方2						
第14回	実習直前ガイダンス						
第15回	全体総括						
【教科書・参考書】							
教科書：『最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習〔社会専門〕』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年、『ソーシャルワーク実習の手引き』身延山大学社会福祉演習実習委員会編（身延山大学社会福祉演習実習委員会）2024年。							
【学生へのメッセージ】							
欠席回数がそれぞれ累計3回を超える場合、配属済みでも実習は中止となる。また、遅刻は一切認めない。従って、始業時間に遅れて教室に入った者（口頭での出席確認終了以降）は、その日の受講を認めない。さらに日頃から出来る限りボランティア活動に参加するよう心掛けること。5月連休中にはフィールドワーク（市町村の制度やサービス調査や福祉計画の分析など）を課す予定である。							
【オフィスアワー】							
授業の前後に教室にて対応します。							
【実務経験】							
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。							

年度	区分			分野	
令和6年度	福祉学専攻 専門科目			福祉技術系科目	
講義名	[l_mws4] [17]【指定科目】ソーシャルワーク実習指導				
区分	前期（15回）	単位	選択（1）	形式	演習
授業年次	--	--	3年	--	
担当教員	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
実習事前指導及び事後指導を行う。相談援助実習の意義について理解する。相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に対応できる能力を修得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
小グループによる実習事前指導及び事後指導を行う。また、実習中は週1回の巡回指導を行う。総括として、実習報告書を作成するとともに、実習報告会で報告し質疑応答を行う					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前課題（2時間以上）は、毎回の授業で出される課題を行う。事後課題（2時間以上）は、授業の要点をリアクションペーパーにまとめて提出する。					
【成績評価（方法・基準）】					
出席8割以上で成績評価を可能とする。レポート・課題（50%）、授業への参加・取り組み姿勢（50%）の配分で評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	実習事後指導の意義、実習報告書、実習報告会の説明等				
第2回	実習報告書の作成1（課題の整理と実習総括レポートの作成）				
第3回	実習報告書の作成2（課題の整理と実習総括レポートの作成）				
第4回	実習報告書の作成3（課題の整理と実習総括レポートの作成）				
第5回	実習報告書の作成4（課題の整理と実習総括レポートの作成）				
第6回	実習日誌・実習評価に基づく、スーパービジョン1				
第7回	実習日誌・実習評価に基づく、スーパービジョン2				
第8回	実習日誌・実習評価に基づく、スーパービジョン3				
第9回	実習日誌・実習評価に基づく、スーパービジョン4				
第10回	実習報告書および実習日誌の「実習の振り返り（総括）」に基づく発表1				
第11回	実習報告書および実習日誌の「実習の振り返り（総括）」に基づく発表2				
第12回	実習報告会プレゼン資料作成1				
第13回	実習報告会プレゼン資料作成2				
第14回	実習報告会プレゼン資料作成3				
第15回	実習報告会（実習の評価及び全体総括）				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 [社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年、『ソーシャルワーク実習の手引き』身延山大学社会福祉演習実習委員会編（身延山大学社会福祉演習実習委員会）2024年。					
【学生へのメッセージ】					
(1)グループ作業に支障を来たすため、遅刻は一切認めない。(2)基本的に100%の出席を求める。さらに、累積3回を超える欠席の場合は単位の修得を認めない。					
【オフィスアワー】					
火曜日・木曜日（11:55-12:25）					
【実務経験】					
峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目
講義名	[J,mws3] [19]【指定科目】ソーシャルワーク実習				
区分	通年（3回）	単位	選択（1）		形式 実習
授業年次	--	2年	3年	--	
担当教員	叶寧		ヨウ ネイ		ye ning [ye(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
実際に福祉現場を体験し、社会福祉士に必要な倫理・知識・技術を身につけるとともに、実践力のある対人援助専門職を目指して自己を振り返り、資質や専門性を磨く。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
相談援助実習を通して、相談援助に関わる知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を修得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
実習中は、実習指導者の他、原則として1週間に1回、担当教員が巡回指導を行う。巡回時、又は帰校時に質問や相談を受ける。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、事前課題をまとめておく。事後学修（2時間以上）は、実習報告書をまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
自己評価・実習記録・実習指導者評価と実習後スーパービジョン・実習報告を総合して評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	基本的な実習期間 2年次春期以降の60時間以上（概ね8日間程度）				
第2回	主な実習施設・機関の種類 (1)高齢者福祉関連施設、(2)障害者福祉関連施設、(3)児童福祉関連施設、(4)社会福祉協議会等、 (5)相談機関：地域包括支援センター、市町村社会福祉事務所、居宅支援事業所等、 (6)その他：生活保護法による救護施設、医療機関等				
第3回	実習内容 (1)利用者や関係者（家族、親族、友人等）、施設、事業者、機関、団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 (2)利用者や関係者（家族、親族、友人等）との円滑な援助関係の形成 (3)利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価 (4)多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 (5)当該実習施設が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ (6)地域における分野横断的、業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 (7)施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 (8)社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任 (9)ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 [社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年、『ソーシャルワーク実習の手引き』身延山大学社会福祉演習実習委員会編（身延山大学社会福祉演習実習委員会）2024年。					
【学生へのメッセージ】					
実習 ~ の実習時間（240時間以上）全て実施しなければ履修したことにはならない。実習先での遅刻や欠席は認められない。真にやむを得ない事由であっても、実習時間が不足する場合は、後日その埋め合わせが必要になることもあるので、十分注意すること。					
【オフィスアワー】					
基本的には、授業担当時の前後、火・水・金曜日の授業・会議以外の時間帯。実習期間中は、巡回時、又は帰校日時に質問や相談を受ける。					
【実務経験】					
市町村の委託事業を受けている社会福祉協議会にて生活困窮者自立支援事業の相談員としての勤務経験を活かした授業を展開する。					

年度	区分				分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目				福祉技術系科目
講義名	[K_mws4] [21]【指定科目】ソーシャルワーク実習				
区分	通年（3回）	単位	選択（4）		形式 実習
授業年次	--	--	3年	4年	
担当教員	手塚 知子		テヅカ トモコ		tezuka tomoko [tezuka(a)]
【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】					
実際に福祉現場を体験し、社会福祉士に必要な倫理・知識・技術を身につけるとともに、実践力のある対人援助専門職を目指して自己を振り返り、資質や専門性を磨く。					
【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】					
相談援助実習を通して、相談援助に関わる知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技法や倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる迫力を修得する。関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。					
【授業方法（フィードバックの内容）】					
実習中は、実習指導者の他、原則として1週間に1回、担当教員が巡回指導を行う。巡回時、又は帰校時に質問や相談を受ける。					
【授業外学修の方法（時間数）】					
事前学修（2時間以上）は、実習機関に応じた事前課題をまとめておく。事後学修（2時間以上）は、実習報告書をまとめる。					
【成績評価（方法・基準）】					
自己評価・実習記録・実習指導者評価と実習後スーパービジョン・実習報告を総合して評価を行う。					
【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】					
第1回	基本的な実習期間 3年次夏期以降の180時間以上（概ね24日間程度）				
第2回	主な実習施設・機関の種類 (1)高齢者福祉関連施設、(2)障害者福祉関連施設、(3)児童福祉関連施設、(4)社会福祉協議会等、 (5)相談機関：地域包括支援センター、市町村社会福祉事務所、居宅支援事業所等、 (6)その他：生活保護法による救護施設、医療機関等				
第3回	実習内容 (1)利用者や関係者（家族、親族、友人等）、施設、事業者、機関、団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成 (2)利用者や関係者（家族、親族、友人等）との円滑な援助関係の形成 (3)利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）の把握、支援計画の作成と実施及び評価 (4)利用者やその関係者（家族・親族、友人等）への権利擁護活動とその評価 (5)多職種連携及びチームアプローチの実践的理解 (6)当該実習施設が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ (7)地域における分野横断的、業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解 (8)施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 (9)社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任 (10)ソーシャルワーク実践に求められる技術の実践的理解 アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクション				
【教科書・参考書】					
教科書：『最新 社会福祉士養成講座 8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習 [社会専門]』一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（中央法規）2021年、『ソーシャルワーク実習の手引き』身延山大学社会福祉演習実習委員会編（身延山大学社会福祉演習実習委員会）2024年。					
【学生へのメッセージ】					
実習 ~ の実習時間（240時間以上）全て実施しなければ履修したことにはならない。実習先での遅刻や欠席は認められない。真にやむを得ない事由であっても、実習時間が不足する場合は、後日その埋め合わせが必要になることもあるので、十分注意すること。					
【オフィスアワー】					
火曜日・木曜日（11:55-12:25）					

【実務経験】

峡南地域就学相談員・山梨県立こころの発達総合支援センター臨時職員・障害児支援児童発達施設非常勤職員の経験を活かして授業します。

年度	区分	分野
令和6年度	福祉学専攻 専門科目	福祉技術系科目

講義名	[K_mws5] [01] 介護過程・医療的ケア演習
-----	----------------------------

区分	集中	単位	選択 (1)	形式	演習
----	----	----	--------	----	----

授業年次	1年	2年	3年	4年
------	----	----	----	----

担当教員	佐々木 さち子	ササキ サチコ	sasaki sachiko [sasaki(a)]
------	---------	---------	----------------------------

【授業の目的・ねらい / 授業全体の内容の概要】

介護過程とはどのような学問なのか、「介護過程」をテーマに介護過程の流れ、内容などの基礎知識と支援技術を取得する。医療的ケアは、2011年の法改正により、介護福祉士の業務として「喀痰吸引等」が位置づけられました。医学的知識と技術を取得します。

【授業修了時の達成課題（到達目標・competency）】

「介護過程」の総論的内容を学修し、事例展開を取り入れながら進める。「介護過程」の意義、目的、内容などについて理解させるために、介護の実践活動がどのような過程を経て行われるのか、その過程の考え方や構成要素について、生活場面の身近な事例から理解できるように展開する。また、映像等を利用し、それぞれの技術の目的・準備・実施方法・留意点をおさえてから、技術体験をして考察する。他の科目で学修した知識や技術を統合して介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切なサービスの提供ができる。「介護過程」では、多様な学問の考え方、健康力、地域理解、情報収集力、情報分析力、情報構成力、読解力、傾聴力、会話力、口頭発表力、批判的思考力、論理的思考力、課題設定力、構想力、計画力、実行力、評価力、改善力
「医療的ケア」では、多様な学問の考え方、健康力、読解力、会話力、文章表現力、実行力、評価力

【授業方法（フィードバックの内容）】

「介護過程」では、総論的内容を学修し、事例展開を取り入れながら進める。「介護過程」の意義、目的、内容などについて理解させるために、介護の実践活動がどのような過程を経て行われるのか、その過程の考え方や構成要素について、生活場面の身近な事例から理解できるように展開する。また、ビデオを利用し、それぞれの技術の目的・準備・実施方法・留意点をおさえてから、技術体験をして考察する。受講前にシラバスに示されたテキストの該当箇所を熟読し、用語の理解に努めること。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。「医療的ケア」では喀痰吸引や経管栄養の技術に必要な器具の使い方を2日間で学び、テストを行います。

【授業外学修の方法（時間数）】

事前学修（2時間以上）は、毎回の授業時に指定された文献を必ず読んでくること。事後学修（2時間以上）は、授業中に提示した専門用語の復習を行うこと。「医療的ケア」では事前学修は手順のプリントを熟読してくる。

【成績評価（方法・基準）】

学力確認テスト・レポート・リアクションペーパー・授業への取り組み姿勢を総合的に評価する。「医療的ケア」では、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃瘻・経鼻経管からの経管栄養のテストそれぞれ5回クリアすることで100%となる。

【授業計画（諸般の事情による計画変更の可能性あり）】

第1回	オリエンテーション / 「介護過程」の総括
第2回	「介護過程」の意義と目的
第3回	「介護過程」の意義と目的「生活支援の考え方と介護過程の必要性」
第4回	介護過程の理解 / 情報収集とアセスメント
第5回	情報の解釈・関連づけ・統合化
第6回	計画の立案
第7回	評価のプロセスと視点
第8回	介護過程の展開 / 事例検討
第9回	総合評価の視点
第10回	介護過程のまとめ
第11回	医療的ケア実施の基礎 / 安全な療養生活 / 救急蘇生法の実際
第12回	喀痰吸引について / 医学的基礎知識
第13回	喀痰吸引の実際（人形モデル） / 口腔内喀痰吸引 5回 / 鼻腔内喀痰吸引 5回 / 気管カニューレ内部の喀痰吸引 5回
第14回	経管栄養について / 医学的基礎知識
第15回	経管栄養の実際（人形モデル） / 胃ろうによる経管栄養 5回 ~ 経鼻経管栄養 5回

【教科書・参考書】

『介護福祉士実務者研修テキスト「介護過程」』（中央法規）2020年、『介護福祉士実務者研修テキスト第5巻「医療的ケア」』（中央法規）2020年。

【学生へのメッセージ】

受講前にテキストを熟読し、疑問点等をノートにまとめておくこと。受講後はノートを整理して講義内容の理解に努めること。医療的ケアは2日間で「喀痰吸引」「経管栄養」の技術を修得し試験に合格することを目指すのでテキスト添付のDVDを視聴していただくこと。事前に配布する手順のプリントをよく読んでください。

【オフィスアワー】

火曜日（10:00-17:00）

【実務経験】

JR東京総合病院他約20年以上の看護師経験を活かし、医療的ケアや介護福祉士に必要な医療的知識を伝える授業を行う。